

植 物

1 選定・評価方法の概要

絶滅や絶滅が危惧される種の選定と評価は、原則として環境省版レッドリストカテゴリー (2007) の定量的要件を用いた。その際、IUCN(2003) による「地域レベルでレッドリスト基準を適用する場合のガイドライン」(Guidelines for Application of IUCN Red List Criteria at Regional Levels, Version3.0) を参考に、隣接地域にふつうに生育する種については、当該地域での生育状況について得られるランクから 1 ないし 2 段階下げて評価した。

なお動物の一部で行われた本土部全体のランク付けを植物では見送った。その理由は、区分された 4 地域が、低平地 (区部)、丘陵地 (北多摩)、丘陵地 (南多摩)、山地 (西多摩) と地域ごとに主要な植生帯を異にしており、全体としてのランク付けの意義を見出すことができないとの判断によるものである。

検討対象種は、東京都 (本土部) に野生する植物全種の一覧を含む『東京都の野生生物種目録 1998 年版』を基礎に、前回 (1998 年版) の掲載種 642 種に 257 種を加えた計 899 種とした。

2 選定・評価結果の概要

検討対象種 899 種について、1 種ずつ評価を行った結果、本書に掲載される絶滅または絶滅が危惧される種として選定されたのは 800 種で、その数は前回 (1998 年) の調査での選定に比べて 158 種増加した。

種数の増加は、主に各種の開発による自然環境のかく乱と破壊が 1998 年以降も進行し、生育場所の環境の劣化によっている。酸性雨や大気汚染、あるいは温暖化など自然環境自体の変化が、絶滅やその危惧の増大の原因と考えられるケースは見出せなかった。副次的ではあるが、環境省基準の採用によって前回とは異なった評価を行ったことも選定数の増加をもたらしている。また、現地情報が前回に比べ格段に増加し、絶滅に瀕している現状を明らかにしたことも選定種の増加に関係している。

こうした評価方法の客観性の向上と現地情報の増加にみる絶滅危惧種への関心の高まりは、前回調査に比べ絶滅や絶滅危惧種に関する情報の精度と信頼度を大幅に高めている。現地情報の増加は、主に植物愛好家や各種団体によって行われてきた自発的な小地域ごとの克明な植物相調査の結果によるものであることを記しておく。

今回新たにキレハオオクボシダ、アズマギク、ツルカコソウなどの絶滅が確認され、都における絶滅 (EX) は 68 種になった。

区部ではヒキノカサ、マツモ、ハナムグラなど、絶滅種が 166 種と極めて多い。区部の植物相全体をまとめた資料はないが、『日本産物志・武蔵部 (上・下巻)』(伊藤圭介, 1873. 文部省) や「東京近郊植物採集地」(著者不明, 1888. 植物学雑誌 2 巻, pp.89-90, 119-120.) は最初期のものである。その後、『武蔵野植物記』(檜山庫三, 1953. 内田老鶴圃) と『武蔵野の植物』(檜山庫三, 1965. 井上書店) が出版され、後者は評価に際して、区部と北多摩地域での主な対照データとして用いた。区部と北多摩地域では、かつては丘陵地だけでなく、低地においても豊かな自然が存在したことが示され、上記地区における植生復元を考えるうえでも檜山 (1953, 1965) は重要な情報である。北多摩についてはそれ以降の開発が著しく、現状に関する調査が特に望まれるところである。

南多摩地域は、高地性の種を欠くものの、低平地から山地にいたる植生帯の広がりや多様性の高い植物相が発達している。宅地等の開発が進み、立地の分断が急速に進んだが、都心からわずか約 50km の距離にある高尾山をはじめとして、植物相は今なお良好な状態で維持され、高い種多様性を維持している。一方、準絶滅危惧 (NT)、情報不足 (DD) まで含めると 431 種に達

する絶滅危惧種が生育しており、1千3百万人の人口を抱える首都東京の一部ともいえるこの地域の多様性とその維持が世界的にも注目される所以である。

西多摩地域は、低平地も含むが、主要な植生帯は丘陵地と関東山地の一部をなす山地の森林植生である。南多摩地域同様に植物相の種多様性は高く、1千3百万都市に接する立地として驚異的である。また、山地を中心に石灰岩が露出した立地が散見し、石灰岩地に特有な好石灰岩性植物が生育する。絶滅危惧種 (CR、EN、VU) が 445 種、準絶滅危惧 (NT) が 79 種あり、東京都の生物多様性保全のうえからは特に重要な地域である。なお、亜高山性のタカネバラ、ウラジロヒカゲツツジ、カモメランなどは、山頂部や尾根の高所に少ない個体数が見出されるに過ぎない。

前回の評価から削除またはランクが下がった種は、基準が異なり、単純に比べることはできないが、タコノアシやミゾコウジュなどはランクが下がった。いずれの場合も生育状況が改善された結果ということもあるが、調査が進んで分布についての情報が増加した結果とも考えられる。西多摩地域を中心に分布域の拡大と個体数の増加が顕著なニホンジカにより、植物相は影響を受けている。このことに限らず、現在のところ絶滅の危惧の程度が高くなく選定から漏れている種が、今後、気づかないうちに広範囲から消失する可能性もないとはいえない。比較的良好な環境が保たれていることを指標する種の動向も注目される。

今回は主に既存の資料を用いて評価がなされたが、水生植物を中心に分布の実態や分類学的な同定がほとんど行われていない分類群も多くある。

(大場 秀章)

マツバラン

Psilotum nudum

シダ植物門
マツバラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	NT

【形態・生態】

常緑性シダ。別名ホウキラン。根茎は密に叉状分岐し、褐色の仮根を密生する。地上茎は直立または下垂し、円柱状かやや扁平、叉状分岐を繰り返す。根も葉もない茎だけの原始的な維管束植物。単体孢子嚢群は3室で、ごく短い側枝に単生し、径1.5～2mm、緑色から熟すと黄色になる。樹幹や岩の隙間に着生する。

【分布の概要】

本州(宮城、石川以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の渓谷沿いの岩隙などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は岩隙などの特殊な立地にあり、岩壁の崩落や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.



(執筆: 畔上能力)

ヒメスギラン

Lycopodium chinense

シダ植物門
ヒカゲノカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	○	○	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は短く這い、基部は叉状に何回か分岐し、直立茎は高さ5～15cm、単生または1～数回分岐し、頂端に芽をつける。葉は黄緑色～緑色、軟らかい紙質で、長さ5～8mm、幅1mm、針状披針形で基部からしだいに細くなり、先はとがる。孢子嚢は上部の葉の脇につける。岩上、稀に地上や樹幹に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化による生育環境の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.



(執筆: 畔上能力)

ヒカゲノカズラ

Lycopodium clavatum

シダ植物門
ヒカゲノカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は匍匐茎(主軸)と直立茎(側枝)からなり、匍匐茎は地表を長く這い、不規則に叉状分岐し、径2～4mm、ところどころから根をおろす。直立茎は1～数回分岐し、線形で長さ4～7mm、幅0.5～1mmの葉を密生する。孢子嚢穂の柄(総梗)は直立し、長さ5～15cm、先端で分岐し、3～6個の孢子嚢穂をつける。日当たりの良い斜面草地、芝草地などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島(奄美大島)

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の日当たりの良い芝草地、裸地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、草刈りなどの管理をすることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力)

スギラン

*Lycopodium cryptomerinum*シダ植物門
ヒカゲノカズラ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	—	VU	VU	VU

【形態・生態】

常緑性シダ。茎はまばらに叉状分岐し斜上、ときに下向きに垂れる。茎は径3～5mm、わら色か緑色、大きいものは長さ30cmほどになる。葉は密に開出または斜上し、線状披針形から狭披針形で長さ1～2cm、緑色～深緑色、全縁、革質で中肋ははっきりしない。孢子葉は栄養葉よりやや小型で、孢子嚢は枝端近くにつき、孢子嚢穂といった形はとらない。樹上、稀に岩上に着生する。

【分布の概要】

北海道（東部）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の樹上にごく稀に着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は岩隙や樹上などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



マンネンスギ

*Lycopodium obscurum*シダ植物門
ヒカゲノカズラ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	—	EN	EN	

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は地中を長く這い、径2～2.5mm、帯褐色、まばらに分枝する。側枝は直立茎となり、上部は樹枝状に分岐し、高さ10～30cmとなる。葉は緑色、線形、鋭頭、全縁でやや硬く、直立茎では圧着し、枝部では開出する。孢子嚢穂は1本の側枝から数個の穂を頂生し、円柱形で長さ1～6cmとなる。樹林内の地上、稀に岩上に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地深部の針葉樹林内に生育する。やや酸性土壌を好む。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



トウゲシバ, ホソバトウゲシバ

*Lycopodium serratum*シダ植物門
ヒカゲノカズラ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EN	—	NT	NT	

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は数回叉状分岐して直立し、高さ7～20cm。葉はやや光沢のある緑色で、紙質または薄い革質、開出し、辺縁には不規則な鋸歯がある。孢子嚢は穂にならず、葉腋に単生し、黄白色、腎形で目立つ。葉の形、大きさなど変異が多く、葉の幅によりホソバ、ヒロハ、オニの3型に区分される。東京都本土部においてはホソバ型がほとんどで、ヒロハ型は稀。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部、南多摩、西多摩の樹林内などの陰湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



エゾノヒメクラマゴケ

Selaginella helvetica

シダ植物門
イワヒバ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EX	

【形態・生態】

常緑性シダ。主茎は這い、しばしばマット状になる。葉は二形性でやや密につき、浅い緑色～緑色、栄養葉の腹葉は卵形で鈍頭、辺縁に微鋸歯がまばらにあり、長さ1.5mm。背葉は斜上し狭卵形、鋭頭、基部は円形、辺縁に微鋸歯があり、長さ1mmほど。胞子葉のつく枝は高さ2～8cm、胞子囊穂は見かけ上区別しがたい。高山草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（静岡、長野以北および滋賀、京都、鳥取）

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩露頭に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されており、生育環境の変化などが原因となって絶滅したものと考えられる。西多摩の石灰岩露頭などでは、再発見も期待されるので、再確認が望まれる。

【関連文献】

倉田悟・中池敏之, 1997b.



（執筆：畔上能力）

タチクラマゴケ

Selaginella nipponica

シダ植物門
イワヒバ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	—	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。主茎は這い、しばしばマット状となる。葉はやや密につき、栄養葉は二形性、腹葉は開出し広卵形、鋭頭で細かな鋸歯縁があり、長さ2～2.5mm。背葉は狭卵形、鋭尖頭で細かな鋸歯縁があり、長さ約1mm。直立または斜上する側枝は1～2回叉状に分岐して高さ5～10cmになる。日当たりの良い芝草地や石垣などに生育する。

【分布の概要】

本州（東南北部以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

東京都本土部各地の日当たりの良い芝草地、石垣の隙間、岩隙などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。なお、公園などでは草刈りにより除去されることが多いため、注意が必要である。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 目黒区土木部公園緑地課（編）, 1985.



（執筆：畔上能力）

ヒモカズラ

Selaginella shakotanensis

シダ植物門
イワヒバ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は短く這い、よく分岐し、重なり合ってマット状となる。乾燥すれば葉とともに径約1mm。葉の先端は鋭尖し、辺縁にはまばらに縁毛があり、先端には葉長の1/5ほどの白色毛状突起がある。胞子囊穂は小枝に1個頂生し、四角柱状で長さ0.5～2.5cm、径約1.5mm、胞子葉は4列に並ぶ。山地の湿った岩上などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北、京都、奈良、広島）

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の岩場に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は岩隙などの特殊な立地にあり、生育環境の変化や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

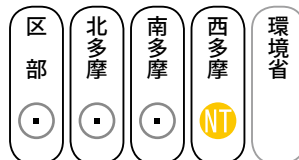
【関連文献】

鈴木和雄, 1984.



（執筆：畔上能力）

ヤマクラマゴケ

*Selaginella tamamontana*シダ植物門
イワヒバ科

【形態・生態】

常緑性シダ。茎は這い、まばらに分岐、長さ5～10cm、幅は葉とともに3.5～5mm、マット状に広がる。葉は二形性、腹葉は卵形、鋭頭、鋸歯縁で長さ1.5～2.7mm、中肋は不明瞭、背葉は卵形、鋭尖頭で鋸歯縁、長さ1～1.5mm。孢子嚢穂は直立するが、他の部分とはっきりした差がみられない。関東地方の石灰岩地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 岩槻邦男, 1992.

（執筆：畔上能力）



ミズニラ

*Isoetes japonica*シダ植物門
ミズニラ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。塊茎は径2～3cm。葉は長さ15～30cm、四稜のある円柱状で、先はしだいに細まる。葉の基部は膨らみ、卵形となり、大きいもので長さ1.5cm、幅1cm、辺縁は薄い膜質で白っぽく、卵状三角形の小舌がある。孢子嚢は長さ7～9mm、蓋膜はない。大孢子は白色、表面に規則的に並んだ穴がある。小孢子は淡褐色。浅い水中に生育する。

【分布の概要】

北海道（胆振）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の浅い池、水田、沼、湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、湿地の改変や消失、除草剤の多用、富栄養化などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、湿地の定期的なかく乱を行うこと、除草剤の使用を控えるなどの配慮を行うことが望ましい。

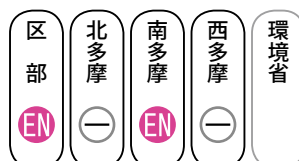
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 芹沢俊介, 1974.

（執筆：畔上能力）



イヌスギナ

*Equisetum palustre*シダ植物門
トクサ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。地下茎は長く這い、直立茎を群生する。茎は高さ20～60cm、上半部に規則的に枝を輪生し、主軸の先は長く伸びて枝をつけない。葉鞘は長さ1～1.2cm、緑色、歯片は披針形、鋭頭、黒変し、辺縁に白膜がある。下部の枝の最下節間は主軸の葉鞘より短い。枝は斜上し、長さ5～20cm、分岐せず、隆条には細点がある。孢子嚢穂は長さ1～3.5cm、主軸に頂生する。日当たりの良い湿地に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州（関東以北、長野）

【都における生育環境】

区部や南多摩のごく限られた休耕田や湿地、小水路沿いなどに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、湿地の改変や消失、水田や水路の改変、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、湿地の定期的なかく乱を行うこと、除草剤の使用を控えるなどの配慮を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 多摩市文化振興財団（編）, 2004.

（執筆：畔上能力）



アカハナワラビ

Botrychium nipponicum

シダ植物門
ハナヤスリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	●	

【形態・生態】

冬緑性シダ。葉は担葉体、栄養葉、孢子葉の部分に分化し、高さ20～50cm、担葉体は短く、長さ1.5～6cm、栄養葉は3回羽状に分岐し、長柄があり、冬季には赤色を帯びる。オオハナワラビに似るが頂羽片は鋭頭、裂片の縁は鋭鋸歯で、孢子葉は孢子散布後まもなく枯死、脱落する。孢子の外膜は平滑。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の主に落葉広葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足やシカの食害、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



ナツノハナワラビ

Botrychium virginianum

シダ植物門
ハナヤスリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	○	●	●	

【形態・生態】

夏緑性シダ。担葉体は長さ15～35cm、栄養葉は無柄、3出葉的に3～4回羽状に細裂し、五角形状で、長さ5～28cm、幅7～30cm、薄い草質で、裏面中脈上に白毛がある。小羽片は楕円状で鋭尖頭、辺縁は深裂または明らかな鋸歯がある。孢子葉は葉身の基部から分出し、柄は長さ10～30cm、孢子穂は3～4回羽状分岐し、長さ10～20cm、孢子の表面には、いぼ状突起がある。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州（南部を除く）

【都における生育環境】

区部に記録はあるが、現状はごく稀である。南多摩や西多摩では分布がやや山地に片寄る。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足やシカの食害、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.

（執筆：畔上能力）



コヒロハハナヤスリ

Ophioglossum petiolatum

シダ植物門
ハナヤスリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	●	

【形態・生態】

夏緑性シダ。葉は高さ8～25cm、担葉体は長さ2～10cm、栄養葉は長楕円形から広卵形、鋭頭から鈍頭、長さ1～6cm、幅0.7～3cm、薄く軟質、基部は急に狭くなり、短い柄を持つ。葉脈は粗い網状で二次脈はあまり発達しない。孢子葉は長さ6～16cm、孢子囊穂は長さ2～4.5cm、鋭頭。山麓、原野に群生する。

【分布の概要】

本州（東北中部以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の社寺の境内、墓地、芝草地、手入れされた雑木林の林床などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 芹沢俊介, 1974.

（執筆：畔上能力）



コハナヤスリ

Ophioglossum thermale var. *nipponicum*シダ植物門
ハナヤスリ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
VU	EN	VU	—	

【形態・生態】

夏緑性シダ。葉は高さ 10～25cm。担葉体は長さ 2～10cm、栄養葉は長さ 2.5～5cm、幅 0.8～2cm、長楕円形から卵形、鋭頭、もっとも幅の広い部分は中央より下にある。海岸の砂浜や内陸の日当たりの良い湿地に生育するハマハナヤスリに似ているが、内陸の比較的乾燥した日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部や北多摩、南多摩の墓地、芝草地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



ヒロハハナヤスリ

*Ophioglossum vulgatum*シダ植物門
ハナヤスリ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EN	EN	VU	EN	

【形態・生態】

夏緑性シダ。4月頃から葉を展開し、6月には孢子が成熟し、夏には地上部は枯死する。葉は高さ 10～30cm、担葉体は長さ 2～15cm、栄養葉は長さ 6～12cm、幅 2.5～7cm、広披針形から広卵形、鈍頭から円頭、基部は切形から心形で孢子葉の柄を包む。葉質はやわらかい紙質から草質、葉脈は細かい網目をつくり、二次脈も明らか。孢子葉は長さ 10～20cm、穂の長さは 2～3cm。山地や原野に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の山野の林床、林縁、路傍、原野など、やや湿潤な環境に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



ヤマドリゼンマイ

Osmunda cinnamomea var. *fokiensis*シダ植物門
ゼンマイ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	—	VU	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉は密に出る。2回羽状深裂。若芽は赤褐色の綿毛に包まれるが、成葉はほとんど裸出する。葉は二形性で、栄養葉は長さ 30～80cm、孢子葉は栄養葉より低く、先に葉を展開し、裏面全体に孢子囊がつく。孢子散布後は孢子葉は赤褐色となり、やがて夏までには枯れる。山地の湿原にしばしば群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩に稀に生育するほか、西多摩の山地草原に群落が見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理により山地の稜線の湿潤な草地環境を維持することや、シカの防護柵設置を検討することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



オニゼンマイ

Osmunda claytoniana

シダ植物門
ゼンマイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は斜上し、葉は見かけ上叢生し、2回羽状深裂。葉身は狭長楕円形で長さ30～40cm、中央から下方の2～5対の羽片に孢子嚢がつく。孢子嚢をつけた羽片は、つけない羽片の約1/3ほどに収縮して、全面に孢子嚢をつけ、孢子飛散後は黒褐色となり、やがては枯れ落ちる。山地の日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（東南北部、関東北部、中部）

【都における生育環境】

西多摩の山地の湿潤な林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足やシカの食害などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。下草刈りなどの林床管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1995.

(執筆: 畔上能力)



ヤシャゼンマイ

Osmunda lancea

シダ植物門
ゼンマイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	○	VU	NT	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は直立または斜上する。葉は二形性で叢生する。栄養葉は2回羽状複葉で長さ20～45cm、幅15～30cm、卵状楕円形、葉質はやや厚く、羽片、小羽片は中軸、羽軸と約50°の角度で交わる。小羽片は狭披針形、長さ3～6cm、先端、基部ともに鋭尖形、左右相称。孢子葉は4月に展開し、小羽片は線形、幅2～4mm、孢子嚢を密生する。山地の溪流沿いに生育する。

【分布の概要】

北海道（南部）、本州、四国、九州（東部）

【都における生育環境】

主として多摩川水系の溪流沿いの岩上に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が溪流沿いの岩上であり、渓谷の観光利用などによる植生の破壊が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の現状を把握することや、渓谷の観光利用に対するマナー啓発を行うことが望まれる。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



オオキジノオ

Plagiogyria euphlebia

シダ植物門
キジノオシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	EN	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は太く塊状となり、らせん状に葉を叢生する。栄養葉の葉柄は長さ25～75cm。葉身は単羽状、長羽片ははっきりしている。羽片は革質、下部では有柄、鎌形となり、上部では羽片基部下側が中軸に流れる。羽片先端部は鋸歯縁となる。孢子葉は栄養葉より高く伸び、羽片は線形、孢子嚢群が密生する。包膜はない。山地樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、北陸以西）、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地の植林地の林床に、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

多摩丘陵植物調査会(編), 1994.

(執筆: 畔上能力)



キジノオシダ

*Plagiogyria japonica*シダ植物門
キジノオシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は斜上し、らせん状に葉を叢生する。栄養葉は葉柄が長さ7～30cm、葉身は長さ15～50cm、幅約15cm。頂羽片ははっきりしている。栄養葉の下部側羽片は無柄またはごく短い柄がつく。上部羽片が中軸に沿着する場合、上側が下側より広くつく。胞子葉の羽片は線形で短い柄がつく。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東南北部以南）、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地から山地の常緑樹林や植林地の林床にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

多摩丘陵植物調査会（編），1994.

（執筆者：畔上能力）



コシダ

*Dicranopteris linearis*シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	NT	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は硬く赤褐色の毛があり、地表近くを這う。葉柄は紫褐色、硬い針金状で、長さ20～100cm、径2～3mm、先端が2叉分岐し、さらにその先端にそれぞれ1対の羽片をつけ、分岐点にも1対の羽片をつける。羽片は長楕円状披針形で、長さ15～30cm、幅3～7cm、裏面は白色を帯びる。山麓から山地のやや乾燥した斜面に群生する。

【分布の概要】

本州（福島以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩のやや乾燥した山地の斜面に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら，1974；芹沢俊介，1974.

（執筆者：畔上能力）



ウラボシ

*Gleichenia japonica*シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	DD	VU	NT	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は太い針金状で長く地中を這う。黒褐色披針形で緑毛のある鱗片を密生する。葉柄は硬く茶褐色で光沢がある。葉身は葉柄の上端で左右2羽片に分岐し、各羽片は披針形、2回羽状に深裂し、長さ50～100cm、幅20～30cm、裏面は白色、星状毛がある。暖地の山地に生育する。やや乾燥した斜面に大群生する。

【分布の概要】

本州（新潟、山形以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域のやや乾燥した山地斜面などにしばしば群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介，1974；東京都高尾自然科学博物館（編），1989.

（執筆者：畔上能力）



ヒメハイホラゴケ

Crepidomanes amabile

シダ植物門
コケシノブ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	○	○

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は黒褐色の毛を密生する。葉柄は基部近くまで翼があり、汚褐色の毛を散生し、長さ1～3cm、葉身は三角状楕円形から広披針形、長さ3～5cm、幅1.5～2cmのことが多いが、変化が多い。3回羽状複葉で中軸、羽軸、小羽軸には翼があつて重なり合い、立体的になる。軸の裏面に褐色毛がまばらに生える。深い山地の陰湿な岩上などに生育する。

【分布の概要】

北海道（後志）、本州（主に日本海側）、九州（北部）

【都における生育環境】

南多摩にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.



（執筆：畔上能力）

ハイホラゴケ

Crepidomanes birmanicum

シダ植物門
コケシノブ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	○	○

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、黒褐色の毛が密生し、径約0.5mm。葉柄は長さ3～12cm、ふちには全縁で扁平な翼がある。葉身は卵状披針形から倒卵状長楕円形で長さ5～18cm、2～3回羽状に分岐する。中軸、羽軸、小羽軸には裂片の幅より広い翼がつくため、葉身の切れ込みが浅いように見える。胞子囊群は裂片に頂生し、包膜はコップ状。山地溪流の陰湿な岩上などに生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島

【都における生育環境】

南多摩の山地溪流の陰湿地の岩上などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館, 1989.



（執筆：畔上能力）

アオホラゴケ

Crepidomanes latealatum

シダ植物門
コケシノブ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	●	○

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、黒色の毛を密生する。葉柄は長さ1～2cm、翼がある。葉身は2～3回羽状複葉、卵状長楕円形から三角状楕円形など、普通長さ2～5cm、幅1.5～2.5cm、変異に富む。短い偽脈がある。胞子囊群は裂片に単生し、包膜は基部鐘形で上半部は唇状となる。山地溪側の湿った岩上やコケのついた樹幹に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地溪流の陰湿地の岩上やコケ上に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



（執筆：畔上能力）

コバノイシカグマ

Dennstaedtia scabra

シダ植物門

コバノイシカグマ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は赤褐色または紫褐色、光沢があり、長さ15～50cm、表面側に溝があり、有毛で、毛の落ちたあととはざらつく。葉身は三角状長楕円形、3～4回羽状複葉、長さ20～60cm、幅15～35cm、黄緑色でやや硬い草質、両面にやや粗い毛がある。孢子嚢群は葉縁につき、包膜はコップ状で無毛。

【分布の概要】

本州（東北中部以南）、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地や低山地のアカマツ林、コナラ林、植林地などの傾斜地にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 勝木俊雄ら, 2010.

（執筆：畔上能力）



オウレンシダ

Dennstaedtia wilfordii

シダ植物門

コバノイシカグマ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く這い、褐色軟毛がある。葉柄は長さ5～30cm、下部は光沢のある黒褐色を呈する。葉身は2回羽状複葉から3回羽状深裂、長楕円状披針形、長さ10～30cm、幅3～8cm、羽片は短柄があり、裂片は深裂し、両面に粗毛がある。孢子嚢群は裂片の先につき、包膜はコップ状で無毛。やや湿潤な山野の樹林内、腐植土、岩陰、石垣などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州（中北部）

【都における生育環境】

各地の樹林の湿った林床、岩陰、石垣などに生育する。区部周辺では減少していると思われる。

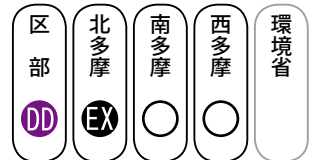
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 芹沢俊介, 1974.

（執筆：畔上能力）



イワヒメワラビ

Hypolepis punctata

シダ植物門

コバノイシカグマ科

【形態・生態】

夏緑性または常緑性シダ。根茎は長く這い、黒い毛が密生する。葉柄は長さ35～50cm、有毛、毛の落ちたあとがざらつく。葉身は長楕円形から三角状長楕円形、長さ40～70cm、幅40cm、3～4回羽状複生。草質から紙質、有毛または無毛、葉脈は全て遊離。葉は成長が有限ではなく、先端がいつまでも伸長を続けることがある。孢子嚢群は葉脈に頂生し、辺縁近くにつき、包膜を欠き裸出する。日当たりの良い平地から山地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の海岸の石垣、池の周辺、水辺、伐採地、植林地などに群生する。区部や北多摩では減少していると思われる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や宅地開発が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。なお、本種はシカの不耐性種で、シカが多い地域では過度に増殖し、他の植物を被圧することがある。そのため、本種が過度に増殖した地域では草刈りなどの管理を実施することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 北区環境保全課（編）, 1987.

（執筆：畔上能力）



フモトカグマ

*Microlepia pseudostrigosa*シダ植物門
コバノイシカグマ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	□	EX	□	□

【形態・生態】

常緑性シダ。葉身は長楕円状披針形、最下羽片は短く、羽片は羽状複生、羽片の基部付近では裂片は独立し、羽軸に流れて狭翼をつくらない。イシカグマの切れ込みの浅いものと一見似ているが、羽軸の表面が有毛で、包膜の前縁が裂片の辺縁から離れている点で異なる。山地の林内に生育する。

【分布の概要】

本州（栃木、千葉、東京、神奈川、静岡、愛知）

【都における生育環境】

高尾山の斜面の岩礫地に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が山地の斜面の岩礫地などの特殊な立地にあり、生育環境の変化により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.

（執筆者：畔上能力）



フジシダ

*Monachosorum maximowiczii*シダ植物門
コバノイシカグマ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	□	□	VU	□

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く斜上する。葉柄は光沢のある褐色でほとんど無毛、長さ5～10cm。葉身は単羽状複生、薄い草質、長さ15～30cm、幅2～3cm、線状披針形、先端は普通つる状に長く伸びて芽をつける。生育時は深緑色だが乾燥すると黒変する。羽片は50対前後、広披針形、幅4～6mm、基部前側に耳部があり、後ろ側はくさび形、無柄、側脈は単条、平行に並ぶ。裏面脈上に微細な毛がある。山地の樹林内の岩礫地や岩上にしばしば群生する。

【分布の概要】

本州（福島、関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の針葉樹林帯など林床が不安定な岩礫地に群生するが稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や植林地の伐採などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆者：畔上能力）



ホラシノブ

*Sphenomeris chinensis*シダ植物門
ホングウシダ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
DD	DD	VU	—	□

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、赤褐色の鱗片をつける。葉は叢生し、葉身は3～4回羽状複葉で、長楕円状披針形、長さ15～60cm、下部の1～2対の羽片は少し短い。葉質はやや革質、黄緑色～緑色、さらに紅紫色を帯びる。孢子囊群は裂片の辺縁に沿ってつく。暖地の海辺、平地、丘陵、山地の道端や日当たりの良い崖地などに生育する。

【分布の概要】

本州（福島、新潟以西）、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島

【都における生育環境】

各地の公園、市街地、耕作地、河川沿い、社寺境内、丘陵などの崖面などに下垂、群生するが、やや稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 芹沢俊介, 1974.

（執筆者：畔上能力）



シノブ

*Davallia mariesii*シダ植物門
シノブ科

【形態・生態】

落葉性シダ。古来シノブ玉として観賞される。根茎は長く這い、径3～7mm、鱗片を密生する。葉柄は長さ5～15cm、葉身は三角状卵形で長さ10～20cm、幅8～15cm、3～4回羽状深裂し、無毛、硬紙質。孢子嚢群は裂片に1個つき、包膜は長さ約1.5mmと直径の2倍以上の長さでコップ状。山地の岩上や樹上に着生する。

【分布の概要】

北海道（渡島）、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の渓谷沿いなど空中湿度の高いところの樹幹に着生するほか、岩上などにも着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



ミズワラビ

*Ceratopteris thalictroides*シダ植物門
ホウライシダ科

【形態・生態】

一年生の水生シダ。根茎は短く、直立から斜上、小さい鱗片をつける。葉は二形性、羽状複葉で無毛、栄養葉は2～3回羽状に深裂し、三角状から長楕円形で長さ10～15cmのものが多く、ときに35cmに達することもある。孢子葉は栄養葉より長く、長さ50cm、幅30cmに達し、3～4回羽状深裂、裂片は線形、長さ約5cmになる。葉の大きさや切れ込みには変化が多い。水田や沼地などに生育する。

【分布の概要】

本州（新潟、関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の水田、湿地、菖蒲田などに生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発、除草剤の多用などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、除草剤の使用を控えることが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 芹沢俊介, 1974.

（執筆：畔上能力）



ヒメウラジロ

*Cheilanthes argentea*シダ植物門
ホウライシダ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、直立から斜上、赤褐色～暗褐色、線状披針形の鱗片をつける。葉柄は葉身より長く、光沢のある紫褐色、もろくて折れやすい。葉身は五角形状で、長さ幅とも3～10cm、最下羽片は羽状深裂し、後ろ側が特に大きい。ほかの羽片は基部が中軸と合着し、流れて狭い翼となる。葉質は厚い紙質で、裏面は粉白色。孢子嚢群は合着して連続する偽包膜に包まれる。日当たりの良い山地の岩上や路傍の石垣などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩では石灰岩地の岩場や石垣などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。なお、石垣に生育している場合は、現状のまま維持することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



ミヤマウラジロ

*Cheilanthes brandtii*シダ植物門
ホウライシダ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く直立から斜上する。葉は叢生し、葉柄は長さ6～20cm、紫褐色で光沢がある。葉身は三角状披針形から卵状三角形で長さ10～35cm、幅5～15cm、2回羽状複生、草質、下面は粉白色。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、偽包膜は隣り合うものが合着し、葉縁に沿って長くなる。日当たりの良い山地の岩上や路傍の石垣などにやや稀に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地や石垣などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。なお、石垣に生育している場合は、現状のまま維持することが望ましい。

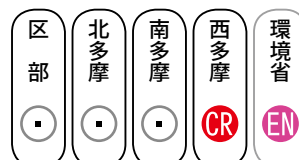
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



イワウラジロ

*Cheilanthes krameri*シダ植物門
ホウライシダ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。葉柄は葉身より長く、鱗片は幅狭く、暗褐色。葉身は卵状三角形で、長さ5～8cm、幅3～4cm、下部羽片は羽状に深裂する。包膜は孢子嚢群ごとに切れ、長く連続することはない。日当たりの良い山地の石灰岩上に稀に生育する。

【分布の概要】

本州（群馬、埼玉、東京）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



カラクサシダ

*Pleurosoriopsis makinoi*シダ植物門
ホウライシダ科

【形態・生態】

冬緑性シダ。晩夏に芽を出し、翌年夏に葉が枯れる。根茎はコケの間に這い、径約1mm、赤褐色の毛を密生する。葉柄は葉身とほぼ同長。葉身は卵状長楕円形、長さ1.5～7cm、幅1～2cm、羽片は両面に褐色で多細胞の毛を密生する。孢子嚢群は裂片の裏面一面に広がる。深山の岩上、溪流沿いの岩上、樹幹などに着生し、コケ類と共生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地深部の溪流沿いなどの湿った岩上にコケ類と共生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



シシラン

*Vittaria flexuosa*シダ植物門
シシラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、葉を密につける。鱗片は褐色、線形、長さ 5mm、尾状に伸びる。葉柄は基部まで翼がある。基部は暗色を呈する。葉身は革質、線形、長さ 15～45cm、幅 4～8mm、先端は尾状に伸びる。乾くと片縁は内側に巻き込まれる。中肋は裏面の先端まで明らかに隆起する。孢子嚢群は葉の辺縁近くの溝に生じ、葉縁に抱かれる。普通葉の上半部につく。山地の岩上や樹幹に着生し、葉を下垂する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

奥多摩の溪谷沿いの岩上に稀に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や樹林内の乾燥化による生育環境の変化、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ナカミシシラン

*Vittaria fudzinoides*シダ植物門
シシラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這う。葉は鱗片を密につける。鱗片は線状披針形、灰褐色～暗褐色、格子状。葉柄基部は暗黒色を呈する。葉身は線形、先端にかけてしだいに狭く尾状となり、長さ 25～45cm、幅 3～5mm、厚く、やや肉質。中肋は裏面でやや隆起し、表面にも少し隆起し、その両側に溝が 2 条ある。孢子嚢群は葉縁と中肋の中間の浅い溝に生じ、乾いた葉では葉縁がやや反転して孢子嚢群を包む。山地の岩上や樹幹に着生、下垂する。

【分布の概要】

本州（東京、中部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の溪谷沿いや岩崖地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や樹林内の乾燥化による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



アマクサシダ

*Pteris dispar*シダ植物門
イノモトソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	○	NT	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、斜上する。葉柄は光沢のある赤褐色で、長さ 20～35cm、切り口は三角状。葉身は 2 回羽状深裂、広披針形から長楕円形、紙質、長さ 20～40cm、中軸は赤褐色で光沢がある。頂羽片は大きく、長さ 25cm に達することもあり、羽状全裂、側羽片は 3～6 対、最下羽片後ろ側は前側より幅広く、前側の裂片が一部欠けることが多い。暖地の山野に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西、ただし日本海側にはない）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地から山地にかけての樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



オオバノハチジョウシダ

*Pteris excelsa*シダ植物門
イノモトソウ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は太く、斜上または短く這う。葉柄は太く、長さ 40～100cm、葉身は 2 回羽状全裂、長楕円状卵形で、葉柄とほぼ同長、幅も 100cm に達する。孢子嚢群は葉縁に沿って並ぶ。小羽軸の基部表面に突起がある。山地の溪谷沿いなど湿潤な林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の湿潤な山地溪流沿いや植林地などに群生または単生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

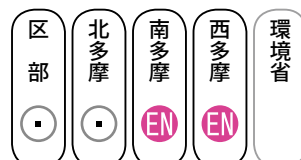
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



マツザカシダ

*Pteris nipponica*シダ植物門
イノモトソウ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、葉を叢生する。葉は二形性、栄養葉では、葉柄は長さ 10～30cm、葉身には 1～3 対の側羽片と頂羽片があり、側羽片は線状長楕円形、長さ 10～20cm、幅 1.5～3.5cm、辺縁には不規則な鋸歯縁がある。孢子葉は葉柄が長さ 15～50cm、側羽片は長さ 20～30cm、幅約 1.5cm で線形。栄養葉、孢子葉ともに表面に白斑が出ることが多い。山地から山麓にかけての林内、林縁、石垣などに生育する。

【分布の概要】

本州（千葉以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地から山地の石垣、植林地などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採や樹林内の乾燥化による生育環境の変化、林床の刈り取りが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、選択的な草刈りなどをすることが望ましい。

【関連文献】

多摩丘陵植物調査会 (編), 1994.

(執筆: 畔上能力)



ヒメイトラノオ

*Asplenium capillipes*シダ植物門
チャセンシダ科

【形態・生態】

常緑性シダ。イトラノオに似るが、葉は開出して地に接し、小型で長さ 3～10cm、葉柄や中軸は糸のように細く、中軸に無性芽が出る。栄養葉と孢子葉の差はほとんどない。山地の樹林内の湿った石灰岩上に稀に生育する。

【分布の概要】

北海道（南部）、本州（関東、中部、岡山）、四国（徳島）、九州（熊本）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力)

トキワトラノオ

Asplenium pekinense

シダ植物門
チャセンシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	NT	

【形態・生態】

常緑性シダ。コバノヒノキシダによく似ているが、根茎や葉柄基部の鱗片が披針形、褐色で、付着点の背面に褐色の毛が密生することで区別される。葉身は広披針形、鋭頭、長さ10～20cm、最下羽片が短く、裂片はやや密につき、やや対生状につく。葉面は深緑色、光沢があり、葉質もやや厚い。山地や路傍の岩上や石垣などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東西部以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の岩上や路傍、石垣の溝などに生育する。しばしばコバノヒノキシダと混生し、雑種を生ずるところもある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。なお、石垣に生育している場合は、現状のまま維持することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966.

(執筆: 畔上能力)



オクタマシダ

Asplenium pseudowilfordii

シダ植物門
チャセンシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く葉を叢生する。葉身は2～3回羽状複生で、アオガネシダにやや似るが、切れ込みは浅く、広披針形から狭い五角形、鋭尖頭で、葉質やや厚く、孢子嚢群はやや長く、5mmに達する。山地の陰湿な岩上や樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州（福島以西）、四国、九州（宮崎）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地の陰湿な岩壁や岩上、樹幹に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



クモノスシダ

Asplenium ruprechtii

シダ植物門
チャセンシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	○	VU	NT	

【形態・生態】

常緑性シダ。葉は単葉で全縁か、やや波状、狭披針形で、長さ2～20cm、幅1～2cm、先端は次第に細く、つる状に伸び、先端近くに芽を出す。葉身基部は広くさび形。中肋は裏面で隆起し、葉脈はまばらに結合し網目をつくる。孢子嚢群は長さ1～5mm、膜質全縁の包膜があり、やや不規則に散在する。山地の岩上、とくに石灰岩地に多く生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部では石垣などに着生していることが多く、南多摩、西多摩では石灰岩地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。なお、区部においては、庭石や石垣に付随して移入されたものとの区別が必要である。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



イチョウシダ

*Asplenium ruta-muraria*シダ植物門
チャセンシダ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
○	○	○	CR	NT

【形態・生態】

常緑性シダ。葉は2回羽状分岐し、長さ2～7cm、幅1～3.5cm、裂片は菱形または倒卵形で、ほぼ左右相称、基部はくさび形で、イチョウの葉形に似ている。葉質は厚く、やや硬い。孢子嚢群は長さ1～3mm、数個が裂片中央に集まる傾向がある。石灰岩地の岩上、岩隙などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や山林の改変による生育環境の変化、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあり、自生地を周辺環境と一体的に保全することや、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



コタニワタリ

*Asplenium scolopendrium*シダ植物門
チャセンシダ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
CR	○	CR	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉を叢生する。葉柄は長さ3～12cm、暗褐色、鱗片が密生する。葉身は単葉で、披針形、鋭頭、長さ12～50cm、幅3～6cm。基部は心形で両側が耳状となる。葉質はやや多肉、辺縁は全縁、やや波状に膠質の薄膜がある。孢子嚢群は長さ4～18mm、中肋にやや直角に隣り合った小脈に向かい合っつき、線形。包膜も向き合っ開き、若い時は重なり合う。山地の陰湿な樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部では陰湿な石垣に稀に生育する。南多摩、西多摩では石灰岩地の林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や宅地開発、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあり、自生地を周辺環境と一体的に保全することや、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力)



トキワシダ

*Asplenium yoshinagae*シダ植物門
チャセンシダ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、黒褐色の鱗片が密生する。葉柄は長さ15cm前後、葉身は披針形、鋭頭、1回羽状、長さ約20cm、幅5cm、ときに長さ40cmに達する。羽片は12～25対、短柄があり、ゆがんだ菱形で、鋭頭、基部前側はやや耳形、後ろ側はくさび形で羽状に浅裂から深裂し、鈍鋸歯がある。羽片基部がつく中軸上に無性芽がつくことがある。葉質は厚く、深緑色。孢子嚢群は中肋に沿って2列に長く斜上し、長さ3～7mm(ときに10mm)。山地の樹林内の陰湿なコケむした岩上などに生育する。

【分布の概要】

本州(関東、東海、紀伊半島)、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や樹林内の乾燥化による生育環境の変化、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあり、自生地を周辺環境と一体的に保全することや、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



オサシダ

Blechnum amabile

シダ植物門
シシガシラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	NT	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は這い、群生する。葉は単羽状、二形性で、栄養葉は葉柄が短く、葉身は披針形で、ほとんど基部まで耳状の小型羽片がある。孢子葉は狭披針形で、先端は細く尾状に伸び、長さ約 20cm、幅は 3cm。羽片中肋は表面に溝はなく、裏面の隆起もなく、両面とも目立たない。山地の樹林内の岩上などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の陰湿な岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や樹林内の乾燥化による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあり、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力)

シシガシラ

Blechnum niponicum

シダ植物門
シシガシラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	DD	○	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は太く、葉を叢生する。葉は二形性で、栄養葉は葉柄が短く、基部近くまで羽片がつく。葉身は単羽状、披針形、幅は中央よりやや上がもっとも広い。長さ約 40cm、幅約 10cm、羽片は普通 30 対以上。中軸は表面に浅い溝があり、裏面はわずかに隆起する。孢子葉は栄養葉より高く立ち、羽片はまばらにつく。孢子葉群は孢子葉のすべての羽軸沿いに長く伸びる。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地から山地の雑木林の林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採や宅地開発などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の現状を把握するとともに、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力)

コモチシダ

Woodwardia orientalis

シダ植物門
シシガシラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	○	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。葉柄は太く、長さ 30 ~ 60cm、基部には褐色鱗片が密生する。葉身は 2 回羽状中から深裂か、ほぼ全裂、広卵形で、長さ 30 ~ 200cm、羽片は中から深裂、鋭尖頭、鋸歯縁、葉質は革質。葉の表面に無性芽がたくさんつくことが多い(子持ちシダの名はこれによる)。山野、沿海地の崖地などに下垂して生育する。

【分布の概要】

本州(東北南部以南)、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地や山麓の崖地などに好んで生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあり、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 芹沢俊介, 1974.



(執筆: 畔上能力)

カナワラビ

Arachniodes amabilis var. *fimbriata*シダ植物門
オシダ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は這う。葉柄はわら色、長さ 30 ～ 45cm。葉身は 2 回羽状複生し、長さ 35 ～ 75cm、幅 25 ～ 40cm、側羽片は 5 ～ 10 対、頂羽片は側羽片と同形。葉質は革状草質。孢子嚢群は葉脈に頂生し、裂片の辺縁近くにつく。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や林床の刈り取りが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、選択的な草刈りなどをすることが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1962; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



ホソバカナワラビ

*Arachniodes aristata*シダ植物門
オシダ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は長く、葉身は二形性で、3 回羽状複生から 4 回羽状深裂し、羽片は 5 ～ 10 対、頂羽片は明らかな。最下羽片の下向き第 1 小羽片が著しく伸びる。孢子嚢群は裂片中肋近くにつく、包膜は円腎形、全縁。暖地の沿海地や山地のやや乾いた林床に生育し、しばしば群生する。

【分布の概要】

本州（石川、関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩のやや乾いた樹林の林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 目黒区土木部公園緑地課 (編), 1985.

(執筆: 畔上能力)



ホソバナライシダ

*Arachniodes borealis*シダ植物門
オシダ科

【形態・生態】

半常緑性シダ。根茎は這う。葉柄には膜質の鱗片がやや密につき、長さ 40cm を越えることもある。葉身は葉柄とほぼ同長で、五角形状、4 回羽状中裂から全裂で、長さ 50cm、幅 35cm ほど。小羽軸裏面に袋状の鱗片が多い。小羽軸表面は無毛か、あってもごく少ない。山野の林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部、南多摩、西多摩の樹林内に生育する。植林地などにも多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

多摩丘陵植物調査会 (編), 1994; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力)



ナンゴクナライシダ

Arachniodes miqueliana

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	EN	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、まばらに鱗片をつける。葉柄は普通赤褐色、鱗片は少ない。葉身は4回羽状複生し、ホソバナライシダ、ヒロハナライシダに似るが、小羽軸の表面に毛が密生することでホソバと区別され、包膜の辺縁が無毛なこと、葉裏に袋状鱗片がつくことでヒロハと区別される。山野の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地から低山地の雑木林、植林地などの林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

多摩丘陵植物調査会（編），1999；日野市環境情報センター（編），2008。

（執筆：畔上能力）



シノブカグマ

Arachniodes mutica

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状で、葉を叢生する。鱗片が多く、淡褐色～黒褐色で光沢があり、辺縁に長い歯牙がある。葉柄は短く、葉身は卵状楕円形で、長さ40～60cm、幅15～25cm、3回羽状全裂から中裂、中軸に黒褐色鱗片を密生する。葉質はやや厚い草質。表面は濃緑色、裏面はやや白っぽい。孢子嚢群は葉裏上部から下部に広がり、小羽片の辺縁寄りにつく。ブナ帯から針葉樹林帯の山地の樹林内に多く分布する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州（屋久島）

【都における生育環境】

奥多摩の針葉樹林の林床に群生する。南多摩では丘陵から山地に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介，1974；鈴木和雄，1984。

（執筆：畔上能力）



ミドリカナワラビ

Arachniodes nipponica

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は這い、やや肉質で赤褐色の鱗片を密生する。葉柄は長さ20～45cm、下部は紅紫色で鱗片を密につける。葉身は3回羽状深裂から複生し、長卵形、鋭尖頭、葉は鮮緑色、光沢があり、厚紙質だが硬くない。葉の裏面脈上に圧着された多細胞毛がつく。孢子嚢群は葉脈に頂生して裂片の中肋と辺縁の中間につき、包膜は辺縁に微小な突起がある。山地の樹林内の陰湿な地上に生育する。

【分布の概要】

本州（千葉以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の陰湿地に稀に生育する。西多摩は分布の北限である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力，2010b。

（執筆：畔上能力）



オニカナワラビ

Arachniodes simplicior var. *major*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EN	EN	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、黒褐色の鱗片が生える。ハカタシダに似て葉質は硬く、表面に金属光沢がある。ハカタシダは頂羽片があるが、本種はなく次第にとがる。側羽片はハカタシダより多く、最下羽片下側第1小羽片はハカタシダほど長くない。またハカタシダのように白斑が出ることはない。丘陵や山地のやや乾いた樹林内の岩礫地、陰湿な沢沿いの岩上などに生育する。

【分布の概要】

本州（秋田以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵、低山地の樹林内の陰湿地、やや乾燥した低山地の岩礫斜面、湿潤な岩上などにやや稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や、林道沿いの除草が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989. （執筆者：畔上能力）



キヨスミヒメワラビ

*Ctenitis maximowicziana*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	□	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状で葉を叢生する。葉柄基部の鱗片は開出し、葉が若い間は白色半透明、のち次第に褐色に変る。別名シラガシダの名はこれによる。葉身は広卵状楕円形で、長さ35～55cm、幅25～35cm、3回羽状中から深裂し、孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、円形、包膜は円腎形。暖地の山地溪流など、陰湿な林床に生育する。

【分布の概要】

本州（東北中部以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩では溪流沿いの陰湿な林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.

（執筆者：畔上能力）



メヤブソテツ

*Cyrtomium caryotideum*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状で、葉柄下部と共に黒褐色の鱗片を密につける。葉身は頂羽片が発達する単羽状複生、側羽片は2～6対、短柄があり、革質、卵形で、基部は円形、両側に耳状突起があり、辺縁に不規則な鋭鋸歯がある。葉脈は数列の網目をつくり、孢子嚢群は葉裏に多数散在する。山地、特に石灰岩地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩では溪流沿いなどに極めて稀に生育する。西多摩では石灰岩地を中心に岩上、岩の隙間、岩礫地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 芹沢俊介, 1974.

（執筆者：畔上能力）



ミヤコヤブソテツ

Cyrtomium fortunei var. *intermedium*

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く塊状。鱗片は黒褐色で、葉柄基部とともに密につく。葉身は頂羽片のはっきりした単羽状複生。側羽片は10～15対、三角状長楕円形で、基部前側に耳片がつき、鎌状に曲がる程度が少ない。包膜は中心部が黒褐色、周辺部は灰白色。山地溪流の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の主として溪流沿いの陰湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



（執筆：畔上能力）

イワヘゴ

Dryopteris atrata

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は太く短く、葉を叢生し、黒褐色の鱗片を密につける。葉柄は短く、葉身は単羽状複生、長楕円状倒披針形、長さ40～80cm、幅15～25cm、羽片は20～30対。孢子嚢群は羽片裏面全面に散在する。包膜は円腎形全縁。山地溪流の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の溪流沿いの陰湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.



（執筆：畔上能力）

サイゴクベニシダ

Dryopteris championii

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	—	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は塊状で葉を叢生する。葉柄には赤褐色から濃褐色、光沢のある鱗片が密につく。葉身は2回羽状複生、長さ30～60cm、幅20～30cm、小羽片は卵形から卵状長楕円形、鈍頭、基部は耳状に広がる。葉質はやや厚く、軟らかい革質。孢子嚢群は小羽片のやや辺縁寄りにつく。低山地や丘陵などの樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の、丘陵地から低山地にかけてのやや乾燥した林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.



（執筆：畔上能力）

オオクジャクシダ

*Dryopteris dickinsii*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉を叢生する。イワヘゴに似ているが、葉柄下部に赤褐色から褐色の鱗片が密生する。葉身は長楕円状倒披針形、単羽状複生し、羽片は20～30対、下部羽片は小型でやや下向きとなる。孢子嚢群は羽片の辺縁寄りに数列に並ぶ。山地の溪流の陰湿な林床に生育する。

【分布の概要】

北海道（奥尻島）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の溪流沿いの植林地など、陰湿地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



マルバベニシダ

*Dryopteris fuscipes*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EN	EN	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎はやや太く斜上し、葉を叢生する。葉柄は20～40cm、赤褐色、線状披針形、全縁の鱗片を密生する。葉身は卵状長楕形で、2回羽状複生、長さ25～60cm、幅15～30cm、葉質は硬い紙質からほとんど革質、若いときには赤みをおびる。孢子嚢群は小羽片の中肋に沿ってつき、包膜は円腎形。葉面の切れ込みなどに変異が大きい。暖地の低山地に生育する。

【分布の概要】

本州（福島南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の低山地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行と山林の改変が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。生育環境が低山の雑木林、植林地などの乾いた林床などであり、工事に際して自生地を保全することや、選択的な草刈りなど個別に保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



サクライカグマ

*Dryopteris gymnophylla*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	DD	

【形態・生態】

常緑性シダ。別名タカオミサキカグマ。根茎は短く這い、葉は混み合っつく。葉柄は長さ15～30cm、葉身は五角状広卵形で長さ20～40cm、幅15～30cm、3回羽状深裂から全裂し、長い鋭尖頭となる。最下羽片は特に大きく、三角状長楕円形で、長い鋭尖頭となり、3cmに達する長い柄がつく。孢子嚢群は中間生、包膜は円腎形。低山地の斜面などに生育する。

【分布の概要】

本州（宮城以南）、九州（大分）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の低地、丘陵地、山地の樹林、岩礫地、石垣などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ギフベニシダ

Dryopteris kinkiensis

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	—	

【形態・生態】

常緑性シダ。サイゴクベニシダによく似る。根茎は斜上、葉柄や中軸鱗片は汚暗褐色で密というほどではない。葉身は卵状長楕円形、小羽片は小さいものではほぼ全縁、大きいものでは中裂し、葉質は厚い紙質。孢子嚢群は中肋寄りからやや辺縁寄りまでいろいろなつき方がある。包膜は全縁。山裾の林縁や路傍、石垣などに生育する。

【分布の概要】

本州（秋田以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の山裾の林縁や路傍、石垣などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.



（執筆：畔上能力）

トウゴクシダ

Dryopteris nipponensis

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	NT	NT	

【形態・生態】

常緑性シダ。ベニシダに似る。葉柄の鱗片は黒褐色、中軸や羽軸にも黒褐色、早落性の鱗片が多い。葉身は広卵形、急鋭尖頭、最下羽片下向き第1小羽片は長い。葉質はしなやかな紙質、光沢がなく、孢子嚢群はやや小型、包膜は紅紫色を帯びない。樹林内でやや陰湿な斜面地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部では崖線に残る樹林などに稀に生育する。南多摩、西多摩では丘陵地や山地に少数生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 芹沢俊介, 1974.



（執筆：畔上能力）

ミヤマクマワラビ

Dryopteris polylepis

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	—	NT	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は太く短く、葉を叢生し、オシダと似ているが、植物体がやや小型で、各部は繊細で、葉柄につく鱗片は黒い。葉身は2回羽状深裂から全裂、広披針形で、ときに長さ2m、幅40cmに達するものもある。羽片は下部ほど狭く、先端は次第にとがり、羽状に深裂から全裂する。葉質はやや硬く、表面は暗緑色。孢子嚢群は葉身の先端部につき、裂片の辺縁寄りに1列に並ぶ。主として樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の樹林内に多いほか、南多摩にもごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化、林床の刈り取りが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、選択的な草刈りなどをすることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



ワカナシダ

*Dryopteris pycnopteroides*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	EX	□	□	

【形態・生態】

常緑性シダ。イワヘゴに似る。葉柄や中軸の鱗片が黒色で硬く、宿存する。葉身は中央部が最も幅広く、下部羽片はやや短くなり、羽片の切れ込みは中裂し、裂片間は三角形にあく。葉は長さ 60cm 前後、孢子嚢群は羽片の辺縁と羽軸の中間から羽軸寄りにつく。またオオクジャクシダに似て葉柄鱗片は全縁で突起が出ず、葉脈は上面で著しくくぼむ。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩南部に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



ヒメイタチシダ

*Dryopteris sacrosancta*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	○	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状となり、葉を叢生する。葉柄はわら色、長さ 20 ~ 40cm、葉柄基部の鱗片はやや密生し、黒色光沢があり、辺縁部は淡褐色で縁どられる。葉身は五角状広卵形、下部では 3 回羽状複生、長さ 50cm に達するものもある。羽軸鱗片は扁平で、袋状にならない。葉質は紙質、表面には光沢が少ない。孢子嚢群は小型でやや辺縁よりに並ぶ。丘陵地、低山地の林縁、石垣などやや乾燥したところに生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩では丘陵地、低山地の林縁、林床、石垣などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化、林縁や路傍の除草などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。また、林縁や路傍の除草により除去されることがあるため注意が必要である。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ナガバノイタチシダ

*Dryopteris sparsa*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	□	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉を叢生し、鱗片をつける。葉柄の基部は帯褐色、上部はわら色で鱗片がある。鱗片は膜質、淡褐色で中心部がやや濃くなる。葉身は卵状長楕円形、鋭尖頭で、長さ 30 ~ 50cm、幅 15 ~ 25cm、2 回羽状複生から 3 回羽状深裂、羽片に柄がある。最下羽片は非相称の三角形で大きい。葉質はやや厚い草質。孢子嚢群は中肋近くにつき、包膜は全縁。低山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（千葉以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地や低山地の樹林で、やや陰湿な崖地や林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

倉田悟・中池敏之, 1979; 内野秀重, 2008b.

(執筆: 畔上能力)



タニヘゴ

*Dryopteris tokyoensis*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	—	—	●	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く、直立した葉を叢生する。葉柄は短く鱗片を密につける。鱗片は鋭尖頭、全縁で、暗褐色から淡褐色。葉身は単羽状複生、倒披針形、長さ1mほどになり、幅15～25cm、下部羽片は次第に短くなる。羽片は線形で浅裂から深裂し、最下裂片基部は耳形となり、基部は心形。孢子嚢群は羽片中肋寄りに1～2列に並ぶ。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 畔上能力ら, 1991.

(執筆: 畔上能力)



ホソイノデ

*Polystichum braunii*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	CR	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く、直立して塊状、鱗片をつける。葉柄は短く、密に鱗片をつける。葉柄鱗片は淡褐色、膜質。葉身は2回羽状複生し、披針形、長さ30～60cm、先端は芒状に伸び、下部羽片は耳状になる。孢子嚢群は小羽片の中肋寄りにつく。冷涼な温帯の樹林内、風穴付近などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州(中部以北、鳥取、山口)

【都における生育環境】

南多摩では山地の樹林内に極めて稀に生育する。奥多摩では温帯林や風穴付近に少数生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



アスカイノデ

*Polystichum fibrillosopaleaceum*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状となり、葉を叢生する。イノデに似るが、葉柄下部鱗片は狭披針形、全縁でややねじれる特徴がある。中軸の鱗片は毛状。葉身は暗緑色の光沢があり、小羽片は鋭頭。孢子嚢群は小羽片の中肋と片縁の中間生。太平洋側沿海地の林床にしばしば群生するほか、内陸部にも生育する。海岸近くの常緑樹林、段丘林、丘陵地の谷戸、低山地など陰湿な林床に多い。

【分布の概要】

本州(岩手以南から紀伊半島)、四国(高知)、九州(大分)

【都における生育環境】

区部では公園や緑地に多く生育する。多摩地域では台地や丘陵地の谷戸、崖地などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 北区環境保全課(編), 1987.

(執筆: 畔上能力)



チャボイノデ

*Polystichum igaense*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	●	●	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉は開出し、地面に接する。岩上に生じた株では葉を下垂する。イノデモドキに似るが、全体が小型で、葉身は長さ 40cm、幅 10cm 未満。葉柄や葉身中軸の鱗片は褐色で、乾くとねじれる。孢子囊群は小羽片の辺縁にごく近くつく。山地の樹林内や岩上などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東から近畿）、四国、九州（宮崎）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



アイアスカイノデ

*Polystichum longifrons*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	○	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。イノデによく似るが、葉柄は長く、下部鱗片は披針形で全縁に近く、帯茶褐色の鱗片が混じる。葉柄上部から中軸にかけての鱗片は狭披針形から毛状になる。葉身は細長く、狭披針形に近い。小羽片はほぼ全縁から浅裂し、孢子囊群は小羽片の辺縁寄りにつく。低地から低山地にかけて樹林内や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩では低地から山地まで広く分布するが、区部や北多摩では少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 北区環境保全課(編), 1987.

(執筆: 畔上能力)



トヨグチイノデ

*Polystichum ohmurae*シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状、鱗片をつける。葉柄は短く、葉柄下部の鱗片は卵形から披針形、膜質、赤褐色から茶色、黒みがかったものも混じり、上半部がねじれることが多い。葉身は2回羽状複生し、披針形から長橢円状披針形、長さ 15 ~ 25cm、幅 5 ~ 10cm、中央がもっとも広く、下部羽片はやや短くなる。小羽片はほとんど切れ込まない。孢子囊群は小羽片の辺縁寄りにつき、径 1mm と小さい。亜高山帯の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東西部から中部）

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



オニイノデ

Polystichum rigens

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	DD	VU

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、塊状で、鱗片がある。葉柄は葉身より短く、密に光沢のある褐色から淡褐色の鱗片をつける。葉身は広披針形で長さ40～70cm、2回羽状複生。小羽片は卵状長楕円形で、基部が沿着する。葉質は硬い革質。孢子嚢群は小羽片のやや中肋寄りにつき、包膜はやや大きい。山地のやや乾燥した岩礫地に稀に生育する。

【分布の概要】

本州（茨城以西）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地で、やや乾燥した岩礫地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



シムライノデ

Polystichum shimurae

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	EN

【形態・生態】

常緑性シダ。ツヤナシイノデとの雑種に「トウキョウイノデ」がある。産地はごく限られる。根茎は短く塊状で鱗片をつける。葉は叢生し、葉柄下部より中軸にかけて栗色の鱗片のほか黒色の鱗片が混生する。葉身は2回羽状複生し、長さ30～75cm。小羽片の辺縁は鋸歯縁で、長さ2mmほどのトゲに終わる。葉質はやや薄い紙質で、表面に光沢がある。孢子嚢群は小羽片の辺縁寄りから中間につく。山地の溪流沿いなど、やや湿潤な岩礫地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

西多摩のごく限られた溪流沿いに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.

（執筆：畔上能力）



ヒメカナワラビ, キヨズミシダ

Polystichum tsussimense var. *tsussimense*

シダ植物門
オシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉を叢生する。葉柄と葉身はほぼ同長で、長さ40～60cm。葉柄基部の鱗片は黒褐色、辺縁に毛状突起がある。葉身は2回羽状複生、披針形、羽片は線状披針形、基部前側は耳状突起がある。小羽片は先端が刺状、葉質は硬くやや革質。孢子嚢群は葉身の下部中軸寄りから外に向けつきはじめる。山地溪流の岩上、斜面礫地などに生育する。

【分布の概要】

本州（福島南部、関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の溪流沿いの岩崖地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.

（執筆：畔上能力）



オオキヨズミシダ

Polystichum tsussimense var. *mayebarae*シダ植物門
オシダ科

【形態・生態】

常緑性シダ。オニイノデとヒメカナワラビの中間的形質を持つ。胞子は正常。鱗片は褐色のことが多い。羽片はヒメカナワラビに似るがやや大きく、幅 2cm を超える。羽軸の外半分では小羽片基部が流れて翼となる。葉質はやや革質。胞子嚢群は小羽片の中肋と辺縁の中間か、やや中肋寄りにつき、包膜は大きい。やや乾燥した山地の樹林内や岩隙に生育する。

【分布の概要】

本州（福島南部と関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩のやや乾燥した山地の樹林内や岩隙に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩壊や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



コハシゴシダ

*Thelypteris angustifrons*シダ植物門
ヒメシダ科

【形態・生態】

常緑性シダ。ハシゴシダの小型品とよく似ているが、最下前側の裂片は遊離し、他の裂片より大きい。胞子嚢群は馬蹄形から半月形でやや長い。林内、林縁、路傍、石垣などに多く見られる。

【分布の概要】

本州（新潟、石川、関東南部以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の落葉広葉樹林や植林地の林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や山林の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力)



タチヒメワラビ

*Thelypteris bukoensis*シダ植物門
ヒメシダ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く這い、まばらに卵形で褐色の鱗片をつけ、葉をまばらに出す。葉身は長楕円状披針形で鋭頭、下部羽片は短くなり、長さ 40 ~ 70cm。2 回羽状全裂。羽片の先は尾状となる。小羽片は狭い翼で連なり、羽状中裂する。植物体全体にやや密に星状の鱗片がある。胞子嚢群は裂片の凹部近くに位置する。

【分布の概要】

本州（中部以北）、四国、九州（熊本）

【都における生育環境】

奥多摩の腐植土の厚い樹林内や草原に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化、シカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、シカの防護柵設置を検討することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ハシゴシダ

Thelypteris glanduligera

シダ植物門
ヒメシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	○	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は葉身よりやや短く、わら色、有毛。葉身は披針形で長さ20～40cm、幅8～12cm、鋭頭、基部が最も広い。羽片は狭長楕円形、鋭頭、辺縁はほぼ全縁、長さ3～5mm、小脈は単条で葉縁に達し、有毛。葉質は紙質から草質、葉面に毛はなく、裏面に腺がある。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は円腎形、密に毛がある。丘陵地から低山地にかけてやや乾燥した林縁や斜面などに生育する。

【分布の概要】

本州（福島南部、関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩では林縁や斜面に普通に生育する。区部では極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ハリガネワラビ

Thelypteris japonica

シダ植物門
ヒメシダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	○	○	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く這い、毛と鱗片がある。葉柄は長さ30～50cm、光沢ある黒褐色。ときに緑色を呈する。葉身は三角状長楕円形、鋭尖頭。最下の羽片はやや下向きにつき、長さ25～40cm、幅15～25cm。葉質は草質。葉の各軸や葉縁は有毛。葉裏にははじめ黄色で、のち橙色となる球形の腺がある。山野の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道西部、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の丘陵地から低山地、緑地公園などに広く分布する。区部や北多摩ではやや少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



ウスヒメワラビ

Acystopteris japonica

シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EN	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く這う。枯れた葉柄基部が残り、膜質で淡褐色の鱗片がつく。葉柄や中軸は紫褐色で光沢があり、まばらに鱗片がつく。葉身は3回羽状複生、羽片は無柄、葉脈はすべて遊離し、葉質は軟らかく薄い草質で、全体に白色多細胞の軟毛がある。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は小さい。山地溪流の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部以南）、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の溪流の陰湿地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

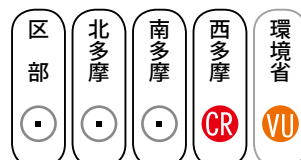
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



テバコワラビ

*Athyrium atkinsonii*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉を混み合ってつけ、鱗片がある。葉柄は葉身とほぼ同長で、長さ 15 ～ 40cm。早落性の鱗片がある。葉身は広卵形で長さ 25 ～ 65cm、幅 15 ～ 35cm、3 ～ 4 回羽状複生。羽片や小羽片は有柄。裂片は円頭、小さな鈍鋸歯がある。葉脈は遊離し、葉質は軟らかい草質、下面には脈に沿って腺毛がある。胞子嚢群は小さく、裂片のやや中肋寄りにつき、包膜は円腎形から三日月形。山地の樹林内にやや稀に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から近畿北部、山口）、四国、九州（宮崎、熊本）

【都における生育環境】

奥多摩のブナ林やミズナラ林の林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆者：畔上能力）



カラクサイヌワラビ

*Athyrium clivicola*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は直立し、葉を叢生する。葉柄は普通葉身より短く、基部に鱗片がつく。葉身は楕円形から三角状卵形で、長さ 30 ～ 60cm、幅 15 ～ 30cm、2 回羽状複生、上部の羽片は急に狭くなり穂状様になる。側羽片は有柄、最下前側の裂片は特に大きく耳状となり、羽軸に重なる。葉質は草質。胞子嚢群は小羽片の中肋近くにつき、包膜は三日月形か、背中合わせになり、ほぼ全縁。やや湿った樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地溪流の陰湿地や丘陵地の谷戸に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆者：畔上能力）



サトメシダ

*Athyrium deltoideifrons*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状、斜上し、葉を叢生する。葉柄基部は帯褐色で、披針形、淡褐色、全縁、膜質の鱗片がある。葉身は三角形から卵状三角形で、長さ 30 ～ 70cm、幅 20 ～ 45cm、3 回羽状深裂から全裂し、葉質は薄い草質。小羽片には短柄があり、三角状狭卵形、鋭頭、小羽軸近くまで深く切れ込む。胞子嚢群は裂片の中肋寄りにつき、包膜は長楕円形か、かぎ形に曲がり、薄く、辺縁は細かく裂ける。山野の日当たりの良い湿地や小川の縁などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地の谷戸部に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 芹沢俊介, 1974.

（執筆者：畔上能力）



ミヤコイヌワラビ

*Athyrium frangulum*シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は直立し、葉を叢生する。葉柄は緑色または紫色を帯び、みずみずしい。鱗片は披針形、茶褐色。葉身は卵状楕円形、鋭尖頭、長さ 50cm。3 回羽状全裂から複生し、葉質はやや厚く、軟らかい。羽片は狭三角形、鋭尖頭、有柄。小羽片は狭楕円形、羽状に切れ込み有柄、中肋の刺が顕著である。山地の溪流沿いや湿潤な林床に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の溪流の陰湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



ホソバイヌワラビ

*Athyrium iseanum*シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は塊状、直立から斜上する。葉は叢生し、やや二形性となる。葉柄はわら色または紫色、基部に褐色膜質の鱗片がつく。葉身は卵状長楕円形、2 回羽状複生から 3 回羽状全裂、尾状鋭尖頭、長さ 25 ~ 40cm、軟らかい草質で、葉身の上部軸上に無性芽をつける。小羽片中肋の表面に軟らかい刺状突起が多数つく。孢子嚢群は中肋近くにつき、包膜は半月状か鉤形で、ほぼ全縁が波状縁。山地の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の溪流の陰湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



イワイヌワラビ

*Athyrium nikkoense*シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	

【形態・生態】

夏緑性シダ。葉は小型のヘビノネゴザに似ているが、多くは下垂する。葉柄は短く、葉身は披針形から狭披針形、幅 3 ~ 8cm、下部は狭くなり、羽片は羽状浅裂から中裂し、裂片は長楕円形で幅 3 ~ 4mm、鈍鋸歯縁。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、1 列に並ぶ。包膜は円腎形、または鉤形。山地の林内や岩上に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、四国

【都における生育環境】

奥多摩の山地の林内や岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

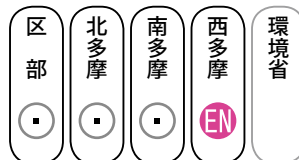
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



タカネサトメシダ

*Athyrium pinetorum*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。葉を数枚叢生する。葉柄は緑色、基部は暗褐色を帯びる。基部の鱗片は狭披針形、膜質、暗褐色。葉身は広卵状三角形、鋭尖頭、3回羽状深裂から全裂し、長さ35cm前後、葉質は薄い草質。中部羽片の最下小羽片はややずれて外先につく。胞子囊群は裂片に1個、小羽片中肋の両側に各1列に並ぶ。亜高山帯の針葉樹林の腐植土上に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北、奈良）、四国（徳島）

【都における生育環境】

奥多摩の亜高山帯針葉樹林の林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化、シカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

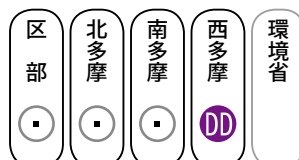
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆者：畔上能力）



カラフトミヤマシダ

*Athyrium spinulosum*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。別名ミヤマヌワラビ。根茎は長く這い、細く、まばらに葉をつける。葉柄は葉身より長い。葉身は広三角形、鋭尖頭、長さ20～30cm、幅は長さよりやや大きく、2～4回羽状複生、最下羽片が一番長い、下部が狭くなる。小羽片の軸に狭い翼があり、裂片には先が芒状の深い鋸歯がある。葉質は薄い草質。胞子囊群は円形から楕円形で小さく、裂片の中肋近くにつく。針葉樹林の林床に、やや稀に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部）

【都における生育環境】

西多摩の亜高山帯の針葉樹林の林床に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

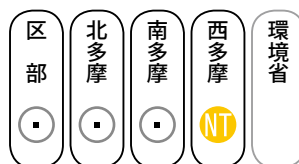
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：畔上能力）



イッポンワラビ

*Cornopteris crenuloserrulata*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は太く這い、葉を密につける。葉柄は葉身とほぼ同長。膜質、淡褐色の鱗片がやや多い。葉身は三角状卵形で長さ、幅とも20～40cm、3回羽状深裂。下部羽片は長楕円状披針形、最下の小羽片は著しく小さい。小羽片は羽状深裂し、裏面中軸には細い鱗片と毛がまばらにつく。胞子囊群は円形、または楕円形。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北、鳥取）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆者：畔上能力）



タカオシケチシダ

Cornopteris decurrenti-alata var. *pilosella*

シダ植物門
イワデンドコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は這う。葉柄は葉身よりやや短く、下部に淡褐色鱗片がつく。葉身は長楕円形から楕円状卵形、2回羽状中裂から複生。羽片はほぼ対生、ほとんど無柄。しばしば鎌状に曲がる。葉の裏面、特に中軸、羽軸などに毛があることでシケチシダと区別される。孢子嚢群は線形。山地渓流の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（東部南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の渓流沿いの陰湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ヤマヒメワラビ

Cystopteris sudetica

シダ植物門
イワデンドコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く這い、下部に黒褐色の鱗片をまばらにつける。葉柄は長さ10～20cm。葉身は長さ10～20cm。羽片、小羽片には短い柄があり、裂片の縁に微鋸歯がある。包膜には小腺毛がある。山地深部の腐植土の厚い林床に、稀に生育する。

【分布の概要】

本州（福島南部、埼玉、中部）

【都における生育環境】

奥多摩の山地深部に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



セイトカシケシダ

Deparia dimorphophylla

シダ植物門
イワデンドコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	NT	NT	

【形態・生態】

夏緑性シダ。シケシダ類の中では大型。根茎は地中を這う。葉柄は葉身とほぼ同長。葉身はやや厚い草質で、くすんだ暗緑色、孢子葉は卵状長楕円形で、長さ35～50cm、幅20～30cm、栄養葉はより幅が広い。葉には表裏に毛が多い。包膜は大部分チャセンシダ型で辺縁は大部分内側に折れ込む。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の各地の樹林内に少数生育する。区部では庭園や公園などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 北区環境保全課(編), 1987.

(執筆: 畔上能力)



フモトシケシダ

*Deparia pseudoconilii*シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	—	NT	—	

【形態・生態】

夏緑性シダ。シケシダ類の中ではやや小型で、根茎は長く這い、鱗片をつける。葉柄は細く、紫色を帯び、葉身より短い。葉の二形性はかなり著しい。葉身は三角状披針形、孢子葉で長さ 20～30cm、幅 7～15cm、最下羽片は最も長く、ほかの羽片は広披針形、鋭尖頭で、ほぼ直角につく。孢子葉群は長楕円形、有毛。山地の腐植質の多い地上に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部と南多摩の樹林内や林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 北区環境保全課 (編), 1987.

(執筆: 畔上能力)



ミヤマシケシダ

Deparia pycnosora var. *pycnosora*シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	—	NT	○	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は直立または斜上、葉を叢生する。葉柄は細く、葉身と同長または短く、基部に褐色から暗褐色の鱗片を密につけるが、上部にはほとんどない。葉身は長楕円形から倒披針形、長さ 30～90cm、基部は次第に狭くなり、2 回羽状深裂。やや二形性で、孢子葉は葉柄が長く、直立し、栄養葉は葉柄が短く、葉身も短い。葉身裏面に腺毛はない。山地の樹林内や林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州 (中部以北)

【都における生育環境】

山地溪流などの湿潤地に生育する。西多摩では多く、南多摩では稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



ミドリワラビ

*Deparia viridifrons*シダ植物門
イワデンド科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	VU	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く這う。葉柄基部に褐色膜質の鱗片がある。葉身は広卵状三角形、長さ 30～60cm、3 回羽状深裂し、軟らかい草質。羽軸や小羽軸に狭い翼がある。小羽片の中肋両面にわずかに微毛がある。側脈は 2 叉する。孢子葉群は裂片中肋寄りに 1 列に並び、小型。包膜は楕円形、かぎ形、馬蹄形など。山地の樹林内に稀に生育する。

【分布の概要】

本州 (太平洋側)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の溪流や、丘陵の陰湿な谷戸などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



イワヤシダ

Diplazium cavalerianum

シダ植物門
イワデンダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EX	○	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は直立または斜上、葉を叢生する。葉柄は葉身とほぼ同長、基部に黒褐色の鱗片がつく。葉身は披針形から長楕円状披針形、長さ 30～70cm、幅 15～30cm。単羽状複生で、頂羽片は側羽片と同形同大。側羽片はへだたって 10 個前後つく。孢子嚢群は長さ 5～10mm、中肋寄りにつく。山地の陰湿な樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

八王子市恩方の記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変による生育環境の変化などが原因となって絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.



(執筆: 畔上能力)

ヒカゲワラビ

Diplazium chinense

シダ植物門
イワデンダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	—	VU	

【形態・生態】

夏緑性シダ。ときに冬でも緑葉を見る。根茎は短く這い、葉は混み合ってつく。葉柄は葉身よりやや短い。葉柄基部に黒褐色の鱗片がある。葉身は三角状で、長さ、幅とも 30～60cm、3 回羽状複生、鮮緑色で薄い草質、無毛、下部羽片には長さ 5cm ほどの柄がある。孢子嚢群は線形、裂片の中肋の両側につく。山地のやや陰湿な林床に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島(沖永良部島)

【都における生育環境】

西多摩の山地の谷底部の植林地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

倉田悟・中池敏之, 1997a.



(執筆: 畔上能力)

シロヤマシダ

Diplazium hachijoense

シダ植物門
イワデンダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	

【形態・生態】

常緑性シダ。北方のものは夏緑性になることもある。根茎は太く這う。葉柄は葉身とほぼ同長、基部は汚褐色で、黒褐色から茶褐色の早落性の鱗片をつける。葉身は三角状卵形、2 回羽状深裂し、長さ、幅とも 50～100cm。羽片、小羽片とも有柄。孢子嚢群は線形、中肋と辺縁の中間にある。山地の樹林内の陰湿地に生え、暖地ではしばしば群生する。

【分布の概要】

本州(千葉、新潟以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

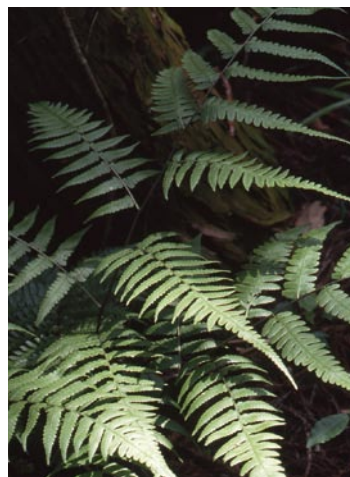
南多摩の山地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

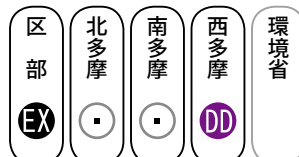
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.



(執筆: 畔上能力)

オニヒカゲワラビ

*Diplazium nipponicum*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

常緑性シダ。北方では夏緑性になることもある。根茎は太く這い、葉が混み合っつく。葉柄は葉身とほぼ同長。黒褐色から茶褐色の鱗片が密につく。葉身は広卵状三角形で、長さ、幅ともに 40～70cm、2 回羽状複生から 3 回羽状深裂。中軸、羽軸、小羽軸の裏面に小鱗片と毛がある。下部羽片は有柄。小羽片には短柄がある。孢子囊群は線形、小羽片の中肋寄りにつく。山地の陰湿な樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の溪流沿いや谷底部の陰湿な樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ヘラシダ

*Diplazium subsinuatum*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は長さ 3～25cm、葉身は単葉で線状披針形、全縁から浅い波状縁、長さ 10～30cm、幅 2.5cm 以下、革質、無毛、中肋は裏面に隆起し、表面でわずかにくぼむ。葉脈ははっきり見えず、小脈は平行に並び先端は葉縁に達する。孢子囊群は脈に沿って、中肋から葉縁近くまで伸びるものが多い。山地の崖地や溪流沿いのやや陰湿な樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の山地の溪流沿いの斜面林に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

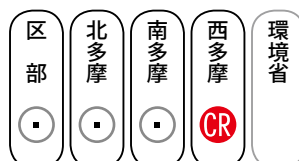
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



イワウサギシダ

*Gymnocarpium jessoense*シダ植物門
イワデンド科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く這う。鱗片は淡赤褐色、膜質。葉柄は長さ 5～20cm、細くてもろい。全面に無柄の腺毛がある。葉身は三角状長卵形、鋭尖頭、大型のものは長さ 30cm になる。最下羽片は最大であり、有柄でやや不齊の三角状長楕円形となる。第 2 羽片も有柄となる。葉質は草質、淡緑色、孢子囊群は裂片の辺縁近くにつき、ほぼ円形。蛇紋岩地帯や石灰岩地の山地の樹林内や岩地に生育する。

【分布の概要】

本州(福島以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



エビラシダ

*Gymnocarpium oyamense*シダ植物門
イワデンダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	●	●	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く這う。短褐色の鱗片をやや密につける。葉柄は細く、長さ12～25cm。葉身は葉柄に約120°の角度でつく。葉身は三角状卵形、鋭頭、単羽状深裂、長さ10～20cm、幅6～15cm、草質。葉脈は羽状に分岐し、小脈は単生稀に2叉、先端は葉縁に達する。孢子嚢群はほぼ円形から長楕円形、包膜はない。山地の溪流の陰湿な林床、岩上、岩壁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から近畿）、四国

【都における生育環境】

南多摩では西部山地の植林地の林床や溪流沿いの岩上に少数生育する。西多摩では山地の溪流沿いの斜面地や岩上に少数生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



キンモウワラビ

Hypodematium crenatum subsp. *fauriei*シダ植物門
イワデンダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	●

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は太く這い、密に褐色で光沢ある鱗片がある。葉柄は長さ50cmに達し、わら色、平滑で無毛。葉身は3～4回羽状複生、五角形から三角状長楕円形、長さ50cm、基部の幅40cmに達する。中軸表面に溝があり、羽軸の溝と連続する。葉質は薄い紙質で、鮮緑色。葉脈は遊離し、小脈の先端は裂片の辺縁に達する。植物体にはとがった毛がある。孢子嚢群は裂片のやや中肋近くにつき、包膜は円腎形から馬蹄形で密に毛がある。山地の石灰岩上に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、山梨、長野、山口）、四国（高知）、九州

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力)



コガネシダ

*Woodsia macrochlaena*シダ植物門
イワデンダ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	●	●	

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は短く、葉柄基部とともに褐色から赤褐色の鱗片を密生する。葉身は長楕円状披針形、長さ5～15cm、幅2～5cm、単羽状複葉。中軸に毛はあるが、鱗片はない。羽片は卵形で中裂から深裂し、基部は中軸に流れる。葉質は草質。表裏とも白い毛がある。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、包膜はコップ状で不規則に裂け長い緑毛がある。樹林内や林縁の岩上に生じる。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の溪流の樹林内や林縁の岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は岩壁、岩上、岩隙などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



ミヤマウラボシ

*Crypsinus veitchii*シダ植物門
ウラボシ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は細く這い、淡褐色の鱗片が密生する。葉柄は細く、基部は帯褐色。葉身は羽状に深裂または全裂し、長さ4～25cm、三角状卵形、基部は切形、側裂片は1～5対、開出し鈍頭、辺縁に低い鋸歯がある。葉質は薄い紙質。孢子嚢群は葉の上半から下に向けてつき、中肋に近く並び、円形。山地深部の樹林内の岩壁に生育する。

【分布の概要】

北海道（大雪山）、本州（山形から福井、関東、中部、奈良）、四国（徳島）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地、岩崖地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境は石灰岩地のほか、岩壁、岩上、岩隙などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

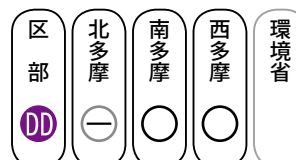
【関連文献】

芹沢俊介, 1974.

（執筆：畔上能力）



マメヅタ

*Lemmaphyllum microphyllum*シダ植物門
ウラボシ科

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、不規則に分岐し、まばらに鱗片をつける。葉は二形性で、栄養葉は円形から楕円形、長さ1～2cm。孢子葉は線形からへら形で、長さ3～6cm、全縁、葉質は肉質で厚く、濃い緑色、孢子嚢群は孢子葉の中肋の両側に合着して線形となる。岩上や樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州（東北南部以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地のやや陰湿な樹幹や岩などに着生する。南多摩、西多摩では普通に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の伐採などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。なお、区部などでは公園や庭園の樹木や岩などに着生して移入したものと思われるものが稀に見られる。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



ホテイシダ

*Lepisorus annuifrons*シダ植物門
ウラボシ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く這い、やや密に鱗片をつける。葉柄は長さ3～5cm、葉身は下部が広い披針形、基部はくさび形、上部は尾状鋭尖頭、長さ8～25cm、幅2～4cm、葉質は紙質、葉縁は波状。孢子嚢群は円形で径約2mm、中肋寄りにつく。傘形の鱗片がある。温帯の樹林内の岩上、樹幹に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の山地の岩上などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

（執筆：畔上能力）



サジラン

Loxogramme duclouxii

シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、やや密に鱗片をつける。葉柄は短く、下部は光沢ある紫褐色から黒褐色。葉身は倒披針形、中央よりやや上が最も広く、鋭尖頭、長さ15～40cm。中肋は上面に隆起し、裏面は扁平、葉脈は透視できない。葉質は厚い革質、暗緑色で無毛。孢子嚢群は葉身の上半分について斜上する。山地の樹林内の岩上や樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州（福島以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の溪流沿いの岩上や樹幹に着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



クリハラン

Neocheiropteris ensata

シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	DD	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は這い、淡褐色で膜質の鱗片がつく。葉柄は長さ10～30cm、葉身は単葉、広披針形、長さ25～40cm、幅4～7cm、中央が最も広く、鋭尖頭、基部はくさび形、ほぼ全縁、紙質から薄い革質、中肋は両面とも隆起し、主側脈は両面ともはっきり見える。葉脈は複雑な網状。孢子嚢群は円形から楕円形で、中肋の両側に2～4列にやや不規則に並ぶ。山地溪流の陰湿な林内、岩上などにしばしば群生する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

西多摩、南多摩の山地の溪流の陰湿な岩礫地、岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 畔上能力)



オシャグジデンド

Polypodium fauriei

シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	EN	

【形態・生態】

冬緑性シダ。夏に落葉する。根茎は這う。先端や葉柄基部に淡褐色の鱗片が密生する。葉柄は長さ3～6cmと短い。葉身は狭卵形、広披針形、長さ5～20cm、幅3～8cm、羽状深裂し、乾燥すると表面に巻き上がる。乾燥標本ではゼンマイ巻きとなる。葉質は草質から薄い紙質、上面無毛、下面にまばらに毛がある。孢子嚢群は辺縁と中肋の中間か、やや中肋寄りにつく。山地深部の樹幹や岩上に着生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の溪流沿いで、樹幹に稀に着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

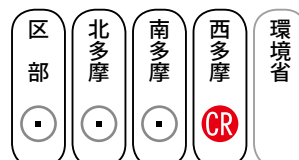
【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



アオネカズラ

*Polypodium niponicum*シダ植物門
ウラボシ科

【形態・生態】

冬緑性シダ。夏には落葉する。根茎は長く這い、径4～5mm、肉質、白緑色で、鱗片をまばらにつける。葉柄はわら色、無毛で、長さ7～15cm、葉身は広披針形から卵状長楕円形、長さ15～20cm、羽状に深裂する。側裂片は15～25対あり、水平に開出する。葉質は厚く、柔かい草質で、表面にはまばらに、裏面にはやや密に短い開出毛がある。孢子嚢群は中肋近くにつき、大きい。暖地の山地の溪流において、樹幹や岩上に着生する。

【分布の概要】

本州（富山、関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の溪流沿いで、樹幹や岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

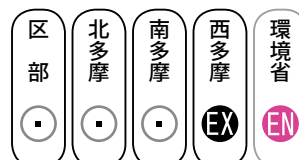
【関連文献】

芹沢俊介, 1974.

（執筆者：畔上能力）



ミョウギシダ

*Polypodium someyae*シダ植物門
ウラボシ科

【形態・生態】

夏緑性シダ。根茎は長く横走し、径3～4mm、葉柄基部とともに黒褐色の鱗片が密生する。葉柄は淡緑色からわら色、下面は淡褐色。やや光沢があり、長さ10cm前後。葉身は狭卵形から卵形、長さ10～30cm、幅7～12cm、羽状深裂する。側裂片は7～15対、開出し、辺縁には不規則で深い鈍鋸歯がある。葉質は薄い草質。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間につく。山地の岩上に生育する。

【分布の概要】

本州（群馬、埼玉、東京、静岡）、四国（徳島、高知）

【都における生育環境】

奥多摩町日原の記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.

（執筆者：畔上能力）



ヤツシロヒトツバ

*Pyrrosia × nipponica*シダ植物門
ウラボシ科

【形態・生態】

常緑性シダ。イワオモダカとヒトツバの雑種。根茎は横走。密に披針形、黒褐色の鱗片をつける。葉柄は長さ2～5cm、灰褐色の星状毛をつける。葉身は披針形またはほこ形に3～5裂し、長さ3～8cm、柔かい草質で、褐色の星状毛が密生する。孢子嚢群は裏面全体につく。

【分布の概要】

本州（関東西部、中部、和歌山）、四国（高知）、九州（熊本）

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974.



（執筆者：畔上能力）

イワオモダカ

Pyrrosia hastata

シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く這い、鱗片があり、葉を叢生する。葉柄は長さ12～25cm、淡褐色、星状毛を密生する。葉身はほこ形に3～5裂し、基部は心形から広いくさび形となり、長さ5～15cm、幅4～12cm。葉裏は灰褐色から赤褐色の星状毛が密生する。表面は星状毛はほとんどなく、緑色から暗緑色。胞子嚢群は主側脈の間に3～7列に並ぶ。山地深部の樹林内の岩崖地や樹幹に着生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



ヒトツバ

Pyrrosia lingua

シダ植物門
ウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は長く這い、硬く、細い鱗片を密につける。葉柄は長さ7～20cm、葉身は広披針形で鋭尖頭、基部はくさび形、全縁で、葉質は革質、裏面は灰褐色の星状毛を密生する。胞子葉はやや幅が狭く、胞子嚢群は裏面一面を覆う。暖地のやや乾燥した岩上や樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州(茨城以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

西多摩の山地の溪流の岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



キレハオオクボシダ

Ctenopteris sakaguchiana

シダ植物門
ヒメウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EX	EN

【形態・生態】

常緑性シダ。根茎は短く、葉を数枚叢生する。葉柄は短く白色の軟毛が密生する。葉身は線状披針形、長さ4～8cm、幅5mm以下、羽状全裂する。側裂片には両面に短毛がまばらにあり、胞子嚢群は側脈に背生し、円形から楕円形、葉面につき裸出する。山地深部の森林内の樹幹や岩上に、コケに混じって生育する。

【分布の概要】

本州(関東から近畿)、九州

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地のコケ類が生育する岩上で、コケに混じって生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.



(執筆: 畔上能力)

オオクボシダ

*Xiphopteris okuboi*シダ植物門
ヒメウラボシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

常緑性シダ。葉を叢生する。葉柄基部には褐色で膜質の鱗片がある。葉柄は根茎と関節しないので枯れた葉が残ることが多い。葉身は、狭披針形、鋭尖頭で、長さ15cm以下のものが多く、羽状に深裂する。側裂片は長楕円形、鈍頭、全縁、長さ3～6mm、両面に赤褐色の開出毛がある。孢子嚢群は楕円形で、羽片の基部近くに1個ずつ並ぶ。山地のコケ類の生えている岩上や樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の溪流の陰湿な岩上や樹幹に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、園芸目的の採取に対しマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力)



デンジソウ

*Marsilea quadrifolia*シダ植物門
デンジソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	—	□	□	VU

【形態・生態】

夏緑性の水生または半水生シダ。根茎は細く、長く這い、不規則に分岐し、淡褐色の毛がある。葉はやや接してつき、葉柄は10～15cm、先端に4枚の小葉が十字状につく。葉柄基部の少し上から出た短い枝に、1～3個の有柄の孢子嚢果がつく。孢子嚢果は楕円形、長さ4～5mm、はじめは密に軟毛がある。水田や池沼など泥湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

区部の池沼のごく一部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の埋立てや除草剤の多用、釣り人によるゴミの投棄による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際し自生地の池沼の保全対策を講じること、釣り人に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

芹沢俊介, 1974; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 畔上能力)



サンショウモ

*Salvinia natans*シダ植物門
サンショウモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	DD	DD	—	VU

【形態・生態】

浮遊性の水生シダ。茎はところどころで分岐し、有毛、根はない。葉は3列輪生で、うち2列は水面に浮葉となり、あとの1列は水中に沈む水中葉となる。浮葉は単葉で対生し、楕円形、長さ1～2cm、ほぼ全縁、円頭。葉の表面には小突起が密生し、その先に数本の刺状毛がつき、裏面には多細胞の毛がある。水中葉は細かく分岐し、根のような形態と機能が見られる。孢子嚢群は水中葉の基部に集まる。水田や池沼の水面に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の池沼、北多摩、南多摩の水田の減少に伴い、ほとんど見られなくなった。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などによる湿地や池沼、水田の消失や、除草剤の多用が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全すること、除草剤の使用を控えるなどの配慮を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 芹沢俊介, 1974.

(執筆: 畔上能力)



オオアカウキクサ

*Azolla japonica*シダ植物門
アカウキクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	DD	VU	EN

【形態・生態】

浮遊性の水生シダ。アカウキクサに似るが、植物体はやや大型で、長さ1.5～7cm、赤緑色を帯び、根に根毛がない。茎は密に羽状に分岐し、葉は互生して覆瓦状に密につき、鱗片状で長さ約2mm、秋に全体が紅色になるが、冬には先端部だけ残して枯れる。孢子嚢群は水中の葉の間につく。水田や池沼の水面に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の池沼、南多摩、西多摩の水田の減少に伴い、大幅に減少した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などによる湿地や池沼、水田の消失や、除草剤の多用が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全すること、除草剤の使用を控えるなどの配慮を行うことが望ましい。また最近、特定外来生物であるアメリカオオアカウキクサ (*Azolla cristata*) が侵入し、急激に増殖しており、在来種オオアカウキクサに対する競合・駆逐・遺伝的かく乱が危惧されているため、注意が必要である。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 芹沢俊介, 1974.



(執筆: 畔上能力)

イラモミ, マツハダ

*Picea bicolor*裸子植物亜門
マツ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	VU	

【形態・生態】

常緑高木。幹は高さ約30m、径1mほどになる。樹皮は灰褐色で不ぞろいに裂け、厚い鱗片ではがれる。若枝は灰褐色から赤褐色、光沢があり、まばらに褐色腺毛があるかない。葉は線形で長さ8～10mm、横断面は菱形、4面に白色気孔帯がある。球果は10月に熟して下垂し、円柱形で長さ7～12cm、径約3cm、鈍頭、はじめ紫色、熟して汚黄緑色になる。種鱗は倒卵状ひし形で長さ2cm、先は幅狭く突出する。亜高山帯に生育する。

【分布の概要】

本州(福島南部から岐阜東部)

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の山頂周辺に多い。シラネマツハダ var. *reflexa* の型(イラモミの球果の鱗片が外側に反り返る変種)も見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1986.



(執筆: 畔上能力)

トウヒ

Picea jezoensis var. *hondoensis*裸子植物亜門
マツ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	VU	

【形態・生態】

常緑高木。幹は高さ20～25m、径50～60cm、樹皮は暗赤褐色でやや灰白色を帯び、薄い小型鱗片になってはがれる。葉枕は低く、エゾマツのように直角に立たない。葉は線形、扁平で長さ7～10mm、幅1.5mm、片面だけに気孔帯がある。球果は9～10月に成熟し、円筒形で下垂し、長さ4～6cm、径2～3cm、黄緑色を呈する。亜高山帯に生育する。

【分布の概要】

本州(関東、中部、紀伊半島)

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地周辺に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.



(執筆: 畔上能力)

ハリモミ, バラモミ

*Picea polita*裸子植物亜門
マツ科

【形態・生態】

常緑高木。幹は高さ約 30m、径約 1m になる。樹皮は灰褐色から灰黒色、不ぞろいの厚い鱗片になってはがれる。若枝は淡黄褐色で無毛。葉は線形で長さ 15～20mm、やや湾曲し、先端は鋭くとがり、触れると痛い。トウヒ属の中では最も強剛で、ハリモミの名もこれによる。横断面は四角で、4面に白色の気孔帯がある。球果は黄緑色から光沢のある褐色、卵状長楕円形で長さ 7～12cm、径約 4.5cm、はじめ上向き、のち下向きになる。トウヒ属の中で最も垂直分布が低い。

【分布の概要】

本州（福島以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に稀に生育する。南多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

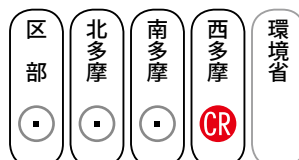
【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986。

（執筆：畔上能力）



ミヤマビャクシン

Juniperus chinensis var. *sargentii*裸子植物亜門
ヒノキ科

【形態・生態】

常緑低木。主幹は横に伏し、著しく屈曲し、枝は斜上する低木。成木では鱗片葉をつけるものが多いが、若いものは針状葉を混生する。球果はビャクシンに似て肉質液果状で球形、紫黒色で粉白を帯び、径 6～8mm。高山や海岸の岩場に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地に自生していたが、石灰岩の採掘のためほとんど見られなくなった。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

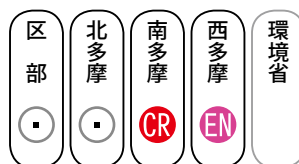
【関連文献】

鈴木和雄、1984; 鈴木和雄（編）、1986。

（執筆：畔上能力）



ネズ, ムロ, ネズミサシ

*Juniperus rigida*裸子植物亜門
ヒノキ科

【形態・生態】

常緑低木または高木。大きいもので高さ約 10m、径約 30cm になる。樹皮は灰褐色で縦裂し、薄片になってはがれる。葉は針形状で 3 輪生し、長さ 10～25mm、幅約 1mm。先端は硬くとがり、表面に深い白色気孔帯がある。雌雄異株。球果は翌年の秋に熟し、肉質液果状で球形、径 8～10mm、黒紫色で粉白を帯び、中に 3 個の種子がある。日当たりの良い丘陵地や花崗岩地に生育する。

【分布の概要】

本州（岩手以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地の尾根部では、低木が稀に見られるほか、奥多摩の山地の尾根部ではごく稀に大木が見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。なお、材が硬く緻密なため、盗伐の危険性がある。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986。

（執筆：畔上能力）



ジャヤナギ

*Salix eriocarpa*離弁花亜綱
ヤナギ科

【形態・生態】

落葉高木。別名オオシロヤナギ。高さ5～10mになる。葉は狭楕円形で長さ10～15cm、幅1～2.5cm。葉の裏面は粉白色で、両面とも無毛である。雌雄別株だが雌株だけが知られている。花期は3～4月で、葉の展開と同時に開花する。花序は長さ約1.5cmの楕円形で、黄色の腺体が2個あり、子房と苞に白い毛が密生する。湿地に多く生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

河川中流域から下流域にかけての河川敷、また丘陵地の谷戸の湿地に生育する。西多摩、南多摩では、多摩川の河川敷と谷戸の湿地に散見される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である河川低地の開発や護岸整備による冠水頻度の低下、谷戸の湿地の消失や環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。大株になるが比較的短命な樹種のため、萌芽更新や挿し木などが個体保全に有効である。

【関連文献】

吉山寛, 1985; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ネコヤナギ

*Salix gracilistyla*離弁花亜綱
ヤナギ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ0.5～3m。下部からよく分枝し、株立ち状になる。小枝は長く灰色の軟毛を密生するが、のち無毛となる。冬芽は楕円形で大きい。葉は互生し、葉身は長楕円形で先がとがり、長さ7～13cm、幅1.5～3cm。縁には細かい鋸歯がある。花期は3月上旬～4月下旬で、葉が出る前に、長楕円形の尾状花序をつける。雌雄異株である。平地や山地の水辺に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

河川上流域の渓谷から河川中流域の河岸、稀に丘陵の谷戸の湿地にも生育する。西多摩の渓流域と南多摩の多摩川上流域とその支流などで、自然護岸の残る場所に残存している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷や護岸の改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河川の整備において、ヤナギ類の自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

吉山寛, 1985; 神奈川県植物誌調査会(編), 2001.

(執筆: 池田博・内野秀重)



シバヤナギ

*Salix japonica*離弁花亜綱
ヤナギ科

【形態・生態】

落葉低木。高さは1～2m。成葉は長さ4～10cm、葉身は披針形から長楕円状披針形、狭倒卵状披針形、先端部はしばしば尾状に長く伸びる。花期は3月中旬～4月中旬。花穂は葉とともに現れる。雄花穂は長さ3～9cm、径5～8mm。雄しべは2本。雌花穂は長さ4cm、径5mm。丘陵地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部から東海）

【都における生育環境】

非湿地性のヤナギであり、丘陵や台地から低山にかけての自然崩壊地や露頭、浸食された段丘面、谷戸の谷底などに生育する。西多摩の山地の斜面や南多摩の段丘面、谷戸の斜面などが主な自生地である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である山地や段丘崖の露頭などの人工地盤化、擁壁化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。そのため、自然浸食を許容した整備を検討することが望ましい。

【関連文献】

吉川寛, 1985; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



オノエヤナギ

*Salix sachalinensis*離弁花亜綱
ヤナギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	○	○	

【形態・生態】

落葉高木。成葉は披針形ないし狭披針形、長さ10～16cm、幅1～2cm、先端は長くとがり、裏面は帯白淡緑色。花期は4月中旬～5月中旬。雄花穂は円柱形で、長さ2～4cm、径10～12mm。雌花穂は狭円柱形で、長さ2～4cm、径8mm程度である。湿地などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（奈良以北、佐渡）、四国

【都における生育環境】

河川上流域から中流域にかけての河川敷や、丘陵の谷戸から低山にかけての露頭や尾根など、湿地から適湿土地までの幅広い立地環境に生育する。南多摩の中小河川の低水路には比較的多いが、人工護岸化された北多摩、区部では減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷や護岸の改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河川の整備において、ヤナギ類の自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

吉山寛, 1985; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.

（執筆：池田博・内野秀重）



コゴメヤナギ

*Salix serissaefolia*離弁花亜綱
ヤナギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	VU	VU	VU	

【形態・生態】

落葉高木。高さ25mに達する。成葉の葉身は狭長楕円状披針形、長さ4～7cm、幅9～12mm。先端は次第に狭く鋭尖頭、裏面は粉白色、両面とも無毛。花期は4月上旬～5月上旬。花穂は円柱形で小さく、雄花穂は長さ1.5～2cm、径5～8mm、雌花穂は長さ1～2cm、径2～5mm。

【分布の概要】

本州（関東、中部、近畿）

【都における生育環境】

河川中流域から下流域における高水敷に単生、または群生する。西多摩から南多摩にかけて、多摩川など広い河川敷の残る沖積地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷の開発や河川のかく乱頻度の低下などに起因するハリエンジュの繁茂による自生地の環境変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。ハリエンジュの除去ならびに河川環境を指標する植物としての自生地の保全が望まれる。

【関連文献】

吉山寛, 1985; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.

（執筆：池田博・内野秀重）



シライヤナギ

Salix shiraii var. *shiraii*離弁花亜綱
ヤナギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	CR	

【形態・生態】

落葉小低木。高さ1～2m。成葉の葉身は卵形、長楕円状卵形、上部のものは長楕円状披針形、長さ4～8cm、幅2～4cm、先端部は鋭形または鋭尖形。裏面は粉白色。花期は4月下旬～5月上旬。花穂は葉と同時に現れ、細い円柱形。雄花穂は長さ2.5～3.5cm、径約7mm。雌花穂は、長さ2.5～5cm、径5mm程度。山地の崖地や岩上などに生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部、関東北西部）

【都における生育環境】

西多摩の山地の岩上に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現状把握が十分ではない。限られた自生地の生育環境の保全、定期的なモニタリングの実施が望まれる。

【関連文献】

吉山寛, 1985; 鈴木和雄（編）, 1986.



（執筆：池田博・内野秀重）

チチブヤナギ

Salix shiraii var. *kenoensis*

離弁花亜綱
ヤナギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

落葉低木。高さ 1 ～ 3m。葉は花と同時に出現、長さ 4 ～ 7cm、幅 2 ～ 4cm の卵形、葉の裏面に長伏毛が残る。シライヤナギとコマイワヤナギの中間的形質を持ち、両者の雑種起源と推定されている。石灰岩地などに生育する。

【分布の概要】

本州（群馬、埼玉、長野）

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩露頭に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限され、個体数も少なかった植物であり、現状把握が十分ではない。限られた自生地の保全、定期的なモニタリングの実施が望まれる。

【関連文献】

土屋守, 1974; 長谷川義人, 1991.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ハンノキ

Alnus japonica

離弁花亜綱
カバノキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	●	

【形態・生態】

落葉高木。幹は高さ 15 ～ 20m。葉は卵状長楕円形、長楕円形、倒卵状長楕円形、長さ 5 ～ 13cm、幅 2 ～ 5.5cm、鋭尖頭、表面は無毛。花は葉の展開に先だって開く。雄花序は前年枝の先に 2 ～ 5 個、散房状につく。花被は 4 裂。雄しべは 4 個、花糸は分岐しない。雌花序は雄花序の葉腋に 1 個ずつつく。湿地や湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

低地の河川湿地から丘陵地の谷戸、山地の湿原などに生育し、ときに群落をつくる。南多摩では河畔林として河川敷に、また谷戸部に群落を形成して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発による湿地の消失、河川の整備などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。徒長した個体や群落の回復には萌芽更新が有効である。

【関連文献】

新井二郎・鈴木由告, 1972; 峰尾均・山本福壽, 2002.

（執筆：池田博・内野秀重）



チチブミネバリ

Betula chichibuensis

離弁花亜綱
カバノキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	●

【形態・生態】

落葉小高木。高さ 8 ～ 10m。葉は卵形から卵状長楕円形、長さ 3 ～ 6cm、幅 1.5 ～ 3.5cm、短鋭尖頭で、基部はやや不相称。花期は 4 ～ 5 月。花序は長枝の先に 2 ～ 4 個、果実は各果鱗に 3 個ずつつき、卵形から倒卵形で黒褐色、長さ約 3mm、翼はほとんど発達しない。石灰岩地の岩壁や尾根部に生育する。

【分布の概要】

本州（岩手、秩父山地）

【都における生育環境】

奥多摩の標高 900 ～ 1,500m の石灰岩地に局在する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

石灰岩の採掘などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。限られた自生地を保全することが望ましい。

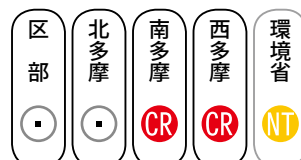
【関連文献】

土屋守, 1974; 吉山寛・鈴木和雄, 1979.

（執筆：池田博・内野秀重）



ヤエガワカンバ, コオノオレ

*Betula davurica*離弁花亜綱
カバノキ科

【形態・生態】

落葉高木。樹皮は灰褐色または灰白色で厚く、著しくはがれる。葉身は卵形からひし状卵形、長さ3～7cm、幅2～4cm、鋭頭または鋭尖頭。花は4～5月。堅果は倒卵形または広楕円形、先端に微細毛があり、翼は果体の幅の1/2以上。日当たりの良い山に生育する。

【分布の概要】

北海道(十勝、日高)、本州(中部)

【都における生育環境】

もともと東京都本土部では稀であり、南多摩と西多摩の山地の一部に生育する。詳しい生育環境は不明であるが、山地の日当たりの良い場所に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現状把握が十分ではない。現状把握やモニタリングの実施が望まれる。

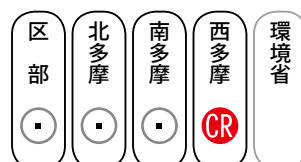
【関連文献】

菱山忠三郎, 1977; 吉山寛・鈴木和雄, 1979.



(執筆: 池田博・内野秀重)

ジゾウカンバ, イヌブシ

*Betula globispica*離弁花亜綱
カバノキ科

【形態・生態】

落葉高木。高さ10～15m、樹皮は灰白色、厚くて堅く、表皮が薄く横にはがれる。葉は広卵形、長さ4～7cm、幅3～5cm、先端は短鋭尖形。花期は5月頃。堅果は扁平卵形で、翼は狭い。山地の日当たりの良い岩がちな場所に生育する。

【分布の概要】

本州(関東、中部)

【都における生育環境】

標高1,400m以上の西多摩の山地で、岩の露出した急峻な尾根に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の未発達な山地の尾根に生育が限られており、植生遷移の進行、登山道のオーバーユースなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。現状把握やモニタリングの実施が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1978; 吉山寛・鈴木和雄, 1979.



(執筆: 池田博・内野秀重)

オノオレカンバ

*Betula schmidtii*離弁花亜綱
カバノキ科

【形態・生態】

落葉高木。樹皮は黒褐色から暗灰色で、厚く亀甲状に割れる。葉は広卵形から卵状楕円形、長さ4～9cm、幅3～6cm、鋭尖頭、基部はやや左右不相称、裏面に腺点を散布する。花期は5月頃。堅果は卵状楕円形。扁平で長さ約2.5mm、ほとんど翼がない。岩礫地や土壌の浅い尾根に生育する。

【分布の概要】

本州(中部以北の主に太平洋側)

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の山地において、標高800m以上の急峻で乾燥した尾根部、または岩上に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ジゾウカンバと同様、森林環境の未発達な山地の尾根に生育が限られており、植生遷移の進行や、登山道のオーバーユースなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。現状把握やモニタリングの実施が望まれる。

【関連文献】

吉山寛・鈴木和雄, 1979; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ツノハシバミ

Corylus sieboldiana

離弁花亜綱
カバノキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	○	○	

【形態・生態】

落葉低木。葉は卵形、広倒卵形、楕円形または長楕円形、長さ5～11cm、幅3～7cm、急鋭尖頭。花は3～5月、新葉に先だって開花する。果序は9～10月に熟し、各果は長さ3～7cmの筒状の総苞に包まれ、基部がややふくれ、先端はくちばし状に伸びる。堅果は円錐形で、長さ1～1.5cm、食用になる。雑木林などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

丘陵から山地の落葉樹林内から林縁、かく乱地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や二次林から極相林への植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。特に丘陵地における生育環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ナラガシワ (アオナラガシワ, アオミズナラを含む)

Quercus aliena

離弁花亜綱
ブナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EN	EN	

【形態・生態】

落葉高木。幹は高さ25mに達する。樹皮は黒褐灰色、深く不規則に割れる。葉身は倒卵状長楕円形、長さ12～30cm、先は鋭形、縁には鈍頭または鋭頭の鋸歯がある。葉の裏面は灰白色。花期は4月。堅果は楕円形。長さ2cm内外。年内に熟す。殻斗は杯状、長さ1～1.2cm、幅1.4～2.2cmになり、総苞片は密に瓦重ね状に圧着する。山野に生育する。

【分布の概要】

本州(岩手、秋田以南)、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地を中心に、丘陵地の樹林に散見されるほか、南多摩では丘陵に接した河川沿いの低地に河畔林を形成して生育する場所が知られている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地の生育状況については不明な点が多々あり、生育環境や個体数について、現状把握が望まれる。河川沿いの低地では、ナラガシワやアオナラガシワが高密度で生育する河畔林を形成しており、群落全体の認知と保全対策が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 渡嘉敷裕, 1996.

(執筆: 池田博・内野秀重)



トキホコリ

Elatostema densiflorum

離弁花亜綱
イラクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	VU

【形態・生態】

一年草。茎は高さ10～25cmで、開出する毛がある。葉はウワバミソウに似るが先が短く、長さ3～6cm。花は9～10月。雄花と雌花は同じ無柄の花序に集まり、腋生する。雄花に4個の花被片と4個の雄しべがあり、雌花は3～5個。そう果は楕円形、長さ0.5cmほどで、凸点がない。低地の湿ったところに生育する。

【分布の概要】

北海道(西南部)、本州(中部以北)

【都における生育環境】

本来の自生地は河川中流域のオギやヨシ群落内と考えられるが、多摩地域では台地脚部の低地、丘陵地の谷戸や池の周囲、山麓部の社寺境内などの人里環境にわずかな自生地が残されているにすぎない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

確認されている自生地は植生の安定した多湿環境であり、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種は草丈が低く、地上部発生期間も8～10月と短い。こうした生態に合わせて、生育環境が維持されるような自生地管理が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 池田博・内野秀重)



カテンソウ

*Nanocnide japonica*離弁花亜綱
イラクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	○	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 10～30cm。葉は互生し、葉身は扇状卵形で、長さ幅ともに 1～3cm、先は円く、基部は切形。花は 4～5 月。雄花被片は 5 個、雄しべは 5 個ある。雌花被片は 4 個、被針形、淡紅色。そう果は広卵状レンズ形で細点があり、長さ 1mm 内外。山野の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

低地の河畔林の林床、台地や丘陵の脚部、段丘崖の樹林内などの肥沃地に春植物と混在して生育していることが多い。区部、北多摩では自生地が減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川沿い、崖線斜面地などの残存樹林が主要な自生地となっており、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要要因と考えられる。草刈りなどの管理をすることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



タチゲヒカゲミズ

Parietaria micrantha var. *coreana*離弁花亜綱
イラクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	CR	VU

【形態・生態】

一年草。小型で、茎は高さ 10～20cm、母種のヒカゲミズは分枝して曲がった短毛が密生し、葉身は卵形で、長さ 1～2cm、先は鈍形、同長の柄がある。花期は 8～9 月。花は単性、ときに両性の数花が葉腋につく。本種は全体に長軟毛が開出することで区別される。山地深部の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

近県山地の自生地と同様、東京都本土部でも西多摩の山地の洞窟周辺に生育していた報告はあるが、分布は局限され、現状は不明となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現状把握が十分ではない。自生地の再確認も含めた現状把握が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミズ

*Pilea hamaoi*離弁花亜綱
イラクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	NT	NT	NT	

【形態・生態】

一年草。多汁で軟質。茎は紫褐色を帯びることが多いが、緑色型も多い。アオミズに似るが高さ 20～30cm と小型で、葉は対生し、菱状卵形で長さ 2～5cm、鋸歯は 5 対ほどで低い。花は葉腋からほとんど無柄の密集した花序につく。雌雄同株。雌花被片は 2 個が大きく、花後そう果を抱く。そう果は広卵形で長さ約 2mm。山地の溪流、林床、谷戸の湿地などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部を除く、台地脚部の湧水環境や丘陵の谷戸など、日当たりの良い湿地や耕作地周辺などに自生地が残されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸田など湿地の改変による自生地の消失、耕作放棄による環境の変化などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。適度な人為的かく乱の継続を考慮して、湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



コケミズ

Pilea peploides

離弁花亜綱
イラクサ科

【形態・生態】

一年草。茎は下部で分岐し、高さ 5～15cm。葉は卵円形で長さ 5～10mm、先はやや円く基部はくさび形。表面には横に並ぶ鍾乳体が明瞭にあり、裏面には褐色の点がある。花期は 3～7 月。雄花と雌花が混生して頭状に集まる。そう果は広卵形のレンズ形で長さ約 0.5mm、淡褐色で平滑。山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の山地では岩上に生育するが、分布記録は少ない。その他の地域では分布状況が不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。また、東京都本土部全体の分布状況に関する情報収集が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；植物研究グループ飯泉ゼミ（編）、1989。

（執筆：池田博・内野秀重）



コバノイラクサ

Urtica laetevirens

離弁花亜綱
イラクサ科

【形態・生態】

多年草。高さ 50～100cm。茎は方形、葉は有柄、対生し、刺毛が茎葉ともにまばらに生える。葉身は卵形から広卵形、長さ約 4～10cm、縁に三角状鋸歯があり、両面に腺点が多い。花期は 7～10 月。葉腋から 1 対の穂状花序を出し、雄花序は上方の、雌花序は下方の葉腋につく。雌雄同株。葉が小型で、鋸歯は単鋸歯、托葉が 4 個あることが特徴。山地溪流の湿潤なところに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）

【都における生育環境】

西多摩の湿った林内から林縁、溪流沿いなどに生育するが、確認されている自生地は少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

近縁種と見分けにくく、蟻酸を含み、取扱いに注意が必要であることなどから、十分な調査がされず、分布や生育状況はほとんど不明である。本種に関する自生地の現状把握が望まれる。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館（編）、1976；鈴木和雄（編）、1986。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



マツグミ

Taxillus kaempferi

離弁花亜綱
ヤドリギ科

【形態・生態】

常緑低木。長さ 20～50cm。葉は革質、倒披針形で長さ 1.5～4cm、幅 0.4～0.9cm、全縁、先は円く、下部はしだいに狭くなって長さ 1～2mm の葉柄に流れ、両面無毛。花期は 7～8 月。枝のわきに短い集散花序を伸ばし、数個の花をつける。花は赤色、花被片は筒形で先は 4 裂し、外面無毛。果実は楕円状球形で長さ約 5mm、赤熟する。モミヤツガ、アカマツなどに寄生する。

【分布の概要】

本州（関東、富山以西）、四国、九州

【都における生育環境】

区部を除く、低地から山地下部に分布し、モミヤツガ、アカマツなどの樹上に着生している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現状把握が十分ではないが、高い枝に着生することが多く、本種の存在に気づかず、着生木を伐採している可能性がある。モミヤツガ、アカマツなどの着生木を保護することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；菱山忠三郎、1990。

（執筆：池田博・内野秀重）



ミヤマツチトリモチ

*Balanophora nipponica*離弁花亜綱
ツチトリモチ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	□	□	VU	VU

【形態・生態】

多年草。寄生植物。高さ 8～14cm。根茎から花茎を出す。花穂は長楕円体から楕円体で橙赤色から橙黄色、色の変化が多い。小棍体の表面は平ら。雌花は小棍体の間に埋もれている。子房は大きく紡錘状で、オレンジ色。花柱は花の初期には短い、盛期になると長く伸びて小棍体の間から出て、細毛状に見える。主に多雪地帯の落葉広葉樹林に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部に局限され、カエデ類を主体とした落葉広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

寄生植物であり、また雌株のみで単為生殖を行うために繁殖力は弱く、分布が局限されている。宿主であるカエデ類を主体とした樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

植物研究グループ飯泉ゼミ（編）、1989；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆：池田博・内野秀重）



ナガバノヤノネグサ

*Persicaria breviochreata*離弁花亜綱
タデ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

一年草。茎は根元から分岐して、高さ 30～50cm。葉は長楕円状披針形、長さ 2～7cm、幅 1～2cm、先は鋭形、基部は浅いやじり形、縁毛がある。托葉鞘は短く、長い縁毛がある。花期は 8～10 月。花は短い総状花序で、まばらに 1～3 個の花をつける。そう果は広楕円状卵形で、三稜形ときにレンズ形、長さ 2.5～3mm。山林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩から西多摩にかけての河岸段丘崖や低山の山裾など、湿った林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地は、環境の安定した疎林内や山地斜面下などであり、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種に配慮した林道整備や山林管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三、1965；多摩丘陵植物調査会（編）、1999。

（執筆：池田博・内野秀重）



ヒメタデ（ホソバイヌタデを含む）※備考 (p. 297)

*Persicaria erectominor*離弁花亜綱
タデ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
CR	EX	□	□	VU

【形態・生態】

一年草。茎の下部は地面を這い、上部は直立して高さ 20～45cm になる。葉は短い柄があり、広線形から長披針形、長さ 3～8cm、先は鋭形か鋭尖形、基部はくさび形か円形、托葉鞘は筒状、短い縁毛がある。花期は 5～10 月。総状花序は円柱形で、密に花をつけ、直立し、長さ 1.2～2cm。そう果は広卵形、三稜形、長さ 1.5～2mm。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

低地の河川敷や湿地などに生育する。区部の低地において稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷の改変による低水路の安定化、富栄養化などによる湿地の環境変化、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の再確認や、人為的かく乱による埋土種子からの復活が期待される。

【関連文献】

檜山庫三、1965；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆：池田博・内野秀重）



ヤナギヌカボ

Persicaria foliosa var. *paludicola*

離弁花亜綱
タデ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	EX	・	VU

【形態・生態】

一年草。茎は高さ 30 ～ 60cm。葉は長披針形から長線形、長さ 3 ～ 9cm、幅 2 ～ 9mm、両面に毛があり、裏面には腺点がある。托葉鞘は筒状、長さ 5 ～ 10mm、やや同長の縁毛がある。花期は 9 ～ 10 月。総状花序は細く、直立する。そう果はレンズ形か、または三稜形。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

低地の河川敷や湿地などに生育する。区部の記録はあるが、現状不明であり、絶滅した可能性が高い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ヒメタデ同様、河川敷の改修による低水路の安定化、富栄養化などによる湿地の環境変化、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の再確認や、人為的かく乱による埋土種子の復活が期待される。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 池田博・内野秀重)

ナガバノウナギツカミ

Persicaria hastatosagittata

離弁花亜綱
タデ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	・	・	・	NT

【形態・生態】

一年草。茎には短い下向きの刺毛があり、高さ 30 ～ 80cm。葉は卵状披針形から披針形、長さ 6 ～ 11cm、鋭尖頭。托葉鞘は筒型、膜質、暗赤色を帯び、先は切形で縁毛がある。花期は 9 ～ 10 月。総状花序は密な頭状に花をつける。花柄に腺毛がある。小花柄にも黒ずんだ腺毛を密生する。そう果は卵形、長さ 2.5 ～ 3mm。湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

日当たりの良い河川敷の湿地、水田などに生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷の改変による低水路の安定化、富栄養化などによる湿地の環境変化、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。過去における自生地の再確認と、人工的かく乱による埋土種子の復活が望まれる。

【関連文献】

千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009; 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011.

(執筆: 池田博・内野秀重)



シロバナサクラタデ

Persicaria japonica

離弁花亜綱
タデ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	VU	VU	VU	・

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 50 ～ 100cm になる。葉には短い柄があり、葉身は披針形、長さ 7 ～ 16cm、幅 1 ～ 2cm。托葉鞘は長い筒型で、長さ 1 ～ 2.5cm。伏毛があり、縁毛は長い。花期は 8 ～ 11 月。総状花序はややまばらな穂状をなし、先は垂れる。そう果は三稜形かレンズ形、倒卵形、長さ 2 ～ 2.5cm。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

低地から丘陵にかけての河川敷原野、谷戸の湿地、水田などに生育する。南多摩では、丘陵の谷戸部の湿地にわずかに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

原野や谷戸の湿地のかく乱停止による植生遷移の進行、湿地や水田への除草剤の多用、あるいは水田の放棄などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湿地や谷戸田の管理を行うことや除草剤の使用を控えることなどが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; みずもと自然観察クラブ・建築環境部環境課 (編), 1991.

(執筆: 池田博・内野秀重)



サデクサ

*Persicaria maackiana*離弁花亜綱
タデ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	CR	CR	CR	

【形態・生態】

一年草。茎には下向きの刺毛があり、高さ 30 ～ 100cm。葉は披針状長楕円形から披針形、先は鋭形、長さ 3 ～ 8cm、幅 2 ～ 7cm、基部はほこ形、両面に星状毛を密生する。托葉鞘の上部は葉状に開く。花期は 7 ～ 10 月。総状花序は短い頭状、2 ～ 5 花をつける。そう果は中央部が膨らんだ三稜形、長さ 3 ～ 4mm。低地の水辺に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

河川敷や水路、水田周辺の湿地などに生育する。区部では河川下流域の河川敷や湿地にわずかに自生地が残る。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷や谷戸の湿地のかく乱停止による植生遷移の進行、湿地や水田への除草剤の多用、あるいは水田の放棄などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。湿地や谷戸田の管理をすることや除草剤の使用を控えることなどが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; みずもと自然観察クラブ・建築環境部環境課 (編), 1991.

(執筆: 池田博・内野秀重)



サクラタデ

Persicaria macrantha subsp. *conspicua*離弁花亜綱
タデ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、多少枝をわけ、無毛で高さ 50 ～ 100cm。葉には短い柄があり、葉身は披針形、長さ 7 ～ 13cm、両端は鋭形。托葉鞘は短い筒型で、縁に長い剛毛がある。花期は 8 ～ 10 月。総状花序は細長く、やや密に花をつけ、上部は垂れる。そう果は三稜形、長さ約 3.5mm。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

低地から丘陵にかけての河川敷や谷戸の湿地、水田などに生育する。南多摩では多摩川や浅川水系の沖積地に、わずかに自生地が残されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シロバナサクラタデ同様、河川敷や谷戸の湿地のかく乱停止による植生遷移の進行、湿地や水田への除草剤の多用、あるいは水田の放棄などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。湿地や谷戸田の管理を行うことや除草剤の使用を控えることなどが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; みずもと自然観察クラブ・建築環境部環境課 (編), 1991.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヌカボタデ, コヌカボタデ

*Persicaria taquetii*離弁花亜綱
タデ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	VU

【形態・生態】

一年草。茎は高さ 20 ～ 40cm。葉はほぼ無柄で、長披針形、長さ 2 ～ 6cm。托葉鞘は筒状で、長さ 2 ～ 6mm、同じ長さの縁毛がある。花期は 9 ～ 11 月。総状花序はまばらで細長く、線形、長さ 1 ～ 3cm。そう果は卵円形で、三稜形かレンズ形、長さ 1.5 ～ 1.7mm。湿地に生育する。近縁種との区別が難しい植物である。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

河川敷や水田周辺の湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷や谷戸の湿地のかく乱停止による植生遷移の進行、湿地や水田への除草剤の多用、あるいは水田の放棄などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。湿地や谷戸田の管理を行うことや除草剤の使用を控えることなどが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ナンバンハコベ

Cucubalus baccifer var. *japonicus*

離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。茎は長く伸び、1.5m 以上になる。葉は広披針形から卵形、長さ 2～5cm、鋭尖頭、裏面と縁に毛がある。花期は 7～10 月。花は単生する。花弁の爪部は細く、舷部はくさび形で 2 裂し、長さ約 1.5cm。球状のさく果は径 6～8mm。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

河川中流域の河川敷、丘陵から山地にかけての谷戸の湿地、日当たりの良い湿った斜面などに生育する。南多摩では河川沿いの草地などにわずかな自生地が残されているのみである。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸の林縁において本種の生育を考慮しない管理や河川の異常出水、外来種による被圧などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。谷戸の林縁における本種に配慮した適切な管理などを行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 羽村市内動植物所在確認調査会 (編), 2008.

(執筆: 池田博・内野秀重)



カワラナデシコ, ナデシコ

Dianthus superbus var. *longicalycinus*

離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 30～80cm。葉は線形から披針形で、長さ 3～9cm、基部は茎を抱く。花期は 7～10 月。花は茎頂に数個まばらにつく。苞は 3～4 対あり、先は芒状にとがる。花弁の舷部は深裂し、淡紅色、下部に深紅褐色のひげ状の毛がある。雄しべは 10 個。花柱は 2 個。日当たりの良い草原や河原などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

日当たりの良い河川堤防斜面、河川敷、山地草原などに生育する。西多摩では草原が残る山地に、南多摩では河川中流域の土手に自生地が残存する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川整備、草地の管理頻度の低下によるかく乱停止、外来種などによる被圧などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の定期的な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha var. *heterantha*

離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 8～15cm。葉は卵状披針形から倒披針形、長さ 1～4cm、幅 2～4mm、先は鋭形。花期は 4～6 月。花は上部の葉腋から細長い柄を出し、単生する。萼片は線状披針形から長楕円形、長さ 3～6mm。花弁は白色で、長さ約 6mm。雄しべは 10 個。花柱は 2～3 個。閉鎖花は少ない。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州 (福島以南)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の山地の落葉樹林内から林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境となっている安定した落葉樹林や登山道の荒廃、また野生動物による食害などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。限られた自生地の現状把握が望まれる。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館 (編), 1976; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヒナワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha var. *linearifolia*離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	CR	—	—	UV

【形態・生態】

多年草。別名ヒナワチガイ、ムサシワチガイソウ。高さ5～10cm、茎は細く、葉は対生し、無柄で、線形から線状披針形。花は上部葉腋から細長い花柄を出し単生する。花径は6～10mm、花弁は白色5弁で細く、花弁間に隙間が見られる。雄しべは5個、花弁と同長。茎の下部から閉鎖花を出す。山地の林縁などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

北多摩の限られた落葉広葉樹林の林床に、春植物と混生して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の植生の荒廃、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。春先の十分な林床照度の確保が重要であり、樹林の荒廃による春先の林床照度の低下に注意する必要がある。植物体が小さく認識しにくいいため、限られた自生地における種の認識が特に重要である。

【関連文献】

千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）、2009；清瀬の自然を守る会、2010。

（執筆：池田博・内野秀重）



ワダソウ

*Pseudostellaria heterophylla*離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	●	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ10～20cm。葉に2形ある。花期は4～5月。花は1～5個で、頂生し、やや長い柄がある。花弁は白色、倒卵形で、先はややへこみ、長さ7～8mm。閉鎖花は少ない。雄しべは10個。花柱は2～3個。さく果は卵球形で、5裂する。山地の草地に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北）、九州（北部）

【都における生育環境】

北多摩から南多摩の低山から丘陵地にかけての落葉樹林内や林縁に生育する。1980年代の報告で、西多摩の山地にも生育していた可能性があり、現状把握が望まれる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の植生の荒廃、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。春先の林床照度が保たれた安定した落葉樹林の維持、林縁の定期的な草刈りなど、自生地の生育環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；菱山忠三郎、1990。

（執筆：池田博・内野秀重）



ヒゲネワチガイソウ

*Pseudostellaria palibiniana*離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	CR	

【形態・生態】

多年草。やや肥厚した根が1～4個、細いひげ根状の根もある。茎は高さ10～20cm、2列の毛がある。下葉は倒披針形で2～4対、上葉の2対は広披針形から広卵形、鋭頭、無柄で長さ3～4cm。花は茎頂に単生し、花期は4～5月。細い花柄の先に白色5～7弁、長さ6～7mmの花を開く。茎の下部から閉鎖花を出す。山地の林縁、草原に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以南から中部）

【都における生育環境】

西多摩の山地の樹林内や草地に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や、登山道の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の現状把握と本種を認識した環境管理が重要である。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆：池田博・内野秀重）



フシグロセンノウ

Silene miqueliana

離弁花亜綱
ナデシコ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 50～80cm。節は黒褐色でややふくらむ。葉は卵形から長楕円状披針形で、長さ 5～14cm、幅 2.5～5cm、先は鋭尖形。花期は 7～10 月。花はまばらに数個つく。花弁の基部は広倒卵形、長さ 2.5～3cm あり、ほぼ全縁で、朱赤色。さく果は長楕円形で、先が 5 裂する。山林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の低山から丘陵地の林縁、西多摩の山地の落葉広葉樹林内から林縁などに生育する。本来、広範囲に生育していたが、各地で減少の程度が加速していると思われる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁環境の荒廃、野生動物による食害、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。適正な里山管理や獣害管理の実施、園芸目的の採取に対するマナー啓発など、複合的な対策が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 日野の自然を守る会 (編), 1985.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ミドリアカザ

Chenopodium bryoniifolium

離弁花亜綱
アカザ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	CR

【形態・生態】

一年草。茎は細く、直立して、高さ 60cm 程度。葉には長い柄があり、三角状卵形、菱状卵形または卵状楕円形、長さ 3～5cm、幅 2.5～4.5cm、先は鋭形、基部は広くさび型から切形。花期は 8～9 月。花序はまばらに出て、まばらに花をつける。山地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の森林から報告されているが極めて稀である。特定地域の山道の路傍に生育している場合が多いが、詳しい生育環境は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

一年生植物で石灰岩地を好むこと以外は、生態や生育環境に関する情報が不足しており、現状把握とともにこれらの情報整理が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 神奈川県植物誌調査会 (編), 2001.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヤナギイノコズチ

Achyranthes longifolia

離弁花亜綱
ヒユ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 1m ほどになり、まばらに枝をわける。葉は広披針形ないし披針形、長さ 10～20cm、漸鋭尖頭、毛はほとんどない。花期は 8～9 月。花穂は伸長し、花をまばらにつける。小苞の付属体は卵状三角形、花柱は長さ 1.5mm。山地の木陰に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

主に台地から丘陵にかけての段丘崖、谷戸の斜面下部など、湿り気のある樹林の林床から林縁にかけて生育する。南多摩では河川沿いの段丘面に生育するが、自生地は限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湧水などの存在があって湿度環境が保たれ、安定した樹林の林縁に生育するが、こうした環境の消失や改変が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。生育環境である社寺林、崖線沿いの緑地などの保全が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 池田博・内野秀重)



チョウセンゴミシ

*Schisandra chinensis*離弁花亜綱
マツブサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EX	

【形態・生態】

木本性のつる植物。雌雄異株。葉身は長倒卵形ないし倒卵形、長さ4～10cm、幅3～5cm、先は鋭尖頭、しばしば裏面の脈上に乳頭状突起がある。葉柄は長さ2～2.5cm。花期は5～7月。花は黄白色、芳香がある。花被片は6～9枚、長楕円形。集合果は長さ5～6cmで垂れ下がる。果実は赤く熟し、大きさが不揃いである。山地深部に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の森林域の限られた場所に生育していたが、近年報告がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されており、生育環境の変化や薬用目的の採取などにより絶滅したものと考えられる。西多摩の森林域からの再発見が期待される。

【関連文献】

長野県植物誌編纂委員会（編）、1997；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆者：池田博・内野秀重）



シロモジ

*Lindera triloba*離弁花亜綱
クスノキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

落葉低木。葉は三角状広倒卵形、長さ7～12cm、幅7～10cm、基部はくさび形で、基部から離れて3脈が分かれ、3中裂し、裂片は卵形。花は4月、葉に先だって開く。花被片は黄色、雌花は雄花よりも小さく、花の数も少ない。果実は球形で、径10～12mm。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

もともと東海、南信濃以西に分布する植物であるが、1980年代に西多摩の山地に生育の記録がある。分布限界における局所的な分布と考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されており、植生遷移の進行や荒廃で容易に絶滅するものと考えられる。本種の自生地における近年の生育状況の再確認が望まれる。

【関連文献】

植物研究グループ飯泉ゼミ（編）、1989；長野県植物誌編纂委員会（編）、1997。

（執筆者：池田博・内野秀重）



カゴノキ

*Litsea coreana*離弁花亜綱
クスノキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	NT	NT	

【形態・生態】

常緑高木。大木になる。幹の樹皮は鹿の子まだらに剥げ落ちる。葉は互生、枝先にやや車輪状に集まる。葉身は倒披針形または倒卵状長楕円形、長さ5～9cm、幅2～4cm、薄い革質で表面に鈍い光沢があり、裏面は灰白色、側脈は7～10対。葉柄は長さ8～15mm、しばしば淡紅色を帯びる。雌雄異株。花は黄色。果実は倒卵状球形、長さ7～8mm、翌年秋から冬にかけ赤熟する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩および南多摩の丘陵から低山にかけて、社寺境内などの常緑広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹皮が特徴的で美しいので大きな個体は保全されることが多いが、特徴が目立たない若木は林床管理などにより伐採されることが生存を脅かす要因の一つとなる。自生地は、社寺境内やその周辺などの常緑広葉樹林内にいることが多く、本種を含む極相林的な環境の保全が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；東京都市町村自治調査会（編）、2000。

（執筆者：池田博・内野秀重）



フジレイジンソウ

Aconitum fudjisanense

離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 30～80cm、稜がある。葉は互生、掌状に 5～7 中裂し、粗い鋸歯がある。花期は 8～10 月。花は淡紅紫色、総状花序につき、下から順に咲く。萼片の外面や花柄、花序の中軸に開出毛がある。レイジンソウと比べて、茎に稜があること、萼片の外面に直毛があることなどで区別される。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東京西南部）

【都における生育環境】

南多摩の限られた山地域の落葉広葉樹林の林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である落葉広葉樹林の荒廃、林道整備による林縁の改変などによる衰退が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。アズマレイジンソウとは区別しない考え方もあり、再検討が必要である。

【関連文献】

菱山忠三郎, 1977; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.



（執筆：池田博・内野秀重）

アズマレイジンソウ

Aconitum pterocaule

離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は長さ 80～150cm。根出葉には長い葉柄があり、腎円形、長さ約 15cm、幅約 18cm、5～7 中裂し、裂片はさらに浅裂する。茎葉は小型で、葉柄は短い。花期は 8～10 月。花序は総状、下部で分枝し、花序の軸と花柄には曲がった毛がある。雄しべには毛がない。雌しべは 3 個で曲がった毛がある。樹林内や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北の主として日本海側）

【都における生育環境】

西多摩および南多摩の山地から丘陵地にかけての落葉広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

カタクリなどと同様の湿り気のある林床や林縁を好み、樹林の荒廃が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。丘陵地における分布は局限されており、山林の改変の影響で分布域が狭められていることが予想される。限られた自生地を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 植物研究グループ飯泉ゼミ（編）, 1989.

（執筆：池田博・内野秀重）



ルイヨウショウマ

Actaea asiatica

離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 40～70cm で分枝しない。茎葉は 2～3 枚で、大きく、小葉は卵形または狭卵形で長さ 4～10cm、ときに 3 裂し、鋭尖頭。花期は 5～6 月。茎頂に短い総状花序を出す。花は白色。花弁はへら形で基部は狭まって爪になり、長さ 2～3mm。雄しべは長さ 4～6mm。液果は黒色、球状で径約 6mm。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地のごく限られた落葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されており、山林の改変、園芸目的の採取、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地を総合的に保全し、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）, 1986; 植物研究グループ飯泉ゼミ（編）, 1989.



（執筆：池田博・内野秀重）

フクジュソウ ※備考 (p. 297)

*Adonis ramosa*離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 15～30cm。葉は互生し、3～4 回羽状に分裂する。花期は 3～4 月。花は黄金色、径 3～4cm、数個の萼片と 20～30 個の花弁がある。花弁は長さ 2cm 内外で、萼片より長い。そう果は倒卵形で長さ 4～5mm、全体に短毛が生える。温帯の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の山地の落葉樹林内に生育し、適湿で肥沃な明るい林床を好む。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取による消滅が著しいほか、植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ニリンソウ

*Anemone flaccida*離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	○	○	

【形態・生態】

多年草。根出葉は 3 全裂し、側裂片はさらに 2 深裂する。4～5 月頃、花茎に径 2cm ぐらいの花を 1～4 個つける。萼片は 5～7 枚、楕円形で、白色、裏面はときに紅色を帯びる。そう果は楕円形で細毛を密生する。樹林内や林縁、ときに草原にも生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

台地から丘陵地、山地まで分布し、段丘崖、谷筋などの適湿土壤に群落を形成して生育する。区部および北多摩で特に自生地が減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発や園芸目的の採取、林縁部の荒廃が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。カタクリなどと同様、地上部のない休眠期間が長く、本種の生存を認識しにくいことには注意が必要である。自生地を総合的に保全し、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 日野の自然を守る会 (編), 1985.

(執筆: 池田博・内野秀重)



キクザキイチゲ

*Anemone pseudoaltaica*離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。根出葉は 2 回 3 出複葉。花茎は高さ 10～30cm、茎葉は 3 枚が輪生し、3 出複葉で、小葉は羽状に深裂する。3～5 月頃、径 2.5～3cm の花を 1 個、花茎に頂生する。萼片は 8～13 枚で、線状長楕円形、淡紫色または白色。そう果は卵形で、細毛を密生する。落葉広葉樹林内や林縁、ときには草原にも生育し、石灰岩地を好む。

【分布の概要】

北海道、本州 (近畿以北)

【都における生育環境】

西多摩および南多摩の山地谷筋の適湿な肥沃地に生育する。本来、日本海側要素の植物であり、東京都本土部での分布は局限される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取、森林荒廃が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。限られた自生地を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 池田博・内野秀重)



アズマイチゲ

Anemone raddeana

離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年生。根出葉は2回3出複葉。花茎は高さ15～29cm、長軟毛があるが、落ちやすい。茎葉は3枚が輪生し、3出複葉。3～5月頃、径2～3cmの花を1個、花茎に頂生する。萼片は8～13枚で、線状長楕円形、白色で裏面は少し紫色を帯びる。落葉樹林の樹林内や林縁、ときに草原にも生育し、石灰岩地を好む。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

山麓斜面、丘陵地の谷筋や林縁など、適湿な日当たりの良い場所に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開花や園芸目的の採取のほか、林縁環境の荒廃が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。水脈などの変化にも影響を受けやすい。限られた自生地を総合的に保全し、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1986; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 池田博・内野秀重)



レンゲショウマ

Anemonopsis macrophylla

離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ40～80cm。根出葉と下部の茎葉は大型で、2～4回3出複葉。花期は7～8月。花は径3～3.5cm。萼片は長楕円形で先は円く、長さ1.5～2cmで淡紫色。花弁は倒卵形で、長さ1.2cm、開出せず、淡紫色で先の方はしばしば濃色となる。袋果は無毛で、長さ1.5～2cm。落葉広葉樹林の林内に生育する。

【分布の概要】

本州(福島から奈良の太平洋側)

【都における生育環境】

西多摩から南多摩にかけての山地疎林内および林縁に生育する。

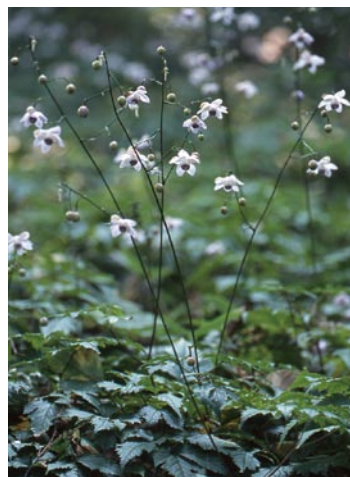
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林の荒廃や植生遷移の進行、登山道の改変、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。限られた自生地を総合的に保全し、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヤマオダマキ

Aquilegia buergeriana

離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ30～70cmで、上部に軟毛が多い。小葉は扇形で、長さ2.5～3.5cm。花期は6～8月。花は径3～3.5cm。萼片は狭卵形で紫褐色、花弁は黄色で長さ1.2～2.5cm、基部は距となる。袋果は長さ1.5～2cm、腺質の毛が密生する。温帯から亜寒帯の山地の林縁や道ばたの草むらに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地草原や林道沿いの日当たりの良い場所に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行と園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



サラシナショウマ

*Cimicifuga simplex*離弁花亜綱
キンボウゲ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 40 ～ 150cm。下部の葉は 3 回 3 出複葉。小葉は卵形で長さ 3 ～ 8cm。8 ～ 10 月に、長い総状花序を出す。花は白色、萼片は広楕円形、長さ 4 ～ 5mm、花弁は長さ 3 ～ 5mm、花柱は長さ 1 ～ 2mm。袋果は長さ約 1cm で、柄がある。種子には鱗片がある。草原や林縁、落葉広葉樹林内などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

台地から丘陵地、山地の樹林内から林縁の適湿地に広く分布しているが、北多摩で減少が著しい。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発による自生地の減少や食用、薬用目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。食用、薬用目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

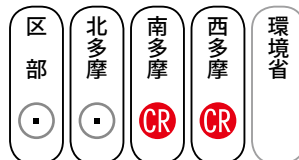
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩丘陵植物調査会 (編), 1999.

(執筆: 池田博・内野秀重)



フジセンニンソウ

*Clematis fujisanensis*離弁花亜綱
キンボウゲ科

【形態・生態】

木本性のつる植物。葉は羽状複葉、小葉は多くは 5 枚で、ほぼ卵形。8 ～ 9 月頃、3 出集散状の花序を生じ、しばしば大きな円錐状となる。花は白色で、径 2 ～ 3cm。萼片は 4 枚、倒披針形で、円頭から鋭尖頭、縁に白い毛を密生する。花柱は 2.5 ～ 3cm、銀白色の長い毛を生じる。そう果は楕円状卵形、長さ 7 ～ 10mm。センニンソウとの区別は、フジセンニンソウの方がより葉が薄く、先がとがる傾向があるものの、自生地での識別はかなり困難であり、標本で黒変することを確認する必要がある。日当たりの良い低木林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東南部から東海、岡山)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の山地の林縁に生育するが、確認されている自生地は極めて少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

限られた自生地の現状把握と、本種の分布域についての情報を集めることが望まれる。

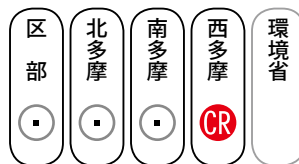
【関連文献】

田村道夫, 1953; 鈴木和雄, 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ミヤマハンショウヅル

Clematis ochotensis var. *japonica*離弁花亜綱
キンボウゲ科

【形態・生態】

木本性のつる植物。葉は 2 回 3 出複葉、小葉は卵状披針形。花は 6 ～ 8 月に新しい枝に頂生する。萼片は 4 枚、卵形で先はとがり、長さ 2.5 ～ 3.5cm、紫色、縁には白毛を密生する。花弁は多数あり、へら型で細い毛があり、蜜を分泌しない。そう果は倒卵形、長さ 3 ～ 4mm、花柱は長さ 2.5 ～ 3.5cm。冷温帯から高山帯に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州 (中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の山地帯上部の落葉樹林下、林縁の草地に生育するが、分布は極めて限られている。

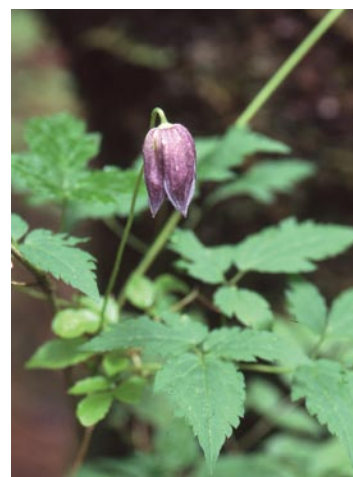
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

花が美しいため園芸目的の採取による減少が著しい。また、植生遷移の進行、林道の整備なども本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。西多摩全体の分布域の再確認ならびに、本種の生態を考慮した登山道整備などが望ましい。自生地の現状把握と登山に対するマナーの向上を図ることが望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989.

(執筆: 池田博・内野秀重)



カザグルマ

*Clematis patens*離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	NT

【形態・生態】

木本性のつる植物。茎は褐色で木化する。葉は羽状複葉、小葉は3～5枚、卵形で先はとがる。花期は5～6月。花は径7～12cm。萼片は8枚で、淡紫色または白色、狭倒卵形。花糸は扁平で無毛。そう果は広卵形、長さ5mm、花柱は3～4cmで強く曲がり黄褐色の長毛がある。林縁に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州（北部）

【都における生育環境】

台地部崖線から丘陵地、山地下部の林縁に生育する。南多摩では段丘崖の林縁や川筋の落葉樹林外周などに残存している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地は極めて限定されており、園芸目的の採取や植生遷移の進行、開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の保全管理にあたっては、林縁整備などによって越冬している本種の木化した地上茎が除去されないような注意が必要である。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 日野市環境情報センター（編）, 2008.

（執筆：池田博・内野秀重）



トリガタハンショウヅル

*Clematis tosaensis*離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

木本性のつる植物。葉は長柄ある3出複葉で、小葉は卵状長楕円形、鋭頭、長さ2～8cm。花期は4～5月。前年枝の葉腋から長さ2～7cmの花柄を出し、淡黄白色、鐘状の花を下垂する。萼片4個は花弁状で、長さ15～25mm、先端はやや反り返る。山地や丘陵地の林縁や明るい樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の落葉樹林の林縁に生育する。分布はごく限られた山地に限定される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や植生の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。西多摩全体の分布域の再確認と同時に、自生地については、本種の生態を考慮した登山道整備が望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）, 1986; 植物研究グループ飯泉ゼミ（編）, 1989.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ウスギオウレン

*Coptis lutescens*離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

多年草。根茎は太く、多数のひげ根がある。根出葉はやや厚く光沢がある。2回3出複葉から3回3出複葉で、縁には不揃いな鋭鋸歯がある。花期は3～4月。オウレンに似るが、萼片は狭く縁がやや波打ち、淡黄緑色。花弁は萼片より短く、同色または淡紫色を帯びる。標高600～2,500mの山地に稀に生育する。主として針葉樹林内に生育し、植林地にも良く生育する。

【分布の概要】

本州（東京、神奈川、山梨、静岡、長野）

【都における生育環境】

西多摩の山地、主として針葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や森林の荒廃、登山道のオーバーユース、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。限られた自生地を総合的に保全し、登山や園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）, 1986; 埼玉県環境部自然環境課（編）, 2011.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



バイカオウレン, ゴカヨウオウレン

*Coptis quinquefolia*離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

多年草。匍枝を出して繁殖する。根出葉は鳥足状複葉で、小葉は5枚、倒卵形、3中裂する。花茎は高さ4～15cmで、上部に小型の苞があり、1個の花を頂生する。花は径12～18mm、萼片は5枚で、倒卵形、白色、花弁は黄色で舷部は浅い杯状。袋果は長さ6～9mm、柄は5～6mm。針葉樹林の樹林内や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以南）、四国

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の針葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ウスギオウレン同様、山林の改変や森林の荒廃、登山道のオーバーユース、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。限られた自生地を総合的に保全し、登山や園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆者：池田博・内野秀重）



トウゴクサバノオ

*Dichocarpum trachyspermum*離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ10～20cmで、基部に数枚の根出葉を束生する。茎葉は対生。頂小葉は広卵形から倒卵形。花期は4～5月。花はやや垂れ下がって咲き、径6～8mm、淡黄緑色から白色。花弁の舷部は軍配形で直立する。茎の基部に閉鎖花をつける。暖帯林中に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩から西多摩にかけての山地の谷筋などの落葉樹林内に生育する。分布はやや局所的である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。限られた自生地を総合的に保全し、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；東京都高尾自然科学博物館（編）、1989。

（執筆者：池田博・内野秀重）



ミスミソウ

Hepatica nobilis var. *japonica*離弁花亜綱
キンボウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	□	NT

【形態・生態】

多年草。根出葉の裂片は鋭頭、茎葉は鋭頭から鈍頭。花期は3～4月頃。高さ10～15cmの花茎を出し、径1～1.5cmぐらいの花を頂生する。萼片は6～10枚、卵状披針形、披針形、長橢円形、線状披針形、色は白色、淡青色、淡紫色、または淡紅色。主に落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以西）、四国、九州（北部）

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の疎林下に生育していたが、開発により絶滅した。一般的には低山の明るい落葉広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の開発は広範囲なものであり、その後に新たな自生地も見つかっていないが、かつての自生地と近似な環境で見つかる可能性はあると思われる。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；菱山忠三郎、1981。

（執筆者：池田博・内野秀重）



オキナグサ

*Pulsatilla cernua*離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EW	EW	VU

【形態・生態】

多年草。根出葉は束生し、2回羽状複葉。花茎は高さ10cm前後で開花するが、花後伸長して30～40cmになる。花期は4～5月。花は1個が頂生し、鐘型で下向きに開く。萼片は6枚、長楕円形、長さ2～2.5cm。そう果は多数が球状に集まってつき、狭卵形、長さ約3mm。日当たりの良い草原に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

土手や崖、林縁の草地など、日当たりの良い草地に広範囲に生育していたが、現在は野生の個体が見られない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

管理頻度の高い草地、裸地的な環境を好んで生育していたとみられるが、広範囲で絶滅した要因は不明である。また、近県では生育が確認されており、東京都本土部で再発見される可能性はある。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 町田の自然編集委員会, 1978。

(執筆: 池田博・内野秀重)



バイカモ, ウメバチモ

Ranunculus nipponicus var. *submersus*離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は長さ1～2mになる。沈水葉は長さ2～7cm、葉身は3～4回3出し、裂片はさらに2分裂して、全体は房状になる。花は葉腋に単生し、径約1.5cm、萼片、花弁とも5枚あって、花弁は薄く、白色で光沢がない。葉柄は長さ3～5cmで、花後さらに伸びる。浅くてきれいな流水中に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

南多摩の扇状地の小河川においては絶滅したものと考えられる。西多摩東部の河川内にわずかに分布する。浅い流れの水域で、湧水などの流入のある清流を好む。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質悪化や水量の減少、集中豪雨などによる河川増水や浸食、外来種との競合、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。水系の総合的な保全対策が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 羽村市内動植物所在確認調査会(編), 2008。

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヒキノカサ

*Ranunculus ternatus*離弁花亜綱
キンポウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	●	●	●	VU

【形態・生態】

多年草。茎は基部から分枝し、高さ10～30cm、全体に毛を散生する。根出葉の葉身は幅1.5～4cmで、掌状に3～5浅裂から深裂する。花期は4～5月。花は径12～17mm、花弁は倒卵形で、長さ6～7mm、光沢がある。集合果は広楕円形、そう果は円形で長さ1.2mm。日当たりの良い湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地の明るい原野湿地を生育環境としていたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

原野湿地の改変や、植生遷移の進行、外来種との競合などにより、絶滅したものと考えられる。かつての自生地のかく乱により、埋土種子から復活する可能性がある。

【関連文献】

東京府土木部(編), 1937; 檜山庫三, 1965。

(執筆: 池田博・内野秀重)



シギンカラマツ

*Thalictrum actaeifolium*離弁花亜綱
キンボウゲ科

【形態・生態】

多年草。草丈は30～70cmで、全体無毛。茎葉は数個、2～3回3出複葉。裏面は灰白色で、葉脈は隆起する。花期は6～7月。花序は複散房状、花は径約1cm。雄しべは多数。そう果は4～8個、果体は球状楕円形で、長さ約3mm、縦に8本の隆起する稜がある。礫地や乾いた樹林に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

丘陵地から山地にかけて、シイ・カシ帯からブナ帯の林縁や草地に局所的に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、林縁の不適切な管理、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地が限定されているため、自生地の現状把握と本種に配慮した林縁管理や林道整備を行うことが望ましい。

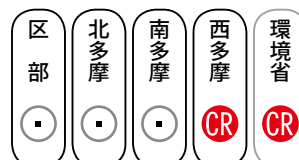
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ミョウギカラマツ

Thalictrum minus var. *chionophyllum*離弁花亜綱
キンボウゲ科

【形態・生態】

多年草。アキカラマツに似るが、小葉の裏面は著しく雪白色となるのが特徴。小葉の脈は平坦。全体無毛。花期は7～8月。花序はやや密生する。果柄は果実の1～3倍あり、果実は1～6個。がく片は卵状楕円形。柱頭は細い。妙義山塊の集塊岩上に生育し、多くは断崖から下垂する。

【分布の概要】

本州（群馬、埼玉、東京）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の石灰岩露頭に稀に生育する。

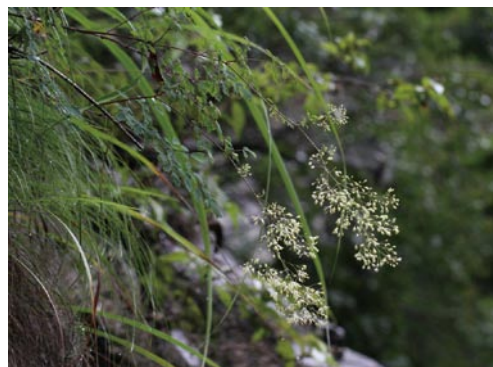
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

石灰岩の採掘などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられるが、西多摩の報告については、分類学的な問題がある上に自生状況など不明な点が多く、再検討が必要である。

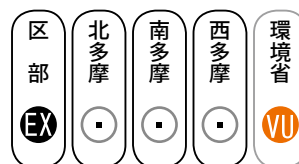
【関連文献】

長野県植物誌編纂委員会（編）, 1997; 埼玉県環境部自然環境課（編）, 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ノカラマツ

Thalictrum simplex var. *brevipes*離弁花亜綱
キンボウゲ科

【形態・生態】

多年草。全体無毛で、茎は高さ60～120cm、鋭い稜がある。茎葉は1～2回3出複葉。花期は6～8月。花序は細い円錐状。花は黄緑色、径約1cm。萼片は4～5個、楕円形で長さ3～4mm、早落性。そう果は2～6個、紡錘形で長さ約5mm、隆起した8～10本の稜があり、柄はない。日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部以南）、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地の原野に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が河川敷などの原野湿地であり、広範囲な開発や植生遷移の進行などにより絶滅したものと考えられる。

【関連文献】

東京府土木部（編）, 1937; 檜山庫三, 1965.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヒロハヘビノボラス

*Berberis amurensis*離弁花亜綱
メギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

落葉低木。高さ3mぐらいになる。幹は分枝し、褐灰色、縦に稜と溝がある。葉は倒卵形ないし楕円形、鈍頭ないし円頭、長さ3～10cm、幅1.5～3cm。花期は5～6月頃、短枝の先にやや垂れぎみの総状花序を出し、十数個の花をつける。花は黄色で径約6mm、果実は楕円形、長さ10～11mm、赤熟する。山地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩地の岩上および疎林内に生育する。石灰岩地を特徴づける典型的な植物の一つである。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

登山者による踏みつけ、園芸目的の採取、自生地の自然崩落、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。分布が極めて局限されるため、容易に絶滅しやすい状況にある。本種を認識した自生地の総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

土屋守, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ルイヨウボタン

*Caulophyllum robustum*離弁花亜綱
メギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。高さ40～70cm。茎葉は2～3回3出複葉。小葉は長楕円形で全縁、長さ4～8cm、幅2～4cm、先端はとがる。花は4～6月に咲き、緑黄色、径8～10mm、約10個が集散状につく。種子は球形で径約8mm、青く、液果状、それぞれ肥厚した珠柄がある。温帯の落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の山地の、シイ・カシ帯上部からブナ帯の溪谷に面した疎林内、林縁などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

増水による溪谷沿いの斜面崩壊、山林荒廃が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。山林の適切な管理が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



イカリソウ

Epimedium grandiflorum var. *thunbergianum*離弁花亜綱
メギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	EN	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。地下茎は発達してひげ根を多数出す。地上茎は高さ20～40cm、葉は1～3回3出し、小葉は卵形、長さ3～10cm、基部は心形、縁には刺状の毛がある。葉面無毛、裏面に開出毛がある。花期は4～5月。花弁には長さ15～20mmの距がある。主として山地の落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道(西南部)、本州(主に太平洋側)、九州

【都における生育環境】

区部、北多摩、南多摩、西多摩の山地、丘陵地の落葉広葉樹林内や草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の開発および植生の荒廃、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

内野秀重, 2008a; 清瀬の自然を守る会, 2010.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コウモリカズラ

*Menispermum dauricum*離弁花亜綱
ツヅラフジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	CR	CR	

【形態・生態】

木本性のつる植物。葉は腎円形、浅く5～9裂し、基部は浅い心形または切形、長さ幅ともに7～13cm、表面は無毛、裏面は無毛または少し毛がある。葉柄は楕状につく。5～6月頃、円錐花序に淡緑色の細かい花を多数つける。石果は黒熟し円腎形、長さ約8mm。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

段丘崖、丘陵地斜面下部、山地谷筋などの林縁にマント状に生育する。分布は極めて局所的である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である斜面緑地などの開発、林縁の管理などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地はもともと局所的であり、段丘崖や谷筋などの林縁に生育することから、いわゆるマント群落の構成種として本種を保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986。

(執筆: 池田博・内野秀重)



ジュンサイ

*Brasenia schreberi*離弁花亜綱
スイレン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	・	EX	・	

【形態・生態】

多年草。根茎は泥中を横に這う。葉は水面に浮かぶ。葉身は楕円形で径5～10cm、裏面は紫色を帯びる。花は6～8月に水面で開き、径約2cm、腋生して、花柄は長い。池に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵部の古くからある池沼に生育していたが、1960年前後に絶滅した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水生植物を食べるアメリカザリガニやブルーギルなどの外来種の野外における拡散時期と本種の絶滅の時期が一致する。絶滅から時間が経ってしまい、成功の可能性は未知だが、埋土種子などからの再生を試みることは検討されてよい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2008a。

(執筆: 池田博・内野秀重)



オニバス

※備考 (p. 297)

*Euryale ferox*離弁花亜綱
スイレン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	・	・	VU

【形態・生態】

一年生浮葉植物。植物体に鋭い刺がある。成熟した浮葉は楕状の円形で、直径0.3～1.5m(ときに2m以上)となる。表面には著しいしわがあり、裏面には太い赤紫色の葉脈が隆起する。花期は8～9月、赤紫色の花を咲かせる。以前は普通に見られたが、近年激減している。富栄養化した湖沼、ため池、河川などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の人工ため池に生育する。

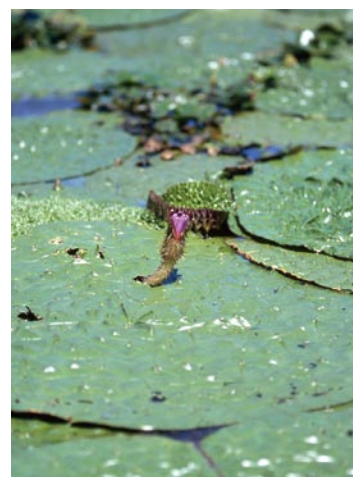
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の改修、埋立て、水質悪化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。池沼の浚渫により埋土種子が眠る底泥を除去してしまうことは、本種の生存にとって特に影響が大きい。保護増殖においては、一年草であり、種子の休眠性が強く発芽率が低いこと、種子が乾燥に弱いことなどに注意する必要があり、現在の自生地のモニタリングを行うことが望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; みずもと自然観察クラブ・建築環境部環境課(編), 1991。

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コウホネ

*Nuphar japonica*離弁花亜綱
スイレン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。地下茎は太く、地中を横に這う。茶褐色の葉痕が目立つ。水上葉は長卵形、長さ20～30cm、幅7～12cm。花は6～9月に開き、径4～5cm、黄色だが、萼片は花後、緑色が強くなる。浅い池や沼、または小さな流れに生育し、ときに観賞用に栽培される。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

湧水などの流入のある、低地から丘陵地、山間低地の池沼、河川などに生育する。植栽されている場合も多く、自生との判断が付きにくい。

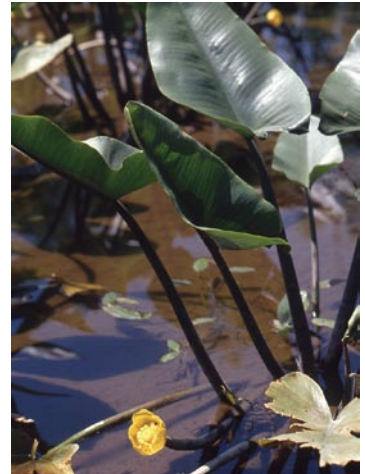
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の埋立て、水量の減少などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。水質の富栄養化などにはある程度の耐性があり、水量さえ保たれていれば、生育状況は安定するため、水量の安定化が望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヒメコウホネ

*Nuphar subintegerrima*離弁花亜綱
スイレン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	■	■	■	VU

【形態・生態】

多年草。根茎は横に這う。根出葉を束生し、水上葉と水中葉とが分化する。水上葉は長い葉柄があり、葉身は広卵形で長さ6～10cm、幅5～8cm、裏面中脈にのみ毛がある。花期は6～9月。花は黄色、径3～4cm、花糸は葯とほぼ同長、または少し長い。葉柄は中実。ため池、河川の下みなどに生育する。水位が下がると抽水形をとる。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

低地から丘陵地の池沼や水路に生育する。コウホネに比べ、より貧栄養な水域に生育する傾向がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の埋立て、水量の減少などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。水量の安定化が望ましい。なお、北多摩にも記録はあるが、真のヒメコウホネであるかどうかを含め、現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会(編), 2001; 加藤雅啓・海老原淳(編), 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒツジグサ

*Nymphaea tetragona*離弁花亜綱
スイレン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	EW	EX	

【形態・生態】

多年草。地下茎は太く短く、葉は卵円形から楕円形、長さ8～19cm、幅5～12cmで無毛。6～9月に径約5cmの花をつける。昼に開花し、夜には閉じる。花弁は8～15枚で、長さは萼片とほぼ同じ。果実は水中で成熟する。池や沼に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の荒川沿岸や武蔵野台地の池沼、および南多摩の丘陵地のため池に記録はあるが、いずれも絶滅または危機的状況である。水質のきれいな古い池に生育する。

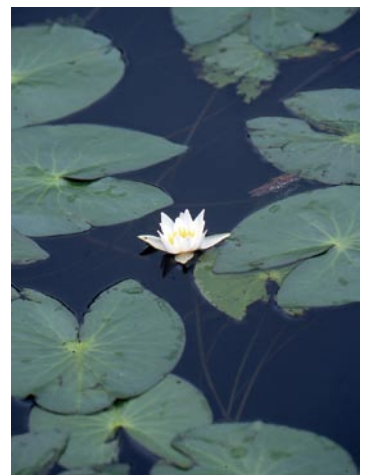
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発による池沼の埋立て、水質悪化、外来種との競合、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の総合的な保全対策を講じることが望まれる。

【関連文献】

東京府土木部(編), 1937; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 池田博・内野秀重)



マツモ, キンギョモ

*Ceratophyllum demersum*離弁花亜綱
マツモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	EX	

【形態・生態】

多年草。茎は長さ 20～80cm。数枚の葉を輪生し、長さ 1.5～2.5cm、裂片には細い刺状の鋸歯がある。花期は 6～8 月。花は極めて小さく、雄花が先に形成される。そう果は楕円形で長さ 4～5mm、基部に 2 本の長い刺がある。冬に植物体は枯れるが、枝の先端にできた越冬芽が残り、翌春発芽する。池や川に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

低地から山地の池沼、用水路などに見られたが、全域で絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の埋立て、河川改修、水質悪化、農業汚染、外来種との競合などにより、絶滅したものと考えられる。魚の飼育とともに栽培されることの多い植物であり、二次的に逸出しているものがしばしば見られるが、本来の自生株との区別は困難である。湧水の流入する用水路などでは再発見も期待されるので、再確認が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ハンゲショウ, カタシログサ

*Saururus chinensis*離弁花亜綱
ドクダミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	CR	・	

【形態・生態】

多年草。地下茎は太く這い、群落となる。茎は高さ 50～100cm。葉は卵形、基部心形、長さ 5～15cm、5～7 脈がある。有柄。花期は 6～8 月。花序に近い数枚の葉は開花時に下半部が白くなる。花序は長さ 10～15cm、多数の小花を下から上に順次咲き上がる。低地の水辺や湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部では、湧水地や池畔、河畔などに群生する。汽水域にもよく適応した種で、東京湾岸ではもともと各所に自生していたと考えられる。多摩地域では、河川沿いの低地などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や河川改修といった生育基盤の消滅が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。二次的に植栽されることも多く、本来の自生株との区別が困難になっており、自然分布かどうかの判断には注意を要する。

【関連文献】

東京府土木部 (編), 1937; 檜山庫三, 1965.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ウマノスズクサ

*Aristolochia debilis*離弁花亜綱
ウマノスズクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

つる性の多年草。高さ 1 m ぐらいに伸びる。葉は三角状狭卵形、長さ 4～7cm。花期は 6～8 月。花は長さ 3～4cm、黄緑色で、葉腋に 1 個つく。萼筒は細くて、やや上方へ湾曲し、基部は球形にふくらみ、舷部は斜めに切られたような形で上へ向かい、狭三角形、舷部内面は紫褐色。さく果は球形で、長さ 1.5cm。山野に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、西南諸島

【都における生育環境】

低地から山地にかけての林縁、原野、河川堤防、耕作地周辺の草地などの日当たりの良い場所に生育する。いずれの地域においても、半自然的な里山環境に生育している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

原野や山林の改変、土手や斜面草地の人工法面化、また耕作地での除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。里山的環境では耕作地の雑草としての性格が強く、保全しにくい面がある。

【関連文献】

多摩市文化振興財団 (編), 2004; 清瀬の自然を守る会, 2010.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ランヨウアオイ

Asarum blumei

離弁花亜綱

ウマノスズクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	

【形態・生態】

多年草。葉は広卵形、卵状楕円形またはほこ状広卵形で長さ 6～15cm、幅 4～8cm。花期は 3～5 月、淡紫褐色で無毛。萼筒は長さ幅ともに 1～1.2cm。内面に紫色の格子状隆起がある。萼筒の上部はわずかにくびれ、開口部はやや小さい。萼裂片は卵円形で開出する。雄しべは 12 個、花柱は 6 個。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部から東海南部）

【都における生育環境】

南多摩の低山から丘陵域にかけての北斜面樹林内に生育するが、分布は局所的である。

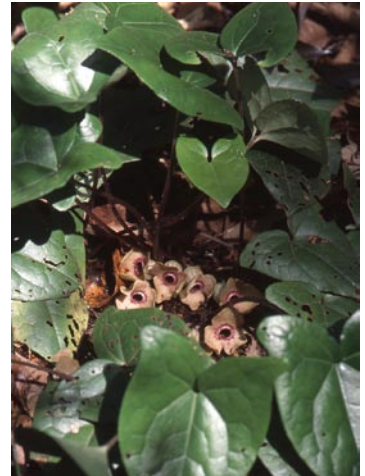
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変、林床の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。地史との関連性の強い植物であり、地域や流域などを考慮しない移植保護などは避けることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 勝山輝男ら, 1997.

（執筆：池田博・内野秀重）



ウスバサイシン

Asarum sieboldii

離弁花亜綱

ウマノスズクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。茎の先に 2 個の葉が偽対生につく。葉は薄く、卵心形で長さ 5～8cm。花期は 3～4 月、花は径 1～1.5cm、淡汚紅紫色で無毛、茎の先の 2 葉柄の間に 1 個つく。萼筒は扁球型で、内面に不明瞭な縦溝がある。萼裂片は三角状広卵形で先がとがり、縁は外に反り返る。雄しべは 12 個。花柱は 6 個。山地の樹林内の湿ったところに生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

標高 1,000m 以上の山地上部、中間温帯から亜高山帯の樹林内や林縁に生育する。春季には陽光を受け、夏季以降は樹林内で強光を避けるような環境を好む。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

尾根部の森林の荒廃、園芸あるいは薬用目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因と考えられる。草刈りなどの管理を行うことや園芸あるいは薬用目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）, 1986; 埼玉県環境部自然環境課（編）, 2011.

（執筆：池田博・内野秀重）



タマノカンアオイ

Asarum tamaense

離弁花亜綱

ウマノスズクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	CR	VU	○	VU

【形態・生態】

常緑多年草。葉は卵円形から広楕円形、長さ 10～15cm、質やや厚く、暗緑色で、細脈は浅く凹入し、微毛があり、ときに緑白色斑紋を生じる。裏面は紫褐色を帯びることが多い。花期は 4 月。花径 3～4cm、暗紫褐色を帯びたがく筒は、先が 3 裂し縁は波うつ。筒部との間にかさぶた状のしわがある。花柱はがく筒の 1/2 より短い。多摩丘陵を主産地とする。

【分布の概要】

本州（関東西南部）

【都における生育環境】

南多摩を主な自生地とし、北多摩の一部に稀に生育し、さらに区部西部に稀に生育していたが、現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

丘陵地の開発、樹林の荒廃や土壌の浸食、また園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。ランヨウアオイと同様、地史との関連性の強い植物であり、地域や流域などを考慮しない移植保護などは避けるべきである。

【関連文献】

勝山輝男ら, 1997; 畔上能力, 2010a.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ヤマシャクヤク

*Paeonia japonica*離弁花亜綱
ボタン科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30～40cm、葉は通常 2 回 3 出複葉で、小葉は楕円形から倒卵形、先は狭まってとがり、両面とも無毛で、裏面は白色を帯びる。5 月頃、茎の先端に径 4～5cm の花を 1 個つける。花弁は白色、5～7 枚で、倒卵形。雄しべは多くは 3 個、ときに 2 個または 4 個。花柱は短く外に曲がる。袋果は開出し、長さ 2.5～3.5cm。落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の落葉広葉樹林内に生育する。園芸目的の採取による産地の消滅が著しく、山地の深部でなければ見つけることが困難となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や森林の荒廃に加え、花が美しいため園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

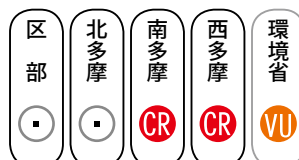
【関連文献】

植物研究グループ飯泉ゼミ（編）、1989；東京都高尾自然科学博物館（編）、1995。

（執筆：池田博・内野秀重）



ベニバナヤマシャクヤク

*Paeonia obovata*離弁花亜綱
ボタン科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30～40cm。3～4 枚の茎葉を互生する。葉はふつう 2 回 3 出複葉で、小葉は倒卵形、裏面は白色を帯びる。花期は 5 月。茎の先端に径 4～5cm の淡紅色の花を 1 個上向きに開く。花弁は 5～7 枚。雌しべの柱頭は長くて先が巻くようになる。落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の明るい落葉広葉樹林内に生育する。ヤマシャクヤクと同様、園芸目的の採取圧が強く、山地の深部でなければ見つけることが困難となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や森林の荒廃の影響もあるが、花が特に美しいため園芸目的の採取も本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；植物研究グループ飯泉ゼミ（編）、1989。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ウラジロマタタビ

Actinidia arguta var. *hypoleuca*離弁花亜綱
マタタビ科

【形態・生態】

落葉性藤本。枝の髄はひだ状で白色～淡褐色。葉はやや厚く、楕円形から広楕円形、先端は短鋭尖頭、基部は円形または浅心形、長さ 6～10cm、幅 4～7cm、縁に細鋸歯があり、表面は濃緑色、裏面は粉白色を帯びる。葉柄は淡赤褐色を呈する。雌雄異株、または雑居性。花は径 10～15mm。花弁 5 個、白色、暗紫色の葯をつける。山地の林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の尾根部で記録されている。西多摩が北限と推定される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、それ以外は不明である。本種は、形態や生育環境がサルナシやマタタビなどと似通っており、分布域や個体数などが十分に把握されていないため、現在の生育状況の把握が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；東京都高尾自然科学博物館（編）、1989。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



トモエソウ

*Hypericum ascyron*離弁花亜綱
オトギリソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は四稜があり、高さ 50～130cm。葉は披針形で、長さ 4～8cm、基部はなかば茎を抱き、多くの明点があり、黒点はない。花は径 5cm。花弁は黄色で、長さ 2.5cm、巴形を呈す。雄しべは多数。花柱は長さ 7mm、先はそり返る。さく果は円錐形で、長さ 13～15mm。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

原野湿地、また植生遷移の進んでいないかく乱地や露頭、切り土斜面地などで湿り気のある場所に生育する。低地から山地草原まで分布するが、低地では生育が認められなくなっている。南多摩の丘陵地の谷戸法面や西多摩の山地草原などに自生地が残っている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。多年草であるが個体の寿命は比較的短く、種子繁殖による世代交代が円滑に行われる必要がある。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩丘陵植物調査会, 1999. (執筆: 池田博・内野秀重)



アゼオトギリ

*Hypericum oliganthum*離弁花亜綱
オトギリソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	EX	・	EN

【形態・生態】

多年草。茎は多数分枝し、高さ 10～40cm。葉は倒卵形または長楕円形、長さ 13～25mm、鈍頭。明点が密に入り、縁には黒点が密に並ぶ。花弁は長楕円形で、長さ 7～8mm、黒点と明点が入り、縁に少数の柄のない黒色腺球がつく。さく果は長さ 6.5mm、幅 5.5mm。水田の畔などの湿地に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

区部の湿地にわずかに生育する。生育環境は原野、河川敷の湿地、水田の畔などの湿った環境であるが、1930年代においては、東京都本土部のいろいろな場所の路傍湿地に生育していたようである。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であり、植生遷移が進めば比較的短期間に消滅する。草刈り頻度の維持と適度な土壌のかく乱などが保全上重要である。

【関連文献】

東京府土木部(編), 1937; 檜山庫三, 1965. (執筆: 池田博・内野秀重)



ミズオトギリ

*Triadenum japonicum*離弁花亜綱
オトギリソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	CR	・	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 50～100cm、葉は披針状長楕円形、長さ 3～7cm、鈍頭、大小の明点が多く、縁にも明点がある。花期は 8～9月。花弁は長さ 5mm、長楕円形で、紅色。雄しべは 9個、腺体は 3個、橙黄色で、長さ 1mm。さく果は楕円状球形、長さ 10mm。湿地または湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

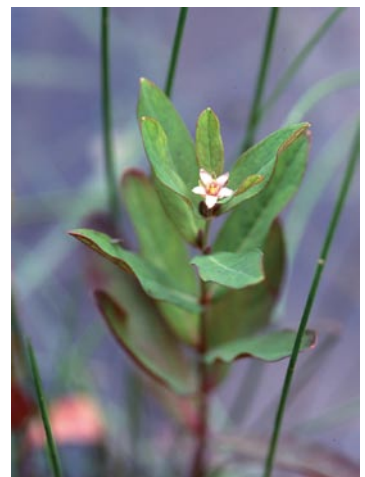
低地から丘陵地にかけての日当たりの良い湿地、池沼の周辺部に生育するが、自生地は局所的であり、すでに区部、北多摩では絶滅した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

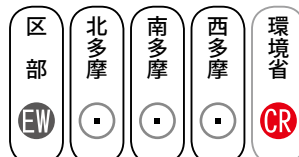
湿地の改変や池沼の護岸改修、植生遷移の進行による衰退などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。十分な日照の確保と湿地環境を保つことが本種の保全上重要である。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2008a. (執筆: 池田博・内野秀重)



ムジナモ

*Aldrovanda vesiculosa*離弁花亜綱
モウセンゴケ科

【形態・生態】

多年草。茎に関節があり、長さ6～25cm。葉は6～8個が輪生し、葉身は長さ4～5mmで、二枚貝のように開閉する。内面に感覚毛があり、小動物を捕らえて消化する。花期は7～8月。花は淡緑色、花弁は狭長楕円形で長さ2.5～4mm。種子は楕円形でごく小さい。池に生育する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

区部の池沼にかつて生育していたが、水質悪化や池沼の開発により野生絶滅した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

栽培下における保全活動を組織的に継続することが望まれる。

【関連文献】

大滝末男, 1974; 館林市史編さん委員会(編), 2008.



(執筆: 池田博・内野秀重)

モウセンゴケ

*Drosera rotundifolia*離弁花亜綱
モウセンゴケ科

【形態・生態】

多年草。根出葉の葉身は倒卵状円形で、長さ5～10mm、表面に長い消化腺毛がある。花期は6～8月。花茎は高さ6～20cm。花弁は白色で長さは萼片の約2倍、花柱は3個、先は2深裂する。さく果は長楕円形で長さ4～5mm。日当たりの良い酸性湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

丘陵の谷戸、段丘崖の湿性裸地などの浸み出し水のある酸性気味の貧栄養土壌に自生地があった。南多摩の多摩市、町田市などの丘陵地の谷戸にかつて生育していた。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと自生地が限られており、湿地の改変や埋立てなどに加え、植生遷移の進行、園芸目的の採取によりほとんどの地域から消滅したと考えられる。

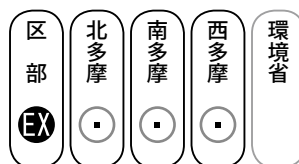
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団(編), 2004.



(執筆: 池田博・内野秀重)

キケマン

Corydalis heterocarpa var. *japonica*離弁花亜綱
ケシ科

【形態・生態】

越年草。茎は太く中空、高さ40～60cm。よく分枝する。葉は白緑色、広卵状三角形で、2～3回3出複葉で、小葉はさらに細裂する。総状花序は5～10cm、多数の花を密につける。花期は3～6月。黄色花で距は短い。さく果は狭披針形でほとんど数珠状にならない。種子は2列またはほぼ2列に並ぶ。海岸や低地の草地などに生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

沿岸部、海岸林の林縁や草地に生育していたが絶滅した。区部(豊島、板橋、練馬、江東、東京湾岸、田町、丸の内、上野)の記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湾岸開発による沿岸部の埋立て、海岸林の喪失により自生地が失われた。本種は、東京湾の土着のフロラを特徴づける種として考えられており、再発見が期待される。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 沼田真・風呂田利夫, 1997.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ナガミノツルケマン

*Corydalis raddeana*離弁花亜綱
ケシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	NT

【形態・生態】

一年草～越年草。全草軟質で無毛。茎に稜があり、よく分枝し、長さ1 mほどになる。葉は互生、有柄、三角形で、2～3回3出複葉、小葉はさらに3深裂する。苞はやや幅狭く小型で幅2～5mm。花期は8～10月。花は淡黄色で長さ15～20mm、距は先端がすこし湾曲する。さく果は線状倒披針形、幅2～2.5mm、種子はほぼ1列に並ぶ。山地の半陰地にやや稀に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地周辺の渓谷や、山地深部の落葉樹林内から林縁にかけて生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1986; 植物研究グループ飯泉ゼミ(編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤマブキソウ

*Hylomecon japonica*離弁花亜綱
ケシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。根出葉は羽状複葉で、小葉は5～7個。茎は高さ30～40cm。花期は4～6月。花弁は長さ2～2.5cm。柱頭は2裂する。さく果は線形で長さ3～5cm、約径3mm、直立し、やや多数の種子がある。低地の樹林内に群生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

段丘崖から丘陵や低山斜面下などの肥沃な落葉樹林内に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開墾や植生遷移の進行による生育環境の変化、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。春植物と共存する場合が多く、そうした植物群との一体的な保全を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 池田博・内野秀重)



オサバグサ

*Pteridophyllum racemosum*離弁花亜綱
ケシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

多年草。葉は長さ10～20cm、幅2.5～3cm、羽片は幅約3mm。花期は6～8月。花茎は高さ15～25cmになり、総状花序は花茎上に頂生し、長さ5～15cm。花弁は長さ約5mm。亜高山帯針葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州(中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の亜高山帯針葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されているため、園芸目的の採取などの人為的な影響で容易に消滅する状況にある。登山や園芸目的の採取に対するマナー啓発などの総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1986; 埼玉県環境部自然環境課(編), 2011.



(執筆: 池田博・内野秀重)

エゾハタザオ

*Arabis pendula*離弁花亜綱
アブラナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	

【形態・生態】

越年草。茎は直立し、高さ 20～100cm。葉は長楕円状卵形から卵状披針形、長さ 3～12cm、幅 1～5cm、下部の葉は有柄、上部の葉は無柄。花期は 6～8 月。花弁は白色、倒披針形で、長さ 3～5mm。長角果は線形で細長く、垂れ下がり、長さ 3～10cm。種子は平たく、卵形、縁に狭い翼があり、長さ 1.5～2mm。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の谷筋の林縁や路傍に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や森林植生の荒廃、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1978；鈴木和雄（編）、1986。

（執筆：池田博・内野秀重）



シコクハタザオ

Arabis serrata var. *shikokiana*離弁花亜綱
アブラナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	

【形態・生態】

多年草。フジハタザオの変種。全体に大きく、茎は株状または横に広がり、高さ 20～40cm。根出葉は柄が長く、葉縁に欠刻がある。茎葉の基部は矢じり状となって茎を抱く。花期は 4～6 月。花弁は白色、倒卵形、長さ 6～10mm。長角果は弓なりに開出し、長さ 7～10cm となる。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の湿った岩場に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や森林の乾燥化などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

土屋守、1974；鈴木和雄（編）、1986。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



コンロンソウ

*Cardamine leucantha*離弁花亜綱
アブラナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	●	●	

【形態・生態】

多年草。茎は直立して、高さ 30～70cm。葉は羽状複葉。小葉は 5 個か 7 個、長楕円状披針形、先は鋭尖形。花期は 4～7 月。花弁は白色、倒卵形から長倒卵形、長さ 5～10mm。長角果は線形、長さ 18～25mm、幅約 1.2mm。種子は長さ約 2mm、幅約 1mm。山地や川辺の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の山地では湿った山道や谷川の流水縁に生育し、南多摩の丘陵地では、ごく稀に谷戸の湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や林地整備、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。ミツバコンロンソウやヒロハコンロンソウに比べて、分布域および個体数が極めて限られているものと推測されるが、分布域をはじめとした実態が不明であり、現状の再確認が望まれる。

【関連文献】

長野県植物誌編纂委員会（編）、1997；高知県・高知県牧野記念財団（編）、2009。

（執筆：池田博・内野秀重）



ミズタガラシ

*Cardamine lyrata*離弁花亜綱
アブラナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	VU	■	■	

【形態・生態】

多年草。全体無毛で、高さ 30～60cm。葉は頭大羽状複葉、長さ 1～7cm。花期は 4～6 月。総状花序は 10～30 個の花をつける。花弁は白色、広倒卵形で長さ 5～8mm。長角果は線形、長さ 2～3cm、幅約 1.2mm。種子は楕円形で、周囲に広い膜状翼がある。水田や湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

現在では、北多摩の河川調整池にのみ生育が知られている。本来は、水路、水田、池の周囲など、日当たりの良い湿地を生育環境とする。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質悪化、外来種との競合、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。ヨシ群落内などに生育することが多く、自生地の日照条件が悪くなると衰退するので、自生地を適宜かく乱することが重要である。

【関連文献】

奥山春季, 1974; 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009.

(執筆: 池田博・内野秀重)



キバナハタザオ

*Sisymbrium luteum*離弁花亜綱
アブラナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 30～120cm。葉は卵形から卵状披針形、長さ 6～16cm、先は鋭尖形。花期は 6～7 月。花弁は黄色、倒卵形、長さ 10～14mm。長角果は開出し、線形で円柱状、長さ 8～14cm、幅 1.5mm。種子は長楕円形、先に膜質の突起があり、褐色。山地に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の低山地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林荒廃や植生遷移の進行、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であり、絶滅のおそれが高まっているものと考えられる。現在の生育状況を把握し、自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

菱山忠三郎, 1990; 長野県植物誌編纂委員会 (編), 1997.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ハタザオ

*Turritis glabra*離弁花亜綱
アブラナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

越年草。茎は直立し、高さ 35～135cm。根出葉は倒披針形、先は鈍形、全縁か波状縁または低鋸歯縁、長さ 3～14cm。花期は 5～8 月。花弁は倒卵形、長さ 5～7.5mm。長角果は線形、平らな四稜形で、長さ 4～8cm、幅 1～1.5mm、無毛。種子は 2 列で、縁にごく狭い翼がある。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の河川中流域において、高水敷堤防などの草土手周辺に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

土手の改修工事や、植生遷移の進行、開花時の草刈りなどの不適切な管理が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種開花前後の草刈りは、繁殖に大きく影響するため、草刈り時期を考慮する必要がある。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 日野市環境情報センター (編), 2008.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ショウドシマベンケイソウ

Hylotelephium verticillatum var. *lithophilos*離弁花亜綱
ベンケイソウ科

【形態・生態】

多年草。ミツバベンケイソウの変種。直立または斜上し、葉は対生する。葉身は長楕円形、卵状楕円形、広披針形、縁に浅い鈍鋸歯が6～8個ある。葉柄は無柄または有柄で、長さ1～1.8cm。花期は9～10月。花弁は5個、黄緑色で径約4mm。雄しべは10個で花弁よりやや長い。葯は裂開前は淡黄色、稀に暗褐色。石灰岩の岩上に生育する。

【分布の概要】

本州（東京、岡山）、四国（高知、香川）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の石灰岩上などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されるため、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。ミツバベンケイソウの変種であり、これまで、岡山、高知、香川の3県に分布が知られてきたが、東京都本土部にも分布することが明らかになったのは近年のことであり、自生地の実態について再度調査確認が望まれる。

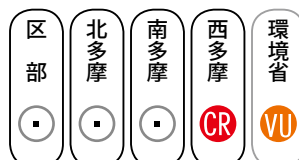
【関連文献】

高知県・高知県牧野記念財団（編），2009；加藤雅啓・海老原淳（編），2011。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



マツノハマンネンゲサ

*Sedum hakonense*離弁花亜綱
ベンケイソウ科

【形態・生態】

多年草。茎は密生し、花枝は長さ5～10cmで濃紅紫色を帯びる。葉は互生し線形、長さ1～2.5cm、幅1～3mm、肉質でやや扁平となる。花期は7～8月。花序は花枝の先に集散状につき、10～20個の花をつける。花は4数性。花弁は濃黄色、楕円状披針形から狭卵形、長さ3.5～4mm。裂開直前の葯は赤色または橙色。種子は線状披針形、長さ1～1.3mm。落葉広葉樹の樹幹に生育する。

【分布の概要】

本州（埼玉、東京、神奈川、山梨、静岡）

【都における生育環境】

西多摩の山地において、ブナの樹幹や岩上などに着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

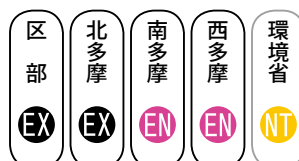
ブナ林の衰退や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。基本的にブナの樹幹を生育の場としているので、ブナ林の健全性が維持されていることが本種にとって最重要な条件である。神奈川県丹沢山域に多いフォッサマグナ要素の植物であるが、東京都本土部においても地域固有の植物として重要度が高い。

【関連文献】

鈴木和雄（編），1986；植物研究グループ飯泉ゼミ（編），1989。（執筆者：池田博・内野秀重）



アズマツメクサ

*Tillaea aquatica*離弁花亜綱
ベンケイソウ科

【形態・生態】

一年草。高さ2～5cm。茎は基部で分枝し、束生する。葉は線状披針形で、鋭頭、長さ約5mm、幅約1mm。花期は4～8月。花は4数性、長さ1.5mmぐらいで、茎の上部葉腋に単生する。花弁は白色、長さ約1.5mm、卵状披針形で円頭。裂開前の葯は淡黄色。蜜腺は小棒状で長さ約0.4mm。袋果は淡紅色。水田や海浜泥地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

低地の河川の湿地をはじめ、台地や丘陵地の休耕田などの湿性裸地に生育する。東京都本土部では全域で確認されていたが、区部、北多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や谷戸の開発、水田の耕地整備、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種の重要性を十分に認識した保全対策を行うことが望ましい。本種は、牧野富太郎により東京都区内で発見された植物である。

【関連文献】

畔上能力ら，1974；多摩市文化振興財団（編），2004。（執筆者：池田博・内野秀重）



チダケサシ

*Astilbe microphylla*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	EN	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。葉は2回奇数羽状複葉から4回奇数羽状深裂。花期は6月下旬～8月。花茎は高さ40～80cm。花序は複総状で、密に花をつける。花弁はふつう淡紅色、線状さじ形で、長さ3～5mm、裂開直前の葯は淡青紫色。さく果は長さ3～4mm。明るい樹林内、林縁および山麓の草原に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

湿地をはじめ、山地下部の日当たりの良い湿った林縁、丘陵や谷戸の湿地、池沼の周囲などに生育する。北多摩、南多摩、西多摩の丘陵地から山地ではそれほどでもないが、低地から台地では減少が著しい。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や山林の改変、植生遷移の進行、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ネコノメソウ, ミズネコノメソウ

*Chrysosplenium grayanum*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ4～20cm。葉は対生し、葉身は広卵形から卵円形で、基部は円形または切形。花期は4～5月。花は径1.5～2mm。萼裂片は花時に直立し、淡黄緑色または淡黄色で、長さ約1mm、長円形で円頭。花盤は目立たない。葯は淡黄色。さく果は斜開し、2個の心皮は大きさが異なる。山麓の湿地や谷筋、時には水田などにも生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

台地から丘陵地、山地下部にかけたの小川のほとりや湧水湿地などに群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や湧水部の開発整備、異常出水による浸食、水辺の林縁荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩丘陵植物調査会(編), 1999.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヤマネコノメソウ

*Chrysosplenium japonicum*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

一年草。根出葉は長さ2～7cm、葉身は円腎形で長さ5～20mm、幅8～30mm、基部は心形。花茎は高さ10～20cm。花期は3～4月。花は径4～5mm。萼裂片は緑色で基部は黄色を帯び、倒卵形で長さ約1.3mm。裂開直前の葯は黄色。種子は卵状楕円形。樹林内から林縁、または低地の湿った場所に生育する。

【分布の概要】

北海道(西南部)、本州、四国、九州

【都における生育環境】

低地から山地までの半日陰の湿地や路傍林縁などに群生する。西多摩、南多摩ではまだ比較的十分な個体数はあるが、北多摩や区部における減少が著しい。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や山林の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩丘陵植物調査会(編), 1999.

(執筆: 池田博・内野秀重)



オオコガネネコノメ

Chrysosplenium pilosum var. *fulvum*離弁花亜綱
ユキノシタ科

【形態・生態】

多年草。走出枝はよく発達し、白色軟毛が密生する。葉は扇形から円形、長さ3～15mm、縁には円い鋸歯がある。特に走出枝の先端につく葉は大型となり、楕円形から卵円形で、長さ15～30mm、縁に9～17個の鋸歯がある。花茎は高さ4～10cm、白毛を密生する。花期は4～5月。萼裂片は広鐘形、花時に鮮黄色または黄緑色を呈する。母種コガネネコノメソウに比べ全体に毛が多く、葉もやや大きい。山地溪流の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地上部の落葉樹林の湿潤な林床、岩礫地の隙間などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行および登山道の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

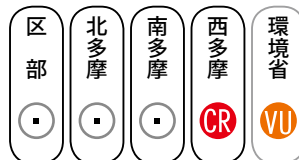
【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；植物研究グループ飯泉ゼミ（編）、1989。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



ウメウツギ

*Deutzia uniflora*離弁花亜綱
ユキノシタ科

【形態・生態】

落葉低木。高さは1mになる。葉身は長楕円形、狭卵形あるいは広披針形、長さ4～6cm、幅1.2～2cm、先は長くとがり、基部はくさび形。花期は4～6月。花筒は広鐘形。花冠は白色、漏斗形、径1.5～2.5cm。雄しべは10個、花糸には翼がある。葯は黄色。さく果は木質で椀形。石灰岩地に多く生育する。

【分布の概要】

本州（関東西部、静岡、山梨）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の、岩礫の混じる落葉樹林帯から石灰岩、砂岩、チャート、粘板岩などの岩場に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと自生地が岩場に限られており、分布は局限されるが、開花時以外は見つけにくい植物であり、実態が十分に把握されていない。分布域や個体数の実態などについて、現在の生育状況の把握が望まれる。

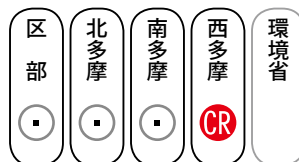
【関連文献】

鈴木和雄（編）、1978；鈴木和雄（編）、1986。

（執筆者：池田博・内野秀重）



シラヒゲソウ

*Parnassia foliosa*離弁花亜綱
ユキノシタ科

【形態・生態】

多年草。葉身は広卵形で、長さ幅とも1.5～4cm。花期は8～9月。花茎は高さ15～30cmで、花は径2～2.5cm。花弁は卵形で、長さ9～12mm、縁は糸状に深く切れ込む。仮雄しべの先端には小球状の黄色の腺体がつく。さく果は長さ6～7mm。種子は長さ約1mm。山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（太平洋側）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の、石灰岩質の岩礫地や崩壊地などに生育する。

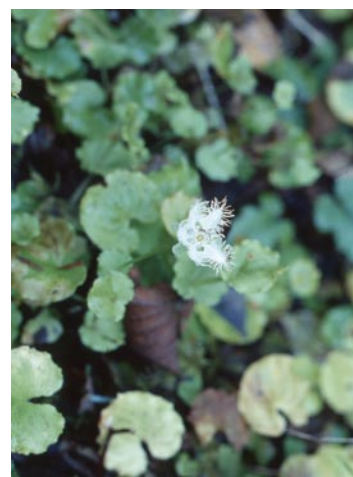
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと自生地が限られているうえに、植生遷移の進行、園芸目的の採取、登山者による踏みつけなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。登山や園芸目的の採取に対するマナー啓発などの総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；丹沢大山総合調査団（編）、2007。

（執筆者：池田博・内野秀重）



ウメバチソウ

*Parnassia palustris*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EN	EN	

【形態・生態】

多年草。葉身は卵形または広卵形で、長さ幅ともに1.5～4cm。花期は8～10月。花茎は高さ10～50cmで、花は径2～2.5cm。花弁は白色で、広卵形または楕円形、長さ1～1.2cm。仮雄しべは糸状に15～22裂し、先端に小球状の黄色の腺体がつく。さく果は長さ1～1.2cm。種子は長さ約1mmで、楕円形。日当たりの良い山野湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地では尾根部の草地、南多摩の丘陵地では谷戸の湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や植生遷移の進行、踏みつけなどによる生育条件の悪化、また園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地である湿地の保全や園芸目的の採取に対するマナー啓発などの総合的な保全対策を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989。

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヤワタソウ

*Peltoboykinia tellimoides*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。根出葉は円形または卵円形で、基部は浅い心形、径20～30cm、7～13浅裂する。花期は5～7月。花茎は高さ30～60cm。花弁は淡黄色、倒卵形または楕円形。葯は淡黄色で、裂開後は黒色に変わる。さく果は卵形で、長さ13～16mm。種子は長さ0.8mmぐらい。谷沿いの日当たりの悪い斜面に生育する。

【分布の概要】

本州 (中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の空中湿度が高い谷筋の落葉樹林内から林縁などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと山地の深部に分布域が限られており、植生遷移の進行や森林荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発など、自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989。

(執筆: 池田博・内野秀重)



タコノアシ

*Penthorum chinense*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	NT

【形態・生態】

多年草。茎は高さ30～80cm。葉は狭披針形から披針形または狭楕円形、長さ6～11cm、幅5～12mmとなり、縁には細鋸歯がある。花期は8～10月。花は径4～5mm、普通花弁がなく、全体が黄緑色なのであまり目立たない。裂開直前の葯は黄色。さく果は径6～7mm。泥湿地、沼、水田、川原などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島 (奄美大島)

【都における生育環境】

低地から台地丘、陵地にかけての河川の湿地や休耕田、荒地などの湿性裸地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の埋立てや開発だけでなく、植生遷移の進行による生育条件の変化が本種の生存を脅かす主な要因となる場合が多い。本種は、一定の自生地に何らかのかく乱が起きなければ、通常長く定着せず、盛衰の激しい多年草である。保全にあたっては、このような生態を考慮し、植生遷移の進行を食い止めるような生育環境の整備を行うことが望ましい。

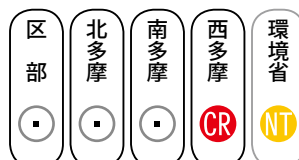
【関連文献】

日野の自然を守る会 (編), 1985; 日野市環境情報センター (編), 2008。

(執筆: 池田博・内野秀重)



ヤシャビシヤク

*Ribes ambiguum*離弁花亜綱
ユキノシタ科

【形態・生態】

落葉小低木。幹はよく分枝し、高さは30～50cm、ときに1mになる。葉は互生し、葉身は腎円形または丸みを帯びた五角形、掌状に3～5裂する。花期は4～5月。花弁はへら形で、長さ2.5～4mm、直立する。液果は球形または卵球形で、長さ7～12mm、径7～10mm、全面に針状の毛が生え、緑色に熟す。温帯林の樹幹上に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部のブナやイヌブナ、クリ、ミズナラなどの老木上に着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

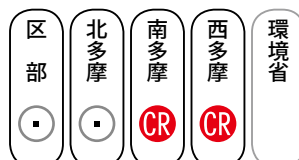
山林の改変や森林の荒廃、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。やや衰退したブナなどの老木に多く着生するが、ブナの衰退が進み過ぎれば、逆にヤシャビシヤクの着生は少なくなるとの調査報告があり、ブナ林全体が衰退してしまうと、本種の生育条件も悪化してしまうことになる。

【関連文献】

鈴木和雄（編），1986；丹沢大山総合調査団（編），2007。（執筆者：池田博・内野秀重）



ヤブサンザシ

*Ribes fasciculatum*離弁花亜綱
ユキノシタ科

【形態・生態】

落葉低木。雌雄異株。幹は高さ1mくらいになり、よく分枝する。葉は互生し、短枝に相接してつく。葉身は広卵形、長さ2～6cm、幅2.5～6cm、掌状に3浅裂から中裂する。花期は4～5月。花は短枝の葉腋に束状につく。花弁はへら形で、長さ約0.7mm。液果は球形、径7～8mm、無毛で赤く熟す。山野に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩から西多摩にかけての台地、丘陵地の河畔林や段丘崖の藪、低山地林縁などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

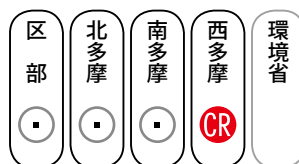
樹林地や荒地、河川敷などの整備、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。東京都本土部では、丘陵地から低山地の人里に近いところに散発的に生育していることが多く、これが本来の生育環境であるかどうかは不明であり、既知の自生地とともに、山地における分布の有無なども確認が望まれる。

【関連文献】 檜山庫三，1965；埼玉県環境部自然環境課（編），2011。



（執筆者：池田博・内野秀重）

ザリコミ

*Ribes maximowiczianum*離弁花亜綱
ユキノシタ科

【形態・生態】

落葉低木。雌雄異株。幹はよく分枝し、高さ2mになる。葉身は三角状卵形、径2.5～5cmで、掌状に3中裂する。花期は5月。花序は総状で、長枝の先端と短枝に葉とともにでる。花弁はへら形、長さ0.5mmほど。液果は狭卵状球形、径6mmほどで、赤く熟す。冷温帯の安定した林床を好む。

【分布の概要】

本州（東南北部から中国）、四国（高知）

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の樹林内のごく一部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林の荒廃、登山道の整備、野生動物による食害などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられるが、分布情報が非常に少なく不明な点が多い。自生地の現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄（編），1986；神奈川県植物誌調査会（編），2001。



（執筆者：池田博・内野秀重）

ジンジソウ

*Saxifraga cortusifolia*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	

【形態・生態】

多年草。根出葉の葉身は円腎形から円形で、長さ2～11cm、幅が3～16cm、縁は7～11中裂する。花期は9～11月。花茎は高さ10～35cm、花序は集散状で、多数の花をやや密につける。花弁は白色で、上部の3弁は広卵形で約4mm、基部に黄色(または紅色)の斑点があり、明らかな爪がある。下側の2弁は長楕円形で長さ12～25mm、鋭頭、基部は長いくさび形。山地の水のしたたるような崖に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地谷筋の岩壁などの岩礫地に着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷筋の山林の改変や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、現状を含めて不明な点が多い。自生地の現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館, 1976; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ダイモンジソウ

Saxifraga fortunei var. *alpina*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	

【形態・生態】

多年草。葉身は腎円形で、長さ3～15cm、幅4～20cm。花期は7～10月。花弁は白色、稀に淡紅色。上側の3弁は楕円形で、長さ3～4mm、基部に短い爪がある。下側の2弁は線状楕円形、長さ4～15mm。裂開直前の葯は橙赤色または暗紅色。さく果は卵形。山地の水のしたたるような岩上に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の石灰岩地、また冷温帯森林域の岩上や樹上に着生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

石灰岩の採掘、森林環境の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、現状を含めて不明な点が多い。自生地の現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

土屋守, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



クロクモソウ

Saxifraga fusca var. *kikubuki*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。根出葉の葉身は円腎形。花期は7～8月。花茎上部にまばらな円錐花序を生じる。花は径5～8mm。花弁は長卵形で、紫褐色稀に淡緑色。さく果は長さ4～6mm。種子は紡錘状楕円形。山地の溪流沿いの岩上に生育する。

【分布の概要】

本州(近畿以北)、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の岩上や湿った草地に生育する。分布が極めて局限され、高標高地の植生域にのみ生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や生育環境の変化、登山道のオーバーユースなどが本種の生育を脅かす主な要因であると考えられるが、現状を含めて不明な点が多い。自生地の現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1986; 長野県植物誌編纂委員会(編), 1997.

(執筆: 池田博・内野秀重)



イワユキノシタ

*Tanakaea radicans*離弁花亜綱
ユキノシタ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

多年草。走出枝を出す。葉は楕円形から卵状楕円形で、葉身は長さ2～9cm、幅1～5cm、常緑。花期は5～6月。萼裂片は白色、長円形、長さ1～1.5mm。裂開直前の葯は白色。さく果は長さ3～4mmで垂れ下がる。水のしたたるような岩に生育する。

【分布の概要】

本州（東京、神奈川、山梨、静岡）、四国（徳島、高知）

【都における生育環境】

西多摩の山地の一部に分布し、石灰岩質の岩場に着生して生育する。関東地方における北限となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が極めて局限されていたが、石灰岩採掘のために自生地の多くが消滅し、その後危機的な状況が続いている。園芸目的の採取も生存を脅かす要因となる可能性がある。過去に西多摩における分布の報告があり、現状の再確認が望まれる。

【関連文献】

土屋守, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：池田博・内野秀重）



チョウセンキンミズヒキ

*Agrimonia coreana*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	EN	EN	EN	VU

【形態・生態】

多年草。茎には長軟毛が多い。葉は3～5小葉からなり、裏面には長軟毛と不明瞭な腺点がある。托葉は大きく、扇状に広がり、粗く大きな歯牙がある。花期は7～8月。花は細い花穂にまばらにつく。花は径7～15mm。花弁は黄色で楕円形から長楕円形。山地や高原に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の一部、および西多摩の山地の尾根部や落葉樹林の疎林内から林縁、草原に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限され、個体数も少ない植物である。近年の減少の要因は明らかでないが、山地草原の樹林化や荒廃など、植生遷移の進行が生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地周辺の生育環境を総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

菱山忠三郎, 1977; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：池田博・内野秀重）



ザイフリボク

*Amelanchier asiatica*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	CR	

【形態・生態】

落葉性の低木～高木、高さ12mに達する。葉は倒卵形または楕円形で鋭頭、基部は円形から鈍形、長さ4～9cm、幅2.5～4cm、細鋸歯がある。花期は4～5月。花弁は白色で狭楕円形、長さ約15mm、幅約5mm。梨果はほぼ球形、径6～10mm、紫黒色に熟し、頂端に反曲した萼裂片が宿存する。

【分布の概要】

本州（岩手以南）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の落葉樹林の明るい疎林内などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

南多摩では低山地および丘陵地の一部に局地的な生育が見られたが、すでに絶滅したものと考えられる。植生遷移の進行などによる生育環境の変化が生存を脅かす主要因であると考えられる。西多摩の自生地の現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

菱山忠三郎, 1977; 植物研究グループ飯泉ゼミ（編）, 1989.

（執筆者：池田博・内野秀重）



ヤブザクラ

*Cerasus hisauchiana*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	●	●

【形態・生態】

落葉小高木。フォッサマグナ要素。マメザクラに似ているが、葉はひと回り大きく、長さ5～6cmになる。花柄は短く、長さ約1cmで、開出する軟毛が生える。萼筒は萼裂片の長さの約1.5倍、萼裂片は卵円形で縁に鋸歯がある。花もマメザクラに比べ、ひと回り大きく、花弁は長さ12～13mmになる。古い時代に、マメザクラとエドヒガンとの間に生じた自然雑種と考えられている。低山や丘陵地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

南多摩では丘陵地の落葉樹林内から林縁に生育し、稀に群生するが、分布は極めて局地的である。西多摩では過去に分布の報告はあるが、現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

市街地周辺に分布するため、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。個体の寿命が比較的短く、他種による被圧にも弱い。根茎から生じたシュートで増殖するため、これを保護育成することが保全上重要である。

【関連文献】

勝山輝男ら, 1997; 大場秀章ら, 2007.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ブコウマメザクラ

Cerasus incisa var. *bukosanensis*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	●

【形態・生態】

落葉小高木。マメザクラの変種で、葉が大きく、長さ5～8cm、両面にほとんど毛がない。

【分布の概要】

本州（関東）

【都における生育環境】

西多摩の山地の石灰岩地の一部に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと石灰岩地に生育が限定されていたが、自生地での石灰岩の採掘により、さらに分布域や個体数は極限まで減少している。植生遷移の進行などに考慮し保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

土屋守, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



エドヒガン

*Cerasus spachiana*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	●	○

【形態・生態】

落葉高木。幹は高さ20mに達する。葉身は長楕円形または狭倒卵形、長さ3.3～8.8cm、幅1.8～4.5cm、2重鋸歯がある。花期は4月。花は葉より先に開き、径1.5～2cm。萼筒は短い筒形で、紅紫色を帯びる。花弁は淡紅色、長さ10～12mm。果実は球形で、径約9mm。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地から西多摩の山地にかけて、主に尾根部の落葉樹林に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行による生育環境の悪化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種は長命だが各地とも個体数が少なく、世代更新が進んでいないものと考えられる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 植物研究グループ飯泉ゼミ（編）, 1989.

（執筆：池田博・内野秀重）



タマノホシザクラ, ホシザクラ ※備考 (p. 297)

*Cerasus tamaclivorum*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	□	CR

【形態・生態】

落葉小高木。高さ 12m ほどになる。葉は卵状楕円形、長さ 4～8cm、幅 2.5～4cm、鋸歯はやや不規則。花期は 3～4 月。花は淡紅色、1～2 個が下垂して咲き、花弁は全開しない。丘陵地に生育し、日照条件の良い若い雑木林や林縁を好み、横走する根茎から新しいシュートを伸ばして栄養繁殖する。3 倍体のため通常種子は出来ない。

【分布の概要】

本州（東京）

【都における生育環境】

丘陵地の斜面中部から下部の落葉樹林内、林縁に生育する。南多摩のみに分布し、全体の個体数は 200 株程度と推測される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が市街地に近く、宅地開発などで群生地が激減した。公園や残存緑地などに野生株が残存するが、2004 年に記載されたばかりの植物で一般の認知が進まず、その結果、他の樹木に被圧されたり伐採されたりすることで、さらに個体数を減らしている。南多摩固有植物であることの認知を図り、間伐などの自生地の保全管理を行うことが望まれる。

【関連文献】

大原隆明ら, 2004; 大場秀章ら, 2007.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



オオダイコンソウ

*Geum aleppicum*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 60～100cm。根出葉は有柄の羽状複葉。頂小葉は菱状卵形、長さ 5～10cm で鋭頭、基部はくさび形。花期は 7～9 月。花は枝の先に 1 個ずつつき、径 15～20mm。花弁は 5 枚、黄色。集合果はやや大型で倒卵形、そう果は紡錘形で、粗い毛がある。山地の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の山地草原から林縁、路傍の草地などに生育する。本州北部の自生地では低地にも分布しており、南多摩の山地や丘陵地にも生育の可能性は捨てきれない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草原の植生遷移の進行による森林化、オーバーユースによる登山道の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。報告されている自生地の現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館（編）, 1976; 鈴木和雄（編）, 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



リンボク

*Laurocerasus spinulosa*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

常緑小高木。高さ 7 m、径 30cm になる。葉身は倒披針状長楕円形または狭長楕円形、先は鋭尖形。花期は 9～10 月。花弁は白色で、縁に少数の歯牙がある。果実は長楕円形で、長さ 9mm 内外、紫褐色～黒紫色。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩および西多摩にかけて、丘陵地上部から低山地のシイ・カシ帯の谷間などの樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変による生育環境の消滅が本種の生存を脅かす最大の要因と考えられる。もともと暖地性の樹種であり、分布が局限され、個体数も少ないため、現在の生育状況を再確認し、保全のための方策を検討していくことが望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）, 2009.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ズミ

*Malus toringo*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	VU	VU	

【形態・生態】

落葉性の低木～小高木。高さ 10 m に達する。短枝はしばしば刺状となる。葉は狭卵形、楕円形から長楕円形または狭倒卵形、長さ 3 ～ 10cm。花は白色ではじめ紅色を帯び、径 2 ～ 3cm、4 ～ 8 個が短枝に散状につき、5 ～ 6 月に咲く。果実は球形で無毛、径 6 ～ 10mm、赤色に熟す。山林原野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩および南多摩の丘陵地下部のシイ・カシ林の林縁、西多摩の山地の温帯林の尾根などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修、植生遷移の進行による生育環境の変化、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。間伐など、日照条件の確保が保全対策の一つとして重要である。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986。



(執筆: 池田博・内野秀重)

シウリザクラ

*Padus ssiori*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	DD	

【形態・生態】

落葉高木。幹は高さ 20 m に達する。葉身は倒卵状長楕円形から長楕円形、先は尾状鋭尖形、腺に終わる細く鋭い鋸歯がある。花期は 5 ～ 6 月。花は葉より遅れて咲き、径約 10mm。花弁は円形で、白色、長さ 4 ～ 5mm。果実は卵状球形、長さ 7 ～ 10mm、径 8mm、暗紅色～黒色。本州中部以北の山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州 (中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の山地上部に生育するとの記録については情報が不足しており、再確認の必要がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

西多摩に生育しているとすれば、森林の伐採や荒廃、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。その他、サクラスガの幼虫による葉の食害、モニリア病の一種 *Monilinia ssiori* への感染などによる枯死や衰退などの報告事例がある。本種が記録された場所での再確認が望まれる。

【関連文献】

丹沢大山総合調査団 (編), 2007; 谷晋ら, 2010。

(執筆: 池田博・内野秀重)



カワラサイコ

*Potentilla chinensis*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。根茎は太く、茎は長さ 30 ～ 70cm。葉は羽状複葉。小葉は 15 ～ 29 個で、倒披針形、長さは 2 ～ 5cm。茎の先は分枝した花序になり、多数の花をつける。花期は 6 ～ 8 月、花は黄色で径 10 ～ 15mm。花弁は倒卵形で、花床は有毛。日当たりの良い河原や砂地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

礫質の河川敷や堤防斜面など、高温にさらされ、乾湿の変化が多く貧栄養な草地に生育する。メドハギやマルバヤハズソウ、カゼクサなどと混生することが多い。多摩川流域の河川敷が、主要な自生地として残されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修、異常出水による自生地の浸食、富栄養化による植生の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河川堤防などでは、本種が高茎草本に被圧されないよう、適切な時期に草刈りを行うことが望ましい。

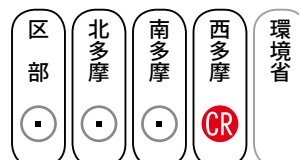
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004。

(執筆: 池田博・内野秀重)



ギンロバイ

Potentilla fruticosa var. *leucantha*離弁花亜綱
バラ科

【形態・生態】

落葉小高木。幹は高さ 30～100cm、よく分枝し、若枝は赤褐色、白絹毛を密生する。葉は互生、有柄、奇数羽状複葉で、長さ 15～35mm、小葉は 5～7 個、卵状長楕円形。両面に絹毛があり、長さ 1～2cm、幅 3～10mm。花期は 6～8 月。花は 5 花弁で径 2～2.5cm。黄色花をキンロバイ（金露梅）、白色花をハクロバイ（白露梅）という。高山帯に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（東北、関東、中部、近畿）、四国

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地の岩場に生育するが、自生地も個体数も非常に限られている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の植生荒廃や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。現状の再確認と自生地の総合的な保全対策の検討が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆：池田博・内野秀重）



ヒロハノカワラサイコ

*Potentilla niponica*離弁花亜綱
バラ科

【形態・生態】

多年草。根生葉は 7～13 個の小葉からなる奇数羽状複葉で、カワラサイコに似るが、小葉間に小裂片がない。小葉の縁は羽状中裂またはやや深裂し、裏面は白綿毛が密生する。花期は 6～8 月。花は黄色い 5 弁花で、径 13mm。萼、副萼ともに白綿毛がある。そう果は無毛、平滑。海岸や河原、堤防草地などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（北部、中部）

【都における生育環境】

低地の礫質河川敷や堤防斜面のほか、丘陵地や台地における草刈り頻度の高い草地などに生育する。東京都本土部では多摩川の河川敷と堤防草地が主要な自生地となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修、富栄養化や異常出水による生育条件の悪化、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。適切な時期、回数による草刈りにより、日照条件を確保することが重要な保全対策と考えられる。

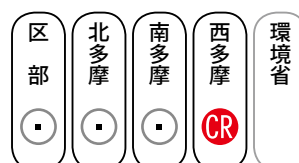
【関連文献】

檜山庫三、1965；多摩市文化振興財団（編）、2004。

（執筆：池田博・内野秀重）



タカネバラ

*Rosa nipponensis*離弁花亜綱
バラ科

【形態・生態】

落葉低木。茎は無毛で、高さ 1～1.5 m。葉は 7～9 小葉からなる。葉の表面は緑色、裏面は帯白色。花期は 6～7 月、花は小枝の先に 1～2 個つき、径 3.5～4cm、紅紫色。花弁は広倒卵形、長さ約 2cm。果実は倒卵状狭紡錘形、長さ 1.5～2cm、黄赤色に熟す。高山帯に生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

西多摩の亜高山帯の草地、岩礫地に生育する。蛇紋岩や石灰岩質の場所を好む特性がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限される上に、園芸目的の採取、登山道整備などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の現状を把握し、本種に配慮した登山道の整備や園芸目的の採取に対するマナー啓発などの総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；埼玉県環境部自然環境課（編）、2011。

（執筆：池田博・内野秀重）



エゾキイチゴ、カナヤマイチゴ

*Rubus idaeus*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

落葉小低木。茎には刺針が密生し、短軟毛や腺毛がある。葉は3～5小葉からなり、小葉は卵状楕円形で、長さ4～7cm、鋭頭、下部の葉には白毛が密生するが、葉の裏面にはない。葉柄や羽軸にも刺針がある。托葉は葉柄に沿着する。花枝には数個の葉をつけ、先端部に数個の花をつける。花期は6～7月。花は白色、小型で長さ5～7mm、斜開し、萼裂片は先端が尾状に伸長する。果実は径10～15mm、赤熟する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の、高標高地の林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、登山道整備、食用目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、その他の要因は明らかでない。北海道などでは山地路傍に稀ではなく、皆伐地などに優占する植物であるが、東京都本土部ではもともと分布が局限されており、現状を再確認することが望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄, 1983; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



エビガライチゴ, ウラジロイチゴ

*Rubus phoenicolasius*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	NT	NT	NT	

【形態・生態】

落葉小低木。茎には鉤刺を疎生する。茎、枝、花序、葉柄に紅色の腺刺毛を密生する。葉はふつうは3小葉。花期は6～7月。花弁は小型で、極めて薄い紅紫色、倒卵形で、長さ4～5mm、直立し、萼裂片の長さの1/3ぐらいしかない。果実は球形、紅熟する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

丘陵地から山地にかけての林縁の草地、荒地などに生育する。南多摩では丘陵地から低山地にかけての明るい林縁に生育していたが、激減した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や荒地整備、また植生遷移の進行による本種が好む藪の消滅などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。山林の適切な手入れと同時に、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1983; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 池田博・内野秀重)



サナギイチゴ

*Rubus pungens*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	VU

【形態・生態】

落葉小低木。茎は細く伸長し、細い刺を散生する。葉は5～7小葉よりなり、小葉は薄く、縁に深い欠刻と鋸歯がある。花期は5～6月。花弁は白色または淡紅色、倒卵状へら形、長さ10～12mm。果実は小型、紅熟し、小核果は大きい。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の、石灰岩礫地の草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと、分布地がわずかであった上、植生遷移の進行、登山道の整備、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の現状を把握し、適切な保全対策を講じることが望まれる。

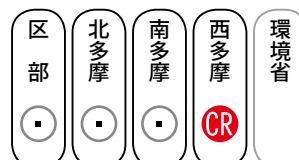
【関連文献】

鈴木和雄, 1983; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 池田博・内野秀重)



コジキイチゴ

*Rubus sumatranus*離弁花亜綱
バラ科

【形態・生態】

落葉小低木。茎は高さ1～1.5 m。茎、枝、羽軸などに暗紅色の長腺毛を密生し、さらに鉤刺を疎生する。葉は5～7小葉よりなる。花期は5～6月。花弁は倒卵形または長楕円形で、長さ約10mm。果実は長楕円状円柱形、黄熟する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地溪谷周辺からの記録がある。本種の分布する東海以西では、海岸の草地や山地の林縁、草原などに生育するが、現況を含め、東京都本土部での生育環境の実態は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行により生育環境である藪や明るい草地などが失われていることや、果実が食用に供されることから園芸採取の対象となっていることも本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。全国的にも稀少となっている。自生地の現状を把握し、適切な保全対策を講じることが望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄, 1983; 勝山輝男ら, 2011.

（執筆：池田博・内野秀重）



アイズシモツケ

Spiraea chamaedryfolia var. *pilosa*離弁花亜綱
バラ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ2 mほどになる。葉は卵形から広卵形または狭卵形、長さ3～6cm、幅1.5～3.5cm。花序は今年枝に頂生し、散房状。花は白色で、径約10mm、5～6月に咲く。花弁は円形から横に広い楕円形、長さ2.5～3.5mm、幅2.5～3.5mm、円頭、無毛。袋果は長さ約3mm、全体に白短毛がある。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、九州

【都における生育環境】

奥多摩の極めて限られた高標高地の林縁や岩礫地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されており、林道の整備や荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生育に配慮した林道の整備や園芸目的の採取に対するマナー啓発などの総合的な保全対策を講じることが望まれる。

【関連文献】

土屋守, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：池田博・内野秀重）



イワシモツケ

*Spiraea nipponica*離弁花亜綱
バラ科

【形態・生態】

落葉低木。茎はよく分かれ、高さ1～2 m。葉は多型で、狭長楕円形、倒卵形、倒卵円形、広楕円形または楕円形、長さ1～4.5cm。花序は今年枝に頂生し、散房花序またはときに複散房花序。花は白色、5～6月に咲き、径6～7mm。花弁は楕円形から円形、長さ約2mm、幅2.5～3mm。袋果は直立し、長さ3～4mm。

【分布の概要】

本州（近畿以東）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の、石灰岩質の岩礫草地に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が極めて限定され、園芸目的の採取、登山道の整備や荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対するマナー啓発や本種の生育に配慮した登山道の整備などの総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

土屋守, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：池田博・内野秀重）



カナウツギ

*Stephanandra tanakae*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EN	□	

【形態・生態】

落葉低木。高さ 2.5 m に達する。葉は三角状広卵形で先が尾状に伸びてとがり、長さ 5～11cm、浅く 3～5 裂し、欠刻状の鋭鋸歯がある。円錐花序は長さ 4～10cm。花は 5～6 月に咲く。花弁はほぼ円形、径約 2mm、縁に微毛がある。袋果は楕円形、長さ約 2.5mm、短毛を密生し、1～2 個の種子を入れる。

【分布の概要】

本州（関東、中部の太平洋側）

【都における生育環境】

南多摩の低山の落葉樹林内から林縁に生育する。近県（神奈川、山梨）の山地には多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や林道の整備などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の再確認と本種の生育に配慮した山林の手入れや林道の整備が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 渡嘉敷裕, 1993.

（執筆：池田博・内野秀重）



コキンバイ

*Waldsteinia ternata*離弁花亜綱
バラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

多年草。葉は根生し、3小葉、葉柄は長さ 5～10cm。花茎は高さ 10～20cm、1～3 花をつける。花は 5～6 月に咲き、花弁は黄色で平開し、径約 2cm で、長い柄がある。そう果は長さ 3～4 mm、白毛が多い。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩から記録されているが、現状は不明である。もともと山地上部の樹林内などに生育する種である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や園芸目的の採取が生存を脅かす主な要因であると考えられる。西多摩からの記録の再確認が必要である。

【関連文献】

植物研究グループ飯泉ゼミ（編）, 1989; 埼玉県環境部自然環境課（編）, 2011.



（執筆：池田博・内野秀重）

クサネム

*Aeschynomene indica*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	□	

【形態・生態】

一年草。高さ 50～100cm。葉は 40～60 枚の小葉をつける。花期は 8～10 月。花は淡黄色、長さ約 10mm。豆果は広線形、長さ 3～5cm、幅 5～6mm、4～8 個の小節果からなり、側面の中央にしわがある。水田や川のほとりなどの湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

主に区部や北多摩において、河川の湿地や水田、水路周辺の湿地に生育する。台地、丘陵地にかけてはほとんどが散発的に発生するのみである。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修や湿地の改変、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。必要に応じて、湿地のかく乱など本種が好む湿性裸地を創出することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

（執筆：池田博・内野秀重）



ホドイモ

*Apios fortunei*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	VU	NT	NT	

【形態・生態】

つる性の多年草。細長い地下茎があり、その所々に紡錘体あるいは球形の塊根がある。茎は2m以上に達する。小葉は5枚ときに枝先で3枚となり、頂小葉は卵形から広卵形で、長さ5～12cm、幅2～7cm。花期は7～9月。花は黄緑色、豆果は長さ6～8cm、無毛、5～6個の種子を入れる。種子は扁平な広楕円形、あずき色。日当たりの良い林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

台地、丘陵地、低山地の林縁、路傍の草地などに生育する。樹林と草地の移行帯的な環境を好む特性がある。南多摩の丘陵地では、明るく適湿な林縁などに自生地が残されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。藪的な環境に生育する場合が多く、外来種と競合することや、一般的な緑地管理で除去されてしまうことも多いと考えられ、本種の生態に配慮した管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 池田博・内野秀重)



モメンヅル

*Astragalus reflexistipulus*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	□	

【形態・生態】

多年草。高さ30～80cm。茎はやや伸びて這い、上部は斜上する。花期は6～8月。花序は長さ2～3cmで、8～15花をつける。花は黄色で、長さ12～13mm。豆果は熟して直立し、細い円柱形で湾曲し、鋭尖頭、長さ3.5～4.5cm、幅約4mm、短褐色の短伏毛がある。山麓の草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

南多摩の山地にわずかな生育の記録があったが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと自生地が限定され、山林の荒廃、林道の整備、野生動物による食害などにより絶滅したものと考えられる。全国的にも各地で減少している。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 埼玉県環境部自然環境課(編), 2011.

(執筆: 池田博・内野秀重)



カワラケツメイ

*Chamaecrista nomame*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

一年草または多年草。茎は高さ30～60cm。葉は長さ3～7cm、葉柄の上部に蜜腺が1個つく。小葉は15～35対、花期は8～10月。葉腋のやや上に1～2花をつける。花弁は黄色で倒卵形。豆果は扁平な長方形で、長さ3～4mm、幅5～6mm、伏した短毛があり、熟すと黒褐色。日当たりの良い川原、土手、道ばたなどの草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

低地の河川敷から、丘陵地、台地にかけての谷戸の草地、造成地、空き地などに生育する。多摩川とその支流の河川敷が主要な自生地として残されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

原野草地や遊休草地の開発や外来種の繁茂、不適切な草刈りなどが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。本種の発芽期から生長期は5月下旬～6月上旬の初夏であり、一般的に緑地や路傍の草刈り期と一致してしまうため、幼苗期に刈り取られてしまう場合が多く、草刈り時期を考慮する必要がある。一方では、本種が旺盛に繁茂して雑草化する場合もあり、管理条件と本種の生態について情報を整理することが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団(編), 2004; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 池田博・内野秀重)



ノアズキ, ヒメクス

*Dunbaria villosa*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	VU	VU	

【形態・生態】

つる性の多年草。小葉は広卵状菱形で、長さ幅ともに1～3cm。花期は8～9月。旗弁はほぼ円く、大型で左右不同、幅15～18mm、基部に耳形の突起がある。豆果は扁平な広線形で、長さ4.5～5.5cm、短毛を密生し、5～8個の種子を入れる。日当たりの良いやや湿った野原や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島（奄美大島）、小笠原諸島

【都における生育環境】

もともと原野湿地やその周辺、耕作地周辺の路傍などに生育するが、東京都本土部では、多摩地域の崖線緑地などに分布が局限されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の自生地は、二次的な持ち込みや逸出による国内帰化的な状態である可能性がある。本種の発芽期から生長期は5月下旬～6月上旬であり、一般的に緑地や路傍の草刈り期に一致し、幼苗期に刈り取られてしまう場合が多く、草刈り時期を考慮するなどの生活史に配慮した管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



イワオウギ, タテヤマオウギ

Hedysarum vicioides subsp. *japonicum*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草で、高さ20～80cm。小葉は11～25枚、狭卵形または狭楕円形で、長さ1～3cm、幅4～10mm、裏面に伏した白軟毛がある。花期は6～8月。花序は多数の花をつけ長さ3～8cm。花は長さ12～20mm。節果は広線形、長さ2～4cm、幅4～6mm、2～4個の小節果からなり、短柄をつけ、縫合線に幅狭い翼があり、翼の縁に不規則な鋸歯がある。山地の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の尾根草原から岩礫地にわずかに自生地がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である岩礫地の自然崩壊、園芸目的の採取、登山道のオーバーユースによる踏みつけ、植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。限られた自生地を総合的に保全し、登山や園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄(編), 1986; 埼玉県環境部自然環境課(編), 2011.

(執筆: 池田博・内野秀重)



レンリソウ

*Lathyrus quinquenervius*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。直立して高さ80cmに達する。茎は三稜形で、幅1～2mmの2枚の翼がある。小葉は2～6枚、狭長楕円形で、長さ5～10cm、幅4～7mm、巻きひげは分枝しない。花期は5～7月。花は紫色で長さ1.5～2cm、総状花序に4～8花がつく。豆果は広線形、長さ3～4.5cm、幅約0.5cm。湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の河川の湿地や丘陵地の谷戸の湿地に自生地が残されている。北多摩の現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や斜面草地の改変や、管理放棄による高茎草地への遷移が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。日照の確保と同時に、冬季の草刈りなど適切な時期の草地管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



キハギ

*Lespedeza buergeri*離弁花亜綱
マメ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ 2m 以上になる。頂小葉は卵形または長楕円形、長さ 2～4cm、幅 1～3cm。花期は 6～9 月。花序は長さ 2～7cm。花は長さ約 10mm で、淡黄色、翼弁は紫紅色。節果は長楕円形、長さ 1～1.5cm。日当たりの良い丘陵地や低山地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

東京都本土部各地の台地、南多摩の丘陵地から西多摩の山地にかけての林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である林縁の自然斜面の造成や整備、また植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。法面緑化資材として導入される多種のハギ類なども、在来種キハギの生育環境を圧迫している可能性がある。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 池田博・内野秀重)



イヌハギ

*Lespedeza tomentosa*離弁花亜綱
マメ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ 150cm に達する。全体に黄褐色の軟毛がある。頂小葉は長楕円形、長さ 3～6cm。花期は 7～9 月。花は帯黄白色、長さ 8～10mm、長い総状花序に多数つく。閉鎖花はやや多数が葉腋に集まってつく。節果は卵形、長さ 4～5mm、閉鎖花からできたものはやや小型。川原や海に近い日当たりの良い砂地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

芝草地に生育し、河川敷などの強光下の厳しい環境や法面草地などの管理頻度が高い草原に生育する。区部や多摩地域の河川敷に自生地が残されているのみである。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の河川改修や管理放棄による植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生活史に合わせた適正な草地管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 池田博・内野秀重)



マキエハギ

*Lespedeza virgata*離弁花亜綱
マメ科

【形態・生態】

落葉低木。茎は高さ 40～60cm。頂小葉は長楕円形で、長さ 1～2cm。花期は 8～9 月。花は淡紅紫色で白色を帯び、長さ 4～5mm、短い総状花序に 2～5 花つく。閉鎖花は数個が葉腋に束生する。節果は広卵形、ほぼ無毛、網状脈が目立ち、長さ約 4mm。丘陵地や低山地の日当たりの良い草原に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の台地から丘陵地、低山地の林縁、草地、路傍に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の宅地開発、踏みつけ、管理放棄による植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。群落の盛衰が激しい植物であり、個体としても個体群としての健全性維持を考える必要がある。

【関連文献】

多摩市文化振興財団 (編), 2004; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 池田博・内野秀重)



タンキリマメ

*Rhynchosia volubilis*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	■	■	

【形態・生態】

つる性の多年草。茎は長さ 2m 以上に達する。小葉は菱状倒卵形から広倒卵形。頂小葉は長さ 3～6cm、幅 2～5cm。花期は 7～10 月。花序は短柄があり、5～20 花をつけ、長さ 2～4cm。豆果は扁平な楕円形で、長さ 12～13mm、幅約 8mm、紅熟し、黒色で光沢のある種子を 2 個入れる。海岸や平地から低山地の草原、林縁などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

東京都本土部では、1960 年代までは区部南西部の林縁原野に自生していたことが記録されているが、現在は区部の臨海地域でわずかに報告されている程度であり、北多摩も記録はあるが現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

過去の記録の情報に基づいて、本種の自生の有無を再確認することが望まれる。

【関連文献】

東京府土木部（編）、1937；檜山庫三、1965。

（執筆：池田博・内野秀重）



ヨツバハギ

*Vicia nipponica*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。高さ 30～80cm。葉は 4～8 枚の小葉を対生してつけ、葉軸の先端は巻きひげとなるか、小突起に終わる。小葉は楕円形から広楕円形で、長さ 2.5～5cm、幅 1～3.5cm。密に 5～15 花をつける。花は紅紫色または青紫色で、長さ 10～12mm。豆果は狭長楕円形、長さ 3～4.5cm、幅 6～7mm で、3～5 個の種子を入れる。低山地や山麓の草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩では河川高水敷周辺の土手草地にわずかな自生地がある。定期的な草刈りが維持されてきた日当たりの良い草地に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が極めて限定され、河川改修などの草地の改変、または管理放棄が直ちに本種の生存を脅かす可能性がある。自生地は本種以外にも多くの希少種が生育する良好な草地環境であることから、混生する希少種の生態も考慮した草地管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京府土木部（編）、1937；檜山庫三、1965。

（執筆：池田博・内野秀重）



オオバクサフジ

*Vicia pseudo-orobus*離弁花亜綱
マメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	VU	VU	VU	

【形態・生態】

つる性の多年草。長さ 80～150cm。葉は長さ 7～20cm、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉は互生し、4～10 枚、卵形で、長さ 3～5cm、幅 1.5～3cm。花期は 8～10 月、総状花序に多数の花をつけ、花は青紫色、長さ 13～15mm。豆果は狭長楕円形で、黒色の数個の種子を入れる。山野の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

山地の草原および台地から丘陵地にかけての谷戸の斜面や土手など日当たりの良いススキ、チガヤ草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の造成や改変、草地の管理放棄などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の定期的な草刈りが必要であるが、本種開花期前の 8 月下旬以降の草刈りは影響が大きい。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；日野市環境情報センター（編）、2008。

（執筆：池田博・内野秀重）



カントウミヤマカタバミ

Oxalis griffithii var. *kantoensis*離弁花亜綱
カタバミ科

【形態・生態】

多年草。高さ 10cm ほど。地下茎は太く、葉柄が残る。葉は 1 株に数枚つき、葉身は 3 裂し、裂片は倒心形。花は白色。花弁は 5 個。さく果は紡錘形。基本種のミヤマカタバミとは、葉の裏の毛が少なく、果実はやや小型であることで区別できる。花期は 3～4 月。丘陵地の溪谷沿いの樹林内の陰湿地に群生する。

【分布の概要】

本州（関東南西部、伊豆半島、東海東部）

【都における生育環境】

北多摩から南多摩、西多摩の低地に分布し、主に植林地に見られ、所によって個体数が多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

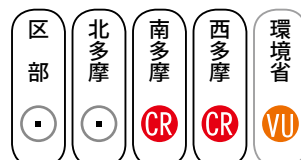
【関連文献】

鈴木和雄（編），1986；東京都高尾自然科学博物館（編），1989。

（執筆者：奥田重俊）



オオヤマカタバミ

*Oxalis obtriangulata*離弁花亜綱
カタバミ科

【形態・生態】

多年草。ミヤマカタバミに似るが、全体が大型である。葉の裂片が切形で、両側がとがる。花のすぐ下に一对の苞がある。花は径 2.5～3.5cm。さく果は円柱形で長さ 2～3cm。花期は 4～5 月。冷温帯の樹林内のやや湿った場所に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の二次林や植林地に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や樹林の管理放棄による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。間伐などの適切な管理を行うことや園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら，1974；鈴木和雄（編），1986。

（執筆者：奥田重俊）



ゲンナイフウロ

Geranium eriostemon var. *reinii*離弁花亜綱
フウロソウ科

【形態・生態】

多年草。高さ 30～50cm。全体に開出する粗毛がある。葉は五角形から七角形で浅く裂け、縁に鋸歯がある。花は薄紅色で径 2.5～3cm。果実は長さ 3cm。花期は 6～8 月。山地から亜高山帯にかけての明るい草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（伊吹山以北）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地に記録はあるが、最近では記録がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取やシカの食害の影響などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うこと、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄，1984；鈴木和雄（編），1986。

（執筆者：奥田重俊）



タチフウロ

*Geranium krameri*離弁花亜綱
フウロソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	EN	EN	

【形態・生態】

多年草。高さ 60～80cm。茎はほぼ直立する。葉は長い柄があり、深く 5 裂する。花は薄紅色で径約 2.5cm。花弁に濃色の脈がある。花の柄は果実の時に反曲する。花期は 8～9 月。山地の明るい草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部（落合）に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。北多摩（調布、清瀬）などにも古い記録はあるが、現状は不明である。南多摩、西多摩の草地に自生の報告がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの食害の影響も検討することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 多摩市文化振興財団（編）, 2004.



（執筆：奥田重俊）

アサマフウロ

*Geranium soboliferum*離弁花亜綱
フウロソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EN	NT

【形態・生態】

多年草。高さ 60～80cm。葉は深く 5～7 裂し、短い伏毛がある。花は濃い紅紫色、濃い色の脈が目立つ。花弁の基部には白毛を密生する。小花柄は果時に直立する。花期は 8～9 月。山地高原の湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州（中部）

【都における生育環境】

奥多摩の草地のみに記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うこと、シカの食害の影響も検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）, 1986.



（執筆：奥田重俊）

コフウロ

*Geranium tripartitum*離弁花亜綱
フウロソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EN	

【形態・生態】

多年草。高さ 30～50cm。茎は基部が倒れ、上部で枝分かれする。葉柄は長く、葉身は 3 裂する。花は白色 5 弁で径 1.5cm。普通 2 個ずつつく。萼片は有毛。果実は細長い。花期は 8～9 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の二次林に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。間伐や下草刈りなどを行うこと、また、自生地が林縁の場合は草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.



（執筆：奥田重俊）

マツバニンジン、マツバナデシコ

*Linum stelleroides*離弁花亜綱
アマ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	□	CR

【形態・生態】

一年草。全体無毛。茎は円柱形で高さ 40～80cm あり、上部で 2 又する。葉は互生、狭長楕円形で長さ 1～3cm。花は薄紅色で径 1cm。花弁は倒卵形で長さ 5～6mm。さく果は球形、径 3～4mm。種子は褐色で光沢がある。花期は 8～9 月。草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩（多摩丘陵）に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ニシキソウ

*Chamaesyce humifusa*離弁花亜綱
トウダイグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	VU	VU	

【形態・生態】

一年草。全体が繊細。茎は地を這い、2 又分岐する。葉はゆがんだ卵形で、表面に斑紋明瞭ではない。杯状花序は小型で淡紅色。さく果は無毛であり、類似種のコニシキソウと区別できる。花期は 6～9 月。耕作地、路傍などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の報告はあるが、比較的稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や農地整備、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ノウルシ

*Euphorbia adenochlora*離弁花亜綱
トウダイグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	□	□	□	NT

【形態・生態】

多年草。高さ 40～50cm。傷をつけると乳液がでる。葉は互生。長楕円形で円頭、長さ 5～8cm、質は軟らかい。上部では輪生する。花序は密に出る。花序の下部の苞葉は鮮やかな黄色で、花弁のように見える。さく果は径 6mm、いぼ状の突起がある。花期は 4～5 月。低地の湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

荒川付近の沖積地や久我山に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全すること、また草刈りなどの管理を継続し、早春季の光条件を確保するなどの対策を実施することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 本田正次ら, 1972.

(執筆: 奥田重俊)



マルミノウルシ

*Euphorbia ebracteolata*離弁花亜綱
トウダイグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	CR	NT

【形態・生態】

多年草。別名ベニタイゲキ。地下茎は太い。高さ 40～50cm。長い白毛がまばらにある。さく果は平滑無毛である。雄花の基部に鱗片がない。さく果の表面にいぼ状の突起がない。花期は 5 月。低地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地などの湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことにより、本種の生育に適した湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



センダイタイゲキ

*Euphorbia sendaica*離弁花亜綱
トウダイグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	○	○	CR	NT

【形態・生態】

多年草。地下茎は長い。高さ約 40cm。全体無毛。葉は互生し、長さ約 6cm あり、まばらに出る。花序もまばらにつく。花序の腺体は半月状で頂部で凹入する。さく果は平滑。花期は 5 月。低地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以北)

【都における生育環境】

区部 (久我山、石神井) の湿地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。西多摩の現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 檜山庫三, 1965.

(執筆: 奥田重俊)



オオバノキハダ, オオバキハダ

Phellodendron amurense var. *japonicum*離弁花亜綱
ミカン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	CR	

【形態・生態】

落葉高木。葉は対生、複葉で 9～15 個の小葉がある。葉の下面、脈上に開出する細毛がある。花序にも細毛がある。果実は球形で径 1cm。花期は 6 月。山地の斜面下部に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東、中部)

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地に点在して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの管理を行うこと、実生個体の保育をすることなどが望ましい。

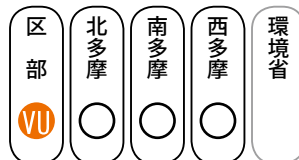
【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



ヒメハギ

*Polygala japonica*離弁花亜綱
ヒメハギ科

【形態・生態】

多年草。茎は地上を這い、長さ 10 ～ 20cm。葉はまばらにつく。花は紫色。下の花弁 1 個が細裂する。さく果は扁平。種子は長さ 2.5mm、白毛があり、仮種皮がつく。花期は 4 ～ 6 月。明るい芝草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北海道、本州（近畿以北）

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うこと、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

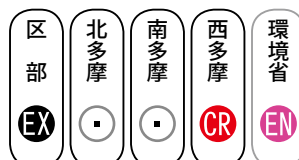
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 多摩市文化振興財団（編）, 2004.

（執筆：奥田重俊）



ヒナノキンチャク

*Polygala tatarinowii*離弁花亜綱
ヒメハギ科

【形態・生態】

一年草。高さ 4 ～ 12cm。茎は基部から分枝する。葉は薄く、卵円形、長さ 1 ～ 3cm、縁に毛がある。茎や枝先に多数の花が総状につく。花は小型薄紫色。花弁は 3 個で下の 1 個の先が房状になる。さく果は扁円形。花期は 7 ～ 10 月。草原や芝草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の草地にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変に伴う草地の消失などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



ドクウツギ

*Coriaria japonica*離弁花亜綱
ドクウツギ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ約 1.5 m。雌雄同株。葉は対生、全縁、長さ 6 ～ 8cm。花はそう状花序につく。雄しべ 8 ～ 10 個。花弁は肥大して果実を包む。果実は多汁で赤色～紫黒色に変わる。有毒である。花期は 5 月。一般に崩壊地など森林の発達しにくい場所に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の二次林に生育する。区部や北多摩では絶滅したのと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。また、かつて本種は有毒植物として除去されてきた経緯がある。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 菱山忠三郎, 1981.

（執筆：奥田重俊）



ツリフネソウ

*Impatiens textorii*離弁花亜綱
ツリフネソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	○	○	

【形態・生態】

一年草。高さ 40～80cm。全体が多汁である。葉身は菱形でへりに鋸歯が目立つ。花冠は紅紫色で斑点があり、径 2.5cm。後半は距になり渦巻き状になる。さく果は披針形、ふれるとはじけて種子を飛ばす。花期は 7～10 月。低地の河川沿いの湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

低地の河川沿いの湿地に見られるが、区部や北多摩では減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地である河川敷や谷戸の湿地などを保全することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 本田正次ら, 1972.



(執筆: 奥田重俊)

イワウメヅル

*Celastrus flagellaris*離弁花亜綱
ニシキギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	EN	NT	

【形態・生態】

つる性の落葉低木。茎は地表を這い、木の幹などにからんで伸長する。托葉は反曲するカギ状のとげとなる。葉は互生し、卵形で基部は細まり、径 2～5cm。花は 1～3 個葉腋につく。果実は球形で径約 6mm。花期は 6 月。落葉樹林や植林地などに生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩では谷沿いの植林地などに群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による生育環境の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。下草刈りなどの林床管理を行うことや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

オオツルウメモドキ, シタキツルウメモドキ

*Celastrus stephanotifolius*離弁花亜綱
ニシキギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	EN	VU	VU	

【形態・生態】

つる性の落葉低木。雌雄異株。葉は互生、円形または広楕円形で基部がくさび形になる。若い枝、葉の下面脈上、花序などに短い剛毛がある。葉腋に数個の花をつける。花は淡緑色。さく果は球形。花期は 5～6 月。樹林の林縁や藪に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地から山地に点在する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や植生遷移の進行による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

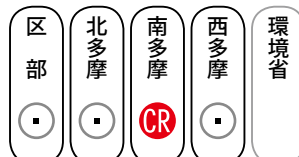
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

モクレイシ

*Microtropis japonica*離弁花亜綱
ニシキギ科

【形態・生態】

常緑低木。雌雄異株。葉は対生、卵形で全縁、革質で厚い。花は集散状につき、5数性、緑黄色、径5mm。花冠の裂片は円形。さく果は楕円形、長さ1.5～2cm、2片に裂開する。種子は赤い。花期は3～4月。常緑樹林に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部、伊豆半島）、九州（南部）、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地にごく稀に残存する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1989.

(執筆: 奥田重俊)



ツゲ, アサマツゲ

Buxus microphylla var. *japonica*離弁花亜綱
ツゲ科

【形態・生態】

常緑の低木～小高木。葉は対生または互生で普通全縁。葉は長さ1～3cmで厚く光沢がある。花に雄花と雌花の別がある。花弁はない。さく果は球形。種子は黒色。花期は3～4月。風衝地、石灰岩地などの森林の発達しにくい場所に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州（屋久島）

【都における生育環境】

西多摩に局所的に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全すること、自生地情報の公表を避けること、競合する植物を除去することが望ましい。

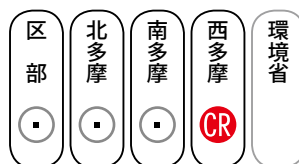
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ミヤマクマヤナギ

*Berchemia pauciflora*離弁花亜綱
クロウメモドキ科

【形態・生態】

つる性の落葉低木。高さ2～3m。葉は互生、卵形または楕円形で長さ2.5～4cm、全縁。花序は長さ1～2.5cm。花は10個ほどつき、径3mm。果実は狭い楕円形で、長さ7～8mm。花期は8月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

西多摩の山地の林縁に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヨコグラノキ

*Berchemiella berchemiifolia*離弁花亜綱
クロウメモドキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

落葉低木～小高木。葉は互生、長楕円形で長さ6～13cm、下面は白味を帯び、軟毛を散生する。側脈は鋭角に出る。花は黄色、径3～3.5mmで集散花序につく。果実は長楕円形、長さ7～8mm、暗紅色になる。花期は6月。石灰岩地に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城、新潟以西）、四国、九州（宮崎）

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩地に、稀に生育する。

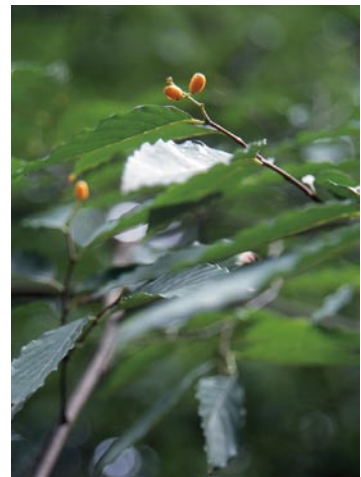
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



クロカンバ

*Rhamnus costata*離弁花亜綱
クロウメモドキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

落葉低木。葉は互生し、倒卵状長楕円形、脈が平行して斜上し、微細な鋸歯がある。葉の下面脈上には黄褐色の軟毛がある。花は数個腋生し、黄緑色。果実は径8～9mm。花期は5～6月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の二次林に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



クロツバラ

Rhamnus davurica var. *nipponica*離弁花亜綱
クロウメモドキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	

【形態・生態】

落葉低木。雌雄異株。葉は互生で狭い楕円形。花は小枝の下部に数個腋生する。花は黄緑色、径4～5mm。果実は球形、径6～8mm、黒く熟す。核は2個。花期は5月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北）

【都における生育環境】

区部では志村、赤羽などに古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。南多摩や西多摩の二次林内などに生育するが稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

（執筆：奥田重俊）



シナノキ

*Tilia japonica*離弁花亜綱
シナノキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	CR	VU	VU	

【形態・生態】

落葉高木。高さ 10m 以上。葉は互生で普通全縁。葉はゆがんだ円心形。花序に 1 個の葉状苞がある。花は長い柄の先につき、黄色。花弁 5 個、雄しべ多数。果実には短い軟毛を密生する。花期は 7～8 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

主に南多摩や西多摩の山地の自然林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、生育環境が二次林の場合は、幼木の保護や下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編），1967；畔上能力ら，1974。

（執筆者：奥田重俊）



チョウセンナニワズ

Daphne pseudomezereum var. *koreana*離弁花亜綱
ジンチョウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	VU

【形態・生態】

落葉低木。オニシバリの変種。全体無毛。枝は灰茶色。葉は長楕円形。葉は冬に落葉する。花は数個が葉腋に集まってつく。花は淡黄緑色、花弁 4～5 個。液果は楕円形、長さ約 8mm。花期は 3～4 月。石灰岩地などの森林の発達しにくい場所に生育する。

【分布の概要】

本州（秩父山地、中部）

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩地などに見られる。

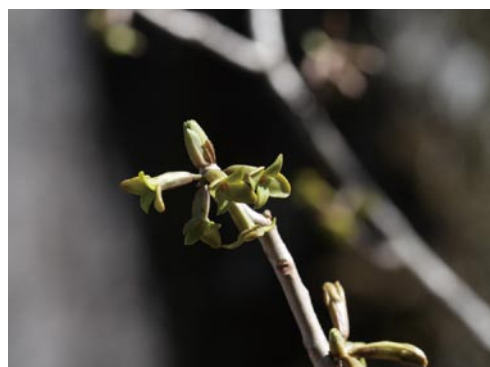
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄，1984；鈴木和雄（編），1986。

（執筆者：奥田重俊）



コガンピ

*Diplomorpha ganpi*離弁花亜綱
ジンチョウゲ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	

【形態・生態】

落葉低木。葉は長楕円形、下面は淡色。上方で多数の枝を出し、数個の花を密につける。萼は淡紅色。長さ 7～8mm。果実は乾果で紡錘状、長さ約 4mm。花期は 8 月。山地の草原や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩などの草地に生育するが極めて少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、選択的な除草などを行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編），1967；畔上能力ら，1974。

（執筆者：奥田重俊）



ニッコウナツグミ, ツクバグミ

Elaeagnus montana var. *ovata*離弁花亜綱
グミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	VU	

【形態・生態】

落葉小高木。マメグミの変種。葉は卵状楕円形、縁は波打つ。下面に白い鱗片を密生する。花は葉腋に1～3個つく。萼筒は長さ6～7mm。果実は卵状楕円形。花期は6～7月。果期は7～8月。山地の落葉樹林や低木林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東南北部、関東、中部）

【都における生育環境】

奥多摩の二次林に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

キバナノコマノツメ

*Viola biflora*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EN	

【形態・生態】

多年草。地下茎は短く這う。茎は斜上し、高さ5～20cm。葉は腎心形で鮮緑色。花柄は茎の葉腋から出て長さ2～5cm。花は薄黄色、唇弁に褐色の条線がある。距は短い。花期は6～7月。亜高山の湿った場所に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、四国、九州（屋久島）

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。シカ防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

ヒゴスミレ

Viola chaerophylloides var. *sieboldiana*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	DD	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。ナンザンスミレの変種。葉は3全裂し、さらに2全裂する。裂片は線形である。果期には長さ3～4cmの葉が出る。花は白色。花弁は長さ10～15mm。唇弁には紫条がある。花期は4～5月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

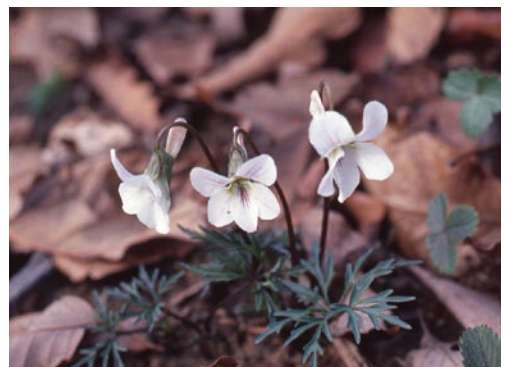
南多摩や西多摩の二次林や草地に生育するが、少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や園芸目的の採取、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

サクラスミレ

*Viola hirtipes*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。高さ 8～15cm。全体に長い軟毛がある。葉柄は長く、有毛。葉身は三角状長卵形。花は径 2.5cm と大型、淡紅紫色、側弁の基部に毛が密生する。花期は 5～6 月。山地の明るい樹林内から草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地尾根部の草地にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



イブキシミレ

Viola mirabilis var. *subglabra*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	EX	CR	□	

【形態・生態】

多年草。全体無毛。根茎は這う。葉は円心形。花は淡紫色である。葉柄は花後伸長して 15～30cm になり、長い柄のある葉をつける。さく果は閉鎖花につく。花期は 4 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の谷部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



シロスミレ, シロバナスミレ

*Viola patrinii*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

多年草。高さ 10～15cm。葉は直立し、三角状披針形で、翼がある。花は径 2cm、白色で唇弁中心に紫色の条線がある。花期は 4～5 月。山地の湿った草地や明るい樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

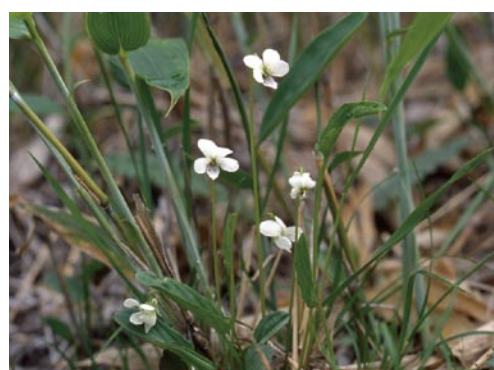
西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

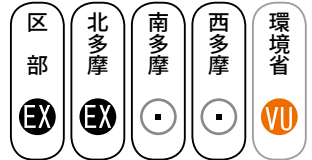
【関連文献】

鈴木和雄, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

タチスミレ

*Viola raddeana*離弁花亜綱
スミレ科

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 30cm、ときに 1 m に達する。葉は三角状披針形。托葉は大きい。花の柄は長さ 5 ～ 10cm。花は白色または淡紫色、小型。花弁は長さ 10mm。花期は 5 ～ 6 月。河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東）、九州（大分、宮崎、鹿児島）

【都における生育環境】

成増などに古い記録があり、河川敷の湿地に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

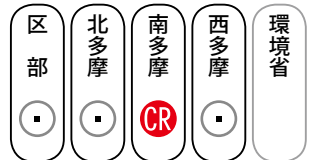
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1982b.

（執筆：奥田重俊）



ナガハシスミレ

Viola rostrata var. *japonica*離弁花亜綱
スミレ科

【形態・生態】

多年草。別名テングスミレ。高さ 10 ～ 20cm。葉は濃い緑色、やや厚くて光沢がある。花は淡紫色、径 1.5cm。距は長さ 1.5 ～ 2.5cm ある。花期は 4 ～ 5 月。山地の明るい樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道（南部）、本州（東北から中部の主に日本海側）

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

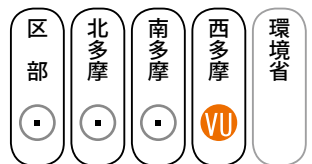
【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982b.

（執筆：奥田重俊）



ミヤマスミレ

*Viola selkirkii*離弁花亜綱
スミレ科

【形態・生態】

多年草。地下茎は長く、花後細長い匍枝を出す。葉は卵円形、基部は心形で粗い鋸歯があり、やや薄い。花は淡紅紫色。花弁は細く、長さ 12 ～ 15mm。花期は 5 ～ 6 月。山地帯の明るい樹林内から林縁に極めて稀に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が自然林などの保全された地域にあるため、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、状況に応じて草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



シコクスミレ

*Viola shikokiana*離弁花亜綱
スミレ科

【形態・生態】

多年草。地下茎は伸長する。葉は長い柄がある。葉身は卵円形で基部は心形、先端は短くとがり、長さ2～4cm。葉の表面は濃い緑色で葉脈が目立つ。花は白色で紫色の条線がある。花弁の幅は狭い。花期は4～5月。山地の落葉樹林に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの管理を行うことが望ましい。

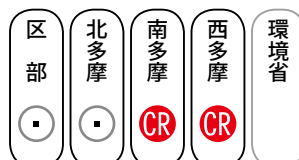
【関連文献】

鈴木和雄, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



エゾノアオイスミレ

*Viola teshioensis*離弁花亜綱
スミレ科

【形態・生態】

多年草。別名はマルバケスミレ。数枚の葉を束生する。葉は卵形で先はとがる。花は薄紫色、距は短い。アオイスミレに似るが、花は正開し、越冬葉はない。花期は4～5月。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の尾根部にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、下草刈りなどの林床管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

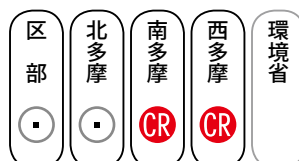
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ゲンジスミレ

Viola variegata var. *nipponica*離弁花亜綱
スミレ科

【形態・生態】

多年草。根茎は細く、数枚の葉を束生する。葉は長さ3～10cmの柄があり、葉身は円心形、やや肉厚で濃い緑色で白い斑点がある。下面は紫色を帯びる。花は紫色で、径1.8～2.5mm。花期は5月。山地の草地や明るい樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北）、四国

【都における生育環境】

奥多摩の尾根部の草地に稀に生育する。南多摩にも記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による日照不足や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



シハイスミレ

Viola violacea var. *violacea*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。無毛。根茎は細く、数枚の葉を束生する。葉は三角状卵形、長さ3～10cm、下面は紫色を帯びる。葉身は円形または腎円形で、花は濃い紅紫色、径1.8～2.5mm。花期は4月。丘陵地の路傍や明るい樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982b.

（執筆：奥田重俊）



マキノスミレ

Viola violacea var. *makinoi*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	VU	

【形態・生態】

多年草。シハイスミレの変種。根茎は細く、数枚の葉を束生する。葉は長さ3～10cmの柄があり、葉身は円形。花は紅紫色で、花弁は長さ8～10mm。側片は無毛。花期は4～5月。丘陵地の路傍や明るい樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（兵庫以北の主に日本海側）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.

（執筆：奥田重俊）



ヒメスミレサイシン

*Viola yazawana*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。根茎はやや太く、前年の葉柄が残存する。葉は花より遅れて開き、葉身は広い卵心形、長さ3～4cm。花はやや小型。花弁は長さ8～13mm、白色で唇弁に紫色の条線がある。距は短い。花期は6月。亜高山の針葉樹林に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



ヒカゲスミレ、エゾコスミレ

*Viola yezoensis*離弁花亜綱
スミレ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	CR	○	○	

【形態・生態】

多年草。葉は長さ3～6cm、葉身は円形または腎円形で下面脈上に開出した毛がある。夏の葉は長さ10cmになる。花はやや大型、白色である。花期は4～5月。山地の沢沿いの林下に生え、小群落を構成する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

平野部の谷地形から山地の沢沿いの林下まで見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ミゾハコベ

Elatine triandra var. *pedicellata*離弁花亜綱
ミゾハコベ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	

【形態・生態】

一年草。全体が軟弱。茎は地に伏し、長さ3～10cm。葉は対生、長楕円形。花は薄紅色、径1.8～2.5mm、果実は扁球形。花期は6～8月。低地の湿地やため池の縁などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の沖積地に生育する。

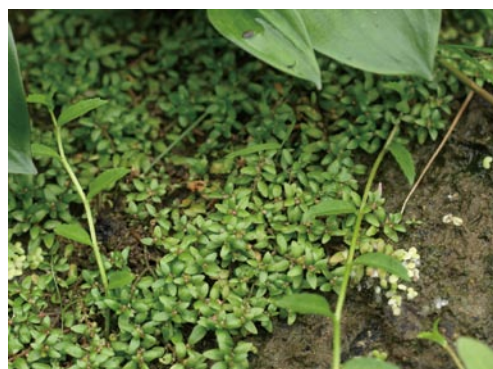
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



ゴキヅル

*Actinostemma tenerum*離弁花亜綱
ウリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	CR	CR	

【形態・生態】

一年草。茎は繊細でつる状になる。葉身は狭い三角状心形。花は小型、黄緑色。果実は卵形でとげ状の突起があり、熟すと上下に割れ、2個の種子を現す。花期は8～12月。川沿いの草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩川沿いの河畔湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



ミヤマニガウリ

*Schizopepon bryoniifolius*離弁花亜綱
ウリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

一年草。茎は細く繊細で数枚の葉を束生する。上部にまばらな毛がある。葉身は薄く、円心形で先はとがる。巻きひげは2又する。花は白色で径5mm。花弁は5深裂する。果実はゆがんだ卵形、径約1cm。種子は1～3個ある。花期は8～9月。山地の川沿いの草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

西多摩の川沿いに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や河川沿いの草地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



エゾミソハギ

*Lythrum salicaria*離弁花亜綱
ミソハギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	○	DD	

【形態・生態】

多年草。全体に突起状の毛をつける。高さ50～100cm。葉は対生、葉身の基部は円形で半ば茎を抱く。花は穂状に密につく。花は紅紫色、萼の附属体は直立し、長さ1.5mm。花期は8月。低地の湿地や水田跡などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の低地の河川沿いの湿地に生育する。千住と国分寺に古い記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1982b.

(執筆: 奥田重俊)



ミズマツバ

*Rotala mexicana*離弁花亜綱
ミソハギ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	CR	CR	●

【形態・生態】

一年草。高さ3～10cm。基部から分枝して地面を這う。葉は3～4個輪生、線形で長さ6～10mm。花は葉腋につき、帯紅色。萼筒は球形で花弁はない。花期は8～9月。耕作を停止した水田などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の水田付近の湿地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

農地整備や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、水質管理などを行うこと、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ (編), 1995; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.



(執筆: 奥田重俊)

ヒシ

*Trapa japonica*離弁花亜綱
ヒシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	●	DD	

【形態・生態】

一年草。水面下の茎には羽状の根がある。葉は茎の頂きに叢生し、柄の一部がふくれる。葉身は菱形で光沢があり、下面に軟毛がある。花は白色で小型、径 10mm。果実は骨質、開出する刺がある。花期は 6～10 月。池沼に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部と西多摩に残存している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや自生地の水質管理、また一年草のため種子を確保し増殖することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; みずもと自然観察クラブ (編), 1995。



(執筆: 奥田重俊)

ヤナギラン

*Chamaenerion angustifolium*離弁花亜綱
アカバナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	EX	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 1～1.5 m。葉は互生、葉身は披針形、長さ 5～20cm。裏面は粉白色を帯びる。花は総状花序につき、紅紫色、径 2～3cm。花弁 4 個、雄しべは 8 個ある。さく果は長さ 8～10cm になり、長い毛のある種子を飛ばす。花期は 7～8 月。山地の二次草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州 (中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。シカの防護柵設置を検討することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986。



(執筆: 奥田重俊)

ミズユキノシタ

*Ludwigia ovalis*離弁花亜綱
アカバナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	EX	

【形態・生態】

多年草。無毛で軟弱。茎は這い、長さ 20～40cm。葉は互生、卵円形で全縁。花は単生し、柄はない。花は薄黄緑色。さく果は楕円形、長さ 4～5mm。花期は 7～10 月。低地の池の縁などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の沖積地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004。



(執筆: 奥田重俊)

ミズキンバイ

Ludwigia peploides subsp. *stipulacea*離弁花亜綱
アカバナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	●	●	●	VU

【形態・生態】

多年草。長い地下茎がある。茎はやわらかく、高さ 25 ～ 50cm。葉は長披針形、基部に一对の腺体がある。花は 3 ～ 4cm の柄があり、黄色で径 2 ～ 2.5cm。さく果は円柱形、長さ 2 ～ 2.5cm。花期は 7 ～ 9 月。低地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982b; 角野康郎, 1994.

(執筆: 奥田重俊)



タチモ

*Myriophyllum ussuriense*離弁花亜綱
アリノトウグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	●	●	NT

【形態・生態】

多年草。茎は水中で伸長し、長さ 5 ～ 20cm。葉は 3 ～ 4 個輪生し、羽状に深く裂ける。雌雄異株。雄花は 4 花弁。雌花はつぼ状。越冬芽を小枝の先端につける。花期は 6 ～ 9 月。低地のため池や湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

武蔵野台地の低地の湿地に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 東京薬科大学植物研究部 (編), 1967.

(執筆: 奥田重俊)



フサモ

*Myriophyllum verticillatum*離弁花亜綱
アリノトウグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	●	DD	

【形態・生態】

多年草。茎は水中にあり、軟らかい。葉は輪生、羽状に分裂する。花は水上葉の腋につき、下部に雄花、上部に雌花をつける。雌花はつぼ状。葉腋に越冬葉をつける。花期は 5 ～ 7 月。低地のため池や湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道 (西南部)、本州、四国、九州

【都における生育環境】

武蔵野台地の低地に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。西多摩に記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 本田正次ら, 1965.



(執筆: 奥田重俊)

ミヤマウド

*Aralia glabra*離弁花亜綱
ウコギ科

【形態・生態】

多年草。茎は細長く無毛で、高さ 80 ～ 100cm になる。葉は有柄、3 出 2 ～ 3 回羽状。小葉は卵心形、質薄く、下面脈上に短い縮れた毛がある。枝は紫を帯びる。花は散形花序につく。花弁は緑紫色。液果は球形で紫緑色。花期は 6 ～ 8 月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

西多摩の山地のやや湿った林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



イワニンジン（ノダケモドキを含む）

*Angelica hakonensis*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。高さ 60 ～ 120cm。葉は長さ 3 ～ 10cm の柄がある。2 回 3 出の複葉で、小葉の幅は狭い。花は緑白色。果実は楕円形、長さ約 6mm。花期は 8 ～ 9 月。小葉がまばらにつくものをノダケモドキとして区別する。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地を中心に二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ハナビゼリ

*Angelica inaequalis*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。高さ 60 ～ 80cm。葉身は円形または腎円形、粗い鋸歯があり、小葉の先端はとがる。花序の枝は長さ不同。花は白色。果実は広楕円形で広い翼がある。花期は 5 月。山地の湿った樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の各地に記録はあるが、多くは山地の溪谷付近に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



エキサイゼリ

*Apodicarpum ikenoi*離弁花亜綱
セリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	●	●	NT

【形態・生態】

多年草。高さ 30cm。根葉は有柄、茎葉は 3～5 個の卵形の小葉からなる。花序は小さく、茎の上部に散形の花序を出す。花は 4～8 個の柄につき白色。果実は楕円形、長さ 2～3mm。花期は 5～6 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、愛知）

【都における生育環境】

荒川流域の低地に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

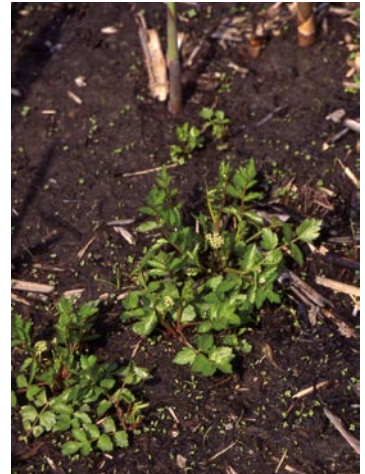
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1982b.

（執筆：奥田重俊）



ミシマサイコ

*Bupleurum falcatum*離弁花亜綱
セリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	EX	EX	EX	VU

【形態・生態】

多年草。薬用植物。高さ 40～70cm。茎につく葉は広線形で、平行脈がある。散形花序は大形で多数の花をつける。花は黄色。果実は卵球形。花期は 8～10 月。山地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩丘陵以西に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などにより、絶滅したものと考えられる。また、薬用目的の採取も原因の一つであると考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 畔上能力ら, 1974.

（執筆：奥田重俊）



ホタルサイコ

Bupleurum longiradiatum var. *breviradiatum*離弁花亜綱
セリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	EN	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。高さ 40～100cm。葉は広い披針形で、基部は円く茎を抱く。下面は粉白色。小散形花序に 10～15 花をつける。花は黄色。果実は長さ 3～4cm。花期は 8～10 月。山地の草原や岩の隙間に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地や山地の草原に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



ドクゼリ

*Cicuta virosa*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。有毒植物。高さ 60～100cm。根茎は太く、緑色で節がある。全体無毛。葉は羽状。花は白色。果実は長さ 2.5mm で縦に筋がある。花期は 6～8 月。山地の河辺の岸や流路に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の低地に記録がある。石神井、洗足池などに古い記録はあるが絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

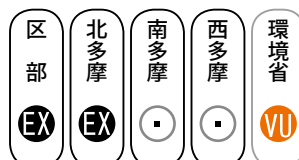
【関連文献】

檜山庫三, 1965; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



シムラニンジン

*Pterygopleurum neurophyllum*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。高さ 80～120cm。全体無毛。葉は細い。花は白色。果実は平滑で長さ 3.5～4mm、分果の隆条は太く鋭く隆起する。花期は 8～9 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州(関東)、四国、九州

【都における生育環境】

荒川流域の低地の志村、尾久、千住、赤羽に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1982b.

(執筆: 奥田重俊)



ムカゴニンジン

*Sium sisarum*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。高さ 30～80cm。葉は細い。上部の葉は 3 小葉。根元や葉腋にむかごができる。花は白色、萼片はごく小さい。果実は卵球形、径 2mm。花期は 8～9 月。山地の貧栄養の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩などの湿地にごく稀に生育する。赤羽、志村に古い記録はあるが絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

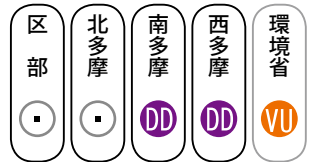
【関連文献】

飯泉優, 1961; 檜山庫三, 1965.

(執筆: 奥田重俊)



ヌマゼリ

Sium suave var. *nipponicum*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。別名サワゼリ。高さ 60～100cm。全体無毛。多くの枝を出す。葉は複葉で小葉は 7～11 個あり、幅は狭い。花序は小型、花は白色。果実は倒卵形。花期は 7～9 月。山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の湿地に生育の記録はあるが、現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

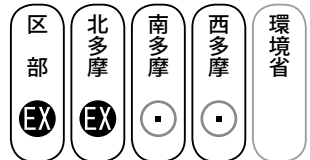
【関連文献】

本田正次ら, 1962; 佐竹義輔ら, 1982b.

(執筆: 奥田重俊)



ヒロハヌマゼリ

Sium suave var. *ovatum*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。高さ 80cm 内外。ヌマゼリとほとんど同じであるが、葉は卵形。基部はときに心形になる。花期は 7～9 月。山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

荒川沿いの低地や久我山、高井戸に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

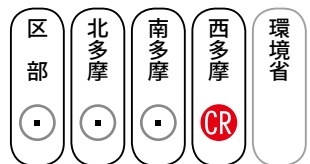
【関連文献】

飯泉優, 1961; 檜山庫三, 1965.

(執筆: 奥田重俊)



ミヤマウイキョウ, イワウイキョウ

*Tilingia tachiroei*離弁花亜綱
セリ科

【形態・生態】

多年草。高さ 10～20cm。根茎は太く短い。全体無毛。葉は羽状に細裂し、裂片は糸状。果実は卵状長楕円形。花期は 8 月。亜高山帯の崩壊地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州(中部以北)、四国

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヒメイワカガミ

*Schizocodon ilicifolius*合弁花亜綱
イワウメ科

【形態・生態】

多年草。数枚の葉を束生する。葉は卵形で三角形の粗い鋸歯が少数ある。花は径1～1.5cm。花冠は薄紅色で、縁は深く細裂する。さく果は球形。花期は4～5月。山地の岩の隙間に生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部から紀伊半島の主に太平洋側）、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全すること、園芸目的の採取を防止するために自生地情報の公表を避けることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

コイワウチワ, カントウイワウチワ

Shortia uniflora var. *kantoensis*合弁花亜綱
イワウメ科

【形態・生態】

多年草。イワウチワの変種。根茎は這い、数枚の葉を束生する。葉は柄が長く、葉身は扁円形で先端がくぼむ。花は薄紅色で径2～3cm。裂片は5個で深く裂ける。さく果は円形。花期は4～5月。山地の乾いた尾根に生育し、しばしば群生する。

【分布の概要】

本州（近畿以東）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。また、園芸目的の採取のおそれもある。

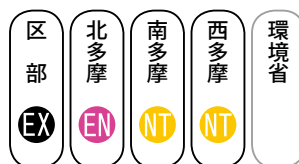
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

ウメガサソウ

*Chimaphila japonica*合弁花亜綱
イチヤクソウ科

【形態・生態】

草本状の半低木。茎は単立し、高さ5～10cm。葉は数個つき、広披針形、濃い緑色で中脈の色は薄い。花は茎の先端に1個つき、點頭。花冠は白色で径1cmあり、半開する。さく果は扁球形。花期は6～7月。丘陵地の乾いた二次林に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩から西多摩にかけて広範囲に分布し、コナラ林などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

シャクジョウソウ

*Monotropa hypopithys*合弁花亜綱
イチヤクソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	VU	VU	VU	

【形態・生態】

腐生植物。全草うすい黄褐色であるが、乾けば黒変する。茎には軟らかい毛がある。葉は鱗片状で20～30個つく。花冠は数個つき、筒状のつぼ形で、長さ1～1.5cm。さく果は楕円形、果時に葉直立する。種子は多数ある。花期は7月。丘陵地の二次林に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

武蔵野台地から西部の山地にかけてのコナラ林などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 林弥栄ら, 1966.

(執筆: 奥田重俊)



ギンリョウソウモドキ、アキノギンリョウソウ

*Monotropa uniflora*合弁花亜綱
イチヤクソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	VU	VU	VU	

【形態・生態】

腐生植物。全草白色。高さ10～30cm。茎は直立し、肥厚して円柱状になる。花は1個頂生し、點頭し、果時には直立する。さく果は円状球形、長さ約12mm。子房は5室。花期は8～10月。丘陵地の二次林に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

武蔵野台地から西部の山地にかけてのコナラ林などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1953; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 奥田重俊)



コバノイチヤクソウ

*Pyrola alpina*合弁花亜綱
イチヤクソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	EN	

【形態・生態】

多年草。根茎は細長く這い、長い匍匐枝をつける。葉は4～8個叢生し、楕円形で深い緑色を帯びる。花茎は高さ10～20cm。花は3～5個つき、白色、径12～15mm。花期は7～8月。山地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

西多摩の二次林に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ベニバナイチヤクソウ

Pyrola asarifolia subsp. *incarnata*合弁花亜綱
イチヤクソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	●	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、長い匍枝をつける。葉は3～5個叢生し、楕円形、深緑色で光沢がある。花茎は高さ15～20cm。花は7～15個つき、濃い桃色、径12～15cm。さく果は径7～8mm。花期は6～7月。山地の落葉樹林内に生育し、しばしば群生する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

奥多摩の二次林に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が二次林の場合は、下草刈りなどの林床管理を行うことや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

イチヤクソウ

*Pyrola japonica*合弁花亜綱
イチヤクソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	○	○	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、長い匍枝をつける。葉は円形。花茎は高さ15～30cm、5～12個の花をつける。花は白色、径12～15mm。さく果は径7～8mm。花期は6～7月。丘陵地の乾いた二次林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部や北多摩から南多摩、西多摩など広範囲に分布し、各地の二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ (編), 1995; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.



(執筆: 奥田重俊)

サラサドウダン

*Enkianthus campanulatus*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	●	

【形態・生態】

落葉低木。高さ4～5m。葉は互生し、倒卵形で下面脈上に毛がある。花は5～15個まとまってつき、下垂する。花冠は淡黄色で暗紅色の条線があり、長さ8～12mm、先端は浅く裂ける。花期は6月。山地の乾いた尾根の落葉自然林に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州（近畿以東）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 佐竹義輔ら, 1989.



(執筆: 奥田重俊)

ベニドウダン, チチブドウダン

Enkianthus cernuus f. *rubens*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

落葉低木。シロドウダンの品種。枝はよく分枝する。葉は互生し、倒卵形、下面脈上に褐色の毛がある。花は5～15個、下垂する。花冠は広い鐘形、深紅色、先端は不整に細裂する。花期は4～5月。山地の乾いた落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地情報の公表を避けること、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ハナヒリノキ

*Leucothoe grayana*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

落葉低木。葉は互生し、楕円形でやや硬く、縁に毛があり、下面は白味を帯びる。花序は長さ5～15cm、多数の花を片側に付け、苞がある。花は下向き、淡緑色。花期は7～8月。山地の落葉樹林に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の山地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



アズマツリガネツツジ

Menziesia multiflora f. *brevicalyx*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

落葉低木。別名ウラジロヨウラク。高さ1～2m。葉は互生、楕円形、長さ1～3cmで、下面はやや白味を帯びる。萼裂片は円形。花冠は狭鐘形、長さ12～13mm、紅紫色。雄しべ10個。花期は3～4月。山地の落葉樹林に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地情報の公表を避けること、自生地が自然林の場合は、周辺部を含む広域的な保全対策を講じること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



アズマシャクナゲ

*Rhododendron degronianum*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	● VU	

【形態・生態】

常緑低木。高さ1～3m。葉は楕円状披針形、長さ8～15cm、革質、深緑色で光沢があり、下面には淡褐色の密毛をつける。花序は枝の頂につく。花は淡紅色。花冠は径3～4cm、5個に浅く裂ける。雄しべは10個。花期は5～6月。山地岩角地の針葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の山地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して保全することや、自生地情報の公表を避けること、自生地が自然林の場合は、周辺部を含む広域的な保全対策を講じること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



レンゲツツジ

*Rhododendron japonicum*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	● EN	● EN	● VU	

【形態・生態】

落葉低木。高さ1～2m。葉はやや薄い。花は枝の頂に2～5個つき、葉とともに開く。花冠は朱橙色、径5～6cm。さく果は長楕円形、長さ2～2.5cm。花期は4～6月。山地の尾根部などの草地や明るい二次林に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地に生育する。西多摩などの低地にも生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



ヒカゲツツジ

Rhododendron keiskei var. *keiskei*合弁花亜綱
ツツジ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	● VU	

【形態・生態】

常緑低木。高さ1～1.5m。葉は互生し披針形、全縁で外曲する。裏面に鱗状毛を密生する。花は2～5個枝先につき、淡い黄色。花冠はろうと状、径2.5～3cm。雄しべ10個。さく果は筒形。花期は4～5月。山地の尾根部などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の尾根や岩角地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

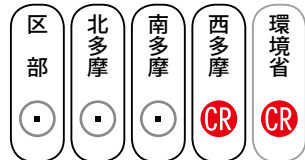
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ウラジロヒカゲツツジ

Rhododendron keiskei var. *hypoglaucom*合併花亜綱
ツツジ科

【形態・生態】

常緑低木。ヒカゲツツジの変種。高さ1 m。葉は長楕円形、全縁。下面に腺状の鱗片を密生する。花は白色。花期は5月。山地の岩場や急傾斜地に生育する。

【分布の概要】

本州（栃木、群馬、埼玉、東京）

【都における生育環境】

西多摩の岩角地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因である。生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全すること、また、園芸目的の採取を防止するために自生地情報の公表を避けることが望ましい。

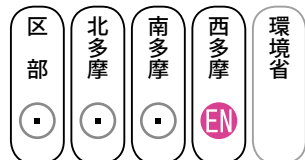
【関連文献】

鈴木和雄（編），1986；佐竹義輔ら，1989。



（執筆：奥田重俊）

アカヤシオ

Rhododendron pentaphyllum var. *nikoense*合併花亜綱
ツツジ科

【形態・生態】

落葉小高木。別名アカギツツジ。アケボノツツジの変種。高さ3～4 m。葉は枝先に5個集まる。花冠は濃い桃色。雄しべ10個。花柄に腺毛がある。さく果は長さ12～15 mm。花期は4月。山地の尾根部の自然林に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以西）

【都における生育環境】

西多摩の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄，1984；鈴木和雄（編），1986。



（執筆：奥田重俊）

シロヤシオ、ゴヨウツツジ

*Rhododendron quinquefolium*合併花亜綱
ツツジ科

【形態・生態】

落葉小高木。高さ4～6 m。樹皮はうろこ状、上方でよく分枝する。葉は枝先に5個集まってつく。葉の縁に毛がある。花冠は白色。径3～4 cm。雄しべ10個。さく果は卵形。花期は5月。山地の尾根部や急斜面に生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄，1984；鈴木和雄（編），1986。



（執筆：奥田重俊）

ノジトラノオ

*Lysimachia barystachys*合弁花亜綱
サクラソウ科

【形態・生態】

多年草。匍枝がある。高さ 70 ～ 100cm。葉は披針形で全縁。花序は頂生して一方に傾き、軟毛が多い。果時には 30cm に伸長する。花は白色。花期は 6 ～ 7 月。低地の草原に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、九州（北部）

【都における生育環境】

各地の草地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

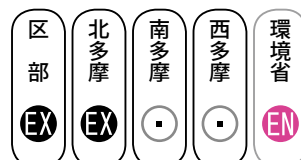
【関連文献】

本田正次ら, 1965; 東京薬科大学植物研究部（編）, 1967.

（執筆者：奥田重俊）



サワトラノオ, ミズトラノオ

*Lysimachia leucantha*合弁花亜綱
サクラソウ科

【形態・生態】

多年草。地下茎は横に這う。高さ 40 ～ 60cm。葉は互生、広線形、長さ 2 ～ 4cm、黒い腺点が密にある。総状花序を出して、直立し、多数の花をつける。はじめ密につき、のち伸長してまばらになる。花冠は白色、長さ 4 ～ 5mm。さく果は球形、径 2.5mm。花期は 4 月。低地の湿原に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

荒川沿いの低地（赤羽、志村）に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

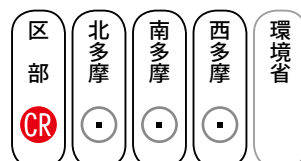
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.

（執筆者：奥田重俊）



ヤナギトラノオ

*Lysimachia thyrsiflora*合弁花亜綱
サクラソウ科

【形態・生態】

多年草。地下茎は長い。全体軟弱。茎は円柱形で高さ 30 ～ 60cm。葉は披針形、無柄、黒い腺点がある。葉腋に長さ 2 ～ 3cm の総状花序を出して多数穂花をつける。花冠は黄色で 6 裂する。雄しべは突き出る。さく果は球形。花期は 5 ～ 7 月。低地の湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（関東から福井）

【都における生育環境】

区部の湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; みずもと自然観察クラブ（編）, 1995.

（執筆者：奥田重俊）



クサレダマ、イオウソウ

Lysimachia vulgaris var. *davurica*合弁花亜綱
サクラソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

多年草。地下茎は長い。茎は高さ 40～80cm。葉は対生または 3 輪生。葉の下面に微細な腺毛がある。茎の上部に円錐花序をつける。花冠は黄色径 12～15mm、深く 5 裂する。さく果は球形。花期は 7～8 月。低地の湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の低湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



コイワザクラ

*Primula reinii*合弁花亜綱
サクラソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	CR	VU

【形態・生態】

多年草。根茎は細く、数枚の葉を束生する。葉は長さ 3～10cm の柄があり、花茎とともに白色で縮れた軟毛が生える。葉身は円形または腎円形で、浅く 7～9 裂する。花冠は紅紫色で高杯形、径 1.8～2.5mm。筒部は長さ 8～10mm である。花期は 5 月。山地の岩の隙間に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東、中部、近畿)

【都における生育環境】

奥多摩の山地深部に生育が限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が岩崖地などの特殊な立地にあるため、自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。また、園芸目的の採取を防止するために自生地情報の公表を避けることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



サクラソウ

*Primula sieboldii*合弁花亜綱
サクラソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	■	■	NT

【形態・生態】

多年草。根茎は太く短い。葉は長い柄があり、花茎とともに白色で縮れた軟毛が生える。葉身は長楕円形。花茎に 10～20 個の花を散形につける。花冠は紅紫色で喉の部分が白く、径 2～3cm。さく果は扁球形。花期は 4～5 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道 (南部)、本州、九州

【都における生育環境】

低地の河川沿いの湿地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や園芸目的の採取などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 鷺谷いづみ, 1998.

(執筆: 奥田重俊)



アイナエ

*Mitrasacme pygmaea*合弁花亜綱
マチン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

一年草。高さ5～15cm。茎はごく繊細、下部に数対の葉が対生につく。葉身は卵形。花は枝先に数個、やや輪状につく。花冠は白で、径約3mm。さく果は卵形。花期は8～10月。丘陵地の草原や芝草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の公園などに生育するが場所は芝草地などに限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



コケリンドウ

*Gentiana squarrosa*合弁花亜綱
リンドウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

二年草。高さ2～10cm。茎は基部から分枝して叢生する。ロゼット葉は厚い。茎葉は対生。花冠は長さ12～15mm、淡い青色を帯びる。萼裂片は卵形。さく果に長い柄がある。花期は3～5月。丘陵地の草原や芝草地に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

各地の公園などに生育するが場所は限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

本田正次, 1972; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ハルリンドウ

*Gentiana thunbergii*合弁花亜綱
リンドウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	●	●	●	

【形態・生態】

二年草。根葉はロゼット状。高さ5～15cm。茎葉は卵状披針形。花は茎の頂きに1個つく。萼裂片は菱形で反曲しない。花冠は淡青紫色で、長さ2～3cm。花期は3～5月。やや湿った芝草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈りなどの管理により早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.

(執筆: 奥田重俊)



ハナイカリ

*Halenia corniculata*合弁花亜綱
リンドウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

一年草または二年草。茎は直立し、高さ 10 ～ 60cm、やや分枝し、四稜がある。葉は対生し、長楕円形で先端が鋭くとり 3 脈がある。花は薄黄色。4 数性、長さ 6 ～ 10mm。花冠は狭い卵形。さく果は披針形で花冠と同長。花期は 9 月。山地の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境は保全された地域にあり、選択的な草刈りなどを行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ホソバノツルリンドウ

*Pterygocalyx volubilis*合弁花亜綱
リンドウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	VU

【形態・生態】

一年草または二年草。茎はつる性で繊細。他のものに巻きつきながら高さ 1 m 内外になる。葉は対生し、線状。花冠は長さ 3 ～ 3.5cm、先端 4 裂する。花は白色～青紫色を帯びる。さく果は長さ約 1cm。種子は多数。花期は 9 ～ 10 月。山地の林縁や藪に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 小林一男, 1987.

(執筆: 奥田重俊)



アケボノソウ

*Swertia bimaculata*合弁花亜綱
リンドウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	CR	CR	CR	

【形態・生態】

一年草または二年草。高さ 50 ～ 80cm。ロゼット葉は大型、花時には枯れる。茎葉は対生。花冠は白色で上半に濃い緑色の斑点がある。腺体は 2 個で黄緑色。花期は 9 ～ 10 月。低地や山地の湿った草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の川沿いの湿った草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や河川改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



センブリ

*Swertia japonica*合弁花亜綱
リンドウ科

【形態・生態】

一年草または二年草。薬用植物。高さ 5 ～ 20cm。全体紫色を帯びる。葉は対生し、線形。花は円錐花序に密につく。花冠は白色で紫色の脈がある。花期は 8 ～ 10 月。葉に強い苦味がある。丘陵地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域に広範囲に分布し、丘陵地の二次林の林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や薬用目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行い、早春季の光条件を確保すること、薬用目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編），1967；菱山忠三郎，1981。

（執筆者：奥田重俊）



ムラサキセンブリ

*Swertia pseudochinensis*合弁花亜綱
リンドウ科

【形態・生態】

一年草または二年草。高さ 50 ～ 70cm。茎は暗紫色を帯びる。葉は線形。花冠は碧紫色、5 数性。花冠の裂片に濃い色の脈がある。さく果は広披針形。花期は 8 ～ 10 月。山地の草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の明るい二次林の林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

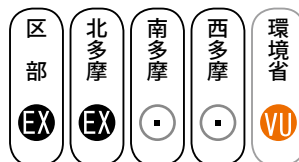
【関連文献】

畔上能力ら，1974；鈴木和雄（編），1986。

（執筆者：奥田重俊）



イヌセンブリ

*Swertia tosaensis*合弁花亜綱
リンドウ科

【形態・生態】

一年草または二年草。高さ 10 ～ 30cm。全体無毛。茎は基部から分枝する。葉は倒披針形。花序は細長い。花は白色。5 数性。さく果は狭い卵形。花期は 9 ～ 11 月。山地のやや湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部（志村、赤羽）などの低地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三，1965；佐竹義輔ら，1981。

（執筆者：奥田重俊）



ツルリンドウ

*Tripterospermum japonicum*合弁花亜綱
リンドウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	○	○	

【形態・生態】

多年草。茎はつる性で、他のものに巻きつく。葉は対生、3 脈がある。花冠は淡紫色で、萼筒に包まれる。果実は長い球形で淡赤紫色に熟す。花期は 8 ～ 10 月。丘陵地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地では二次林などに見られるが、北多摩の市街地周辺では自生地が限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

ミツガシワ

*Menyanthes trifoliata*合弁花亜綱
ミツガシワ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	■	■	■	

【形態・生態】

多年草。根茎は太くて長い。茎は高さ 20 ～ 40cm。水面上に 3 裂する葉を広げる。葉は厚い。花は総状花序につき白色、ろうと状で 5 中裂し、内面に毛がある。株により雄しべと雌しべの長さが異なる。さく果は球形で 2 裂。花期は 4 ～ 8 月。低地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

区部の公園の池沼に生育している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 本田正次ら, 1972.



(執筆: 奥田重俊)

ガガブタ

*Nymphoides indica*合弁花亜綱
ミツガシワ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	■	■	NT

【形態・生態】

多年草。根茎は泥の中を這う。茎は細くて長く、水面に卵状円形の葉を広げる。花は葉柄の基部に数個から多数つく。花冠は白色で径 15mm、花冠裂片の内面に毛がある。株により、長花柱花と短花柱花がある。花期は 7 ～ 9 月。池沼に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩の一部の池沼に生育している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

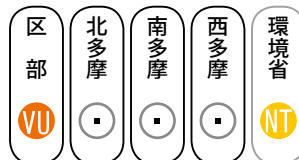
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.



(執筆: 奥田重俊)

アサザ

*Nymphoides peltata*合弁花亜綱
ミツガシワ科

【形態・生態】

多年草。根茎は泥の中を這う。茎は太くて長い。葉は卵形、裏面は紫褐色を帯び、縁に波状の歯牙がある。葉柄はやや楕形につく。花は黄色、花冠は5裂し、径3～4cm。種子は扁平。花期は6～8月。池沼に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の池沼に生育している。

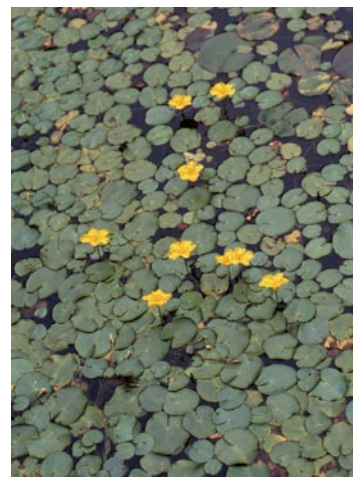
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

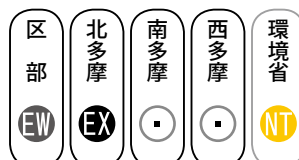
【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



チョウジソウ

*Amsonia elliptica*合弁花亜綱
キョウチクトウ科

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ40～80cm。葉は披針形、花は茎の先端に集まる。花冠は青色、高杯形で5裂する。果実は細長い柱状で2個ずつつく。花期は5～6月。河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部(志村、尾久)などに古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修に伴う湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.

(執筆: 奥田重俊)



クサタチバナ

*Cynanchum ascyrifolium*合弁花亜綱
ガガイモ科

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ30～60cm。葉は対生、卵形で先はとがる。花は茎頂に集まり白色。花冠は5裂し径2cm。果実は袋果で長さ約5cm。花期は6月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の二次林内や自然林内などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



フナバラソウ

*Cynanchum atratum*合弁花亜綱
ガガイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	EN	EN	VU

【形態・生態】

多年草。全体密に軟毛がある。茎は直立して、高さ 40～80cm。葉は対生、楕円形で裏面の脈が著しい。花はやや密につき、濃褐紫色。花冠は 5 裂し、径 12～14mm。袋果は 7～8cm で、密に毛がある。花期は 5～6 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地の二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ツルガシワ

*Cynanchum grandifolium*合弁花亜綱
ガガイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。高さ 50～100cm、上部はつる状になる。葉は対生、数対まばらにつく。花は散形に多数つき、小型で径 6～8mm。果実に毛が多い。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の自然林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、二次林では下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



スズサイコ

*Cynanchum paniculatum*合弁花亜綱
ガガイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	EN	EN	NT

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、極めて細く、高さ 40～100cm。葉は対生し細い。花は長柄の先に、数個集まる。花冠は 5 裂し黄褐色。果実は披針形。花期は 7～8 月。丘陵地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の二次林の林縁や河原の土手などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 畔上能力, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ジョウシュウカモメヅル

Cynanchum sub lanceolatum var. *macranthum* f. *auriculatum*合弁花亜綱
ガガイモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EX	DD	CR	EX	

【形態・生態】

つる性の多年草。コバノカモメヅルの変種で、基本種より花が大きい。葉は対生、楕円状披針形。花は散状につく。花色は暗紫色。山地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から近畿）

【都における生育環境】

北多摩および南多摩の二次林に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 佐竹義輔ら, 1981.

（執筆者：奥田重俊）



アズマカモメヅル

Cynanchum sub lanceolatum var. *sub lanceolatum* f. *albiflorum*合弁花亜綱
ガガイモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EX	EX	CR	EX	

【形態・生態】

つる性の多年草。コバノカモメヅルの品種。葉は対生、楕円状披針形。花冠裂片は長さ4～6mm。花色は白色。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から近畿）

【都における生育環境】

南多摩の山地を中心に二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 佐竹義輔ら, 1981.

（執筆者：奥田重俊）



コイケマ

*Cynanchum wilfordii*合弁花亜綱
ガガイモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	EX	VU	VU	

【形態・生態】

つる性の多年草。葉は対生し、心円形。花は葉柄より短い柄の先に散形に集まり、淡黄緑色。花冠は5裂し、裂片は長さ約3mmで反曲しない。袋果は長さ約10cm。花期は7～8月。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地を中心に二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：奥田重俊）



コカモメヅル

*Tylophora floribunda*合弁花亜綱
ガガイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	—	EN	—	

【形態・生態】

つる性の多年草。茎は細い。葉は対生し、卵状披針形。花序はよく分枝し、まばらに散開する。花冠は小さく径4～5mm、暗紫色で5裂する。袋果は2個、水平に開出する。花期は7～8月。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の山地を中心に二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



キクムグラ

*Galium kikumugura*合弁花亜綱
アカネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	—	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は軟らかく、高さ約30cm。葉は4個輪生。花柄に1個の目立つ苞がある。花は枝先に1～3個つく。花冠は4裂し、径1mm。果実は上向きの曲がった毛が密に生える。花期は5～6月。低地の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部や南多摩、西多摩など、各地の草地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



ヤブムグラ

*Galium niewiczii*合弁花亜綱
アカネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	VU	—	VU

【形態・生態】

多年草。全草に独特な香りがある。茎はつる状で長さ40～60cm。茎葉には刺状の毛はない。葉は4～5個輪生し、長さ1～1.5cm。花は細長い花序につき、白色で径1.5mm、花冠は4裂。果実は無毛。花期は8月。低地の草原に生育する。

【分布の概要】

本州(千葉、東京、神奈川)

【都における生育環境】

北多摩や南多摩の草地や林縁に、稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

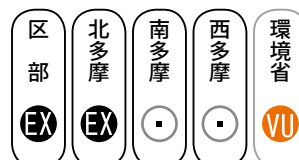
【関連文献】

本田正次ら, 1965; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



ハナムグラ

*Galium tokyoense*合弁花亜綱
アカネ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30 ～ 50cm。葉は 4 ～ 6 個輪生し、長さ 1 ～ 3cm。茎の上端に細い柄を出して、多数の花をつける。花冠は白色、4 裂し、径 2mm。果実は無毛。花期は 6 ～ 7 月。低地の湿原に群生する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

志村、三鷹、高井戸などの低地部に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.

（執筆者：奥田重俊）



ホソバノヨツバムグラ

Galium trifidum var. *brevipedunculatum*合弁花亜綱
アカネ科

【形態・生態】

多年草。茎は斜上し、高さ 30 ～ 50cm。葉は 4 個輪生。花はごく小型で径 1mm、花冠は 3 裂。果実は無毛。花期は 5 ～ 7 月。山地の沢沿いの林内に生え、小群落を構成する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の低地部の谷地形に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 畔上能力ら, 1974.

（執筆者：奥田重俊）



クルマムグラ

Galium trifloriforme var. *nipponicum*合弁花亜綱
アカネ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20 ～ 50cm。葉は 6 個輪生、披針形で先はとがる。花は白色、花冠は 4 裂し、径 2.5mm。果実はかぎ状の毛を密生する。花期は 5 ～ 7 月。山地の明るい林内から林縁に、極めて稀に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の標高の高い樹林内に生育する。区部の上野毛に古い記録はあるが絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

（執筆者：奥田重俊）



カワラマツバ(キバナカワラマツバを含む)

Galium verum subsp. *asiaticum*合弁花亜綱
アカネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し高さ 50～80cm、軟毛がある。葉は 8～10 個輪生し、極めて細い。花は円錐状に多数つき、白色または黄色。花冠は 4 裂、径 2mm。果実は無毛。花期は 6～9 月。草原や芝草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の草地に、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの食害の影響を検討することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



フタバムグラ

*Hedyotis diffusa*合弁花亜綱
アカネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	VU	—	

【形態・生態】

一年草。茎は基部から枝分かれして長さ 10～25cm。葉は対生し線形。花は茎頂に少数つき白色。花冠は筒状で 4 裂。果実はさく果で球形。花期は 9～10 月。低地の湿地や水田跡などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩では低地の川沿いの湿地に記録がある。区部では古い記録はあるが絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理を行うことなどが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ツルアリドオシ

*Mitchella undulata*合弁花亜綱
アカネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	CR	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。茎は這い、長さ 20～40 cm。葉は対生、卵形、常緑で光沢がある。花は 2 個接してつく。花冠は白色、ろうと状で先端は 4 裂し、内面に毛がある。果実は石果で赤く熟す。花期は 6 月。山地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の二次林に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、競合する植物の除去などを行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



イナモリソウ

*Pseudopyxis depressa*合弁花亜綱
アカネ科

【形態・生態】

多年草。高さ3～5cm。葉は対生、卵形で2対ほど地際に広げる。花は葉腋に1～2個つく。花冠は紅紫色、基部は筒状で先端は5裂する。さく果に萼片が残る。花期は5～6月。一般に崩壊地など、森林の発達しにくい場所に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の二次林などに生育する。

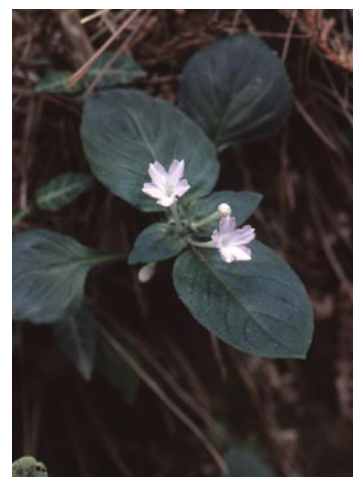
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理をすることが望ましい。

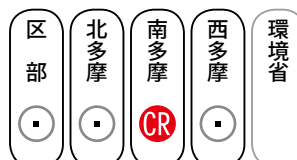
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：奥田重俊）



シロバナイナモリソウ

*Pseudopyxis heterophylla*合弁花亜綱
アカネ科

【形態・生態】

多年草。高さ15～30cm。葉はまばらに対生する。花冠は白色、基部は筒状で先端は5裂。花糸は突き出る。さく果は萼に包まれ横を向く。花期は7～8月。一般に崩壊地など、森林の発達しにくい場所に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部から近畿）

【都における生育環境】

南多摩の二次林などに、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理をすることが望ましい。

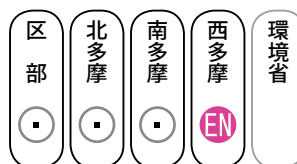
【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.

（執筆者：奥田重俊）



オオアカネ

*Rubia hexaphylla*合弁花亜綱
アカネ科

【形態・生態】

つる性の多年草。葉は6～8個輪生、卵形で基部心形、先は尾状にとがる。花は集散花序につき、黄緑色、径3mm。液果は黒熟する。花期は7～9月。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東北部から中部）、九州（北部）

【都における生育環境】

西多摩の山地を中心に二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.



（執筆者：奥田重俊）

マメダオシ

*Cuscuta australis*合弁花亜綱
ヒルガオ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	EX	CR

【形態・生態】

つる性の寄生植物。はじめ地上に生えるが、寄主に巻きつくとも根はなくなる。茎は細く黄色。花冠は長さ約5mm、5裂し裂片は短い。さく果は球形、花期は7～10月。丘陵地の路傍や明るい林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

サウルリソウ

*Ancistrocarya japonica*合弁花亜綱
ムラサキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。高さ50～80cm。葉は長楕円形、先端はとがり、基部は細くなる。花は茎の先端に数個つく。花冠は青紫色、筒状で長さ約1cm、先端は5裂する。分果は灰白色。花期は5～6月。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地などを中心に、二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

オオルリソウ

*Cynoglossum zeylanicum*合弁花亜綱
ムラサキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	CR	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ約100cm、圧毛がある。葉は両端がとがる、花序は開出して長さ10～20cmになり、多数の花をつける。花冠は青紫色、径約4mm。分果にかぎ状のとげがある。花期は7～8月。山地の二次林や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地を中心に、二次林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

ムラサキ

*Lithospermum erythrorhizon*合弁花亜綱
ムラサキ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EX	EX	CR	CR	EN

【形態・生態】

多年草。染料植物。根は太く、色素を含む。高さ 40～70cm。葉は互生し無柄、粗い毛がある。花は茎の先端の葉腋につく。花冠は白色、高杯状で径約 4mm。分果は灰白色。花期は 6～7 月。山地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地から山地に生育する。区部と北多摩は絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、選択的な草刈りなどを行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ホタルカズラ

*Lithospermum zollingeri*合弁花亜綱
ムラサキ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は地上を這う。葉は互生し、長さ 2～6cm、表面に粗い毛がある。花は茎の先端につく。花冠は青紫色、径 15～18mm、高杯状で 5 裂する。花期は 4～5 月。丘陵地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の二次林の林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ヤマルリソウ

*Omphalodes japonica*合弁花亜綱
ムラサキ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
□	VU	○	○	

【形態・生態】

多年草。根出葉はロゼット状で長さ 10～20cm。茎は斜上し高さ 10～15cm、開出する白毛が多い。花冠は淡青紫色、径約 1cm。花後、萼が伸びる。分果は平滑。花期は 4～5 月。丘陵地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州 (福島以南)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地では二次林などに見られるが、北多摩では自生地が限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ルリソウ

*Omphalodes krameri*合弁花亜綱
ムラサキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	DD	DD	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20 ～ 40cm、開出毛がある。葉は互生し、根出葉は茎の中部の葉より小さい。花序は茎の先端で 2 分岐する。花冠は濃い藍色で径 1 ～ 1.5cm。分果にかぎ状のとげがある。花期は 4 ～ 6 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の二次林や草地に生育するが少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1953; 飯泉優, 1961.

（執筆：奥田重俊）



カリガネソウ

*Caryopteris divaricata*合弁花亜綱
クマツヅラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EW	CR	CR	DD	

【形態・生態】

多年草。全体に強い臭気がある。高さ 100cm。葉は対生、広卵形で鋸歯がある。花序はまばらな集散状。花冠は青紫色、筒状で 5 裂し、下側 1 個は大きく、反転する。雄しべは長く突き出る。花期は 8 ～ 9 月。丘陵地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地では情報が不足しており、また、南多摩や北多摩では自生地が限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力ら, 1974.

（執筆：奥田重俊）



ミズハコベ

*Callitriche palustris*合弁花亜綱
アワゴケ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EN	EN	

【形態・生態】

一年生。全体軟弱。茎は分枝を繰り返す。水中葉は線形、水上葉はへら形。花は黄緑色、葉腋に 1 個つき、ごく小型で 2 個の苞に包まれる。花期は 5 ～ 11 月。低地の湿地やため池の縁などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の沖積地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理をすること、外来種を除去することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 畔上能力ら, 1974.



（執筆：奥田重俊）

カワミドリ

*Agastache rugosa*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 50 ～ 100cm。葉は対生し広卵形。花は茎頂に集まり、長さ約 10cm の穂となる。花冠は紅紫色、唇形で長さ約 1cm。雄しべは花外に突き出る。花期は 8 ～ 10 月。山地の斜面下部に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地に点在して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変に伴う草地の消失などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



カイジンドウ

Ajuga ciliata var. *villosior*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 30 ～ 40cm。全体に毛がある。葉は対生、卵形で柄が短く、上部ほど大きくなる。花は茎頂に集まる。花冠はるり色、唇形。花期は 5 ～ 6 月。低地の林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

立川に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

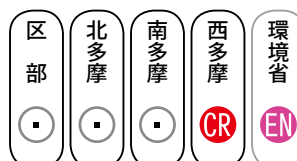
【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ヒイラギソウ

*Ajuga incisa*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 30 ～ 50cm。葉は対生、卵形で粗い鋸歯が目立つ。花は茎頂に集まり 3 ～ 5 段つく。花冠はるり色、唇形で長さ 2cm。花期は 5 ～ 6 月。山地の斜面下部に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東、中部)

【都における生育環境】

西多摩の山地などに点在して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

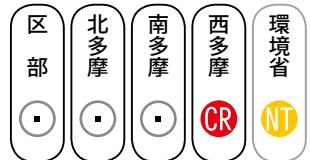
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



タチキランソウ

*Ajuga makinoi*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。茎は斜上し、長さ5～20cm、全体に白毛がある。葉は粗い鋸歯がある。夏に出る葉は大きい。花は上部の葉腋に数個つき、るり色。花冠は唇形で、長さ約15mm。花期は4～6月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東西南部から東海）

【都における生育環境】

西多摩の山地の二次林内に生育するが、稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理をすることが望ましい。

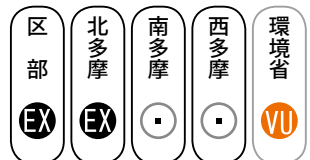
【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.

（執筆：奥田重俊）



ツルカコソウ

*Ajuga shikotanensis*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ10～30cmでわずかに毛がある。葉は対生、上部のものは苞になる。花は淡紫色、茎の上部に数段離れてつく。花冠は唇形、長さ約7mm。花期は5～6月。丘陵地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

区部（志村）などに古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には草刈りなどの管理を行い、早春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 東京薬科大学植物研究部（編）, 1967.

（執筆：奥田重俊）



ツクバキンモンソウ

Ajuga yesoensis var. *tsukubana*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。ニシキゴロモの変種。高さ8～15cm。葉は地面に接して対生し、紫色を帯びる。花は淡紫色。花冠は唇形で、ニシキゴロモに比べて上唇が短く、長さ1mm。花期は4～6月。丘陵地の乾いた二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州（太平洋側）、四国

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の、各地コナラ林などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、競合する植物の除去をすることが望ましい。

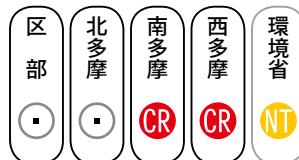
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



タニジャコウソウ

*Chelonopsis longipes*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。茎は斜上し高さ 50～100cm。葉は対生、広披針形で基部は耳状となる。花柄は葉柄より著しく長い。花冠は紅紫色、筒状で開口部は唇形。花期は 9～10 月。山地の河岸や流路に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の谷筋などに記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.

（執筆者：奥田重俊）



アシタカジャコウソウ

*Chelonopsis yagiharana*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 25～40cm。葉の基部はくさび形。葉柄に開出する毛がある。花は茎頂付近の葉腋に 1 個つく。花冠は紅紫色。萼筒は果時にも残り有毛。花期は 9～10 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（山梨、静岡）

【都における生育環境】

奥多摩の谷部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うこと、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

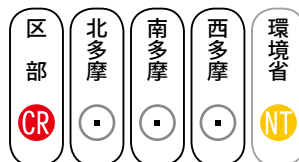
【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.

（執筆者：奥田重俊）



ミズネコノオ

*Eusteralis stellata*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

一年草。全体が軟弱。高さ 15～50cm。葉は線形、3～6 個輪生する。花穂は茎頂と枝先につき、長さ 2～5cm。花冠は白または淡紅色、長さ約 3mm。花期は 8～10 月。低地の湿地やため池の縁などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

区部の公園に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; みずもと自然観察クラブ（編）, 1995.

（執筆者：奥田重俊）



ミズトラノオ, ムラサキミズトラノオ

*Eusteralis yatabeana*合弁花亜綱
シソ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	EX	VU

【形態・生態】

多年草。高さ 30～50cm。葉は線形で 3～4 個輪生する。花は茎頂に集まり、長さ 3～6cm の穂になる。花冠は淡紅色、4 裂し、突き出た雄しべとともに長さ約 8mm。花期は 8～10 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部（杉並区）や南多摩（八王子市）に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.



（執筆：奥田重俊）

ヒキオコシ

*Isodon japonicus*合弁花亜綱
シソ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。薬用植物。高さ 50～100cm。葉は対生、広卵形で鋸歯がある。花は大きな円錐花序に多数つく。花冠は淡青紫色、唇形で長さ 5～7mm。雄しべは突き出る。花期は 9～10 月。山地の湿った林内に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の各地に記録はあるが、多くは山地の溪谷付近に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.



（執筆：奥田重俊）

ヤマジオウ

*Lamium humile*合弁花亜綱
シソ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	CR	

【形態・生態】

多年草。細い地下茎で群生する。葉は対生、地際に 2～3 対つき、倒卵形。花は葉腋に数個つく。花冠は淡紅色、唇形で長さ 15～18mm。花期は 8 月。山地の湿った林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の各地に記録はあるが、多くは山地の溪谷付近に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

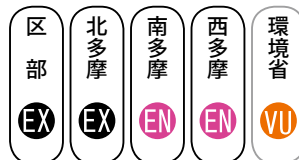
【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 神奈川県植物誌調査会（編）, 2001.



（執筆：奥田重俊）

キセワタ

*Leonurus macranthus*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 60～100cm。茎は四角。葉は対生、卵形で粗い鋸歯がある。花は茎の上部の葉腋につく。花冠は紅紫色、唇形で長さ 25～30mm。上面に白毛がある。花期は 8～9 月。山地の二次草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の尾根部に生育している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、シカの食害が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



シロネ

*Lycopus lucidus*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。太くて白い地下茎がある。茎は四角で高さ 80～120cm。葉は対生、広い披針形で縁に鋸歯があり、光沢がある。花は腋生。花冠は白色、鐘形、長さ約 5mm。花期は 8～10 月。低地の湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の低地部に、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

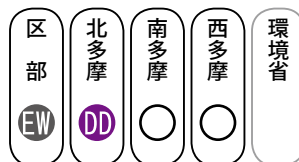
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ラショウモンカズラ

*Meehania urticifolia*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。茎は地上を這う。花茎は高さ 20～30cm。葉は対生、心形で鋸歯は粗い。花は葉腋に数段つき横を向く。花冠は紫色、長さ 4～5cm、筒部の端は唇形で下唇は反り返る。花期は 4～5 月。落葉樹林やスギ植林などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の谷沿いの、スギ植林などに群生する。北多摩では少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

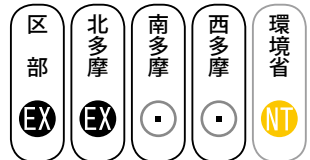
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヒメハッカ

*Mentha japonica*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。細長い地下茎をひく。茎は高さ 20～40cm。葉は対生し、細い。花は枝先に十数個集まる。花冠は淡紅紫色、鐘形で 4 裂。雄しべは 4 個あり、花外に突き出る。花期は 8～10 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

荒川流域の低地（池袋）や神田などに記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.

（執筆：奥田重俊）



シラゲヒメジソ, ヒカゲヒメジソ

*Mosla hirta*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

一年草。高さ 20～50cm。茎には下向きの毛がある。葉は対生、卵形で 6～10 個の鋸歯があり、表面に軟毛がある。萼は有毛。花冠は淡紅紫色、唇形。花期は 9～10 月。低地の湿地やため池の縁などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の沖積地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。

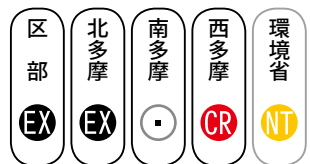
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 畔上能力ら, 1974.

（執筆：奥田重俊）



ヤマジソ

*Mosla japonica*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

一年草。高さ 10～40cm、分枝して紫色を帯びる。葉は対生。花穂は 1～4cm。卵形の苞がある。花冠は淡紅紫色、長さ約 3mm。花期は 9～10 月。草原や芝草に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の草地に、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変に伴う草地の消失などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行い、夏季の光条件を確保することが望ましい。

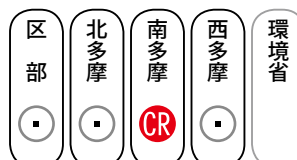
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 佐竹義輔ら, 1981.



（執筆：奥田重俊）

トラノオジソ, レモンエゴマ

Perilla frutescens var. *hirtella*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

一年草。高さ 30 ～ 70cm。全草にレモンの香りがある。葉は対生し、卵形。花は総状につく。萼は長さ 3 ～ 4mm。花冠は淡紅色、唇形で長さ 4 ～ 5mm。分果は球形。花期は 8 ～ 10 月。低地の草原に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の草地に、稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

競合する植物の繁茂や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去することが望ましい。

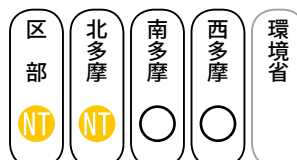
【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



キバナアキギリ

*Salvia nipponica*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 20 ～ 40cm。葉は対生、三角状のほこ形。花は長さ 10 ～ 20cm の穂になる。花冠は淡黄色、上唇と下唇に分かれ、雄しべは虫の背に花粉がつく仕組みになっている。花期は 8 ～ 10 月。低地の二次林のやや湿った林床に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地には普通であるが、北多摩や区部では少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; みずもと自然観察クラブ (編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



ミゾコウジュ, ユキミソウ

*Salvia plebeia*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

二年草。ロゼット葉で越冬する。茎は高さ 30 ～ 70cm。葉は長楕円形で葉面にしわがある。花は円錐花序に多数つく。花冠は淡紫色、長さ約 5mm。花期は 5 ～ 6 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

東京都本土部全域に広範囲に分布、生育する。区部では荒川流域の低地や中川の岸部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ (編), 1995; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



ヤマジノタツナミソウ

*Scutellaria amabilis*合弁花亜綱
シソ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	CR	—	

【形態・生態】

多年草。高さ 15 ～ 25cm。茎は四角で上向きの細毛がある。葉は広卵形、粗い鋸歯がある。花は茎の上部にまばらにつく。花冠は青紫色、直角に立ち上がる。花期は 5 ～ 6 月。山地の沢沿いの林内に生育し、小群落を構成する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

南多摩の低地の谷部に生育する。清瀬、吉祥寺、調布などに古い記録はあるが絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 檜山庫三, 1965.



(執筆: 奥田重俊)

オカタツナミソウ

*Scutellaria brachyspica*合弁花亜綱
シソ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。高さ 10 ～ 50cm。茎に下向きの毛が密生する。葉は対生、上部の方が大きい。花序は短い。花冠は淡紫色、唇形の長さは 2cm。花期は 5 ～ 6 月。山地の沢沿いの林内に生育し、小群落を構成する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

多摩地域の低地において、谷地形の場所に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

ヒメナミキ

*Scutellaria dependens*合弁花亜綱
シソ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	EX	

【形態・生態】

多年草。繊細で無毛。高さ 20 ～ 40cm。細い地下茎を出す。葉は対生、やや三角形。花は葉腋に 1 個ずつつく。花冠は唇形で白色。花期は 6 ～ 8 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

石神井や荒川流域の低地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

トウゴクシソバタツナミソウ

Scutellaria laeteviolacea var. *abbreviata*合弁花亜綱
シソ科

【形態・生態】

多年草。高さ 10～15cm。茎に開出する毛が密生する。葉は心臟形、裏面は紫色を帯びる。花は茎の上部に集まり、唇形の花冠は紫色で直立し、長さ 2.2cm。花期は 6～7 月。山地の二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東北南部から中部）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の二次林に稀に生育する。

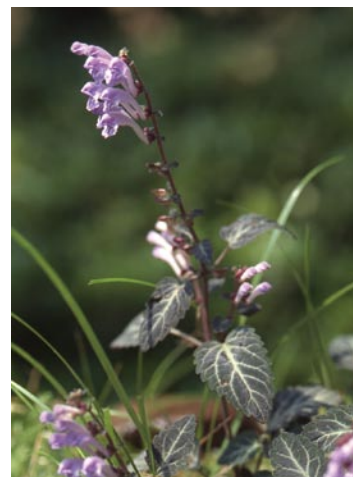
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変による生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うこと、自生地での間伐などの適切な管理をすることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



イガホオズキ

*Physaliastrum echinatum*合弁花亜綱
ナス科

【形態・生態】

多年草。高さ 50～70cm。葉は卵形、まばらに軟毛がある。花は葉腋に 1～4 個つき、下垂する。花冠は黄白色、広い鐘状。果実は液果で白色に熟し、突起のある萼に包まれる。花期は 7～10 月。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩などに分布する。北多摩では少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することが望ましい。

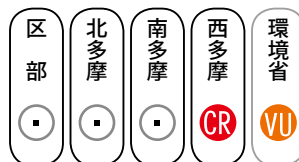
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



アオホオズキ

*Physaliastrum japonicum*合弁花亜綱
ナス科

【形態・生態】

多年草。高さ 30～60cm、まばらに分枝する。葉は長楕円形で軟質、縁に短毛が密に生える。花は葉腋に 1～2 個つき、淡緑色。花冠は広い鐘形で径 1.5cm。果実は楕円形でつぼ状の萼に包まれる。花期は 6～7 月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部から紀伊半島の太平洋側）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地のやや湿った林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヤマホオズキ

*Physalis chamaesarachoides*合弁花亜綱
ナス科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	CR	EN

【形態・生態】

多年草。高さ 30～50cm、上部で枝分かれする。葉は卵形で薄質。花は白色、杯状で浅く 5 裂する。果実は突起のある萼に包まれ、黄熟する。花期は 8～10 月。山地の斜面下部に生育する。

【分布の概要】

本州（千葉以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地に点在して生育する。

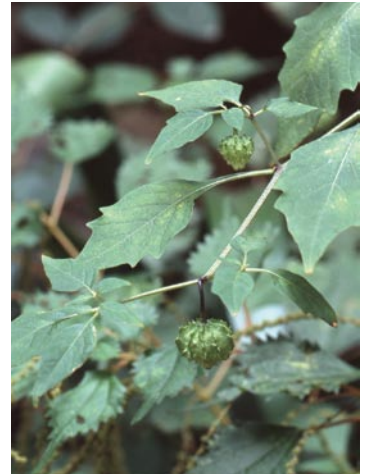
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.

（執筆者：奥田重俊）



ヤマホロシ

Solanum japonense var. *japonense*合弁花亜綱
ナス科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。茎はつる状で長さ 3m 程になる。葉は互生、下部の葉は 3～5 裂し、波状の鋸歯がある。花は淡紫色。花冠は径 1cm、深く 5 裂する。液果は球形で赤く熟す。花期は 7～10 月。山地の林縁や藪地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩などの山地に、極めて稀に生育する。

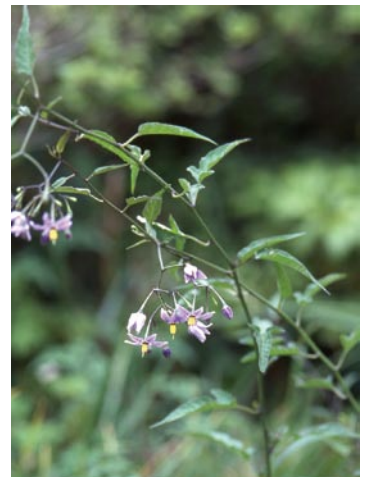
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変による生育環境の変化や競合する植物の繁茂が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去をすることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

（執筆者：奥田重俊）



タカオホロシ

Solanum japonense var. *takaoyamense*合弁花亜綱
ナス科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。ヤマホロシの変種。つる性で長さ 3m になる。葉はヤマホロシよりさらに切れ込みが多い。花は淡紫色、花冠は 5 裂する。果実は広楕円形。花期は 7～10 月。山地の林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、紀伊半島）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変による生育環境の変化や競合する植物の繁茂が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去をすることが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.



（執筆者：奥田重俊）

サウトウガラシ

*Deinostema violaceum*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	CR	—	

【形態・生態】

一年草。高さ 5 ～ 20cm。葉は対生し披針形。閉鎖花は茎の下部に、正常花は上部につく。花冠は紅紫色、筒状で先端は唇状になる。果実は長さ 3mm。花期は 8 ～ 10 月。貧栄養湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩などの湿地に、ごく稀に生育する。区部の野方に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地の水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

アブノメ

*Dopatrium junceum*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	EN	VU	VU	

【形態・生態】

一年草。高さ 10 ～ 25cm。葉は対生、上部のものは次第に小さくなる。花は茎の上部の葉腋に 1 個ずつつく。花冠は淡紫色、筒形で先は唇形。果実は球形。花期は 8 ～ 10 月。低地のため池や湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の低地部にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地の水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

タチコゴメグサ

*Euphrasia maximowiczii*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	EN	

【形態・生態】

一年草。高さ 15 ～ 30cm。全体有毛。葉は対生し、卵形でとがった鋸歯がある。花は葉腋に 1 個ずつつく。花冠は白色、唇形で下唇は 3 裂。さく果は長楕円形。花期は 8 ～ 10 月。山地の日の当たる草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

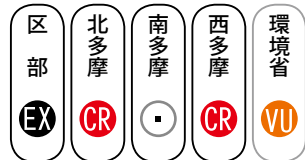
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

オオアブノメ

*Gratiola japonica*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

【形態・生態】

一年草。高さ10～20cm。肉質で軟らかい。葉は対生し線形。花は葉腋に1個ずつつく。萼の基部に2個の小苞がある。花冠は白色で筒形。果実は球形。花期は5～7月。低地のため池や湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩と西多摩の低地部に記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地の水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 佐竹義輔ら, 1981。

(執筆: 奥田重俊)



ヤマウツボ (ケヤマウツボを含む)

*Lathraea japonica*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

【形態・生態】

寄生植物。葉緑素を欠く。高さ15～30cm。全体白色。葉は小型。花は多数つき、花冠は白色、やや赤紫色を帯び、筒形で先は唇形。さく果は倒卵形。花期は4～6月。山地の落葉自然林に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境に変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じること、また、二次林の場合は幼木の保護や下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986。

(執筆: 奥田重俊)



シソクサ

Limnophila chinensis subsp. *aromatica*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

【形態・生態】

一年草。高さ10～30cm。葉は対生し長楕円形、油点がある。花は上部の葉腋から出る。花冠は白色、筒形で先は唇形、長さ約1cm。さく果は卵形で萼に包まれる。花期は9～10月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の低地に生育する。区部の江古田に古い記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、自生地の水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974。

(執筆: 奥田重俊)



キクモ

*Limnophila sessiliflora*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。地下茎は泥中を這い、上部は水面に伸長し、長さ 20～60cm。葉は 4～8 個輪生し深く裂ける。花は葉腋に 1 個つく。花冠は紅紫色、筒形で先は唇形。さく果は卵円形。花期は 8～10 月。耕作を停止した水田などに生育する。

【分布の概要】

本州（宮城以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の水田付近の湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、除草剤の使用を抑えた水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ（編）、1995；多摩市文化振興財団（編）、2004。

（執筆者：奥田重俊）



スズメノトウガラシ (エダウチスズメノトウガラシ、 ヒロハスズメノトウガラシを含む)

Lindernia antipoda ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	CR	—	

【形態・生態】

一年草。高さ 5～20cm。茎は根ざわで分枝する。葉は対生し鋸歯がある。花は葉腋に 1 個ずつつき柄がある。花冠は淡紅紫色、唇形。雄しべ 2 個。さく果は披針形。花期は 8～10 月。低地の河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩などの低地に記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、水質の管理などを行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優，1961；畔上能力ら，1974。

（執筆者：奥田重俊）



クチナシグサ

*Monochasma sheareri*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

半寄生の二年草。茎は地を這い、長さ 20～50cm。葉は対生し線形。花は茎の上部の葉腋につき、花冠は淡紅紫色、唇形。萼は果期に長く伸びる。花期は 5～6 月。丘陵地の乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域に広範囲に分布し、丘陵地の二次林の林縁に見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら，1965；畔上能力ら，1974。

（執筆者：奥田重俊）



ハンカイシオガマ

*Pedicularis gloriosa*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	EN	

【形態・生態】

多年草。高さ 30 ～ 90cm。葉は下部に集まり卵形で羽状に全裂する。花は枝先に花穂を作り、密に花をつける。花冠は紅紫色、唇形で上唇は湾曲する。さく果は卵円形。花期は 8 ～ 10 月。山地の自然林に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、東海）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じる、また、二次林の場合は、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1962; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

シオガマギク

Pedicularis resupinata subsp. *oppositifolia*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は基部で分枝し、高さ 25 ～ 60cm。葉は狭卵形で重鋸歯がある。花は茎の上部に集まる。花冠は紅紫色、唇形で上唇は鎌形に曲がる。さく果は卵形。花期は 8 ～ 10 月。山地の明るい草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の各地の草地での報告がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

トモエシオガマ

Pedicularis resupinata subsp. *teucriifolia* var. *caespitosa*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。シオガマギクの変種。高さ 30 ～ 50cm。葉は互生、重鋸歯がある。花序は茎の上部に短くつまり、花は旋回状につく。花冠は紅紫色。花期は 8 ～ 10 月。山地の明るい草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

西多摩の山地の草地での報告がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

ヒメトラノオ

Pseudolysimachion rotundum var. *petiolatum*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。ヤマトラノオの変種。高さ 50 ～ 90cm。葉は狭披針形で、基部が短い葉柄状となる。花は穂状に多数つく。花冠は青紫色。さく果は扁球形。花期は 8 ～ 10 月。山地帯から亜高山帯にかけての明るい草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の草地に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、シカの食害が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うこと、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



ゴマノハグサ

*Scrophularia buergeriana*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	VU

【形態・生態】

多年草。高さ 1 ～ 1.5m。葉は対生し卵形。花は総状に多数つく。花冠は黄緑色、唇形で長さ 5 ～ 6mm、仮雄しべはへら状。さく果は卵形。花期は 7 ～ 8 月。河川敷の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以西）、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の湿地などに現存するが、ごく稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、湿地の改変が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



オオヒナノウスツボ

*Scrophularia kakudensis*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

多年草。高さ約 1m。葉は対生し、卵形でとがった鋸歯がある。花は円錐花序に多数つく。花冠は暗紅紫色、唇形で雄しべは扇状。さく果は卵状。花期は 8 ～ 10 月。丘陵地の二次林に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の台地から山地にかけてコナラ林などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



サツキヒナノウスツボ

*Scrophularia musashiensis*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EN	VU	

【形態・生態】

多年草。高さ 40～50cm。葉は対生、卵形で粗い鋸歯がある。花序は葉腋から出て数個の花をつける。花冠は暗赤紫色、唇形で長さ約 1cm。さく果は卵状球形。花期は 4～5 月。山地の川沿いの草原に生育する。

【分布の概要】

本州（関東西部、中部、近畿）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の川沿いに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986。

(執筆: 奥田重俊)



オオヒキヨモギ

*Siphonostegia laeta*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	CR	CR	CR	VU

【形態・生態】

半寄生の一年草。高さ 30～70cm。葉とともに腺毛が密に生える。葉は対生し深裂。花は上部の葉腋に 1 個つく。萼裂片は長さ 5～7mm。花冠は灰黄色、唇形で上唇の先は切形。花期は 8～9 月。山地の自然林に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国

【都における生育環境】

多摩地域の山地の林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974。

(執筆: 奥田重俊)



イヌノフグリ

Veronica polita subsp. *lilacina*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	EN	VU	VU	VU

【形態・生態】

二年草。茎は下部で分枝し、長さ 10～25cm。葉は対生、上部で互生し、卵円形で毛がある。花冠は径 2～3mm、淡紅白色で紅紫色の条がある。さく果は球形で中央がくびれる。花期は 3～5 月。一般に耕作地、路傍などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の各地に報告はあるが比較的稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986。

(執筆: 奥田重俊)



クガイソウ

*Veronicastrum japonicum*合弁花亜綱
ゴマノハグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EN	

【形態・生態】

多年草。高さ 0.8 ～ 1.2m。葉は 8 段ほど輪生し、楕円状で先端がとがる。花は茎の先端に総状に多数つける。花冠は淡紫色、筒状で先端は浅く 4 裂し、雄しべが突き出る。さく果は卵形。花期は 7 ～ 9 月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

奥多摩の山地のやや湿った林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヒシモドキ

*Trapella sinensis*合弁花亜綱
ヒシモドキ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	□	□	□	EN

【形態・生態】

多年草。茎は水中を這い、節から根と葉を出す。葉は対生し、広い心臓形で水面に浮かぶ。花柄は長さ 2cm で水上に伸び、淡紅色の花を 1 個つける。花冠は筒状で半開し、長さ 2 ～ 2.5cm。堅果は萼片が伸長した 3 ～ 5 個の刺状の突起となる。花期は 7 ～ 9 月。低地の浅い池沼、水田跡などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部 (水元公園) に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

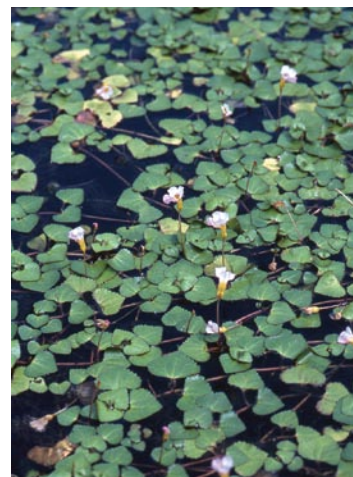
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を主とした地域的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 角野康郎, 1994.

(執筆: 奥田重俊)



ハグロソウ

*Peristrophe japonica*合弁花亜綱
キツネノマゴ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	○	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20 ～ 50cm。葉は対生、狭卵形で長くとがる。枝先に 5 ～ 15mm の花枝を出し、葉状の 2 個の苞の中に花をつける。花は淡紫色。花冠は唇形で上唇は反り返り、基部に濃い色の紋がある。さく果は長さ 1cm。花期は 9 ～ 10 月。山麓の陰湿地に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の二次林、植林、緑地などの林床に生育し、所によって群生する。区部の現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全すること、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



オオナンバンギセル

*Aeginetia sinensis*合弁花亜綱
ハマウツボ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	DD	VU	VU	

【形態・生態】

一年草。イネ科植物の根に寄生する。茎はごく短い。花柄は鱗片葉からたち、高さ20～30cm。萼は長さ3～5cmで先端は鈍い。花は横を向き、紅紫色。花冠は筒状で先は5裂し、やや唇形、長さ3～5cm。さく果は卵形で微少な種子が多数ある。花期は7～9月。丘陵地から山地の日の当たる草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩（現状不明）、南多摩、西多摩の各地に分布し、尾根部の草地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の草地を含む広範囲において草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ハマウツボ (オカウツボを含む)

*Orobanche coerulescens*合弁花亜綱
ハマウツボ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	CR	○	○	VU

【形態・生態】

一年草。茎は黄褐色、多肉質で高さ10～25cm。葉は鱗片状。花は茎の上部に集まり、淡紫色。花冠は唇形で上唇は浅く2裂、下唇は3裂する。さく果は楕円形。オカウツボは丘陵地にはえ、毛が少なく、オトコヨモギに寄生する。花期は5～7月。海岸の砂丘や乾いた河原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

オカウツボが北多摩に記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部の開発や河川改修が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。宿主を含む自生地を広く保全すること、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



キヨスミウツボ

*Phacellanthus tubiflorus*合弁花亜綱
ハマウツボ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	CR	

【形態・生態】

一年草。木の根に寄生する。全体が多肉質で白色。高さ10cm。葉は鱗片状で基部に密につく。花は茎の先に5～10個束状につき、白色でのちに黄色に変わる。花冠は筒形で先は唇形となり、長さ2.5～3cm、やや斜めに立つ。さく果は卵形。花期は5～7月。山地の二次林内や林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。生態はまだよく分かっていないが、宿主を含む自生地を広く保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



イヌタヌキモ

*Utricularia australis*合弁花亜綱
タヌキモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
DD	DD	VU	VU	NT

【形態・生態】

多年草。軸は水中に漂う。水中葉は細かく分裂し、捕虫のうをつける。花軸は高さ10～20cm、主軸より太い。花は黄色、花冠は唇形で径約1cm。花柄は下垂し果実をつける。越冬芽は楕円形となる。花期は8～9月。低地の池沼に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

分布の報告は各地にあるが、多摩地域に極めて稀である。

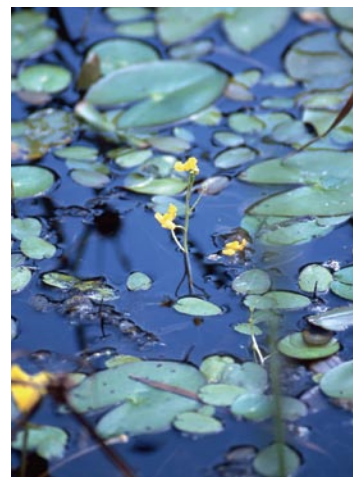
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 角野康郎, 1994.

(執筆: 奥田重俊)



ミミカキグサ

*Utricularia bifida*合弁花亜綱
タヌキモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
■	■	EX	■	

【形態・生態】

多年草。軸は泥の中を這う。葉は細いへら形。花軸の基部にひげ根を出して捕虫のうをつける。花軸は直立し、高さ約10cm、数個の黄色の花をつける。花冠はごく小型、唇形、後方に下向きの距がある。花期は8～10月。低地の池沼に生育しときに群生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 角野康郎, 1994.

(執筆: 奥田重俊)



ヒメタヌキモ

*Utricularia minor*合弁花亜綱
タヌキモ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EX	■	■	■	NT

【形態・生態】

多年草。軸は泥中に伸び、地中葉をつけて固着する。水中葉はまばらに捕虫のうをつける。花軸は高さ10cm。花は黄緑色。花冠は唇形、距は下を向く。花柄は花後下垂しない。越冬芽をつくり、本体は枯死する。花期は8～9月。低地の池沼に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部(石神井)に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化、湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 角野康郎, 1994.

(執筆: 奥田重俊)



シャクジイタヌキモ

*Utricularia siakujiiensis*合弁花亜綱
タヌキモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EW	●	●	●	

【形態・生態】

多年草。軸は水中にあり、細かく分裂し、捕虫のうをつける。花は黄色、花冠は唇形。タヌキモやイヌタヌキモに似るが、距が下唇より長い。花期は8～9月。池沼に生育する。

【分布の概要】

本州（関東）

【都における生育環境】

練馬区三宝寺池に記録がある。現在栽培下で生育している。

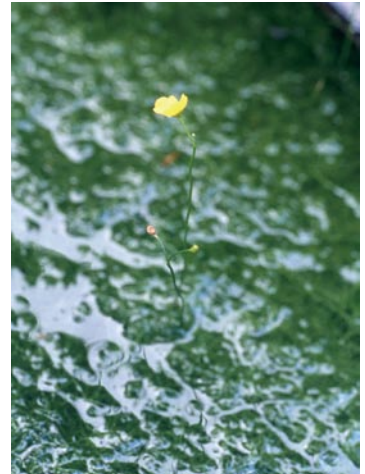
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質の悪化、湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; 角野康郎, 1994.

（執筆：奥田重俊）



ムラサキミミカキグサ

*Utricularia uliginosa*合弁花亜綱
タヌキモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	EX	●	NT

【形態・生態】

多年草。軸は泥の中を這い、葉はへら形、花軸の基部のひげ根に捕虫のうをつける。花軸は直立し、高さ5～15cm。紫色の小花を数個まばらにつける、花冠は唇形、下向きの距がある。花期は8～9月。低地の池沼に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩（多摩市）に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、水質管理や外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団（編）, 2004.

（執筆：奥田重俊）



ニッコウヒョウタンボク

*Lonicera mochidzukiana*合弁花亜綱
スイカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	VU	

【形態・生態】

落葉性の低木。高さ1.5m。枝は四角。葉は対生し、幅広く、裏面は粉白色を帯びる。花柄が短い。花は白色。花冠は二唇形。上唇は4裂する。裂片は反曲し、雄しべが突き出る。花期は5～6月。液果は7～8月に赤く熟し、2個ついて基部で合着する。山地の落葉樹林の林縁に生える。

【分布の概要】

本州（関東、中部、近畿）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

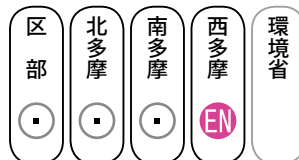
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆：奥田重俊）



ハヤザキヒョウタンボク

Lonicera praeflorens var. *japonica*合弁花亜綱
スイカズラ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ約2m。葉は対生、両面に密に毛がある。花は下垂し、開葉に先立って開き、白色。花冠はろうと形。花筒は長さ5mm、先端が5深裂する。雄しべは花外に出る。花期は4～5月。果実は液果で5～6月に紅色に熟す。山地の落葉樹林の林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城から長野）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に限られており、少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ダイセンヒョウタンボク

Lonicera strophiphora var. *glabra*合弁花亜綱
スイカズラ科

【形態・生態】

落葉低木。高さ1～2m。葉は対生、縁に長毛がある。花は下垂し、白色。花冠はろうと形で径2cm。先端が5裂。液果は6～7月に紅色に熟す。アラゲヒョウタンボクの品種で、基本種からは子房と花柱が無毛なことで区別される。花期は4～6月。山地の石灰岩地の落葉樹林の林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、近畿、中国）、四国

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地情報の公表を避けることや、自生地が自然林の場合は周辺環境と一体的に保全すること、二次林の場合は下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

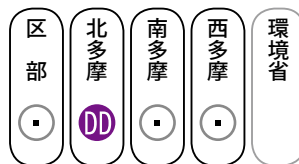
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



カンボク

Viburnum opulus var. *calvescens*合弁花亜綱
スイカズラ科

【形態・生態】

落葉低木～小高木。高さ5～6m。葉は対生、広い卵形で中程まで3裂する。花は散房花序につき、周辺に白色5弁の不稔の花をつける。正常の花は筒形で径4mm、先端が5裂。雄しべは突き出る。花期は5～7月。核果は球形で8～10月に赤く熟す。山地の湿った場所の落葉樹林の縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

北多摩に記録はあるが、現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1989.

(執筆: 奥田重俊)



ゴマキ, ゴマギ

*Viburnum sieboldii*合弁花亜綱
スイカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	●	

【形態・生態】

落葉高木。高さ5～7m。葉は対生、楕円形で側脈が平行に伸びる。傷つけるとゴマの香りがする。花は散房花序につき、白色。花冠は高杯形で径7～9mm、先端が5裂する。雄しべは突き出る。花期は5～6月。核果は楕円体、8～10月に赤く熟し、のち黒くなる。低地の河川敷の湿地などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西の太平洋側）、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩に点在している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編），1967；畔上能力ら，1974。



（執筆：奥田重俊）

ミヤマシグレ

Viburnum urceolatum f. *procumbens*合弁花亜綱
スイカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	VU	

【形態・生態】

落葉低木。ヤマシグレの品種。高さ50cm以下。下部の枝は地を這い、根を出す。葉は対生、卵形で先はとがる。花は散房花序につき、花序の枝は赤い。花冠は白色、つぼ形で長さ3mm。先端が5裂。花期は6～7月。核果は球形、9～10月に赤く熟す。秋、紅葉が目立つ。海拔900m以上の山地に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以西）、四国、九州

【都における生育環境】

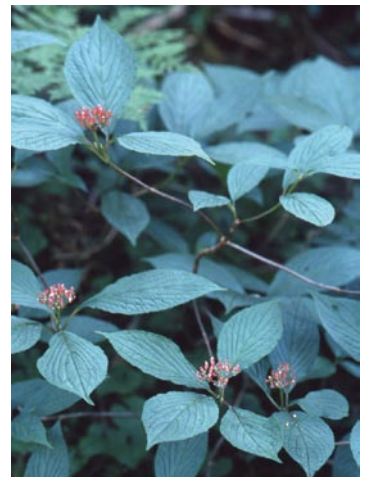
西多摩の高標高地に限られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が自然林の場合は、周辺部を含む樹林全体の保全対策を講じること、二次林の場合は、林床の下草刈りや競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄，1984；鈴木和雄（編），1986。



（執筆：奥田重俊）

カリヨセウツギ, ニシキビロードウツギ

Weigela floribunda var. *versicolor*合弁花亜綱
スイカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	VU	VU	

【形態・生態】

落葉低木。ヤブウツギの変種。高さ約2m。葉は対生し、両面有毛、裏面脈上に開出毛が多い。葉柄は短い。花冠は長さ約3cmで先端が5裂し、はじめ白色で、のちに紅色に変わる。果実はわずかに湾曲する。花期は5～6月。低地の二次林の林縁や川岸などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東西部）

【都における生育環境】

西多摩では局地的に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄，1966；畔上能力ら，1974。



（執筆：奥田重俊）

キバナウツギ

*Weigela maximowiczii*合弁花亜綱
スイカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	□

【形態・生態】

落葉低木。高さ2～3m。葉は対生し柄がない。萼は早く落ちる。花は2個ずつつく。花冠は淡黄色、長さ約4cm。先端が5裂し、背腹性がある。下側中央部に橙色の網目がある。さく果は円筒状で先端から2片に裂ける。花期は4～6月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北）

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、競合する植物を除去すること、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986。



(執筆: 奥田重俊)

イワツクバネウツギ

*Zabelia integrifolia*合弁花亜綱
スイカズラ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	●

【形態・生態】

落葉低木。高さ約2m。枝に縦溝がある。葉は対生、両面に粗い毛がある。葉柄の基部は合わさり、腋芽を包む。萼片は4個あり、細い。花は淡紅色、高杯形で筒部は長さ1～1.5cm。先端が4裂する。さく果は細い筒形。花期は5～6月。山地の石灰岩地の、落葉樹林の林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1989。



(執筆: 奥田重俊)

レンプクソウ

*Adoxa moschatellina*合弁花亜綱
レンプクソウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	●	●	●	□

【形態・生態】

多年草。細い地下茎がある。全体は軟弱で高さ10cm内外。根生葉は2回3出複葉。花は黄緑色、5個が茎の先端につく。頂上の花は花冠が4裂、雄しべが8個、周辺の花は花冠が5～6裂し、10～12個の雄しべがある。果実は石果。夏には地上部は枯れる。花期は4月。山地の湿った林内に生育し、群生する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）

【都における生育環境】

多摩地域の二次林内に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、林床の下草刈り、競合する植物の除去などの管理を行うことが望ましい。なお、自生地では、本種の休眠時期におけるかく乱を防止することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974。



(執筆: 奥田重俊)

オミナエシ

*Patrinia scabiosifolia*合弁花亜綱
オミナエシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 60 ～ 100cm、地下茎は横に這い、新苗は下部の側にできる。葉は対生し、頭大羽状に深裂する。花は黄色の小花で花序の上部にほぼ平らに多数つく。花冠は 5 裂し、径 3 ～ 4mm、雄しべは 4 個。果実は長楕円形、やや扁平で翼状の小苞を欠く。花期は 8 ～ 10 月。山地の草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の各地に記録はあるが、自生地は減少の傾向がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



キンレイカ

Patrinia triloba var. *palmata*合弁花亜綱
オミナエシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	VU	

【形態・生態】

多年草。ハクサンオミナエシの変種。地下茎はよく伸びる。茎は高さ 20 ～ 60cm。葉は対生し、掌状に 3 ～ 5 中裂する。花冠は黄色。径 6mm、長さ 2 ～ 3mm の明らかな距がある。花期は 7 ～ 8 月。山地の岩場に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西の太平洋側)、九州

【都における生育環境】

奥多摩の高標高地に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、園芸目的の採取に対してマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ツルカノコソウ

*Valeriana flaccidissima*合弁花亜綱
オミナエシ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	○	○	

【形態・生態】

多年草。茎は軟弱で高さ 20 ～ 40cm、花後に細長い走出枝を著しく伸ばす。花は散房花序につく。花冠は漏斗状、長さ 2mm 内外、白色、ときに紅色を帯びる。そう果は広披針形、羽状の白色冠毛がある。花期は 4 ～ 5 月。低地の林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の各地の樹林に広く分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ナベナ

*Dipsacus japonicus*合弁花亜綱
マツムシソウ科

【形態・生態】

越年草。高さ 1m をこえ、直立してよく分枝し、全体に刺状の剛毛がある。葉は薄く、頭大羽状に全裂し、裂片は鋸歯縁。頭花は径 2cm。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠上部は 4 裂。雄しべは 4 個。萼の先はコップ状に広がり、縁に毛がある。花期は 8～9 月。低地や山地の林縁や湿った草地に生育し、伐採された場所に群生することがある。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩に局地的に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行い、春季の光条件を確保することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



マツムシソウ

*Scabiosa japonica*合弁花亜綱
マツムシソウ科

【形態・生態】

越年草。高さ 60～90cm、葉は対生し、有毛、下部や中部の葉は羽裂し、裂片はさらにわかれる。頭花は長柄の先に上向きにつき径 4cm ぐらい。総苞片は線形。縁の小花は筒状で等しく 5 裂する。雄しべは 4 個。萼裂片は 5 個。小総苞は果時に長さ 4mm となり、上部はコップ状で密毛がある。花期は 8～10 月。山地の明るい草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部を除く各地に記録はあるが、現存するのは多摩地域の数ヶ所のみで、年々減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



フクシマシャジン

*Adenophora divaricata*合弁花亜綱
キキョウ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 60～100cm。茎葉は輪生、または対生、ときに互生し、卵状楕円形。花序は枝が横に長く張り出し、まばらな円錐状になる。花冠は鐘形、淡紫色で長さ 1.5～2cm、先はやや広がり、浅く 5 裂する。花柱は花冠と同長か、少し長い。花期は 8～9 月。山地の明るい二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州 (中部以北)、四国

【都における生育環境】

南多摩、西多摩に稀に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ミョウギシャジン

Adenophora nikoensis var. *petrophila*合弁花亜綱
キキョウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。ヒメシャジンの変種。高さ 20～40cm。葉は披針形で先が鎌形に湾曲し、一部または全部が輪生する。花は茎頂に 1～数個が円錐花序につく。花冠は淡紫色、鐘形。花柱は花冠より長い。萼裂片は全縁のものや小歯があるものとがある。花期は 8～9 月。山地の明るい岩壁に生育する。

【分布の概要】

本州（東京、群馬）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

ソバナ

*Adenophora remotiflora*合弁花亜綱
キキョウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。有毛品をケソバナという。茎は高さ 50～100cm で直立するが、上方は傾く。茎葉はつねに互生し、卵形または広披針形。上部の葉は小型で柄がない。花は円錐花序につき、垂れ下がる。萼裂片は披針形で全縁。花冠は青紫色、漏斗状鐘形で裂片はやや反り返る。花柱は突き出ない。花期は 8 月。山地の明るい二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地に記録はあるが、主に西多摩に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、光条件を維持するため、間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 奥田重俊)

ツルギキョウ

Campanumoea javanica var. *japonica*合弁花亜綱
キキョウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	VU

【形態・生態】

多年草。白色で多肉質の太い根茎がある。茎は細く長く伸びる。葉は互生または対生し、葉身は卵心形で先は鈍く、薄くて、粉白色を帯びる。花は葉腋に単生し、長い柄で下垂する。花冠は広い鐘形、白色で内側は淡紫色、先は 5 裂し、反り返る。雄しべは 5 個。液果は扁球形。種子は多数。花期は 8～10 月。低地から山地の林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地にごく稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山地の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

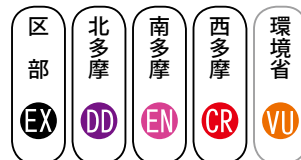
【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 奥田重俊)

バアソブ、ヒメツルニンジン

*Codonopsis ussuriensis*合弁花亜綱
キキョウ科

【形態・生態】

つる性の多年草。全体に白毛を散生する。全体に小型で塊根は短く、球形。葉の裏面に白毛が密生し、花冠は小さく、鐘形、内面は紫色で濃紫色の斑点がある。萼裂片は長さ1～1.5cm。種子には翼がない。花期は8～9月。山地の林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地に記録があるものの、主に南多摩、西多摩に分布し、稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



サワギキョウ

*Lobelia sessilifolia*合弁花亜綱
キキョウ科

【形態・生態】

多年草。根茎は短く、太く、横に這い、茎は中空で高さ50～100cm、低鋸歯があり柄がない。上部の葉はしだいに小型になり、ついには苞となりその腋に花をつけ、密な総状花序となる。花冠は濃紫色、長さ2.5～3cm、唇形で、上唇は2深裂。さく果は球形。花期は8～9月。低地から山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地に記録はあるが、一部を除き現状不明の場所が多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



タニギキョウ

Peracarpa carnosus var. *circaeoides*合弁花亜綱
キキョウ科

【形態・生態】

多年草。変種にタイリントニギキョウがある。軟弱で、茎は高さ5～15cm。葉は互生し、卵円形で先は鈍く、基部は円く、表面は緑色で裏面は白緑色。花は茎の頂または上部の葉腋に上向きに1個つき、果時には下垂する。花冠はろうと形、白色またはわずかに淡紫色を帯び、5深裂する。花期は6～8月。山地の二次林内のやや湿った所に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩などに稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物の除去などを行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



キキョウ

*Platycodon grandiflorum*合弁花亜綱
キキョウ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	CR	CR	VU

【形態・生態】

多年草。根茎は太く、深く地中に入る。茎は高さ50～100cm。葉は狭卵形で先はとがり、無柄かまたはごく短い柄があり、縁に鋭鋸歯がある。裏面は短毛があつて粉白色を帯びる。花は茎頂近くに数個つき、花冠は径4～5cm、柄があり、青紫色であるが、淡紫色や白色のものもある。花期は7～8月。山地の二次林内のやや湿った所に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

かつては東京都本土部全域に記録があつた。現状では南多摩と西多摩などにわずかに残存するが、区部は絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ノコギリソウ, ハゴロモソウ

*Achillea alpina*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	CR	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、高さ50～100cm、葉は無柄で、裂片は茎を抱き、くしの歯状に中裂から深裂する。頭花は茎頂に密な散房花序をつくる。舌状花は5～7個、白色で長さ3.5～4.5mm。総苞片は2列に並び、外片は長楕円形で内片の半長。果実は扁平で毛はない。花期は7～9月。山地の明るい草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

各地に記録があるものの、主に西多摩の尾根部の草地に生育し、稀である。

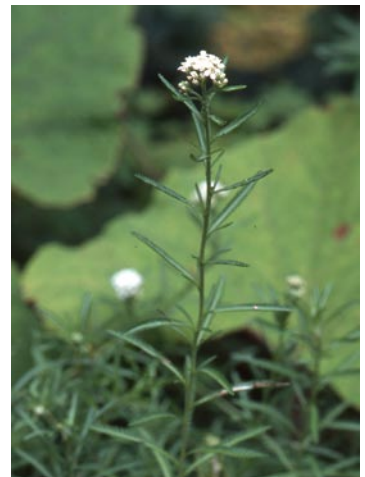
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヤマハハコ

Anaphalis margaritacea var. *margaritacea*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	CR	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ30～70cmとなり、地下茎が伸びてふえる。葉は狭披針形、長さ6～9cm、やや厚く、3脈があり、裏面は灰白色または淡褐色の長い綿毛を密生する。枝の先に多数の頭花を散房状につける。総苞片は乾膜質で上半は白色。花期は8～9月。低地から山地の明るい草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州(中部以北)

【都における生育環境】

南多摩、西多摩など各地に分布するが、減少の傾向がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全すること、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



カワラハハコ

Anaphalis margaritacea var. *yedoensis*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、中部でもよく分枝し、高さ 30～50cm となる。葉は線形、幅は 1.5mm 内外で縁は裏に巻く。変種（または亜種）関係にあるヤマハハコとは葉の幅が狭いこと、ホソバノヤマハハコとは茎が多く分枝すること、川原に生えることで区別できる。花期は 8～9 月。河原の砂礫地に生育し、所によって群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩川の上流域から中流域にかけて、小面積で生育しているが、減少傾向にある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や河川の異常出水などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。競合する植物を除去すること、流域全体の流量を調節することや水質を保全することなどの根本的な管理方法を検討することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ヤハズハハコ

*Anaphalis sinica*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20～35cm となる。根出葉は開花時に枯れる。茎葉は倒披針形で鈍頭、基部は茎に沿って翼状に流れる。表裏に綿毛が密生する。頭花は散房状につく。雌株の頭花は多数の雌花と、中心に少数の雄花があり、総苞片は白色で下半は帯褐色。雄株の頭花は、雄花のみ。総苞は球鐘形。花期は 8～9 月。山地の乾燥する礫地や斜面に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩地域の石灰岩地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

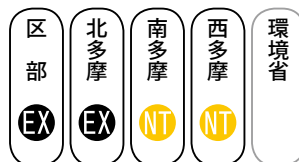
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



イヌヨモギ

*Artemisia keiskeana*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、花をつけない茎はロゼット状に葉をつけ、広いさじ状で円頭、基部はくさび状で柄となる。花茎は高さ 30～80cm、下部の葉は花時に枯れ、中部の葉は倒卵形で鋸歯がある。総状円錐花序に多数の下向きの頭花をつける。頭花は球形で、幅 3～3.5mm。そう果は扁平で毛はない。花期は 8～10 月。丘陵地の林縁や草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

東京都本土部全域に広く分布の記録はあるが、現状は南多摩、西多摩にわずかに分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理不足による生育環境の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



サガミギク

Aster ageratoides subsp. *leiophyllus* var. *harae*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。シロヨメナの変種。茎は高さ 70cm 内外、紫色を帯びる。葉は茎の下側につく傾向がある。葉形は線状披針形から披針形、長鋭尖頭、短柄があり、両面はときに紫色を帯び、やや硬い。舌状花は紫色または白色。花期は 9～10 月。山地の二次林内や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東西南部）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩に局地的に分布する。

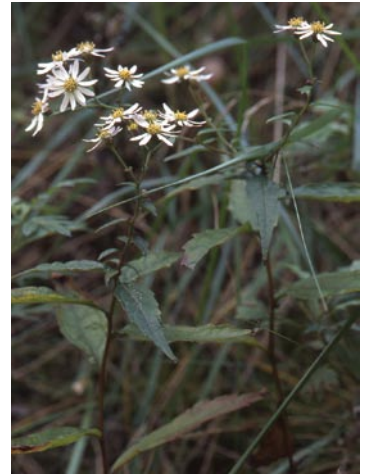
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理不足による生育環境の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。間伐などの適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄（編）、1986；東京都高尾自然科学博物館（編）、1989。

（執筆：奥田重俊）



タテヤマギク

*Aster dimorphophyllus*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	NT

【形態・生態】

多年草。地下茎を出す。茎は高さ 30～55cm、細くて屈曲し、上部はわずかに分枝する。根出葉は花時に枯れる。葉身は三角状卵心形で切れ込みの深さに変異がある。頭花は数個散房状につき、長柄がある。筒状花の花冠は長さ 5～6mm。そう果は 5 肋があり、有毛。冠毛は長さ 4mm。花期は 8～9 月。山地の自然林や二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東京、神奈川、静岡）

【都における生育環境】

南多摩の山地にのみ記録があり、現存量は極めて少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、競合する植物の除去をすることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら、1981；東京都高尾自然科学博物館（編）、1989。

（執筆：奥田重俊）



ヒメシオン

*Aster fastigiatus*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	VU	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30～100cm で直立する。葉は線状披針形、下部の葉は両端がしだいに狭くなり、中部と上部の葉は線状披針形。花序は散房状で密に短毛がある。頭花は小さく径 7～9mm、花柄は細い。総苞片は密に短毛がある。舌状花は 1 列、筒状花は長さ 4.5mm。そう果は扁平で、短毛と腺毛がある。花期は 8～10 月。低地の湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

かつては区部にも生育の記録がある。現在は南多摩などに極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、競合する植物の除去をすることが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）、1967；畔上能力ら、1974。

（執筆：奥田重俊）



カワラノギク

*Aster kantoensis*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、高さ約 50cm。上部で分枝する。根出葉や下部の葉は花時に枯れ、中部の葉は線形、全縁で短毛を散生する。頭花は径 3.5 ～ 4cm、散房状または円錐状につく。総苞片は 2 列で、背に微毛がある。舌状花は青紫色。筒状花の花冠は長さ 6mm。そう果は扁平で有毛。冠毛は帯赤色。花期は 10 ～ 11 月。河原の礫地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、静岡東部）

【都における生育環境】

西多摩の多摩川中流部の礫地に生育し、所によって群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や河川の異常出水などが本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。競合する植物の抜き取り作業を継続すること、流域全体の流量を調節することや水質を保全することなどの根本的な管理方法を検討することが望ましい。多摩川では人工的に種子を散布し、繁殖を助ける管理が行われている。

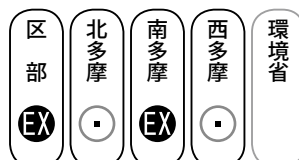
【関連文献】

本田正次ら, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



サワシロギク

*Aster rugulosus*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎はやせて直立し、高さ 50 ～ 60cm、無毛。葉は線状披針形、下部の葉は長柄があって柄とともにほぼ全縁。中部の葉は披針形。頭花は少なく、長柄があり、径 27mm、舌状花は 1 列、白色のちに紅紫色を帯びる。筒状花の花冠は長さ 6 ～ 7.5mm。そう果はやや円く、縁どりがある。冠毛は汚白色。花期は 8 ～ 10 月。日の良く当たる貧栄養の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部や南多摩の記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、水質管理、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

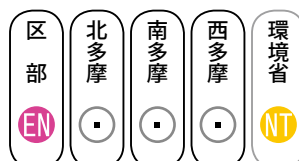
【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



ウラギク

*Aster tripolium*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

越年草。茎は高さ 25 ～ 55cm で、無毛。葉は披針形、肉質で無毛、基部はわずかに茎を抱く。頭花はゆるい散房状につき、およそ 2cm。総苞片は 3 列、外片は披針形で鈍頭、筒状花は長さ 8 ～ 9mm。そう果は狭長楕円形で、扁平有毛。冠毛の毛は花時には長さ 5mm、果時には 14 ～ 16mm に伸びる。花期は 10 ～ 11 月。海岸の湿地に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩川河口のほか、湾内の埋立地付近にも生育する。種子散布によるため、生育量の変動が激しい。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

浚渫工事や他の植物との競合が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。工事に際やして自生地を保全することや、競合する植物の除去などをすることが望ましい。

【関連文献】

大田区公害環境部 (編), 1982; 佐竹義輔ら, 1981.

(執筆: 奥田重俊)



ハコネギク、ミヤマコンギク

*Aster viscidulus*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、高さ 35 ～ 65cm、密に短毛がある。根出葉は花時には枯れる。中部の葉は多数で、節間は短く、卵状長楕円形から披針状長楕円形で鈍頭。両面に密に短毛がある。頭花は径 23 ～ 25mm。総苞は 1 ～ 3 個の苞があり、楕円形。総苞片は 4 列、すべて紫色。そう果は扁平で、有毛。花期は 8 ～ 10 月。山地の林縁や風の強く当たる草地などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。選択的な草刈りなどの管理をすることや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



オケラ

*Atractylodes ovata*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	●	○	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30 ～ 100cm になり、硬くて上部で分枝し、枝の先に頭花をつける。葉は長柄があり、葉身は 3 ～ 5 深裂し、やや硬い。頭花の径は 2 ～ 2.5cm、総苞直下に魚骨状の苞がある。総苞は鐘形。小花は雄花では長さ 10 ～ 12mm、雌花では長さ 9 ～ 11mm。花は白色または淡紅色。花期は 9 ～ 10 月。丘陵地の良く日の当たる林縁や草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地に分布する。西多摩ではやや多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



タウコギ

*Bidens tripartita*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	DD	DD	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20 ～ 150cm。葉は対生し、やや翼のある柄があり、3 ～ 5 裂する。頭花は、はじめは径 7 ～ 8mm、花柄に上向きに咲き、のちに径 25 ～ 35mm となる。外側の花床の鱗片は長楕円形。舌状花はない。両生花の花冠は長さ 4 ～ 4.5mm。そう果は下向きの刺があり、芒は 2 個、稀に 3 ～ 4 個。花期は 8 ～ 10 月。低地の川辺、水田付近などの湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部、北多摩、南多摩の各地に記録はあるが、生育が明らかな自生地は区部に限られ、北多摩と南多摩は情報が不足している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; みずもと自然観察クラブ (編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



キクタニギク, アワコガネギク, アブラギク

Chrysanthemum indicum var. *boreale*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、高さ1～1.5mで、多くは分枝する。葉は有柄で、葉身は羽状に深裂し、裂片の先はとがり、基部は切形またはやや心形。頭花は黄色で、やや散状に多数つき、径1.5cm、花が終わると點頭する。総苞片は3～4列で覆瓦状、外片は線形または狭長楕円形。そう果は長さ1mm。花期は10～11月。やや乾いた山地に生育する。

【分布の概要】

本州、九州（北部）

【都における生育環境】

東京都本土部全域に生育の記録がある。現在では主に西多摩の丘陵地に分布するが、存在量は比較的少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが必要である。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：奥田重俊）



モリアザミ, ヤブアザミ

*Cirsium dipsacolepis*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。直根がある。茎は高さ1.5～2m。根出葉は花時には枯れる。茎葉は薄く、深く羽状に中裂し、基部はやや茎を抱く。頭花は長い柄の先に點頭して咲く。総苞は幅1cm内外で、くも毛があり、外片は短く鈍頭で、短い刺針がある。花冠は長さ16～17mmで、狭筒部は8mm内外。花期は8～10月。日の当たる草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

東京都本土部の各地に記録はあるが、現状の自生地は極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。また、株分けなどについても検討することも重要である。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：奥田重俊）



フジアザミ

*Cirsium purpuratum*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。剛直壮大で、高さ50～100cm。葉は基部に集まって、根出葉は花時にもあり、白いくも毛をかぶって長さ50～70cmに達する。頭花は下向きに開き、扁球形で径6.5～8.5cm、総苞片は紫色。縁に鋭い刺があって反り返る。花冠は長さ17～22mm。ときに白花のものもある。花期は8～10月。山中のがれ地や川原に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の川沿いの不安定地に分布する。多摩川の中流域に流れ着く個体がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変による生育環境の変化やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因である。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、シカの防護柵設置を検討することが望ましい。また、播種による増殖についても検討することも重要である。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄（編）, 1986.

（執筆者：奥田重俊）



キセルアザミ, マアザミ

*Cirsium sieboldii*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	CR	●	

【形態・生態】

多年草。茎はやや花茎状で、高さ 50～100cm。茎葉は少なくて小さい。根出葉は長さ 15～50cm で多数あり、羽裂して両面無毛。頭花は茎の先に點頭して咲き、花が終わると上向く。総苞は幅 2～3cm、総苞片は覆瓦状に並び、開出しない。外片はごく短い。花期は 9～10 月。低地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部、北多摩、南多摩に記録はあるが、特殊な生育環境のため、稀になっている。

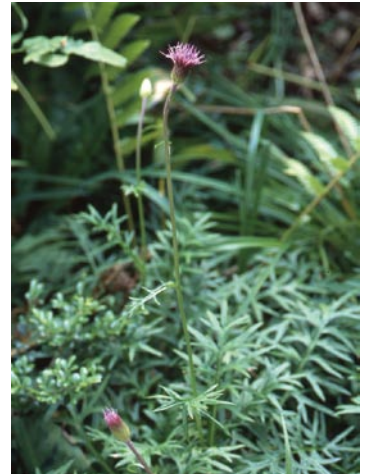
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、水質管理、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 奥田重俊)



クサノオウバノギク

*Crepidiastrum chelidoniifolium*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	CR	VU

【形態・生態】

越年草。茎は高さ 15～45cm。茎葉は長さ 3.5～11cm、幅 1～5cm、薄く、羽状に全裂し、クサノオウ(ケシ科)の葉に似ている。花の総苞は狭い円柱形で、内片は 5 個。小花も 5 個ある。そう果は紡錘形で長さ 3.5～4mm、先は 0.5mm のくちばしとなり、少し扁平で 10 肋がある。冠毛は白く、長さ 4.5mm。花期は 8～11 月。山地の礫地や岩隙などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

西多摩にごく稀に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



アズマギク

*Erigeron thunbergii*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	●	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 10～37cm、密に毛がある。根出葉はロゼット状でへら形、全縁でやや厚い。花をつける茎の根出葉は、開花時に生きている。花茎の葉は狭長楕円形または線形で縁には長軟毛がある。花は径 3～3.5cm、舌状花は多数で 3 列、花冠は長さ 15mm。そう果は有毛。冠毛は帯赤色。花期は 4～6 月。乾燥する草地に生育する。

【分布の概要】

本州(中部以北)

【都における生育環境】

北多摩(武蔵野市)、南多摩(八王子市)などに記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

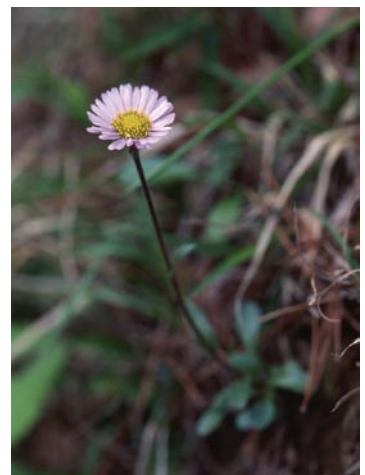
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による生育環境の変化や宅地開発などより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理をすることが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



フジバカマ

*Eupatorium japonicum*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ1～1.5m、下部は無毛。葉は普通3深裂し、裂片は長楕円形または長楕円状披針形、表面は光沢があり、裏面は腺点がなく、やや硬い。頭花は枝の先に散房状に多数つく。総苞片は約10個、5個の小花がある。そう果は長さ3mm。花期は8～9月。河原の湿った場所に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

区部のほか、北多摩など数ヶ所に記録はあるが、現状不明の場所が多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理をすることが望ましい。また、類似の園芸種があるため、保護指定に注意する必要がある。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 奥田重俊)



アキノハハコグサ

*Gnaphalium hypoleucum*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

一年草。茎は高さ30～60cmとなり、上部で分枝し、白い綿毛がある。葉は披針形で、長さ4～5cm、基部はなかば茎を抱いている。裏面には密に白い綿毛はあるが表面は緑色。花は散房状に多くの頭花をつける。総苞片は5列で淡黄色、花が終わると開く。外片は短くて白毛がある。そう果の冠毛は汚白色。花期は9～11月。やや乾いた山地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

東京都本土部全域に記録はあるが、個体数は極めて少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ヤナギタンポポ

*Hieracium umbellatum*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ30～120cm、上部は短い毛と星状毛が密生する。根出葉は開花時には枯れる。茎葉は多数で互生し、長楕円状披針形、先はとがり基部は円いくさび形。頭花は径2.5～3.5cmで、散房状または円錐状につく。総苞片は外側のものほど短く、ときに開出し反り返る。そう果は黒褐色。花期は8～9月。明るい草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生育環境】

西多摩に稀に分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



オグルマ

Inula britannica subsp. *japonica*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	VU	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20～60cm、根出葉は花時に枯れている。茎葉は広披針形から長楕円形で鋭頭、基部はなかば茎を抱く。茎の先に数個の頭花を開く。頭花は黄色、径 3～4cm、総苞片は 5 列でやや同長、外片は披針形で縁に短毛がある。そう果は 10 肋があり有毛。冠毛は細くてややざらつく。花期は 7～10 月。湿地や水田の縁、川岸などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域全域に多くの報告はあるが、自生地の消滅により、西多摩などで現存するが少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）、1967；畔上能力ら、1974。（執筆者：奥田重俊）



ホソバオグルマ

Inula britannica subsp. *linariifolia*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	—	—	—	VU

【形態・生態】

多年草。高さ 20～60cm。葉は線形または線状披針形で、幅 6～10mm と細い。頭花は黄色、小さくて径 18～25mm、総苞は長さ 4～6mm。そう果は長さ 1mm、冠毛は長さ 3mm。花期は 8～10 月。低地の日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

区部の報告はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、競合する外来種などの植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三、1965；佐竹義輔ら、1981。

（執筆者：奥田重俊）



カセンソウ

Inula salicina var. *asiatica*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎はやや多くの毛があり、高さ 60～80cm、硬くて細い。葉は長楕円状披針形で、長さ 5～8cm、基部は茎を抱き、洋紙質で薄いが硬く、縁には凸状の小歯牙があり、脈は目立つ。茎の上部に数個の頭花を上向きに開く。頭花は径 3.5～4cm、基部に苞葉がある。総苞片は草質で縁に密に短毛がある。花期は 7～9 月。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地に記録があるものの、減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。選択的な草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら、1972；畔上能力ら、1974。

（執筆者：奥田重俊）



タカネニガナ (ホソバノタカネニガナを含む)

*Ixeris alpicola*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	EX	

【形態・生態】

多年草。ニガナの変種とする場合がある。茎は高さ7～17cm。葉は薄く、切れ込み、茎を抱かない。頭花は黄色、径約2cm。小花は9～10個ある。そう果は長さ5～5.5mm。両生生殖をする。花期は6～7月。高山の岩場に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（奈良以北）、四国

【都における生育環境】

奥多摩の稜線に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境が保全された地域にあり、要因は不明であるが絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、選択的な草刈りなどを行うこと、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1981.

(執筆: 奥田重俊)



タカサゴソウ

Ixeris chinensis subsp. *strigosa*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	□	VU

【形態・生態】

多年草。茎は高さ20～50cm。根出葉は長さ8～24cm。葉は被針形で歯牙または切れ込みがある。頭花は径2cm、帯紫白色、小花は23～27個ある。総苞は太く、総苞の外片は卵形。冠毛は白色。花期は4～7月。乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地で記録があるものの、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、工事に際して自生地を保全することや、選択的な草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



カイトカラコウ

*Ligularia kaialpina*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ30～50cm、やや無毛。根出葉はほこ状心形、または心形など変異があり、先は尾状となる。茎葉の柄は茎を抱く。花序の頭花は6～8個、散房状につき、花柄が長い。総苞は筒状。舌状花は5個あって、花冠は長さ25～28mm、退化した葯がある。筒状花は14～16個。そう果は円柱形。花期は7～8月。亜高山帯の溪流の縁などに生育し、しばしば群生する。

【分布の概要】

本州（東北南部、関東、中部）

【都における生育環境】

奥多摩の山地などにごく稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地での選択的な草刈りなどを行うこと、シカの防護柵設置などを検討するが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



オオモミジガサ, トサノモミジガサ

*Miricacalia makineana*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 55～80cm。茎の下部の葉は最も大きく、葉柄は盾状につく。葉身は円形で幅 25～33cm、基部は深く心形。総苞の基部に苞葉がつく。小花は 20 個内外。黄色。そう果は長さ 7～8mm。冠毛は 10mm。花期は 7～9 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（福島以南）、四国、九州

【都における生育環境】

奥多摩に分布し、ブナ林などの林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の管理放棄による生育環境の変化やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。選択的な草刈りなどを行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



オクヤマコウモリ

Parasenecio maximowicziana var. *alata*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。コウモリソウの変種。高さ 50cm。葉身は三角状ほこ形で 5 浅裂する。茎の中部の葉は翼があって、基部は茎を抱く。頭花はまばらな円錐花序につく。花冠は白く長さ 7mm。花期は 8～10 月。山地の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（中部の太平洋側）

【都における生育環境】

奥多摩に分布し、ブナ林などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

シカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地での選択的な草刈りなどを行うこと、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヤマタイミンガサ, タイミンガサモドキ

*Parasenecio yatabei*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

多年草。長い地下茎をひいて先に新苗をつける。茎は高さ 60～90cm。葉は普通 3 枚、下部の葉は長柄があり、基部は短く鞘となる。葉身は基部は深く心形となり、掌状に 9～10 中裂する。頭花は円錐花序に多数つく。総苞片は 5 個。小花は 5～6 個あって、花冠は長さ 8.5～10mm。そう果の冠毛は汚白色。花期は 7～9 月。山地の落葉樹林の下に生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

奥多摩に分布する。ブナ林などの林床に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化やシカの食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

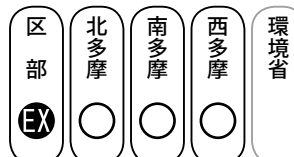
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ナガバノコウヤボウキ

*Pertya glabrescens*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

落葉低木。地下茎は太く、葉はほとんど毛がなく、少し硬い。1年生の枝は卵形の葉を互生して花をつけず、2年生の枝は各節に5～6枚の細長い葉をつけ、その中央に頭花をつける。花冠は白色、長さ15～18mmで、深く5裂する。そう果は長く6.5～7mmで、圧軟毛がある。花期は8～10月。明るい二次林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

山地に多いが、都市近郊では少ない。区部では芝白金に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

多摩地域では普通に見られるが、区部では宅地開発などより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



オオニガナ

*Prenanthes tanakae*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ60～90cm。葉は有翼の長柄があり、頭大羽状中裂または深裂する。花は黄白色で、総苞は太く、長さ12～14mm、内片は12～13個、外片は2列で披針形をなし、鈍頭、長さ3.5～7mm。小花は26～39個つく。花期は9～11月。低地の湿地に生育する。山中の湿地に稀に見られる。

【分布の概要】

本州(近畿以北)

【都における生育環境】

多摩地域の各地の水田跡に5～6ヶ所程度残存している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行と湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

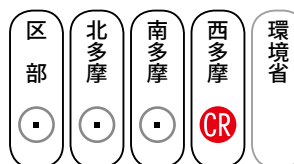
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



コウシュウヒゴタイ

*Saussurea amabilis*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ40～60cm。根出葉は開花時にも生き残り、長柄があり、葉身は長楕円形、稀に卵形、鋭尖頭で基部はほこ形、長さ8～21cm、表面は緑色で、裏面は青白色。花は1～4個の頭花をつける。総苞は鐘形で長さ17mm、総苞片は6列、草質で先は鋭尖形、中ほどから開出する。花期は8～10月。海拔1,500m以上の山地の岩場に生育する。

【分布の概要】

本州(関東西部から山梨)、四国

【都における生育環境】

奥多摩の石灰岩地にのみ見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

生育環境の変化やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。シカの防護柵設置などを検討することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うこと、草刈りなど自生地の管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ミヤコアザミ

*Saussurea maximowiczii*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 50 ～ 150cm。根出葉は花時にもあり、長柄がある。葉身は長楕円形で長さ 11 ～ 30cm、羽状に深裂し、側裂片は 4 ～ 6 対。頭花は多数が散房状につき、径 10mm。総苞は帯紫色でくも毛がある。総苞片は 8 列で、最外片は卵形。花期は 9 ～ 10 月。日当たりの良い草原や明るい林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の一部にごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 奥田重俊)



ヒメヒゴタイ

*Saussurea pulchella*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	□	CR	CR	VU

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 30 ～ 150cm、上部でよく分枝し多数の頭花をつける。葉は羽状深裂または全縁で、基部は茎に沿下する。葉の両面に細毛と腺点がある。頭花は径 12 ～ 16mm。総苞片には淡紅色の付属体があり、つぼみも花も美しい。花冠は長さ 11 ～ 13mm。冠毛は長さ 7 ～ 8.5mm。花期は 8 ～ 10 月。日当たりの良い草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の尾根部に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



タカオヒゴタイ

*Saussurea sinuatoidea*合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 35 ～ 60cm。根出葉は開花時にあるが、ときに枯れる。葉は卵形で急に鋭尖頭、基部は心形で、縁は大きく深く湾入し、薄い。頭花は総状またはゆるい散房状につき、径 2cm ほどで、基部に線形の苞がつく。総苞は鐘形で密にくも毛がある。総苞の外片は披針形で長く、中片とともに反り返る。花期は 9 ～ 10 月。山地の落葉樹林や二次林の縁に生育する。

【分布の概要】

本州 (奥多摩、秩父、小仏山地、多摩丘陵、三ツ峠、甲府盆地を囲む山地)

【都における生育環境】

南多摩から西多摩に分布する。トウヒレン類の中では自生地が多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。選択的な草刈りなどを行うことや、シカの防護柵設置などを検討することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



セイタカトウヒレン, アキノヤハズアザミ

*Saussurea tanakae*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 70～100cm で、つねに著しい翼がつく。根出葉は開花時に枯れてない。茎葉は有柄で、葉身は心形または広卵形、長さ 8～15cm、先は短く鋭尖となり、縁に不規則な歯牙がある。頭花は径 15mm、しばしば総状につく。総苞は黒紫色で絹毛がある。総苞片は 9 列で、最外片は広卵形、鈍形で微凸端。花期は 9～10 月。山地の草原に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から中部、岡山）

【都における生育環境】

主に西多摩の山地の尾根部に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



ヤハズヒゴタイ

*Saussurea triptera*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30～55cm、葉の基部から沿下した翼がある。根出葉や下部の葉は長柄があり、葉身は薄く、卵形または卵状長楕円形、鋸歯縁のものもあるが、しばしば中部以下の葉は羽状中裂する。頭花は径 10mm で、7～24 個が散房状につく。総苞片は 5 列、外片は内片の半長で、広卵形、先はとがって線形、黒紫色、花冠は長さ 10mm。花期は 8～9 月。高山の草原や林縁に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



キクアザミ

*Saussurea ussuriensis*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30～120cm になる。根出葉や茎の下部の葉は長柄があり、葉柄は長さ 5～20cm、葉身は卵形で長さ 7～18cm、羽状浅裂から中裂し、硬い。茎葉は上のものの葉身は狭く小さく、無柄で、茎に翼はない。頭花は散房状につく。花冠は長さ 11～13mm。総苞片は 5～7 列で、最外片は長楕円形または卵形で、先は短くとがる。花期は 9～10 月。日当たりの良い山の草原に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の尾根部に稀に生育する。

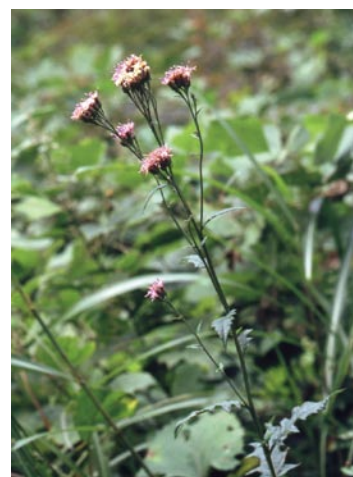
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



コウリンカ

Senecio flammeus subsp. *glabrifolius*

合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EX	VU	VU

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ 50～60cm で、上部に少しくも毛がある。根出葉は開花時に枯れる。下部の葉は広倒披針形、中部の葉は披針形で、基部は茎を抱く。頭花は 6～13 個、やや散状につき、長い舌状花があり、反り返って咲く。花柄は長さ 5～16cm。舌状花冠は長さ 17～22mm。そう果は密に毛があり、冠毛は汚白色。花期は 7～9 月。日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

西多摩に数ヶ所記録はあるが、現状不明の場所が多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、シカの防護柵設置を検討すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



オカオグルマ

Senecio integrifolius subsp. *fauriei*

合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20～65cm。根出葉は多数で、ロゼット状をなし、長楕円形で鈍頭、両面にくも毛がある。茎葉は基部はやや茎を抱き、短く沿下する。頭花は 3～9 個、散房状につく。総苞は筒状。舌状花冠は長さ 12～16mm。そう果は密毛がある。冠毛は白色、花後、筒状花冠をこえて伸びる。花期は 5～6 月。日当たりの良い乾いた草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域に記録はあるが、現状は不明のところが多い。

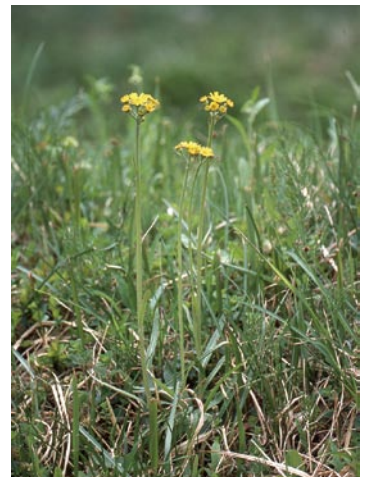
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことや、競合する植物の除去を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 奥田重俊)



サワオグルマ

Senecio pierotii

合弁花亜綱
キク科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	○	○	

【形態・生態】

多年草。茎は中空で直立し、高さ 50～80cm となり、葉とともに白いくも毛がある。根出葉はロゼット状。茎葉は卵状披針形、基部は広く茎を抱く。頭花は径 3.5～5cm、6～30 個が散房状またはやや散状につく。総苞片は広披針形。舌状花冠は長さ 11～16mm。そう果は無毛。冠毛は白色、花後長く伸びる。花期は 4～6 月。日当たりの良い山間の湿地に生息し、所によって群生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部と北多摩にのみ記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、水質管理などを行うこと、外来種の除去などを行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 佐竹義輔ら, 1981.

(執筆: 奥田重俊)



タムラソウ

Serratula coronata subsp. *insularis*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30 ～ 140cm になる。茎葉は羽状に全裂するが、下部の葉には長柄がある。葉はやや薄く、両面に細毛がある。頭花は紅紫色で、上向きに咲き、径 3 ～ 4cm。総苞片は 7 列で、外片と中片は淡黄褐色、鋭尖頭。縁の小花は長さ 25 ～ 28mm。中の小花は両性で、長さ 22 ～ 26mm。花期は 9 ～ 10 月。日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩などに数ヶ所現存の記録はあるが、減少している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。草刈りなどの管理をすることや、競合する植物の除去を行うことが望ましい。

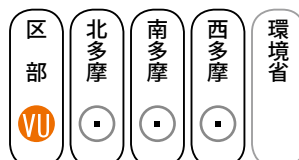
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）、1967；畔上能力ら、1974。

（執筆者：奥田重俊）



ハチジョウナ

*Sonchus brachyotus*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30 ～ 100cm、葉とともに無毛。葉は裏面粉白色。基部は茎を抱く。頭花は黄色、径 3 ～ 3.5cm。総苞は長さ 1.6 ～ 2cm、密に綿毛をかぶる。総苞片は 4 ～ 5 列、外片は卵形。そう果は長さ 3.5mm。冠毛は長さ 1.3mm で、純白。花期は 8 ～ 10 月。海岸付近の荒れ地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

海岸付近に分布するが少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

浚渫工事や他の海浜植物との競合などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、競合する海浜植物の除去をすることが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三、1965；佐竹義輔ら、1981。

（執筆者：奥田重俊）



オナモミ

*Xanthium strumarium*合弁花亜綱
キク科

【形態・生態】

一年草。茎は高さ 20 ～ 100cm、短毛がある。葉は互生し、3.5 ～ 10cm の長柄があり、葉身は卵状三角形で、長さ 6 ～ 15cm、3 ～ 5 浅裂し、不ぞろいな鋸歯があり、やや厚く、基部は心形、両面に剛毛があってざらつく。筒状花は白色。花期は 8 ～ 10 月。日本には古くから生育しているが、アジア大陸から帰化したものと推定されている。かつては荒れ地に普通であったという。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地に記録はあるが、現在生育の報告は少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら、1974；鈴木和雄、1984。

（執筆者：奥田重俊）



ヘラオモダカ

*Alisma canaliculatum*単子葉植物綱
オモダカ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。葉は根生し、葉身は披針形で先は鋭くとがり、基部はしだいに細く、葉柄に流れる。花茎を直立し、枝や小枝を3輪生し、円錐花序をつくる。花は各枝先に頂生し、両性花で、萼片3個、花弁は白色、卵円形で3個。果実は集合果で、分果の背面に1本の縦溝がある。花期は7～8月。水田や浅い池などの水中に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

山地下部から丘陵地の谷戸、台地脚部、低地にかけての湿地とそれに連続した水田など、いわゆる里山の湿地環境に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の埋立てなどによる消失だけでなく、水田では除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。除草剤の使用を抑えることや、適度な乱管理を行い湿地環境を維持することが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ(編), 1995; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



サジオモダカ

Alisma plantago-aquatica var. *orientale*単子葉植物綱
オモダカ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	DD	DD	

【形態・生態】

多年草。葉は根元から出る。ヘラオモダカに似るが、葉身は卵状楕円形で、基部は円形またはやや心形で、葉柄との境が明瞭。花茎は高さ30～80cm、枝を数段輪生する。花は両性、萼片3個、花弁は3個、白色ときに淡紅色を帯びる。果実は集合果で、分果の背面に浅い縦溝が2本ある。花期は8～9月。浅いため池や水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州(中部以北)

【都における生育環境】

河川の浅瀬や池沼周辺の湿地に生育する。区部の低地では河川内で生育が報告されているが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

浅い池や沼など、湿地環境が広範囲で消失したことにより減少したものと考えられる。近年、武蔵野台地から再発見されたとの情報もある。そのため、過去に区部で記録された場所周辺での再発見も期待される。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 津久井公昭, 1999.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



トウゴクヘラオモダカ

*Alisma rariflorum*単子葉植物綱
オモダカ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	DD	VU	DD	VU

【形態・生態】

多年草。葉は根生。葉身は長楕円形で長柄がある。円錐花序の最下の枝が普通2本しかない。花の各部はヘラオモダカより大きく、花弁は長さ約5mm、先端に粗い鋸歯がある。分果は背面に溝が1本あり、長さ約3mm。花期は7～8月。休耕田や浅い池などに生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

南多摩では、丘陵地脚部の湿地や水温の低い湿田などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の消失や植生遷移の進行、また水田周辺の水路や休耕地などの改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。ヘラオモダカ同様、自生地では適度な乱管理を行い、湿地環境を維持することが望ましい。

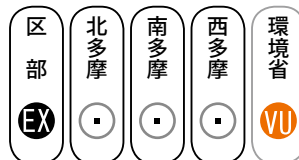
【関連文献】

角野康郎, 1994; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



マルバオモダカ

*Caldesia parnassiiifolia*単子葉植物綱
オモダカ科

【形態・生態】

多年草。幼葉は長楕円形、成葉の葉身は円形で基部は心形となる。花茎は直立し、枝、花柄を3輪生する。花は両性で、花弁は白色で先に歯牙がある。夏以降、花枝の先に殖芽がつく。芽は脱落后栄養繁殖する。花期は8～9月。沼地やため池、湿田など浅い水中に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

区部に記録はあるが、近年の報告例はなく、絶滅したものと考えられる。本属のうち、もっとも自然性の高い池沼に生育していたものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

都市化に伴う池沼の水質悪化、湿地の改変などにより絶滅したものと考えられる。過去の自生地が明らかであれば、埋土種子からの復元の可能性があり得る。

【関連文献】

角野康郎, 1994; 千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）, 2009.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



アギナシ

*Sagittaria aginashi*単子葉植物綱
オモダカ科

【形態・生態】

多年草。葉は根生し、沈水葉は線形、水面から出る葉は有柄で、葉身は矢じり形で側裂片の先端部はごく小さい球状となる。花茎を直立し、上部に雄花、下部に雌花を3個ずつ輪生する。花弁は白色。花期は7～10月。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地から丘陵地、台地にかけての、日当たりの良い谷戸の湿地や休耕田、池沼、水路などに生育する。多摩丘陵の谷戸の湿地には少ないが現存する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の消失はもとより、湿地の植生遷移の進行も本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の日照条件を十分に確保することや、適度な乱管理を行い湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 内野秀重, 2008a.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ウリカワ

*Sagittaria pygmaea*単子葉植物綱
オモダカ科

【形態・生態】

多年草。葉は根生し、走出枝を出し新しい株をつくる。葉身は長さ10～15cm、幅5～8mmの線形。花茎を水面から直立し、雄花は花柄が3輪生し、雌花は無柄で花序の基部に1～2個つく。花弁は3個、白色、卵円形で長さ8～10mm。花期は7～8月。水田や浅い池などに生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

湿潤な水田、浅い池沼を生育環境とする。区部では練馬や板橋における古い記録があり、近年は南多摩からも報告がある。北多摩と西多摩の現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の消失や植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地が確認された場合は、適度な乱管理を行い、日当たりの良い湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

角野康郎, 1994; 日野市環境情報センター（編）, 2008.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



スブタ

*Blyxa echinosperma*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	EX	EX	VU

【形態・生態】

沈水性の一年草。葉は根生し株立ちとなる。葉身は線形、緑紫褐色を帯び、長さ10～30cm、幅5～8mm、縁に細かい鋸歯がある。花は白色、両性で頂生する。花弁は3個、線形で長さ約10mm、下部に円筒形で長さ25～45mmの苞鞘がある。花期は8～10月。ため池、湿田、溝などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の低地に記録はあるが、具体的な証拠標本を有する記録はほとんど見当たらず、東京都本土部においてはほぼ絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田や湿地環境の消滅により絶滅したものと考えられる。自生地が再発見された場合は、適度なく乱管理による湿地環境の維持や、除草剤の使用を抑えるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

東京府土木部（編），1937；角野康郎，1994。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ヤナギスブタ

*Blyxa japonica*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EN	・	

【形態・生態】

沈水性の一年草。茎は水中を長く這い、分枝して多数の葉をつける。葉は互生し線形で長さ3～5cm、幅約2mm、緑紫褐色、先端は鋭尖し、縁に細かい鋸歯がある。白色の両性花をつける。花弁は3個、線形で長さ7～8mm。種子は紡錘形で平滑。花期は8～10月。水田や溝、ため池などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の谷戸では、水温の低い貧栄養な湿田に稀に生育するが、北多摩や区部では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸田の管理放棄などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。関係者が本種の生育情報を共有することが重要であり、そのうえで谷戸田の管理を行うことや、除草剤などの影響を取り除くための対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら，1965；多摩市文化振興財団（編），2004。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



クロモ

*Hydrilla verticillata*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	VU	VU	—	

【形態・生態】

沈水性の多年草または一年草。茎は長く伸び、分枝する。地下茎の先端、葉腋に殖芽をつけ越冬する。葉は線形で長さ約1～1.5cm、幅1～1.5mm、縁に鋸歯があり、多くは5～7輪生する。雄花は蕾のうちに切り離され水面上で開花し、雌花は花床筒が伸長して水面に出て受粉する。ため池や流れの緩やかな水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

かつては区部、北多摩、南多摩の河川でやや普通に見られた。最近では、区部の流水域においてわずかながら自然繁殖が確認されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質悪化や競合する外来種のコカナダモやオオカナダモの侵入が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。限られた自生地の現状を関係者が情報共有することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら，1965；畔上能力ら，1974。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



トチカガミ

*Hydrocharis dubia*単子葉植物綱
トチカガミ科

【形態・生態】

浮遊性の多年草。水中に茎を伸ばし、節から根と数個の葉を展開する。葉身は円形で径2～7cm、基部は心形または深く切れ込む。花弁は3枚、白色、長さ1～1.3cm。秋から冬にかけ、水中茎の先端が長さ2～4cmの殖芽となり、水底に沈んで越冬する。花期は8～10月。湖沼、ため池、水路などに群生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部、北多摩のため池などに自生が記録されているが、区部では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草食性の大型魚類やアメリカザリガニなどによる食害が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。これらが生息しない止水域でしか本種は生育できず、こうした止水域を保全することや外来種駆除などの管理をすることが望ましい。記録のある自生地の現状の再確認が望まれる。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ（編）、1995；清瀬の自然を守る会（編）、2010。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



ミズオオバコ

*Ottelia alismoides*単子葉植物綱
トチカガミ科

【形態・生態】

沈水性の一年草。葉は根生する。葉は卵状楕円形、広楕円形、広披針形など、形、大きさとも生育環境で変化が大きい。縁には波形のしわがある。花弁は3枚、白色～淡紅色。花期は8～10月。ため池、水路、湿田などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

丘陵地から区部低地にかけての浅い池沼、湿田、溝などに極めて稀に生育する。

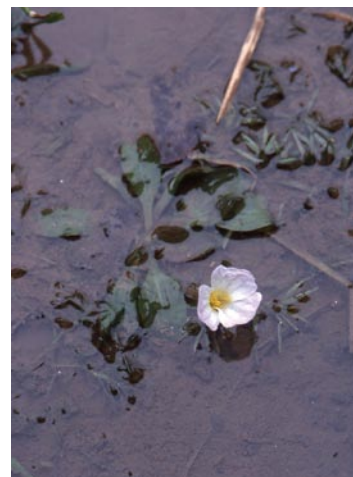
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿田やため池の消滅が本種の生存を脅かす最大の要因であると考えられる。本種の継続的な生育には、水中に酸素が供給されるように湿田やため池の定期的なかく乱を行うことが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ（編）、1995；多摩市文化振興財団（編）、2004。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



コウガイモ

*Vallisneria spiralis*単子葉植物綱
トチカガミ科

【形態・生態】

沈水性の多年草。葉は根生し、線形で長さ10～60cm、幅5～10mm、葉先は鈍形、葉縁に鋸歯がある。雌雄異株。雌花は細長い花茎を伸ばし水面に浮かぶ。雄花は葉の基部の苞鞘の中に多数つまり、裂開すると水面に浮遊する。秋、走出枝の先に筍（こうがい）状の殖芽をつけ越冬する。花期は8～10月。湖沼、河川、水路などに生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

東京都本土部全域に記録があり、南多摩では台地を流れる用水路に自生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

用水路の改変や水質悪化、競合する外来の水草の侵入が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。関係者で情報共有し、適切な水路管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課（編）、1987；日野市環境情報センター（編）、2008。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



セキショウモ

*Vallisneria spiralis*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

沈水性の多年草。殖芽はつくらない。葉は根生し、線形で長さ 10 ～ 80cm、先端部の縁にまばらに鋸歯がある。雌雄異株。雄花は葉の基部の苞鞘の中に多数できる。雌花は長い花茎を水面まで伸ばし雌花を浮かべる。花期は 8 ～ 10 月。湖沼、ため池、河川、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

丘陵地から台地にかけての河川、水路に自生する。区部の低地でも記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

コウガイモ同様、用水路の改変や水質悪化、競合する外来の水草の侵入が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。関係者で情報共有し、適切な水路管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団（編）、2004. 日野市環境情報センター（編）、2008.



（執筆：畔上能力・内野秀重）

エビモ

*Potamogeton crispus*単子葉植物綱
ヒルムシロ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

沈水性の多年草。茎は扁平で長さ 30 ～ 70cm。葉は扁平で長さ 3 ～ 10cm、縁に細かな鋸歯があり縮れて波打つ。5cm ほどの花茎を水面に出して微細な両性花を穂状につける。花期は 5 ～ 9 月。ため池、河川、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の低地から丘陵地、台地にかけての河川や水路、池沼に自生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質悪化には比較的強いが、競合する外来の水草の侵入が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種の生態を考慮した保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課（編）、1987; 日野市環境情報センター（編）、2008.



（執筆：畔上能力・内野秀重）

コバノヒルムシロ

*Potamogeton cristatus*単子葉植物綱
ヒルムシロ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	・	・	VU

【形態・生態】

浮葉性の多年草。ホソバミズヒキモに酷似する。果実のくちばし（花柱）が長く、背面にとさか状の突起があることで区別される。浮葉は長さ 2cm ほどの長楕円形。沈水葉は幅 1mm 以下の糸状。水面上に 1cm ほどの花穂を出す。花期は 5 ～ 9 月。ため池に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部、北多摩の河川、水路に記録はあるが、現在ではまったく報告がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川の水質悪化や用水路の改変などにより絶滅したものと考えられる。記録のある自生地周辺に生き残っている個体群がないかどうか再確認が望まれる。

【関連文献】

飯泉優、1961; 本田正次ら、1965.



（執筆：畔上能力・内野秀重）

ヒルムシロ

*Potamogeton distinctus*単子葉植物綱
ヒルムシロ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

浮葉性の多年草。地下茎は長く這い、節から茎を伸ばし、水深によって 10cm ～ 3m。沈水葉は披針形、浮水葉は狭長楕円形から楕円形で長さ 5 ～ 10cm、幅 2 ～ 4cm、長柄がある。花穂は長さ 2 ～ 6cm。花期は 5 ～ 10 月。湖沼、ため池、河川、水路、水田などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部から北多摩、南多摩、西多摩のごく一部の水田や水路、調整池などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼におけるブルーギルなどの外来の魚類による食害、水田や水路における除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。外来種駆除などの管理をすることや除草剤の使用を抑えるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課 (編), 1987; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



センニンモ

*Potamogeton maackianus*単子葉植物綱
ヒルムシロ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	DD	—	

【形態・生態】

沈水性の多年草。地下茎は長く這い、節から水中茎を伸ばす。葉は線形、無柄、長さ 2 ～ 6cm、幅 2 ～ 4mm、葉縁に鋸歯があり、先端は凸状になる特徴がある。水面上に花茎を出し、穂状花序をつける。花期は 6 ～ 8 月。湖沼、ため池、河川、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部では練馬区石神井の古い記録がある。南多摩の現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川、用水路の水質悪化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。千葉県では埋土種子からの復元実績があるため、過去の自生地が明らかであれば、埋土種子からの復元の可能性がある。

【関連文献】

本田正次ら, 1962; 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ササバモ, サジバモ

*Potamogeton malaianus*単子葉植物綱
ヒルムシロ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	

【形態・生態】

沈水性または浮葉性の多年草。水中茎はときに数 m に及ぶ。沈水葉の葉身は長楕円状線形から狭披針形、長さ 5 ～ 30cm、幅 1 ～ 2.5cm。葉縁に鋸歯がある。浮葉は長さ 6 ～ 15cm、幅 1.5 ～ 3cm。花茎を水面上に出し、長さ 2 ～ 5cm の花穂をつける。冬には地下茎の先端に殖芽を形成し越冬する。花期は 7 ～ 9 月。湖沼、河川、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩川中流域の本流および用水路などに生育する。区部および南多摩でも極めて稀である。

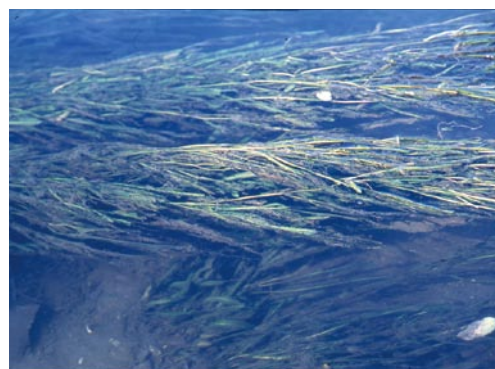
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川、用水路の水質悪化、改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種が水域に群生する姿は優美であり、これを景観資源とした河川・水田管理が期待される。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



オヒルムシロ

*Potamogeton natans*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	—	—	

【形態・生態】

沈水性または浮葉性の多年草。ヒルムシロに酷似する。沈水葉は互生し、針状で長さ12～30cm、幅0.5～2mm、浮葉は長柄があり、葉身は長楕円形から広楕円形で、基部はくびれて浅い心形、長さ5～12cm、幅2～5cm。花は両性で、花茎5～12cm、花穂3～5cmの穂状花序を水面に立てる。花期は5～8月。水温の低い湖沼、河川などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の荒川水系で記録はあるが、現状は不明である。ヒルムシロと比較して、湧水などの流入がある水温の低い小河川や水路、池などに生育していたものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川、用水路の水質悪化、ブルーギルなどの外来の魚類による食害、水路の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地が確認された場合は、自生地を保全することや、水質の改善を図ること、外来種駆除などの管理をすることが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 角野康郎, 1994.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホソバミズヒキモ

*Potamogeton octandrus*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	DD	—	—	

【形態・生態】

沈水性または浮葉性の多年草。地下茎は繊細で泥中を這う。沈水葉は線形で長さ3～5cm、幅約1mm。浮葉は長楕円形で長さ2～3cm、幅4～10mm。水面に長さ10～20mmの花茎、10～13mmの花穂を出す。花期は6～9月。ため池、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩川中流域や用水路などの流水中に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

2000年代以降の生育状況は不明であり、自生地の再確認が望まれる。

【関連文献】

角野康郎, 1994; 津久井公昭・山崎正夫, 1995.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ヤナギモ

*Potamogeton oxyphyllus*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	NT	NT	—	

【形態・生態】

沈水性の多年草。水中茎の断面は楕円形。葉は無柄、線形、鋭尖頭。長さ5～12cm、幅2～5mm、全縁で5脈以上ある。花茎は長さ2～5cm、花穂は長さ6～12mm。花期は5～9月。河川、水路、稀にため池などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩から南多摩における河川中流域および、沖積地を流れる用水路、湧水起源の水路などに生育するが、分布は局限される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

豪雨による異常出水による河川環境の変化、競合する外来の水草の繁茂が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。競合する植物を除去することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2012.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

イトモ

*Potamogeton pusillus*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	●	NT

【形態・生態】

沈水性の多年草。アイノコイトモと酷似する。茎、葉は非常に細い。葉は狭線形、長さ2～5cm、幅0.7～1.5mm。葉の内側に独立した托葉があり、茎を抱いている。総花柄は長さ1～2cm、穂状花序は長さ4～5cm、果実は広卵形で長さ約1.8mm。花期は6～8月。湖沼、ため池、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩川中流域から下流域、低地の水路、ため池などで極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川や水路の水質悪化だけでなく、水路の除草による本種の除去も生存を脅かす主な要因であると考えられる。水質の保全とともに本種に配慮した水路の除草を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2012.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カワツルモ

*Ruppia maritima*単子葉植物綱
トチカガミ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	●	●	●	NT

【形態・生態】

沈水性の多年草。地下茎は這い、各節から水中茎が伸び出し、針状の葉を互生または対生につける。葉身は長さ6～10cm、幅約0.5mm、葉縁に鋸歯があり、先端は鋭頭。水中花で両性花を2個だけ穂状花序につける。花期は4～10月。海岸沿いの湖沼、塩田跡など汽水域に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島

【都における生育環境】

東京湾沿いに記録はあるが、近年報告がなく絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部の汽水湿地が広範囲に消失したことにより絶滅したものと考えられる。不安定な汽水湿地を生育環境とするため、保全の難しい植物である。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会(編), 2001; 千葉県レッドデータブック改訂委員会(編), 2009.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イトトリゲモ

*Najas japonica*単子葉植物綱
イバラモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	—	VU	—	NT

【形態・生態】

沈水性の一年草。よく分枝し、茎は折れやすい。葉は5輪生状。葉鞘の先は切形、葉身は糸状で長さ1.2cm、幅約0.2mm。葉縁に細鋸歯がある。花は葉腋につき、節ごとに1個の雄花と2個の雌花が並んでつく。花期は6～9月。ため池や水田などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の谷戸田、貧栄養な湿田などに極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸田の放棄、除草剤の多用、湿地の消滅などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湿田を維持することや除草剤の使用を控えるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

角野康郎, 1994.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イバラモ

*Najas marina*単子葉植物綱
イバラモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	—	—	

【形態・生態】

沈水性の一年草。雌雄異株。茎は水底を這い節から根をおろし、水中茎を分枝して広がる。葉は対生、基部は葉鞘となり、葉身は線形で長さ2～6cm、幅1～2mm、縁に刺状の粗い鋸歯がある。花は葉腋に1個つく。本種は形態変異の幅が著しい。花期は7～9月。湖沼、ため池、稀に河川、水路などにも生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の低地の池での生育記録はあるが、詳細は不明である。近県における記録によれば、水質の良好な池、沼に生育するという。

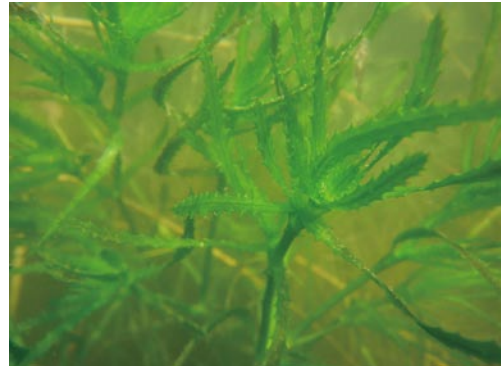
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の水質悪化、湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。埋土種子からの再生が可能な植物であり、かつての自生地における現状の再確認が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



トリゲモ

*Najas minor*単子葉植物綱
イバラモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	—	—	VU

【形態・生態】

沈水性の一年草。サガミトリゲモ、オオトリゲモに酷似する。水中茎は長さ約30cm、よく分枝し、細く節から折れやすい。葉は対生し、長さ1～2cm、幅約0.5mm、縁に小さな刺状の鋸歯がある。雌雄同株。雄花は苞鞘に包まれ、葯は1室。花期は7～9月。湖沼、ため池に稀に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部南西部での古い記録はあるが、現状は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の改変や谷戸田の放棄、乾田化、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湿田を維持することや除草剤の使用を抑えるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメニラ、ヒメビル

*Allium monanthum*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。地下に卵形で長さ1cmほどの鱗茎がある。葉は1～2個、線形で長さ10～20cm、幅3～8mm、断面は三日月状。花茎は細く高さ5～10cm、茎頂に1～数個の白または淡紅色の花をつける。花期は4～5月。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生育環境】

西多摩山地下部から各丘陵地、台地脚部の北向きの林縁などに生育する。カタクリなどの春植物と混生することが多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

雑木林の改変や林縁の荒廃が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事の際して自生地を保全することや、林床の春植物であるため冬季の落葉かきや下草刈りなどの適切な林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989; 清瀬の自然を守る会編, 2010.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤマラッキョウ

*Allium thunbergii*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。鱗茎は狭卵形で長さ2～3cm、外皮は灰白色。花茎は高さ30～60cm。葉は円筒形、中空で長さ20～50cm、幅2～5mm、断面は鈍三角形。花茎の先端に紅紫色の多数花を球状の散形花序につける。花期は9～10月。山地や丘陵地の日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩山地の草原、多摩地域の丘陵地や段丘崖などの草地に生育するが極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の改変や、定期的な草刈りの停止による植生遷移の進行などが、本種の生存を脅かす主要因と考えられる。工事に際して自生地を保全することに加え、本種が自生する草地は、最低、年1回の草刈りを行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アマナ

*Amana edulis*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。外皮鱗茎は広卵形で長さ3～4cm、葉は2個、線形で主脈に沿って白いぼかしが入る。花茎は長さ15～20cm、先端に白地に紅紫色の脈が入る花を1個つけ、中程に2個の苞がある。さく果は円形で長さ1cm、三稜がある。花期は3～5月。原野に生育する。

【分布の概要】

本州(福島以南、石川以西)、四国、九州、南西諸島(奄美大島)

【都における生育環境】

西多摩の山地下部から丘陵地や台地脚部、低地にかけて、草刈り頻度の高い芝草地や疎林内などに群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の改変や消滅が自生地の存続に直接影響をもたらすが、芝草地や疎林下の草刈りの停止によっても衰退が進む。工事に際して自生地を保全することに加え、本種の地上部生育期間(3～5月)を除く、自生地の定期的な下草刈りなどが基本的な保全対策として重要である。

【関連文献】

近田文弘ら, 2000; 清瀬の自然を守る会(編), 2010. (執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒロハノアマナ

*Amana latifolia*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	VU	VU	CR	VU

【形態・生態】

多年草。外皮鱗茎がある。葉は線形で2個、花茎の下部につき、暗緑色で主脈沿いに白筋がある。長さ15～25cm、幅1～2cm。花茎には3個の苞がつくことでアマナと区別できる。花期は3～4月。草地や疎林内などに生育する。

【分布の概要】

本州(関東から近畿)、四国

【都における生育環境】

北多摩や南多摩の丘陵地の脚部、段丘崖の雑木林の林縁、栗林や西多摩の山地などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁部の改変、山林の放置などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することに加え、林床に生育する春植物なので、冬季の落葉かきや下草刈りなど適切な林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

秋川市史編纂委員会(編), 1983; 清瀬の自然を守る会編, 2010.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



キジカクシ

*Asparagus schoberioides*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 50～100cm、上部でよく分枝する。鱗片葉は小型の膜質で長さ 1mm、葉状枝は葉腋に 3～7 個束生し、長さ 1～2cm、線形、扁平でゆるく湾曲する。花は総状花序につく。雌雄異株。花被は広鐘形で長さ 2～3mm、淡黄緑色。花期は 5～6 月。山地の草地、林床に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地の草原から西多摩の山地、また、落葉樹林や常緑針葉樹林などの疎林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

防火帯の維持などを目的とした定期的な草刈りの停止、植林地の放置などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。定期的な草刈りによる草原環境の維持や下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

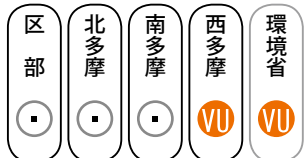
【関連文献】

飯泉優, 1961; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1995.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ステゴビル

*Caloscordum inutile*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。鱗茎は球形で径 1～1.5cm、ノビルに似るがネギ臭はない。根出葉は長さ 30cm 前後で、扁平な線形。花茎は高さ 15～30cm、数個の白色の花を散形状につける。さく果は扁円形で長さ約 4mm。花期は 9～10 月。原野に生育し、礫質でやや湿潤な斜面を好む。

【分布の概要】

本州 (茨城、愛知、岐阜、京都)

【都における生育環境】

西多摩の丘陵地から段丘崖斜面にかけての草地や雑木林、栗林などの林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されているため、自生地である草地の消失や樹林の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。冬季の草刈りや林床の下草刈り、間伐などによる林内照度の向上を図ることが望ましい。

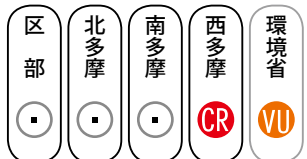
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アズマシライトソウ

Chionographis japonica var. *hisauchiana*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。根出葉はロゼット状で長楕円形、長さ 3～14cm、基部は次第に細く柄になり、縁は細かい波状のしわがある。花茎は高さ 15～40cm、小型の茎葉がある。茎頂に長さ 5～20cm の穂状花序をつけ、白色の小花を多数咲かせる。花期は 5～6 月。山地の林床に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東)

【都における生育環境】

西多摩の山地林内に極めて稀に自生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限され、個体数も少ないため、自生地の改変や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の現状把握と個体群を対象とした保全を講じることが望ましい。

【関連文献】

奥山春季, 1982; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



オオチゴユリ, アオチゴユリ

*Disporum viridescens*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、分枝する。茎は直立し、高さ 40～70cm、上部で分枝する。葉は卵状楕円形または長楕円形、長さ 9～11cm。花は下向きに咲き、花被片は鋭頭、淡緑白色、長さ 12～15mm。果実は球形の液果で径 1cm、黒色に熟する。花期は 5～6 月。山地から丘陵地の林床に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地、丘陵地、台地の落葉樹林内に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発により、限られた自生地の多くが消滅したことが、本種の減少の主な要因であると考えられる。残された自生地については、本種の生態を考慮した保全対策を講じることや落葉かきや下草刈りなどの適切な林床管理を継続することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和夫, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カタクリ

*Erythronium japonicum*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。鱗茎は筒状長楕円形で、長さ 5～6cm。葉は普通 2 個、葉身は地上に広がり長楕円形で、白緑色で暗紫褐色の斑紋があるが、ときにはないものもある。高さ 10～20cm の花茎の先端に淡紅紫色の花が 1 個下向きに開く。さく果は円形で三稜形、3 室。花期は 3～5 月。山野に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

山地から丘陵地、台地の段丘崖などの主に北向きで適湿な落葉樹林内に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

管理放棄による林床の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。林床に生育する春植物であるため、落葉かきや下草刈りなどの適切な林床管理を行うことや、園芸目的の採取に対する取組みを行うことが望ましい。また、自生地での管理においては、カタクリの葉の踏みつけによって、さび病が発生しないような注意が必要である。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カイコバイモ

*Fritillaria kaiensis*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	□	EN

【形態・生態】

多年草。鱗茎は球形で径約 1cm、半球形の 2 個の鱗片からなる。茎は高さ 10～20cm、葉は披針形で長さ 3～7cm、下方の 2 個は対生し、上方の 3 個は輪生し、暗緑色、または主脈に沿って白斑がある。淡黄白色で紫の網目模様がある花を茎頂に 1 個、杯状鐘形で下向きにつける。花期は 3～5 月。山地の林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東京、山梨、静岡）

【都における生育環境】

南多摩のごく限られた丘陵地脚部の林縁に生育する。カタクリ同様、主に北向きの適湿斜面を好む。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限され、個体数も少ないため、園芸目的の採取が、本種の生存を脅かす大きな要因であると考えられる。開花期の日照条件を確保するため、冬季の落葉かきや下草刈りなどの林床管理を継続することや、園芸目的の採取に対する取組みを行うことが望ましい。

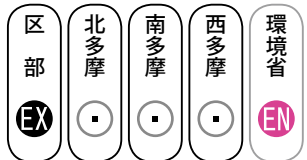
【関連文献】

鳴橋直弘, 1973; Naruhashi, N., 1979.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメアマナ

*Gagea japonica*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。鱗茎は薄い黒褐色の外皮で包まれ、径約 1cm。根出葉は線形で長さ 10 ～ 20cm、幅約 2mm。高さ 10 ～ 16cm の花茎の頂に数個の黄色花を散形花序につける。花は小型で花被片は長さ 7 ～ 9mm。花期は 4 ～ 5 月。湿った原野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

板橋区志村採集の標本(1966 年 3 月)があり、かつては荒川水系の東京都側にも生育していたが、絶滅したものと考えられる。近県では谷筋の落葉樹林内での生育記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

都市化などの開発の進行に伴い、自生地が消失したことにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合は、下草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

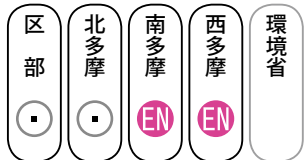
【関連文献】

小野幹雄, 1991; 千葉県レッドデータブック改訂委員会(編), 2009.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



キバナノアマナ

*Gagea lutea*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。鱗茎は卵形で長さ 10 ～ 15mm。根出葉は普通 1 個、長さ 15 ～ 30cm、幅 5 ～ 7mm。花茎は高さ 15 ～ 25cm、茎頂に 4 ～ 10 個の黄色花を散形花序につける。花被片は内側は黄色、背面は黄緑色で長さ 12 ～ 15mm。花期は 4 ～ 5 月。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生育環境】

南多摩から西多摩にかけての山地下部で、北向き斜面の落葉広葉樹林内、果樹園、草地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や河川改修、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、定期的な下草刈りなどの林床管理を行うこと、踏みつけ・園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

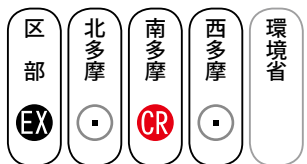
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



シロバナショウジョウバカマ

Heloniopsis orientalis var. *flavida*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。根出葉はロゼット状に多数つき、狭長楕円形から狭倒披針形で長さ 7 ～ 20cm、幅 1.5 ～ 4cm、葉縁は細かな波状になる。花茎は高さ 10 ～ 15cm、数個の鱗片葉がつき、茎頂に 3 ～ 10 個の花が総状花序につく。花期は 4 ～ 5 月。山野のやや湿ったところに生育する。

【分布の概要】

本州(千葉以西)、四国

【都における生育環境】

南多摩の多摩川沿いの崖部、丘陵地下部の湧水地などに稀に生育している。

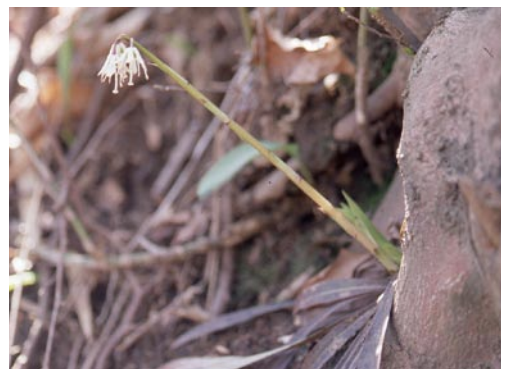
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取、自生地の改変、植生遷移の進行、生育基盤の崩壊などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。関係者における情報共有を行い、適切な保全対策を行うことが望ましい。

【関連文献】

小野幹雄, 1991; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ゼンテイカ

Hemerocallis middendorffii var. *esculenta* f. *esculenta*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。匍匐枝はなく、根に膨らみがほとんどない。葉は根生、2列跨状、長さ60～70cm、幅16～20mm。花茎は高さ60～80cm、茎頂に2出集散花序で橙黄色～橙赤色の花を数個つける。花期は7～8月。山地、亜高山の草原、ときに海岸の崖地などに群生する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の溪谷沿いの岩崖地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

人が近づけない岩礫地での生育がほとんどであり、園芸目的の採取による衰退の可能性は小さいが、護岸整備や林道整備などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地で工事を行う際は、本種の保全に配慮することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ムサシノキスゲ

Hemerocallis middendorffii var. *esculenta* f. *musashiensis*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。ゼンテイカ、ヒメカンゾウに似るが、ゼンテイカより花筒が短く、葯はずっと短く、苞はより円味がある。花に芳香がある。ヒメカンゾウより全体に大型で、花筒も長く、花序も頭状にならない。花期は5月中旬。落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（東京）

【都における生育環境】

北多摩の台地南端に残された小丘陵地のみに分布し、落葉広葉樹林内から周辺草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

雑木林の管理放棄や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。個体群を安定的に保つためには、林縁の草地管理だけでなく雑木林の下草刈りなどの林床管理を継続し、明るい疎林状態に保つことや、園芸目的の採取に対する取り組みを行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1953; 飯泉優, 1970.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コオニユリ

Lilium leichtlinii var. *tigrinum*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。オニユリに似ているが鱗茎は小型。葉は互生し、無柄。葉腋に珠芽がつかない。花は総状花序につく。花被片は赤黄色で開出反曲し、下部はろうと状。花期は7～9月。山地の草地、岩崖地、丘陵地の湿地などに生育する。石灰岩地には細葉型(form. *tenuifolium* Mizusima ホソバコオニユリ)が生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地稜線の草地や岩崖地、丘陵地脚部の湿地などに稀に生育する。奥多摩の石灰岩地には細葉型が稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林や湿地の改変や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。保全には自生地の湿地環境を維持することや、園芸目的の採取に対する取り組みを行うことが望ましい。結実率が高いので種子による増殖も行いやすい。

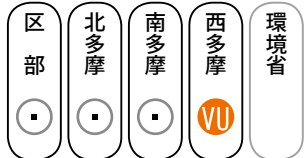
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クマユリ

*Lilium medeoloides*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。鱗茎は白色球形で径2～3cm。茎は高さ30～100cm、葉は茎の中央部付近に1～3段に輪生状につき、披針形で長さ5～15cm。茎上部では小型の葉が互生する。1～数個の橙赤色の花が横向きから下向きに開く。濃色の斑点があり、強く反卷する。花期は7～8月。高標高地の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）、四国

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の草原に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地草原の植生遷移の進行や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。防火帯草地の草刈りなどの管理を行うことや、自生地周辺における登山者へのマナー啓発を行うことが望ましい。

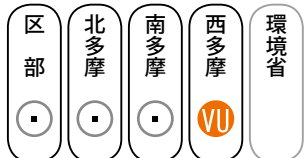
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメマイヅルソウ, ケマイヅルソウ

*Maianthemum bifolium*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。根茎は長く這う。茎は高さ10～25cm、茎葉は細長い卵心形で2個互生する。葉縁には細かな鋸歯があり、葉裏、茎の上部、花序に柱状の突起毛がある。茎頂に白色の小花を総状につける。花期は5～7月。山地から高標高地にかけての樹林内に生育する。石灰岩地との関連性が高い。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の針葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が限られており、園芸目的の採取や登山道のオーバーユースによる自生地の荒廃が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地周辺における園芸目的の採取に対するマナー啓発や、登山道の荒廃を防止することが望ましい。

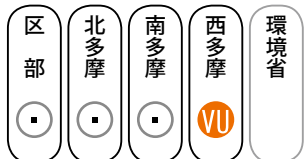
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クマバツクバネソウ

*Paris verticillata*単子葉植物綱
ユリ科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ20～40cm、葉は上端に6～8個輪生し、長楕円形で無柄、網状脈がある。茎頂に花茎を立て、黄緑色の花を1個上向きにつける。花期は6～7月。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の落葉広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林伐採や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の樹林を可能な限り保全するとともに、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。また、近年の生育状況については、再確認が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タカオワニグチソウ

Polygonatum desoulavii var. *azegamii*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	□	

【形態・生態】

多年草。根茎は這う。茎は斜上し、高さ 20 ～ 40cm、上半部に葉を互生する。葉身は長楕円形で長さ 5 ～ 10cm。葉腋から長さ 1 ～ 2cm の花柄を出し、さらに小花柄を 2 ～ 4 個互生する。花は白色で上端は緑色を帯び、壺状筒形で、長さ 2 ～ 2.5cm。山地の林縁、草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東、中部）

【都における生育環境】

南多摩の低山の林縁や草地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限され、個体数も少ないため、登山者による踏みつけや園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。現在の生育状況に応じた保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 大井次三郎・北川政夫, 1983.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ワニグチソウ

*Polygonatum involucratum*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。根茎は這う。茎は斜上し、高さ 20 ～ 40cm、上半部に葉を互生する。葉身は倒卵状楕円形で長さ 5 ～ 10cm。葉腋から花柄を下垂し、先に普通 2 個の苞葉をつけ、その内側に淡緑白色で長さ約 25mm、壺状筒形の花を 2 個つける。花期は 5 ～ 6 月。山野の樹林内や林縁などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

山地から丘陵地脚部、台地の段丘崖における疎林の林床、林縁、草地などに生育する。分布範囲は広いが自生地は少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発による自生地の消失や、林床や草地の管理放棄による自生地の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地では適切な下草刈りなどの林床管理を継続し、生育環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

目黒区土木部公園緑地課 (編), 1985; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アマドコロ

Polygonatum odoratum var. *pluriflorum*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。地下茎は長く横に這う。茎は高さ 35 ～ 80cm、稜があり、斜上する。葉は長楕円形で上に反り、長さ 8 ～ 10cm、裏面は粉白色。花柄は葉腋から下垂し、白色で先端が緑色を帯びた長さ 1.5 ～ 2cm の筒形の花をつける。花期は 4 ～ 6 月。山野の草地などに群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の稜線防火帯などの草地、丘陵地や台地の草地、堤防草地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行による自生地の樹林化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。定期的な草刈りの継続により、本種の好む日当たりの良い草地を保全することが望ましい。

【関連文献】

目黒区土木部公園緑地課 (編), 1985; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤマトユキザサ, オオバユキザサ

*Smilacina hondoensis*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。根茎はやや太く、節高で横に這う。茎は斜上し、高さ 50 ～ 70cm、下部に膜質の鱗片がある。葉は互生し、長さ 10 ～ 15cm。雌雄異株。花は白色または緑白色。花期は 5 ～ 6 月。山地深部の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（奈良以北）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の落葉広葉樹林や針葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や森林環境の変化、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の森林環境を安定的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

マルバサンキライ

Smilax vaginata var. *stans*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

木本性のつる植物。茎は高さ 30 ～ 50cm、稜があり分枝し、刺はない。葉は広卵形で鋭頭、基部は心形、長さ 4 ～ 7cm。葉腋から 2 ～ 5 花をつける。花被片は長さ 4mm。花期は 6 ～ 7 月。山地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

石灰岩の採掘や自生地の自然崩壊などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地の生育実態について情報が不足しており、再確認が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

チシマゼキショウ

*Tofieldia coccinea*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。根出葉は袴状に互生し、線状鎌形で、長さ 3 ～ 8cm。花茎は高さ 5 ～ 15cm、茎頂に短い総状花序がつき、白色またはわずかに紫色を帯びる花を開く。花期は 7 ～ 8 月。高山帯や寒地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生育環境】

西多摩の高標高地、石灰岩の露頭に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。登山に対するマナー啓発を行うことや、自生地ごとに個別的な保全対策を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982a; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ヤマジノホトトギス

*Tricyrtis affinis*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	NT	NT	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30 ～ 60cm、下向きの毛を密生する。葉は互生し、卵状長楕円形または狭長楕円形で有毛、長さ 8 ～ 16cm、茎頂と葉腋にそれぞれ 1 ～ 2 個つく。花柄は有毛。花被片は白色で紫色の斑点が少なく、黄色の斑点もない。上部は平開するが、反り返らない。花期は 8 ～ 10 月。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地から北多摩、南多摩、区部の台地の落葉樹林内や林縁に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地である樹林の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地における下草刈りなどの林床管理を行うとともに、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホトトギス

*Tricyrtis hirta*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。直立型と懸崖型がある。茎は長さ 40 ～ 80cm、上向きの褐色毛が密生する。葉は互生し、長楕円形～披針形で、長さ 8 ～ 18cm。葉腋から 2 ～ 3 個の花がつく。花被片は斜め上向きに開き、長さ約 25mm、白地に紫の斑点が多く、下部に黄色の斑点がある。花期は 8 ～ 10 月。山野に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

直立型は主に南多摩南部の山地や丘陵地の林縁に、懸崖型は西多摩の山地において渓谷の岩崖に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や河川改修、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地の森林や渓谷の崖地を可能な限り保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タマガワホトトギス

*Tricyrtis latifolia*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 40 ～ 80cm、葉は互生し、広楕円形で長さ 8 ～ 18cm、基部は心形で茎を抱く。茎上部の葉腋と茎頂に腺毛のある散房花序をつける。花被片は斜開し、長さ約 20mm、黄色で内面に紫褐色斑点がある。花期は 7 ～ 9 月。山地の渓谷、湿潤な樹林内などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地渓谷の懸崖など、湿潤な岩場に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であり、各地で人が近づけない場所に残存する状況になっている。自生地の環境を可能な限り保全するとともに、園芸目的の採取に対するマナー啓発を含めた自生地の総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982a; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



シュロソウ

Veratrum maackii var. *japonicum*単子葉植物綱
ユリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	CR	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 50～80cm、葉は茎の下部に集まり長楕円形で、長さ 20～30cm、幅 2～3cm。茎頂に細長い円錐花序をつけ、花被片が暗紫褐色で径約 10mm の雄花と両性花をつける。花期は 7～8 月。基本型は葉の幅 3cm 以下、花柄 10～17mm でホソバシュロソウ var. *maackii* という。また、花被片が黄緑色のものをアオヤギソウ var. *parviflorum* という。山地、丘陵地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

北多摩から南多摩、西多摩の山地や丘陵地、段丘崖などの北向き斜面の落葉樹林内に生育する。低地から低山に自生するものは、ホソバシュロソウ（ナガバシュロソウ）のタイプ。また、標高 800m 以上の山地にはアオヤギソウも散見する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や樹林の荒廃、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。希少な春植物などと同所的に生育している場合が多いため、植生の総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



キツネノカミソリ

Lycoris sanguinea var. *sanguinea*単子葉植物綱
ヒガンバナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。鱗茎は広卵形で径 2～4cm、外皮は黒褐色。葉は早春に出て帯状、長さ 30～40cm、幅 8～10mm、淡緑色で初夏に枯れる。高さ 30～50cm の花茎を立て、頂に黄赤色の 3～5 花を散形花序につける。果実は球形のさく果で径 15mm、よく結実する。花期は 8 月ごろ。山野に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地斜面から山麓部、丘陵地や台地脚部、区部の低地の肥沃な樹林内や旧河道の草地などに群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地は広範囲に残っているが、都市域での開発や道路整備による自生地の消失、樹林の荒廃などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を保全することや、また、本種は群生することが多いため地域の景観形成に活かした保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



オオキツネノカミソリ

Lycoris sanguinea var. *kiushiana*単子葉植物綱
ヒガンバナ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。キツネノカミソリに酷似する。鱗茎は卵形で幅 3cm ほど、黒褐色の外皮をかぶる。葉は長さ 30～40cm、幅 10～15mm と幅広く、淡緑色。地上に花茎だけを立て、茎頂に 2～5 個の花を散形花序につける。花期は 7～8 月。溪谷林内から林縁の礫質草地などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、九州

【都における生育環境】

南多摩から西多摩の山地溪谷の斜面、岩礫地などに局所的に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと東京都本土部には自生地が少なく、山林の荒廃、林道整備による改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。キツネノカミソリと酷似しているために見逃されている場合もあると思われ、山地を中心に現状を再確認することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力, 2010c.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ニガカシュウ

*Dioscorea bulbifera*単子葉植物綱
ヤマノイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。地下に大型、扁球形の塊根があり、ひげ根が多い。葉は互生し、円心形で鋭尖し、径5～13cm、長柄がある。葉腋にむかごがつく。花被片は黄緑色で紫色を帯びる。雄花序、雌花序ともに下垂するが雌株はごく少ない。花期は8～9月。沿岸部の林縁や草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の河川敷などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷という不安定な立地を生育環境としており、台風などによる河川の増水によるかく乱が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。増殖には、むかごによる栄養繁殖が可能である。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 本田正次ら, 1965.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ミズアオイ

*Monochoria korsakowii*単子葉植物綱
ミズアオイ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	EX	・	NT

【形態・生態】

一年草。根出葉は心形で長さ5～10cm、全縁、厚く、深緑色で光沢がある。葉柄は長さ10～20cm。茎は高さ20～30cmで短い茎葉が数個つく。頂に総状花序に径25～30mmの青紫色花を多数つける。花期は9～10月。池沼、水田などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地の池沼（練馬、上野）などに記録があるほか、荒川河川敷の湿地などに生育していた記録もある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の消失、水質悪化、外来種との競合などが本種の生存を脅かす要因であり、絶滅に近い状態となっている。埼玉県側の河川域に生育の報告があるため、下流域の区部での保全管理について関係者の情報共有が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 北区環境保全課（編）, 1987.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ヒオウギ

*Belamcanda chinensis*単子葉植物綱
アヤメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EN	EN	

【形態・生態】

多年草。観賞用に栽培される。葉は剣状で幅2～4cmと広く、2列跨状に並び、楡扇の並び方に似る。花茎は高さ60～100cm、上部で2～3分枝し、枝端に数個の膜質の苞がつき、その中から橙黄色で内面が暗赤色の花が2～3個出る。花期は8～9月。山地の草原に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の山地稜線上の疎林内や草原に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取、草地の植生遷移の進行による樹林化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。山地草原の定期的な草刈りや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うなど、本種の保全を目的とした総合的な対策を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ノハナショウブ

Iris ensata var. *spontanea*単子葉植物綱
アヤメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。根茎は分枝する。葉は根生、跨状に出る。葉先は剣状で長さ 30～60cm、太い中脈が目立つ。花茎は高さ 40～80cm、茎頂に数個の赤紫色の花をつける。花期は 6～7 月。山野の草地、湿原などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸や台地脚部の湿地に面した、水はけが良く、また日当たりの良い草地に極めて稀に生育する。かつては、多摩川、荒川水系の池沼や湿地などの広い範囲に生育していたが、激減した。

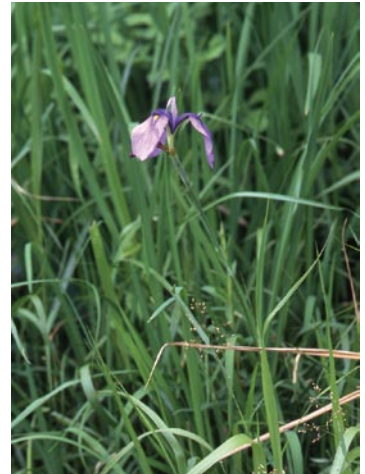
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取や湿地の植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、また、本種は多年草ながら古株になると開花や結実に関する活力が低下するため、本種の生育を考慮した適度な草刈りやかく乱管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメシャガ

*Iris gracilipes*単子葉植物綱
アヤメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	EN	NT

【形態・生態】

多年草。石灰岩地、岩崖地にも生育する。葉は跨状で長さ 15～25cm、花茎は高さ約 30cm、花は径約 4cm、淡紫色、外花被片に黄色の斑紋と紫色の脈がある。花期は 5～6 月。山地に生育する。

【分布の概要】

北海道(西南部)、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

岩場の崩壊や植生遷移の進行、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。登山に対するマナー啓発を含め、本種の保全を目的とした総合的な対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982a; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

カキツバタ

*Iris laevigata*単子葉植物綱
アヤメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	CR	CR	■	NT

【形態・生態】

多年草。地下茎は長く横走する。葉は根生し、跨状に出て、長さ 30～60cm、幅 2～3cm。花茎の頂に 2 個の鞘状の苞葉をつけ、2～3 個の青紫色花をつける。外花被片は広倒卵形で、中央基部に白色の斑紋がある。花期は 5～6 月。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地の池沼、北多摩および南多摩の丘陵地の谷戸の湿地などに極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地、池沼の改変や谷戸田の管理放棄による植生遷移の進行、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生育を考慮した草刈りや適度なかく乱管理を行い湿地を維持することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。栽培されることが多く、野生個体と植栽個体との判別が困難な場合が多い。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 本田正次ら, 1972.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アヤメ

*Iris sanguinea*単子葉植物綱
アヤメ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EW	EN	EN	

【形態・生態】

多年草。葉は長さ 30 ～ 50cm、幅 5 ～ 10mm。花茎は高さ 30 ～ 60cm、茎頂に 2 ～ 3 個の花をつける。花は紫色で径約 8cm、外花被片は広倒卵形で平開し、爪部は黄色地に紫色の細い綾状の脈がある。花期は 5 ～ 7 月。山地の日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の草原や、丘陵地の日当たりの良い草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取、草地の改変や植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。工事の際に本種の保全に配慮することや、定期的な草刈りによる草地の維持、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。栽培される機会が多いため、野生個体と植栽個体との判別が困難な場合が多い。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハナビゼキショウ

*Juncus alatus*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	VU	NT	—	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20 ～ 40cm、二稜形扁平で広い翼がある。葉は剣状線形、扁平で幅 4 ～ 5mm、多管質で隔壁は明らか、葉耳は小さい。頭花は半球形で 4 ～ 7 花からなる。さく果は三稜ある長卵形、赤褐色、光沢がある。花期は 5 ～ 7 月。湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地の谷戸の湿地や水田、池沼の周囲などに稀に生育する。耕作している水田よりも休耕田に生育することが多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

除草剤の多用、水田の乾田化、谷戸田の管理放棄や消失などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種の生育環境として適した湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒロハノコウガイゼキショウ

*Juncus diastrophanthus*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	NT	NT	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い節間はごく短い。茎は扁平の二稜形で、ごく狭い翼があり、高さ 20 ～ 40cm、葉は扁平、多管質、葉耳は小型。頭花は球形で 4 ～ 10 花ほどがまばらな星状につく。花被片は緑色。さく果は三稜があり花被片のほぼ 2 倍長。湿地に生育する。花期は 6 ～ 7 月。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地の谷戸の湿地、休耕田、池沼の周囲、低地の河川敷の湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

除草剤の多用や耕地改良を目的とした水田の乾田化、谷戸田の管理放棄や湿地の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種の生育環境として適した湿地の保全をすることが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タチコウガイゼキショウ

*Juncus krameri*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	VU	VU	—	

【形態・生態】

多年草。アオコウガイゼキショウの大型のものに酷似する。根茎の節間は短い。茎は円筒状で直立し、高さ 30～60cm、径約 2mm、葉は円筒状、単管質で隔壁は著しく明瞭。花穂は多数の頭花からなり、頭花は 3～10 花からなる。花被片は細くとり緑褐色。花期は 8～9 月。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地から低地にかけての池沼、休耕田、河川敷の湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼や湿地の改変や谷戸田の管理放棄などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。河川沿いの湿地や休耕田の保全を継続することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 千葉県史料研究財団 (編), 2003.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イトイ

*Juncus maximowiczii*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	VU	

【形態・生態】

多年草。根茎はごく短い。全草淡緑色で軟弱。茎は高さ 5～15cm、茎葉は普通 1 個、糸状で径 0.5～1mm、上面に溝がある。下部の葉は数個あり、茎より著しく長い。頭花は 1 個、淡緑白色、1～4 花からなる。花期は 6～7 月。深山の湿った岩崖地に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東、中部)

【都における生育環境】

西多摩の高標高地、岩礫地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が限られており、登山者の踏みつけによる登山道の荒廃や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、登山道の荒廃を防止することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アオコウガイゼキショウ, ホソバノコウガイゼキショウ

*Juncus papillosus*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	NT	NT	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は短く、秋に短い走出枝を出して、先に多肉な越冬芽をつくる。茎は叢生し、高さ 20～40cm、細い円筒形、2～3 葉がある。葉は扁円筒形で細く、単管質ではっきりした隔壁があり、茎より短い。集散花序をつくり、2～3 個の花からなる小型の頭花をつける。花期は 8～10 月。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地から台地にかけての貧栄養な湿性裸地、低地の河川敷の湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や植生遷移の進行などによる自生地の消失や変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。丘陵地の谷戸の湿地などでは、定期的な乱管理を行い湿性裸地を維持することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら, 1982a; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホソイ

Juncus setchuensis var. *effusoides*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、節間は短い。茎は円筒状で高さ 20～100cm。表面に数本の明瞭な縦溝がある。花序は葉の途中から側出しているように見える（偽束生）が、花序より上は苞葉（偽茎葉）。さく果は卵状球形で花被片より長い。花期は 5～7 月。湖沼、池、放棄水田、河川敷などの湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の湿地や北多摩の浅い池沼、南多摩の河川敷の湿地や一部の丘陵地の谷戸の湿地などにも生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や池沼の護岸整備、外来種の繁茂などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の主要な自生地である河川中流域から区部の低地にかけての湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団（編），2004；清瀬の自然を守る会，2010。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



ハリコウガイゼキショウ

*Juncus wallichianus*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	DD	NT	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、節間は短い。根茎から地下走出枝を出さない。茎は円筒状またはやや扁円筒状で、高さ 10～50cm。葉は円筒状で単管質、隔壁は明瞭または不明瞭。葉耳は大きい。頭花は 3～6 花からなる。花期は 6～9 月。池沼、休耕田、河川敷など、湧水などに由来する貧栄養な湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の河川敷の湿地や丘陵地の谷戸に極めて稀に生育する。北多摩については現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育情報に基づき現状の再確認を行うことに加え、適度な乱管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団（編），2004。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



イヌイ

*Juncus yokoscensis*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	—	—	—	

【形態・生態】

多年草。横走する地下茎は太さ 3～5mm、鱗片を密生する。茎は高さ 20～45cm、扁平でねじれる。葉鞘は褐色～黒褐色で光沢がある。さく果は長卵形、黒褐色で光沢があり長さ 4～5mm、花被片はさく果よりやや短い。花期は 5～6 月。海岸沿いの砂泥地などの湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

区部採取の標本があるが、現状は不明。南多摩丘陵部の池でも確認されているが、移入された可能性がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸の湿地の広範囲な消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。低地や沿岸部の湿地、池沼などで再確認を行うとともに、沿岸の湿地環境を可能な限り保全することが望ましい。

【関連文献】

沼田真・風呂田利夫，1997；神奈川県植物誌調査会（編），2001。

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



ヌカボシソウ, クロボシソウ

Luzula plumosa var. *macrocarpa*単子葉植物綱
イグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	NT	○	

【形態・生態】

多年草。高さ 15～25cm。根出葉は広線形で長さ 15cm、幅 3～5mm。茎葉は 2～3 個あり、短く、縁に白い長毛がまばらにつく。まばらな集散花序を茎頂につけ、花は細い花柄に 1 個ずつつく。種子は広楕円形で長さ約 1.6mm、同長の種枕がつく。花期は 4～5 月。山野に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の山地に記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発や樹林の管理放棄による林床の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 千葉県史料研究財団 (編), 2003.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホシクサ

*Eriocaulon cinereum*単子葉植物綱
ホシクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EN	VU	NT	VU	

【形態・生態】

一年草。葉はロゼット状に束生し、線形で長さ 3～8cm、幅 1～2mm。花茎は高さ 4～15cm、基部に筒状の鞘がある。茎頂に球形で径約 4mm の頭花をつける。総苞片は灰白色、膜質、少数の雄花と多数の雌花が混生する。花期は 8～9 月。湿地や水田などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

かつては西多摩の山地から丘陵地、台地、区部の低地にかけての水田雑草として広範囲に生育していたが、現在では稀な植物となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の放棄や消失、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湿田ではなく冬季に乾田化する水田を好む傾向が強いいため、本種の生態に配慮した保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 北区環境保全課 (編), 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コイヌノヒゲ, イトヌノヒゲ

*Eriocaulon decemflorum*単子葉植物綱
ホシクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

一年草。葉は束生し、線形で長さ 3～30cm、先は著しくとがる。高さ 5～30cm の花茎の頂に倒円錐形で径 3～7mm、白色の頭花をつける。総苞片は頭花より長く緑白色。花苞は白膜質、線状披針形で上部に毛がある。花期は 8～9 月。山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

東京都本土部全域から記録はあるが、区部では絶滅したものと考えられる。近年は北多摩、南多摩の丘陵地の谷戸や、西多摩の山地の湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地斜面の整備や植生遷移の進行、谷戸田およびその周辺の管理放棄などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湧水が見られる崖地や谷戸の裾刈り草地、休耕田など、貧栄養な湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 仙仁径, 2012.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ニッポンイヌノヒゲ

*Eriocaulon hondoense*単子葉植物綱
ホシクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EN	EN	EN	

【形態・生態】

一年草。葉は多数束生し、幅3～5mm、基部では5～8mm、11～13脈の格子状、上面はやや光沢がある。花茎は高さ15～22cm、頭花は倒円錐形で径6～8mm、総苞片は披針形でとがり、頭花より長い。花期は9～10月。山地から丘陵地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の谷戸の湿地や西多摩の山地の湿地に生育するが、分布は限られており、発生も散発的である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の消失や植生遷移の進行、外来生物による食害、過度な除草などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。外来種を駆除することや、本種の生活史を考慮した適度な乱管理を行い、湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クロホシクサ

*Eriocaulon parvum*単子葉植物綱
ホシクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	—	CR	CR	VU

【形態・生態】

一年草。葉はごく短い茎にらせん状に多数つきロゼット状に見える。葉は線形で長さ4～10cm、格子状の3～5脈がある。花茎は高さ10～20cm、頭花は球形、藍黒色で径4～5mm、白色短毛がある。花期は8～9月。湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩と西多摩の丘陵湿地に生育するが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の消失や湿地の管理放棄による植生遷移の進行、過度な除草などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生活史を考慮した適度な乱管理を行い、湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒロハイヌノヒゲ

*Eriocaulon robustius*単子葉植物綱
ホシクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	CR	VU	VU	

【形態・生態】

一年草。葉はロゼット状に多数束生し、線状披針形で長さ10～17cm、幅5～10mm。9～17脈の格子状。花茎は多数で高さ5～20cm、5肋で少しねじれる。鞘は長さ4～7cm。頭花は半球形で径7～9mm、多数の花からなる。花期は8～10月。水田や湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地の水田、西多摩の山地下部から丘陵地や台地の谷戸の湿地で記録されているが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の減少、湿地の管理放棄による植生遷移の進行、過度な除草などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。湿性裸地を好む本種の生活史を考慮し、適度な乱管理を行い、湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団(編), 2004; 仙仁径, 2012.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメコヌカグサ

*Agrostis valvata*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	CR	—	—	NT

【形態・生態】

多年草。根茎は短い。茎は高さ 40～70cm、平滑。葉は扁平、無毛、長さ 7～15cm、幅 3～5mm。円錐花序は長さ 10～15cm、まばらに小穂をつけ、枝はざらつく。芒はない。花期は 4～5 月。湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地や北多摩の丘陵地の谷戸にかけて、半陰地の池沼の周囲や湿地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の埋立てや貧栄養な湿地の消失など、生育環境が失われたことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の記録がある場所での再確認が望まれるほか、工事に際して自生地を保全することや、本種の生活史を考慮した湿地の適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 檜山庫三, 1965.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



セトガヤ

*Alopecurus japonicus*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	

【形態・生態】

一年草。スズメノテッポウに似る。高さ 20～60cm。葉は緑白色で幅 5～8mm。花序は円柱状で長さ 3～6cm、幅 5～8mm。小穂は長さ 5～6mm の狭卵形、扁平。護穎の基部から出る芒は長さ 10～12mm。花期は 4～5 月。休耕田や湿性草地などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸から台地脚部、区部の低地にかけての休耕田や湿性草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の減少や消失による自生地の減少や、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。除草剤の使用を控えることや、水田や周辺の湿地、水路など里地環境を一体的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タカネコウボウ

*Anthoxanthum japonicum*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 20～60cm、葉は長さ 10～20cm、幅 4～10mm、上面にまばらに軟毛がある。葉舌は高さ 2～6mm。まばらな円錐花序をつける。小穂は長さ 5.7mm、緑色～淡緑褐色になる。3 小花からなり、2 小花は退化して褐色毛の生えた護穎だけとなり、各々先は 2 裂し、背面より芒が出る。花期は 6～7 月。高標高地に生育する。

【分布の概要】

本州（中部以北、奈良）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の稜線の草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

高標高地の防火帯草地の草刈りの停止や、シカの食害などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地である草地は、本種以外にも多くの希少植物が生育するため、計画的、総合的に保全管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コウヤザサ

*Brachyelytrum japonicum*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	

【形態・生態】

多年草。根茎は多節で短い。茎は細く高さ 40～70cm、葉は薄く扁平、長さ 4～10cm、幅 4～8mm、葉面や葉縁は有毛。葉舌は高さ 2～3mm。花序はまばら。小穂は緑色で長さ 8～10mm、1 小花からなり、長さ 1～1.5cm の芒がある。花期は 6～8 月。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林の開発や林道整備などによる森林環境の改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育情報に基づき現状の再確認を行うことに加え、自生地を可能な限り保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメアブラススキ

*Capillipedium parviflorum*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	●	—	—	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 50～100cm、節に開出した軟毛がある。葉身は扁平で長さ 8～20cm、幅約 5mm、葉鞘は無毛ときに有毛。葉舌は高さ 1mm。円錐花序は長さ 7～15cm、小穂は有柄と無柄のものが対になり、無柄の小穂には長い芒がある。花期は 8～11 月。山野の草原に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩の丘陵地の谷戸、台地脚部などの湿地に面した斜面に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が少ない上に、谷戸の埋立てや管理放棄などが本種の生存を脅かす要因となっている。自生地では本種の生活史を考慮しつつ、裾刈りなどの適切な草地管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 山岡文彦, 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



フサガヤ

*Cinna latifolia*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	●	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 80～120cm、葉は線状披針形で長さ 12～25cm、幅 6～15mm、ざらつく。葉舌は白色膜質で高さ 2～4mm。円錐花序は長さ 15～30cm、先が垂れる。枝は細く輪生状、まばらに小穂をつける。小穂は扁平で長さ 3～3.5mm、1 小花からなる。花期は 7～8 月。高標高地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州 (中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の森林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限される。森林環境の広範囲な改変が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の森林を可能な限り保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒナザサ

*Coelachne japonica*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EX	○	NT

【形態・生態】

一年草。茎は地を這って節ごとに枝を分け、高さ5～20cm。葉は披針形、無毛で長さ1～3cm、幅2～6mm。葉舌はない。円錐花序は長さ2～3cm、緑白色の小穂をつける。小穂は、1つ、ときに2小花からなる。花期は8～10月。山野の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の多摩市岩ノ入池に稀に生育していたが、池の埋立てにより絶滅した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発に伴う池の埋立てにより、自生地が消失し絶滅した。他県においてはホシクサやハリイの仲間などと同所的に生育することが多く、貧栄養な湿地で同様な環境があれば、再発見の可能性はあると思われる。

【関連文献】

多摩市文化振興財団(編), 2004; 千葉県レッドデータブック改訂委員会(編), 2009.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

コメススキ

*Deschampsia flexuosa*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	VU	

【形態・生態】

多年草。束生、茎は直立し、高さ20～60cm、無毛、平滑。葉は大部分が根生し、葉身は糸状で長さ5～15cm、幅0.5～0.8mm。円錐花序は長さ5～12cm、数本の枝を分け、まばらに小穂をつける。小穂は長さ約5mm、2小花からなり、長さ4～7mmの芒がある。花期は7～8月。高山の砂礫地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の砂礫地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

登山道周辺の踏みつけ、土壌の浸食などが本種の生存を脅かす主要因であるが、高標高地の森林全体の大きな環境変化がなければ、本種の生存に大きな変動はないと予想される。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄(編), 1986.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

カリマタガヤ

*Dimeria ornithopoda*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	VU	VU	○	

【形態・生態】

一年草。茎は細く下部で分枝し、高さ10～30cm。葉は長さ3～7cm、幅2～5mm。花序は長さ3～8cmの2本の総に分かれる。小穂は2小花からなり、第2小花の護穎には長い芒がある。花期は8～10月。全体が小型で、護穎に芒がないものをヒメカリマタガヤ form. *microchaeta* Hack. という。湿り気のある日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩および南多摩で確認されているが、山地ではヒメカリマタガヤ、丘陵地の谷戸の湿地ではカリマタガヤが生育する。

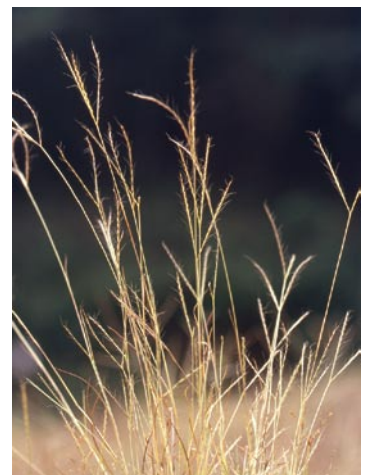
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ヒメカリマタガヤは山地の登山道沿いでの踏み荒し、カリマタガヤは谷戸田の管理放棄による生育環境の悪化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。草刈りなどの管理を行うことによって、本種の生育環境が保全されることが考えられる。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミズタカモジ

*Elymus humidus*単子葉植物綱
イネ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	—	VU	—	VU

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 40～60cm、束生し、倒伏して下部の節から枝を出して翌年には新株をつくる。葉身は長さ 7～15cm、幅 3～7mm。花序は直立した穂状で長さ 10～20cm、小穂は花軸に圧着し、長さ 17～22mm、無毛。護穎は無毛平滑、先端に長さ 20～30mm の直立した芒がある。花期は 4～5 月。休耕田や水路などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地から低地にかけての水田などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の乾田化や、除草剤の多用、谷戸の埋立てや管理放棄が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。水田や周辺の湿地、水路など里山環境を一体的に保全することや、除草剤の使用を抑えるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

長田武正, 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ムツオレグサ, ミノゴメ

*Glyceria acutiflora*単子葉植物綱
イネ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
VU	VU	NT	VU	

【形態・生態】

多年草。茎の基部は地を這い、節より発根する。葉身は長さ 10～30cm、幅 3～6mm。鞘は筒形。円錐花序は基部が葉鞘内にあり、長さ 10～30cm、20 個前後の小穂が花軸に圧着し、総状花序のように見える。小穂は円柱状で長さ 3～5cm、10～15 ほどの小花が並ぶ。花期は 5～7 月。湿地、浅い水中などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地や台地の谷戸の湿地、区部の低地の水辺などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の埋立てや乾田化、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。水田を取り巻く湿地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ウキガヤ

Glyceria depauperata var. *infirm*単子葉植物綱
イネ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EX	EX	—	●	

【形態・生態】

多年草。茎、葉ともにムツオレグサに似る。茎の基部は節間が長く、節から発根して水底を這い、茎上部は水面に浮く。葉身は長さ 3～9cm、幅 2～4mm。花期は 5～7 月、円錐花序は長さ 10～25cm、小穂は 10～18 個ほどの小花からなる。低地の水辺に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

北多摩から区部の低地にかけて記録はあるが、近年報告はなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の消失、生育環境の変化などにより絶滅したものと考えられる。ムツオレグサとも似ており、同様の生育環境に再発見される可能性はある。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 本田正次ら, 1972.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

コウボウ

Hierochloa odorata var. *pubescens*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。根茎は長く這い、まばらに花茎を立てる。高さ 20～50cm。茎葉は短く長さ 1～4cm。花序は長さ 4～8cm、枝は 2～3 本ずつ出て、淡黄褐色で光沢のある小穂をつける。小穂は長さ幅とも 4～6mm、3 小花からなる。花期は 3～5 月と早い。平地から低山帯にかけての日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地から低地までの林縁や路傍の草地、堤防など、多様な場所に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の消失や管理放棄による植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地では定期的な草刈りを行うなど、草地環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課 (編), 1987; 多摩丘陵植物調査会 (編), 1999.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アズマガヤ

*Hystrix longiaristata*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	—	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 70～120cm。葉は扁平で長さ 10～20cm、幅 1～2cm、基部近くで表裏逆転する。穂状花序は長さ 10～15cm、無柄小穂が各節ごとに普通 2 個ずつつく。護穎は硬く、長さ 9～13mm、先端に長さ 10～20mm の芒が直立する。花期は 5～6 月。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩から西多摩にかけての山地や丘陵地の水辺に近い疎林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水辺の疎林環境の改変、荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。現況を保全するとともに、荒廃傾向にある樹林では、適度な下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハイチゴザサ

*Isachne nipponensis*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は這い、節々から発根し、高さ 5～10cm の直立茎を立て群落をつくる。葉は長楕円形で長さ 1～3cm、幅 4～8mm、縁は波打ち白く縁どられる。茎頂に 2～5cm ほどの円錐花序を立て、まばらに楕円形の小穂をつける。花期は 9～10 月。湿潤な樹林内や、湿地に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の一部で、半陰地の水辺に近い路傍や草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

極端な環境の改変や、それに基づく植生の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。安定した土壌の保全、人の踏みつけへの注意喚起、適度な草刈りなど、本種の生態を考慮した保全対策を講じることが望まれる。

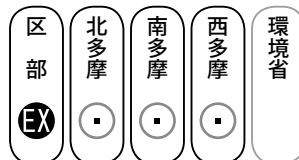
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カモノハシ

Ischaemum aristatum var. *glaucum*単子葉植物綱
イネ科

【形態・生態】

多年草。束生し、基部は膝折れし、高さ 30～80cm、茎、節部、葉、葉鞘など無毛。花期は 7～8 月、花序は 2 個の扁平な総からなり、長さ 4～7cm、三稜形で小穂は背面に多数圧着する。河川沿いの湿地などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の埋立地などの湿地に生育していたが、近年の確認がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河口部の湿地の消失により、本種の生育環境が失われ絶滅したものと考えられる。水辺の自然再生が実施された場所などで復活が見られるかどうか、現状の再確認が望まれる。

【関連文献】

長田武正, 1989; 沼田真・風呂田利夫, 1997.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミノボロ

*Koeleria pyramidata*単子葉植物綱
イネ科

【形態・生態】

多年草。幹は束生し直立、高さ 25～70cm。葉身は長さ 5～15cm。花期は 5～7 月、茎頂に長さ 5～15cm、幅約 1cm の穂状に見える円錐花序を直立する。小穂は長さ 4mm、扁平な 3 小花からなる。低山地、丘陵地、平地の日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸の裾刈り草地や、区部の河川堤防の芝草地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

丘陵地の谷戸の管理放棄や芝草地の植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。丘陵地の谷戸や、その他の草地における適度な草刈りを継続し、本種の生育環境である低茎草地を維持することが望ましい。

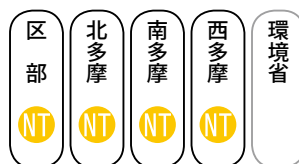
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アシカキ

*Leersia japonica*単子葉植物綱
イネ科

【形態・生態】

多年草。サヤヌカグサに酷似する。匍匐茎を長く伸ばし多数に分枝し、高さ 20～40cm、節に下向きの剛毛を密生するほか、葉鞘にも刺状の短毛があり、全体は著しくざらつく。葉身は長さ 5～15cm、無毛。花期は 8～10 月。円錐花序を直立、数本から 10 本内外分枝する。湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

かつて東京都本土部全域の水田に生育していたが、現在は極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田雑草としてサヤヌカグサなどとともに除草対象とされたため、除草剤の多用が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生態を考慮した保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

目黒区土木部公園緑地課 (編), 1985; 北区環境保全課, 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



エゾノサヤヌカグサ

*Leersia oryzoides*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	—	

【形態・生態】

多年草。葉は硬く長さ 15 ～ 25cm、全体に黄緑色を帯び、脈上の刺は少ない。花期は 8 ～ 10 月、花序は長さ 15 ～ 20cm、花序の下部は葉鞘に包まれ、閉鎖花をつけるものが多い。小穂は長楕円形。河川敷の湿地、水田周辺の湿地などに群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の低地や、北多摩、南多摩の丘陵地の谷戸や台地脚部の湿地、浅い池などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や丘陵地の谷戸の管理放棄、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、湿地の適度なく乱を行うこと、除草剤の使用を控えるなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ (編), 1995; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アゼガヤ

*Leptochloa chinensis*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	—	—	—	

【形態・生態】

一年草。高さ 30 ～ 70cm。下部は横に伏し、分枝する。葉は線形。花序は長さ 15 ～ 40cm、総状に多数の総をつける。小穂は赤紫色を帯び、長さ 2 ～ 3mm、5 ～ 7 小花からなる。花期は 8 ～ 10 月。路傍、水辺、畔道などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の低地の庭園、菖蒲田などの湿地から散発的に記録はあるが、現状は不明。多摩地域には生育の記録がない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

東京都本土部での主な自生地である庭園の湿地における過剰な草刈りなどの管理が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生育を関係者で情報共有し、保全対策を検討することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 長田武正, 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ササクサ

*Lophatherum gracile*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	○	○	

【形態・生態】

多年草。束生する。茎は高さ 40 ～ 80cm。葉は披針形で長さ 10 ～ 30cm、幅 2 ～ 5cm。円錐花序は長さ 10 ～ 30cm、各節 1 本ずつ枝を斜上し、片側に偏してまばらに小穂が並ぶ。小穂は無柄で長さ 8 ～ 11mm。花期は 8 ～ 10 月。樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州 (関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩から区部にかけての台地脚部など、落葉樹林内に生育する。南多摩、西多摩の山地から丘陵地にかけては北西部を中心にまだ多く見られる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

台地崖線などに残る樹林の開発や林床の管理放棄による荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。台地崖線に残る樹林の保全や、下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 目黒区土木部公園緑地課 (編), 1985.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミチシバ, ハナビガヤ

*Melica onoei*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	—	—	NT	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 90 ～ 150cm。葉身はやや硬く、長さ 15 ～ 30cm、幅 4 ～ 10mm、葉舌は低い。花期は 8 ～ 9 月、円錐花序は長さ 20 ～ 40cm、枝は半輪生状、開出または斜開し、まばらに小穂を下垂する。山地の明るい樹林の林縁などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の林縁、草地などに稀に生育する。

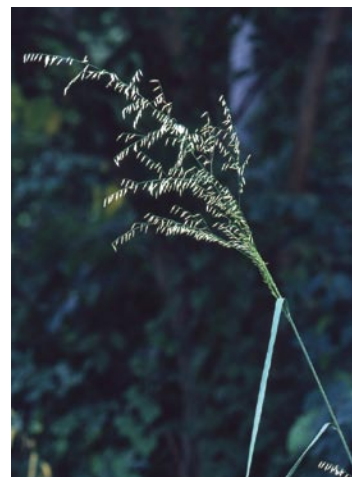
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されており、森林や草地の植生遷移の進行が本種の生存を脅かす直接的な要因となる。自生地周辺での草地や疎林の管理を継続することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヌマガヤ

*Moliniopsis japonica*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	VU	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は節間が短く横に伏し、鱗片が密生する。茎は少数束生、直立し、高さ 30 ～ 100cm。葉身は長さ 20 ～ 50cm、幅 2 ～ 10mm。花序は大きな円錐花序で 10mm ほどの小穂がまばらにつく。小穂は 3 ～ 6 小花からなり、基部に 2mm ほどの毛が密生する。花期は 8 ～ 10 月。山地の湿原に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の台地脚部の湧水のある湿性林や、丘陵地の谷戸などに極めて稀に生育する。区部や北多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行による陸地化や乾燥化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生活史を考慮した湿地の管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1972; 日野市環境情報センター (編), 2008.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



キダチノネズミガヤ

*Muhlenbergia ramosa*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	EX	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、長さ 10 ～ 30cm、径約 2mm。稈は高さ 40 ～ 100cm、上方で多数枝を分け、花序をつける。葉身は長さ 8 ～ 15cm、幅 3 ～ 8mm。円錐花序は長さ約 10cm、直立する。小穂は 3mm ほどで 1 小花からなる。花期は 9 ～ 10 月。湿った樹林内や沢筋の林縁の草地などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地から低山への移行帯の源流部や、区部の河川の源流部など、湿った樹林内、林縁の草地に極めて稀に生育する。北多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川の源流部の樹林の開発、荒廃が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河川の源流部の樹林、河岸段丘崖線の樹林などを総合的に保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アイアシ

*Phacelurus latifolius*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	■	■	■	

【形態・生態】

多年草。根茎は長く這い、硬い鱗片におおわれる。稈は束生し、高さ 80 ～ 100cm。葉身は長さ 20 ～ 40cm、主脈は太く明瞭。花序は 5 ～ 10 本の総からなり、総は長さ 10 ～ 25cm、幅 5mm。小穂は長さ 8 ～ 10mm、それぞれ雄性と両性の 2 小花からなる。花期は 6 ～ 9 月。海辺の湿地や河口に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の沿岸部の塩性湿地に生育し、分布が局限される。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部の開発により、干潟や砂浜などの塩性湿地が広範囲で消失したことが本種の減少の主な要因と考えられる。残された汽水域の植生を保全するとともに、塩性湿地の回復などを行うことが望ましい。

【関連文献】

大滝末男・石戸忠, 1980; 大田区公害環境部 (編), 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



セイタカヨシ, セイコノヨシ

*Phragmites karka*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	■	■	■	

【形態・生態】

多年草。ヨシに似て稈は高さ 2 ～ 4m、径 2cm になり、葉身は長さ 40 ～ 70cm、幅 2 ～ 4cm。円錐花序は長さ 30 ～ 70cm、小穂や小花の構造はヨシとほぼ同じ。花期は 8 ～ 10 月。河川敷の湿地、海辺などに群生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の河口域からの記録はあるが、近年、生育に関する確実な情報がない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河口部の砂浜、塩性湿地などの生育環境が広範囲で消失したことが、本種の減少の主な要因と考えられる。本種は東京湾土着のフロラの 1 種とされ、残された塩性湿地などにおける復活が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 沼田真・風呂田利夫, 1997.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ムカゴツヅリ

*Poa tuberifera*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	■	VU	

【形態・生態】

多年草。根茎はなく、稈は束生し、高さ 20 ～ 40cm、葉は淡緑色で、長さ約 10cm、幅約 3mm。越年生で翌年 4 ～ 6 月に長さ 5 ～ 10cm ほどのまばらな花序を出し、各枝に 1 ～ 3 個の小穂がつく。山地に稀に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地渓谷沿いに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や登山道のオーバーユースによる登山道周辺の踏みつけが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。渓谷林を可能な限り保全するとともに、登山におけるマナーの向上を図ることが望ましい。

【関連文献】

長田武正, 1989; 畔上直樹, 1993.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヌメリグサ

Sacciolepis indica var. *oryzeturum*単子葉植物綱
イネ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	NT	NT	NT	

【形態・生態】

一年草。稈は数本ずつ基部から直立し、高さ 25 ～ 50cm、葉身は長さ 10 ～ 20cm。花序は穂状で稈頂に直立し、長さ 5 ～ 15cm、紫褐色～黒紫色を帯びる。花期は 8 ～ 10 月。放棄水田、畔など、湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸や台地脚部の水田周辺の畦畔、休耕田、水路などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の消失や除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。除草剤の使用を抑えることや、休耕田などを湿地の状態に保つことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アズマザサ

*Sasaella ramosa*単子葉植物綱
イネ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	NT	NT	○	

【形態・生態】

多年草。地下茎は長く横走り、年々新しい程を出す。葉は枝先に 3 ～ 7 枚ずつつき、披針形で長さ 17 ～ 25cm、幅 25 ～ 35mm。小穂は長い柄のある円錐花序をつくり、6 ～ 11 個の小花があり、長さ 4 ～ 6cm。花期は 5 月。平地から丘陵地、山地の林内、林縁に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の山地の林内や台地、丘陵地の疎林内、河岸などに群落局在するが、非常に稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

平地林や斜面林の伐採によって多くの自生地が消失したことが、本種の減少の主な要因と考えられる。本種の基準産地が北多摩の武蔵野地域であることから、特にこの地域での自生地の保全と、東京都本土部全域での再確認が望まれる。

【関連文献】

飯泉優, 1961. 山岡文彦, 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒゲシバ

*Sporobolus japonicus*単子葉植物綱
イネ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
CR	EN	VU	—	

【形態・生態】

一年草。全草に微細な腺点が散生する。茎は高さ 5 ～ 25cm、葉は披針形で長さ 2 ～ 7cm。花期は 8 ～ 10 月、円錐花序は直立し、長さ 2 ～ 6cm、穂状花序に見える。小穂は 1 小花からなり、長さ 2mm ほどで、果実は破れやすく微細な種子がこぼれやすい。山地や丘陵地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩では丘陵地のローム層の露出した湿性裸地から低茎草地などで、極めて稀に生育する。区部からの生育の記録もある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や芝草地の減少が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、生活史や生態に不明な点が多い。定期的な草刈りを行い、湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

恒川篤史・井手久登, 1989; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒロハノハネガヤ

Stipa coreana var. *kengii*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。稈は高さ 60～100cm、葉は長さ 10～30cm、幅 7～15mm。花期は 8～9 月、円錐花序を直立し、長さ 10～25cm、少数の枝を直立し、小穂は軸に圧着し、総状花序状である。小穂は 1 小花からなり、長さ 12～15mm。護穎は 3 脈あり、有毛、先端部から長さ 2～3cm の直立した太い芒が出る。山地の草原、林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の林縁の草地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林破壊や草地の植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。植生遷移の進行や森林環境の荒廃を生じないよう、モニタリングおよび管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハネガヤ

*Stipa pekinensis*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	○	○	○	

【形態・生態】

多年草。稈は直立し高さ 80～100cm。葉身は長さ 30～60cm、幅約 15mm。花期は 8～9 月、円錐花序は大きく、長さ 20～40cm、枝は長く半輪生し、上半部に小穂をまばらにつける。小穂は長さ約 10mm、有毛の 1 小花からなり、先端に長さ 20～25mm のねじれた芒が出る。山地の草地、林縁などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

北多摩や南多摩では丘陵地の疎林内、西多摩では山地の防火帯草地などの草原に多く生育する。区部からも報告はあるが極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行による樹林化や疎林の荒廃が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。定期的な草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 本田正次ら, 1972.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



マコモ

*Zizania latifolia*単子葉植物綱
イネ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	○	

【形態・生態】

多年草。根茎は太く泥中を這う。茎は高さ 1～2m。葉は長さ 50～100cm、幅 2～3cm。葉舌は白色で膜質、長三角形で高さ 2cm に達する。花期は 8～10 月、花序は大型の長円錐形で、長さ 40～60cm、各節から 2～5 本の枝を出し、枝の上半部に雌性、下半部に雄性の小穂をつける。池沼、河川など浅水中に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部や北多摩の低地河岸および水路、南多摩の丘陵地の河川や水路などの淡水中に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと区部の低地を除き分布が少なく、河川の護岸整備や水路の改修が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自然護岸や水質の保全を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 北区環境保全課 (編), 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ショウブ

Acorus calamus

単子葉植物綱
サトイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	NT	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。地下茎は太く径約2cm、長く横に這い、節から多数発根する。植物体に芳香がある。葉は2列跨状に叢生し、剣状、基部は淡紅紫色、長さ50～100cm、幅1～2cm。花期は5～7月、花茎は根生して直立し、高さ25～40cm、先端に葉状苞(苞葉)をつける。花序は肉穂状で長さ4～7cm。水辺に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山裾の水辺、丘陵地の谷戸や台地脚部の湿地、また区部の低地の明るい湿地に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水田の減少が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。谷戸田やその他の湿地を保全することが望ましい。端午の節句行事の伝統習慣の啓発も望まれる。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ(編), 1995; 清瀬の自然を守る会(編), 2010.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



マイヅルテンナンショウ

Arisaema heterophyllum

単子葉植物綱
サトイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	・	・	VU

【形態・生態】

多年草。高さ40～100cm、球茎に子球をつける。偽茎部は高さ30～70cm、葉は1個、鳥足状に17～21枚の小葉をつける。花柄は葉柄より長く、仏炎苞は葉より高い位置につく。花期は5～6月、雌雄同株あるいは雄株、同株の場合は雌花は花軸の下部に密につき、雄花は雌花の上にまばらにつく。水辺など湿った草地や疎林内などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部(浮間が原)、北多摩(井の頭)に生育していた記録が残されているが、近年の報告例はなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や河川改修などにより、自生地である原野湿地が失われ絶滅したものと考えられる。河口部などの湿地に残存している個体群がないかどうか、再確認が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 北区環境保全課(編), 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメザゼンソウ

Symplocarpus nipponicus

単子葉植物綱
サトイモ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
・	CR	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。地下茎は太く、短く、丈夫な根が多数出る。葉は早春に出てロゼット状に根生し、長柄があり、葉身は卵状長楕円形で基部は心形、長さ12～20cm。花期は6月下旬、花序は長柄があり、仏炎苞は頭巾状で長さ3～5cm、暗紫褐色を帯びる。花序は苞に包まれ、楕円形で密に小花をつける。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸の湿地や湿潤な林床などに、極めて稀に群生する。

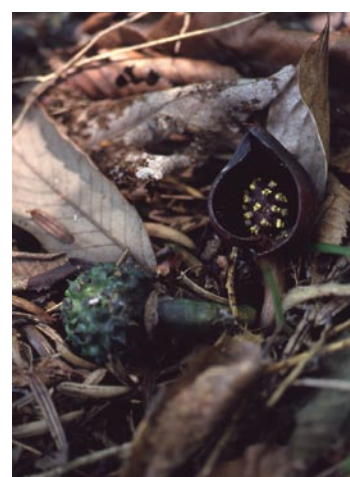
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されており、湿地や湿潤な林床の乾燥化、林縁の荒廃などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。林床や草地の適度な管理を行うことや、踏みつけから保護することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 清瀬の自然を守る会(編), 2010.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒンジモ

*Lemna trisulca*単子葉植物綱
ウキクサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	●	●	VU

【形態・生態】

沈水性の浮遊植物。水面下で絡み合って群生する。葉状体は半透明で広披針形から狭卵形で長さ7～10mm、幅2～3mm。根は1本。花期は夏とされるが、日本では稀にしか開花しない。湖沼、湧水地、河川などに稀に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国

【都における生育環境】

近年、東京都本土部での発見例がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

清冽な水質の小河川や湧水池などが消失し、本種の生育環境が失われ絶滅したものと考えられる。鑑賞用に水槽栽培品が流通しているが、これらの逸出には注意が必要である。

【関連文献】

角野康郎, 1994.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ミクリ

*Sparganium erectum*単子葉植物綱
ミクリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	NT

【形態・生態】

抽水性の多年草。高さは60～200cm。走出枝を伸ばして新株をつくる。葉は茎の基部から袴状に立ち、茎より長く、幅8～15mm。花期は6～8月、茎上部の葉腋から枝を出し、下部に1～3個の無柄の雌性頭花、上部に多数の無柄の雄性頭花をつける。湖沼、河川、水路など、浅い水辺に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地から台地の池沼や水路、区部の低地の河川源流域などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷内のワンド、湧水池、用水路などの改変や消失、水質悪化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。流水環境だけでなく、止水環境にも生育しており、自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

目黒区土木部公園緑地課(編), 1985; 日野市環境情報センター(編), 2008.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤマトミクリ

*Sparganium fallax*単子葉植物綱
ミクリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	—	—	NT

【形態・生態】

抽水性の多年草。全高50～120cm、葉は幅1～2cm。裏面に稜があり断面は三角状。花期は5～9月、雌性頭花は3～6個、腋上生。下部のものには柄がある。雄性頭花は5～9個、互いに離れてつく。果実は紡錘形、長さ5～6mm。湖沼、ため池などに群生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部では絶滅したものと考えられる。また、北多摩からの記録はあるが、東京都本土部における詳しい生育状況は不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の改変や水質悪化などによる自生地の消失や生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。区部で絶滅、北多摩で情報不明となっているが、かつての記録地などにおける再確認が望まれる。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 角野康郎, 1994.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ナガエミクリ

*Sparganium japonicum*単子葉植物綱
ミクリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	—	NT

【形態・生態】

抽水～浮葉性の多年草。高さ 70～130cm、流水中では 1m 以上になる。葉は幅 8～14mm。花期は 6～9 月、花序は分枝しない。雌性頭花は 3～7 個、下方のものには柄があり主軸と合着しない（腋生）。雄性頭花は 4～9 個、雌性頭花からは離れてつく。湖沼、ため池、河川、水路などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地や台地脚部の水路、低地の湧水性の河川、区部の河川源流域などの流水中に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川や水路の暗渠化や水質悪化、コイなどの魚類による食害、除草などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 東京都環境科学研究所, 1995.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメミクリ

*Sparganium subglobosum*単子葉植物綱
ミクリ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	—	DD	—	VU

【形態・生態】

抽水性の多年草。全高 40～90cm、葉の幅 2～6mm。花期は 6～9 月。花序は分枝せず、雌性頭花は 2～4 個着生するか、下部の苞腋から 1～2 本の短枝が出る場合がある。湖沼、ため池、湿原などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩および区部の河川上流域の池沼・湿地から記録はあるが、近年、情報の不足により現状不明となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されており、生育する池沼の水質悪化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。現状での生育状況は不明であるため、過去の自生地や類似した環境での再確認が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 角野康郎, 1994.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ウキヤガラ

Bolboschoenus fluviatilis subsp. *yagara*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	—

【形態・生態】

抽水性の多年草。地下茎は太く這い、秆は高さ 1～1.5m。葉は細長く、幅 5～10mm、花序は頂生し、葉状苞がつく。小穂は長さ 1～2cm。果は長さ 4mm、倒卵形で三稜があり、基部はくさび形、白色～黒褐色になり光沢がある。花期は 5 月。浅いため池、湿原、水辺などに群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の湿地やため池、放棄水田、台地から区部にかけての川岸などに、極めて稀に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼や湿地の改変や河川の護岸改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、湿地の浅水状態を維持すること、日照条件を十分に確保することが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ(編), 1995; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イセウキヤガラ

*Bolboschoenus planiculmis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	■	■	■	

【形態・生態】

抽水性の多年草。別名ヒメウキヤガラ。根茎は長く這い群生する。秆は高さ 40 ～ 80cm、秆は鋭三角形、葉身の横断面は三角形、花序は片方の苞葉が直立する。小穂は 1 ～ 2 個。花期は 7 ～ 10 月。沿岸の潮汐の影響を受ける河口付近などに稀に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の河口周辺の塩性湿地にパッチ状に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河口部における塩性湿地の埋立てなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。潮の干満によって水位が変動するような塩性湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

沼田真・風呂田利夫, 1997.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハタガヤ

*Bulbostylis barbata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	—	VU	—	

【形態・生態】

一年草。茎、葉は糸状で多数束生し、高さ 5 ～ 20cm。葉鞘はさび色で、口部に長白毛がある。花序は頭状で、2 ～ 15 個の無柄小穂からなり、径 6 ～ 12mm、基部に細い葉状苞がつく。花期は 7 ～ 10 月。主として海沿いの砂地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

沿岸部のクロマツ林内の砂地が本来の生育環境と考えられるが、東京都本土部では南多摩の河川敷の砂地において記録されているのみで、極めて稀。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部の開発により本種の生育に適した砂地が失われ、内陸の河川敷以外の自生地が激減したことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。残存する河川敷の砂礫地の現状保全、および適度な乱管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イトハナビテンツキ

*Bulbostylis densa*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
—	NT	NT	NT	

【形態・生態】

一年草。茎は糸状で多数束生し、高さ 8 ～ 25cm、基部に少数の糸状の葉がある。葉鞘は長さ 1 ～ 2cm。花期は 8 ～ 10 月、花序は散房花序で 5 ～ 15 個の無柄小穂からなり、1 ～ 3 個の苞葉がある。小穂は卵状長楕円形で長さ 3 ～ 5mm。日当たりの良い湿った芝草地、ときに山地の林道沿いなどにも生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

多摩地域の山地林道沿い、丘陵地や台地、低地の日当たりの良い芝草地、造成地、河川敷やグラウンドなどに散発的に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や湿り気のある低茎草地、湿性裸地などの生育環境が減少したことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。定期的な草刈りなどの管理を行い、低茎草地を維持することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



トダスゲ

*Carex aequalta*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	●	●	●	CR

【形態・生態】

多年草。別名アウスゲ。根茎は叢生。稈は高さ 30～70cm。葉は扁平で幅 4～6mm、3 脈が目立つ。花期は 5～6 月、頂小穂は雄性、側小穂は雌性、互いに接して直立し、長さ 3～5cm。そう果はゆるく果胞に包まれる。平地や河川敷の湿性草地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から近畿）、九州（北部）

【都における生育環境】

区部の荒川水系中流域から下流域の河川敷の湿地、庭園内の湿地などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川の氾濫原などの湿地が広範囲で失われたことが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。現存する自生地の湿地環境を安定的に保つことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ミノボロスゲ

*Carex albata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	—	EX	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は叢生する。茎は高さ 20～60cm。葉は幅 2～3mm、濃緑色。花期は 5～7 月。花序は頂生し、卵状円柱形、長さ 3～5cm。小穂は卵円形で長さ 5～8mm、上方に雄花、下方に雌花をつけ、淡緑白色、果胞は三角状披針形で長さ 4～4.5mm。山地の路傍、草原、湿地などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（岡山以东）

【都における生育環境】

南多摩の山地林道沿いや区部の低地で記録されているが、近年は報告がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

主に山地の湿地や林道沿いなどに生育する植物だが、東京都本土部においてはもともと稀にしか見られず情報も少ない。近年の減少の理由は不明である。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館, 1989.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



クロカワズスゲ

*Carex arenicola*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	—	EN	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は地中を長く這い、節ごとに茎葉を直立する。高さ 10～30cm。葉は幅 2～3mm、花期は 5～6 月、茎頂に、上部に雄花、下部に雌花をつけた数個の小穂からなる、長さ 2cm ほどの狭卵形の花序をつける。砂質土壌の湿地、海岸の砂地などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地では谷戸田の畦や造成地の湿地などに生育し、区部では河川敷の砂地などに極めて稀に生育していたが、区部では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の消失や植生遷移の進行、河川改修などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。定期的な草刈りなどのかく乱管理を行い、日照条件の良い砂質土壌の湿地を維持することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 日野市環境情報センター（編）, 2008.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



マツバスゲ

*Carex biwensis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 20 ～ 40cm、縁は平滑。葉は花茎より短く、幅 1 ～ 1.5mm。花期は 4 ～ 6 月、1 個の雄雌性小穂を頂生する。雄性部は線形で長さ 5 ～ 10mm、雌性部は長さ 5 ～ 10mm、果胞は卵形で長さ 1.5 ～ 2mm、熟すと水平に開出する。丘陵地から平地にかけての湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸田の草地、水田畦、水路などに生育する。区部の低地からの近年の報告はなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸田の減少や管理放棄、水路の改修、除草剤の多用などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を可能な限り保全することや、適度な草刈りを行い湿地環境を維持すること、除草剤の使用を控えるなどの配慮することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アワボスゲ

*Carex brownii*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。群生し、密に叢生する。茎高 30 ～ 80cm、葉は花茎より長いと同長、幅 3 ～ 7mm。花期は 5 ～ 6 月。頂小穂は雄性、長さ 15 ～ 30mm。側小穂は 2 ～ 3 個、雌性で円柱形、長さ 15 ～ 30mm、上部は無柄、下部は有柄。そう果は果胞にゆるく包まれる。丘陵地から平地にかけての湿性草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の谷戸田の裾刈り草地や、台地脚部、区部の低地までの堤防などの湿った草地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿性の草地環境が激減したことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。地下水がにじみ出すような斜面の草地に生育することが多いため、こうした場所は定期的に草刈りなどの管理を行い、湿性草地を維持することが望ましい。

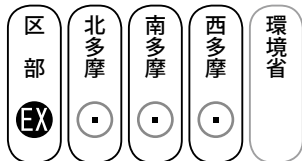
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハリガネスゲ

*Carex capillacea*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は茎より短く、幅 1 ～ 1.5mm。花期は 4 ～ 5 月。花序は雄雌性で頂生する。雄性部は線形で長さ 3 ～ 5mm、雌性部は短柱形で長さ 3 ～ 7mm、果胞は卵形で長さ 2 ～ 3mm、くちばしは短く、熟すと開出する。丘陵地、山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

区部の低地の湿地から記録はあるが、近年の報告がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地の湿地に生育する植物であり、東京都本土部においてはもともと稀である。近年の減少の理由は明らかではない。

【関連文献】

鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ジョウロウスゲ

*Carex capricornis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 40～70cm。葉は茎より長く、幅 4～6mm、ときに 10mm。花期は 5～7 月、花序は茎頂に集まり苞葉がある。頂小穂は雄性、紡錘形で長さ 15～30mm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 15～30cm、果胞は披針形で長さ 7～9mm。水辺に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（関東以北）

【都における生育環境】

北多摩の池沼や河川敷、水路などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地や池の改変や河川改修などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。定期的な出水などによりかく乱される湿性草地を保全することが望ましい。

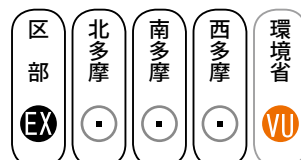
【関連文献】

多摩市文化振興財団（編），2004；清瀬の自然を守る会（編），2010。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ヌマアゼスゲ

*Carex cinerascens*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。まばらに叢生し根茎は這う。茎は高さ 40～70cm。葉は花茎より短く、幅 2～4mm。花期は 5～6 月、頂小穂は雄性で線形、長さ 2～3cm、側小穂は雌性で長さ 1～4cm、円柱形。水辺周辺の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以北）

【都における生育環境】

区部の河川下流域の湿地で記録はあるが、近年は記録がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川下流域での広範囲な開発や河川改修などによる自生地の消失により、絶滅したものと考えられる。アゼスゲと酷似しているため見つけにくく、過去の自生地周辺での再調査が望まれる。

【関連文献】

檜山庫三，1965；東京薬科大学植物研究部（編），1967。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



タマツリスゲ

*Carex filipes*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 20～50cm。葉は花茎より短く、幅 2～5mm。花期は 5～6 月、頂小穂は雄性、紡錘形で長さ 0.5～15mm、側小穂は雌性で短柱形、長さ 10～25mm。果胞は広卵形で長さ 5～7mm。そう果は密に果胞に包まる。丘陵地や山地の樹林内や湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

多摩地域の山地から丘陵地にかけての疎林内、林縁の草地などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林内から林縁の管理放棄による荒廃や改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。適切な山林の管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編），1967；多摩市文化振興財団（編），2004。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



サナギスゲ

Carex grallatoria var. *heteroclita*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	● VU	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ5～20cm。葉は花茎より長く、幅1～2.5mm。雌雄同株。花期は4～6月、茎頂に5～10mmの雄性部があり、基部に約10mmの雌性部があり、雌小穂は3～6花、まばらに果胞をつける。山地の樹林内、岩上などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の岩上や樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変などによる生育環境の変化や登山者による踏みつけなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、登山のマナーの向上を図ることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤマアゼスゲ

*Carex heterolepis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	● EN	● NT	

【形態・生態】

多年草。叢生し大株となるほか、根茎は這い群生する。花茎は高さ30～70cm。葉は幅4～6mm。基部の鞘は黄褐色、糸網が生じる。苞は葉状。花期は3～6月、頂小穂は雄性、線形で長さ2～5cm、側小穂は雌性、円柱形、長さ2～7cm。雌鱗片は紫褐色、果胞と同長か短い。山地溪流沿い、河畔、湿原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地から丘陵地にかけての溪流沿いの砂礫地や、谷戸の湿地に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修に伴い、自生地の溪流沿いの砂礫地が失われていることが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地は、現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホソバヒカゲスゲ, ヒメヒカゲスゲ

Carex humilis var. *nana*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
● VU	● VU	● NT	● NT	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ3～5cm。葉は細長く幅0.5～1.5mm。基部の鞘は赤褐色、繊維状に細裂する。花期は4～5月、頂小穂は雄性、線形、長さ5～10mm、側小穂は雌性、長さ5～10cm。果胞は鱗片より短く、卵形で長さ3mm、短毛が密生する。やや乾燥した雑木林や岩上に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地から丘陵地の乾燥した尾根、岩礫地、区部の貧栄養な雑木林の林床などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

雑木林の放置による林床の富栄養化などにより、本種が好むやせ気味の林床環境が減少していることが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。落ち葉かきや林床の下草刈りなどの雑木林管理を継続し、貧栄養、乾燥気味の林床を維持することが望ましい。

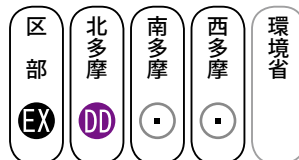
【関連文献】

本田正次ら, 1972; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ウマスゲ

*Carex idzuroei*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。根茎は這い叢生、群生する。花茎は高さ 40～60cm、上部はややざらつく。葉は花茎より短く、幅 4～8mm、軟質。基部の鞘は錆褐色で一部赤紫色。苞葉は長く無鞘。花期 4～6 月、頂小穂は雄性、線形、長さ 2～4cm、長柄がある。側小穂は雌性、短円柱形、長さ 1.5～3cm。河川の氾濫原や湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

河川の中流域から下流域の河川敷の湿地、河畔林内などに生育する。区部の低地、荒川下流の沖積地に記録はあるが、近年の記録はなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

氾濫原などの広範囲な開発、河川改修などによる自生地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河畔林や氾濫原の湿地が残存していれば、本種の再発見や復活が期待される。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 野村圭祐, 2002.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イセアオスゲ

*Carex karashidaniensis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 5～40cm。葉は幅 1～2.5mm、基部鞘は褐色。苞は葉状で小穂より長く、鞘は短い。花期 5～6 月、頂小穂は雄性、線形、長さ約 5mm。側小穂は雌性で 2～4 個、上部、中部、根元につき、まばらに 2～6 個の果胞をつける。山地の斜面岩上や林内の岩場に生育する。

【分布の概要】

本州（関東西南部、東海、紀伊半島）

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の林縁の岩上に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地の岩礫地の崩壊や登山者による踏みつけなどが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を周辺環境と一体的に保全することや、登山のマナーの向上を図ることが望ましい。

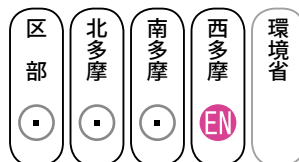
【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 勝山輝男, 2005.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アズマスゲ

*Carex lasiolepis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。根茎は短く叢生し、基部の鞘は淡色。葉は柔らかく幅 3～5mm。花期は 2～3 月。花茎は高さ 5～15cm。雄小穂は頂生し、暗赤褐色、雌小穂は長い柄があり、最下のものは花茎基部につく。苞は刺状で鞘がある。果胞は長さ 4～4.5mm。乾いた樹林内や草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高、岩礫地基盤の落葉広葉樹の疎林内などに、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の樹林は可能な限り保全することが望ましい。また、現状に不明な点が多く、実態についての再確認が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒエスゲ (チュウゼンジスゲを含む)

*Carex longirostrata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。別名マツマエスゲ。叢生する。根茎は剛強。花茎は高さ 20～40cm、葉は幅 2～3mm。基部の鞘は黒褐色、繊維状に細裂する。苞葉は刺状、鞘がある。花期は 6～7 月、頂小穂は雄性、長さ 1～2cm、側小穂は雌性、短柱形、長さ 1～1.5cm、果胞は少なく、広卵形、長さ 7～8mm。山地の岩礫地、砂礫地、草地、林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の山地の石灰岩地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の崩落や石灰岩の採掘による自生地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種を含む石灰岩植物についての実態調査と、計画的な保全対策の実施が望まれる。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 星野卓二・正木智美, 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤガミスゲ

*Carex maackii*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	●	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 50～80cm。葉は花茎より長く、幅 3～6mm、基部鞘は淡褐色。花期は 5～6 月、茎頂に長さ 5～8cm の、10～15 個の無柄小穂を密につけた花序をつける。果胞は卵形で長さ約 4mm。砂地の水辺に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

区部は荒川流域、多摩地域では多摩川とその支流の河川敷や周辺の湿地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷の湿地の改変や富栄養化に伴う植生遷移の進行などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地である湿地環境を保全することや、適度なく乱による湿地の管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力, 1974; 北区環境保全課, 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タチスゲ

*Carex maculata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	●	●	○	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 30～70cm。葉は幅 3～5mm、裏面に密に乳頭状突起がある。基部鞘は淡褐色。苞は葉状で鞘がある。花期は 5～6 月、頂小穂は雄性、線形、長さ 1～3cm。側小穂は雌性で円柱状、長さ 1～4cm。果胞は倒卵形で長さ約 3mm。湿った草地に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩の丘陵地下部の湿潤な草地に極めて稀に生育する。南多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生育環境である、湧水のある湿度の高い谷戸の林縁部や湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 畔上能力, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメシラスゲ

*Carex mollicula*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	●	●	

【形態・生態】

多年草。細長い根茎で這う。花茎は高さ 15 ～ 30cm、葉は鮮緑色で幅 4 ～ 8mm。基部の鞘は淡褐色。苞葉は長さ 1 ～ 10cm。花期は 5 ～ 7 月、花序は花茎の上部に集まってつく。頂小穂は雄性、長さ 1 ～ 3cm、側小穂は雌性で 2 ～ 5 個、円柱形で長さ 1.5 ～ 3cm、幅 4 ～ 5mm。果胞は長さ 3 ～ 4mm。樹林内、林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の谷筋など、湿った樹林内に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や林床の荒廃、シカの食害などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。樹林の湿度環境を保つことに加え、下草刈りなどの林床管理を行うこと、シカの防護柵設置を検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1995.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤチカワズスゲ

*Carex omiana*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	EX	EX	

【形態・生態】

多年草。根茎はゆるく叢生する。花茎は高さ 30 ～ 60cm、葉は幅 1.5 ～ 2.5mm。基部の鞘は淡褐色。花期は 5 ～ 7 月、花序は 3 ～ 5 個の無柄小穂を上部に集め、長さ 2 ～ 4cm。果胞は卵形、長さ 3.5 ～ 5mm。湿原、湿地に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

かつては区部の河川源流域(練馬区石神井)や、南多摩の丘陵地の谷戸(多摩市乞田)などの東京都本土部全域の湿地に見られたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと自生地が限られていたことに加えて、池や湿地の改変などにより自生地が失われ、絶滅したものと考えられる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



オタルスゲ, ヒメテキリスゲ

*Carex otaruensis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	EX	

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 50 ～ 80cm。葉は幅 3 ～ 4.5mm。基部鞘は赤褐色で糸網を生じる。苞葉は刺状から葉状。鞘はない。花期は 5 ～ 7 月。頂小穂は雄性、線形で長さ 4 ～ 8cm。側小穂は雌性、円柱形で長さ 3 ～ 5cm。果胞は卵形、扁平、長さ約 3mm。溪谷や山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩や南多摩の丘陵地下部の湿地に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

丘陵地の湿地が改変され、自生地が失われたことにより絶滅したものと考えられる。本来、生育環境は幅広く、山地の下部から丘陵地の湿潤な谷戸、山地の湿地などであるため、こうした場所での再発見が期待される。

【関連文献】

小野幹雄, 1991; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホンモンジスゲ

*Carex pisiformis*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

多年草。根茎はまばらに叢生、匍匐茎を出す。花茎は高さ 20 ～ 40cm。葉は幅 1.5 ～ 3.5mm。基部鞘は淡褐色。苞は刺状から葉状で短鞘がある。花期は 4 ～ 5 月、頂小穂は雄性、線形。側小穂は雌性、線形で長さ 10 ～ 28mm、果胞は卵形で長さ 3 ～ 3.5mm。樹林内、路傍などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部から静岡）

【都における生育環境】

区部、多摩地域の丘陵地や台地脚部、半日影の樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

丘陵地や台地脚部の樹林の開発や林縁の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。肥沃で湿度の保たれた、安定した樹林を保全することが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 北区環境保全課 (編), 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タカネマスキサ

*Carex planata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。密に叢生する。花茎は高さ 30 ～ 60cm。葉は幅 2 ～ 3mm。基部鞘は淡褐色。苞葉は長く 5 ～ 35cm。花期は 5 ～ 6 月。花序は 3 ～ 6 個の無柄小穂を散生し長さ 5 ～ 8cm。頂小穂は雄性、側小穂は雌雄性。果胞は広卵形、レンズ形で長さ 3.5 ～ 4.5mm。やや湿った林床、林縁、水田の畔などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地の、谷戸の湿地の土手などに、極めて稀に生育する。

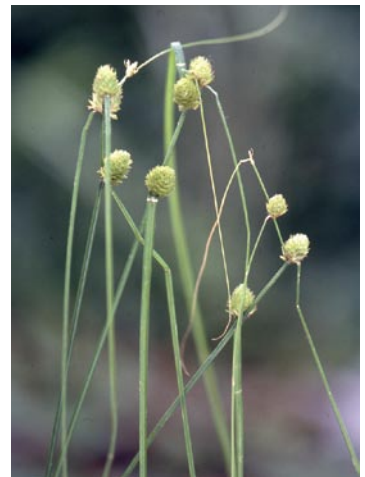
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸田の消失や管理放棄により、適湿な草草が減少したことが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む谷戸環境の総合的な保全管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タヌキラン

*Carex podogyna*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	CR	■	■	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 40 ～ 100cm。葉は幅 5 ～ 12mm。基部鞘は赤褐色～紫褐色。苞は葉状から鱗片状になる。花期は 6 ～ 8 月、頂小穂は雄性で 1 ～ 3 個、側小穂は雌性、広楕円形で長さ 3 ～ 4.5cm。果胞は披針形で長さ 7 ～ 8mm。山地の湿潤な斜面に生育する。東京都が太平洋側での分布の南限である。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

多摩川の浸食崖とその周辺にのみ群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河岸段丘形成に伴う浸食斜面を生育環境とするため、自生地が限られている。自生地の浸食崖を現況のまま保全することが望ましい。

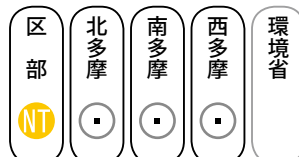
【関連文献】

飯泉優, 1961; 小野幹雄, 1990.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コウボウシバ

*Carex pumila*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。根茎は這う。花茎は高さ 10～30cm。葉は幅 2～5mm。基部鞘は赤紫色、基部に糸網を生じる。苞は葉状、短い鞘がある。花期は 5～6 月、頂小穂は 2～4 個が集まり雄性で、線形、長さ 2～3cm。側小穂は雌性で 2～3 個が密着してつき、短柱形で、長さ 1.5～3cm。果胞は長卵形で、長さ 6～8mm。海岸の砂浜に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の海浜のやや湿潤な砂浜に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

砂浜など沿岸の湿地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。残された自生地である砂浜を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

江東区総務部広報秘書室（編），1984；沼田真・風呂田利夫，1997。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



クサスゲ

*Carex rugata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生し、短い匍匐茎を出す。花茎は高さ 15～40cm、葉は幅 2～4mm。基部鞘は淡褐色～褐色。苞葉は 1～4cm。花期は 5～6 月、頂小穂は雄性、線形、長さ 5～8mm。側小穂は雌性で短柱形、長さ 5～10mm。果胞は中央がくびれた卵形、長さ約 3mm。日当たりの悪い林床に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

多摩地域の山地から丘陵地、段丘崖などにおける半日影の樹林内、湿った林縁などに生育する。分布範囲は広いが、丘陵地以下では極めて稀となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿潤で安定した雑木林の消失、林縁の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の生態を考慮し、下草刈りなどの適切な保全管理を実施することが望ましい。

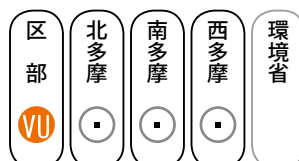
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編），1967；畔上能力，1974。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



シオクグ

*Carex scabrifolia*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。根茎は這う。花茎は高さ 30～60cm。葉は花茎より短く、幅 2～3mm、濃緑色。基部鞘は赤紫色、糸網を生じる。苞葉は長く、鞘はないか短い。花期は 5～6 月、頂小穂 2～4 個は雄性、側小穂は雌性で 1～2 個、短柱形、長さ 1～2cm、直立する。果胞は楕円形、長さ 6～8mm。海岸、河口の塩性湿地（汽水域）に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の湾岸埋立地、多摩川河口の塩性湿地（汽水域）に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河口部の埋立てなど、塩性湿地の開発が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。残存する塩性湿地については、本種を含む海浜植生の維持を目的とした保全管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

江東区総務部広報課（編），1991；沼田真・風呂田利夫，1997。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



オニナルコスゲ

*Carex vesicaria*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	EX	●	●	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、花茎は高さ 30～100cm。基部鞘は無葉身で赤褐色。葉は幅 3～8mm、花期は 5～8 月、茎頂に 2～3 個の雄小穂をつける。下部の側小穂は雌性で 2～3 個離れてつく。雌小穂は円柱状で長さ 3～7cm、果胞は長さ 6～8mm、淡黄緑色、有脈、無毛で、くちばしは長く、口部は 2 岐。柱頭 3 岐。湿地や河畔に群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、九州

【都における生育環境】

区部から北多摩にかけての河川中流域から下流域の河川氾濫原、湿地などに生育していたが絶滅したものと考えられる。志村、三鷹、石神井の記録がある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変など、北多摩から区部にかけての生育適地が広範囲に開発されたことにより、本種の生育条件が失われてしまい絶滅したものと考えられる。

【関連文献】

檜山庫三, 1965.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クゲ, イヌクゲ

*Cyperus cyperoides*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	●	●	●	

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 20～70cm。基部鞘は赤褐色。葉は幅 3～6mm、茎より短い。花期は 8～10 月、茎頂に複散房花序を出す。苞は葉状で 4～5 個、花序より長い。分花序は円柱形で、長さ 2～3cm、全体に緑色。小穂は多数で開出し、線形で長さ 4～5mm、1～2 個の鱗片(小花)にそう果が実る。柱頭 3 岐。沿海地に生育する。

【分布の概要】

本州(関東以西の太平洋側)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の海岸沿いの草地や路傍などから記録はあるが、近年の報告がなく、現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部での広範囲な開発が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境を含め不明な点が多く、再確認が望まれる。

【関連文献】

千葉県史料研究財団(編), 2003; 星野卓二・正木智美, 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カンエンガヤツリ

Cyperus exaltatus var. *iwasakii*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
NT	NT	NT	NT	VU

【形態・生態】

一年草。叢生し、茎は高さ 80～120cm、葉は幅 8～15mm、花茎より短い。花期は 8～9 月、花序は大型で茎頂に集まり、長さ幅とも 10～30cm に達し、苞は葉状で花序より著しく長い。小穂は線形で長さ 4～18mm、扁平、熟すと光沢のある褐色となる。そう果は三稜形、柱頭 3 岐。朝鮮半島では古くからワングルの名で広く栽培され、編物細工に使用されている。河原や池畔など湿地に生育する。

【分布の概要】

本州

【都における生育環境】

多摩地域の河川敷や区部の低地のかく乱頻度の高い湿地に生育するが、発生は散発的である。区部東部の池では水位が下がった年にしばしば大群生が発生している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水位変動や、かく乱頻度の高い湿地や池沼の減少が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。発生に変動のある一年草という生態特性を考慮し、湿地の適切な保全管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ(編), 1995; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アオガヤツリ, オオタマガヤツリ

*Cyperus nipponicus*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
NT	NT	NT	—	

【形態・生態】

一年草。茎は叢生し、高さ 10～25cm。葉は基部につき少数、幅 1～2mm、淡緑色で軟らかい。基部鞘は白味を帯びた赤紫色。苞葉は 3～4 個あり、花序より著しく長い。花期は 8～10 月。花序は白緑色で頭状、普通 1～5 本の花序枝を持つ。小穂は披針形、長さ 3～6mm、扁平、多数花を 2 列につける。そう果は倒卵形、長さ 0.8mm、柱頭は普通 2 岐。池沼のほとりや河川敷の泥湿地などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の沖積地から区部の沿岸部などの池沼の岸辺、河川湿地に稀に生育するが、一年草のため発生は散発的である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修や沿岸部の湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。残存する池沼や河川湿地などの現状保全、河川環境の自然再生などにより、本種の生育環境を保全・創出することが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課 (編), 1987; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



シロガヤツリ

*Cyperus pacificus*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
VU	—	—	—	

【形態・生態】

一年草。叢生し、全体に緑白色を帯びる。花茎は高さ 10～25cm。花期は 7～10 月、花序は茎頂部に集まり頭状、白味を帯び、花序枝を出さないことでアオガヤツリと区別できる。苞葉は 4～6 個で平開する。小穂はねじれる。果実は長楕円形で長さ 1mm、狭い翼状の稜がある。池沼のほとりなど湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州 (近畿以東)

【都における生育環境】

区部の河口周辺の湿地から生育の報告はあるが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川改修や沿岸部の湿地の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。残存する池沼や河川湿地などの現状保全、河川環境の自然再生などにより、本種の生育環境を保全・創出することが望ましい。

【関連文献】

大田区公害環境部 (編), 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミズハナビ, ヒメガヤツリ

*Cyperus tenuispica*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	—	EX	—	

【形態・生態】

一年草。叢生する。花茎は高さ 10～25cm。葉は花茎より低い。花期は 7～10 月、茎頂に 10～20 本の花序枝を複散房状に出し、枝先に 3～5 個の小穂をつける。花序の基部には 3～5 本の苞葉が展開する。小穂は長さ 2mm、紅色を帯びる。そう果倒卵形、長さ 0.4mm、柱頭 3 岐。日当たりの良い湿地や水田などに生育する。

【分布の概要】

本州 (福島以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の水辺での記録や池沼周囲における生育記録 (八王子市別所 長池) などがあるが、近年の確かな報告例がなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと稀な種であることに加えて、池沼や湿地の広範囲な改変、消失により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



セイタカハリイ

*Eleocharis attenuata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	NT	NT	—	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は断面が円く、高さ20～50cm。基部鞘は赤褐色。花期は6～8月。小穂は花茎に頂生し、広卵形、長さ7～12mm、淡褐色。鱗片は長さ2.5mm、短い芒がある。そう果上に三角錐状の柱基がつき、柱頭3岐。そう果基部に刺針状花被片6個がつく。長さはそう果とほぼ同長で、下向き刺針がある。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の湿地や水田に生育するが、極めて稀である。区部（板橋）からの古い記録はあるが、現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されており、水田や湿地の改変・消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）、1967；多摩市文化振興財団（編）、2004。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



クロハリイ

Eleocharis kamtschatica f. *reducta*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	■	■	■	

【形態・生態】

多年草。根茎は長く這い、しばしばマット状に広がる。花期は5～7月。花茎は高さ20～50cm。基部鞘は赤紫色、上端は斜切形。小穂は頂生し、披針形から卵形、長さ7～20mm。基部に無花の苞が1枚ある。そう果は凸レンズ形、1～1.5mm、光沢はなく黒色。刺針状花被片は退化している。柱頭2岐。海岸近くの湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（千葉、静岡、愛知、三重）、九州

【都における生育環境】

区部の荒川周辺の湿地（板橋）の記録はあるが、近年の報告例はなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部の広範囲な開発で塩性湿地を含む自生地が改変され、また消失したことにより、絶滅したものと考えられる。

【関連文献】

檜山庫三、1965；星野卓二・正木智美、2011。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ヌマハリイ、オオヌマハリイ

Eleocharis mamillata var. *cyclocarpa*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	■	■	■	

【形態・生態】

多年草。長い匍匐茎がある。花茎は太く、高さ30～60cm。径2～4mm、断面は円く平滑、軟質。茎内部は綿状。基部鞘は赤褐色。花期は5～10月、茎頂に披針形または楕円形で長さ10～25mm、濃褐色の小穂をつける。そう果は広倒卵形、長さ15～20mm、断面は凸レンズ状で光沢がある。刺針状花被片は5～6本、そう果の約2倍長。下向きにざらつく。柱頭2岐。山地の湿地や池沼の岸边などに群生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の河川源流域の湿地や池沼などに記録はあるが、近年は記録や報告がなく絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

氾濫原や源流域における湿地、池沼の改変や消失により、絶滅したものと考えられる。河川域での自然再生などによる復活が期待される。

【関連文献】

檜山庫三、1965；大田区公害環境部（編）、1982。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



コツブヌマハリイ

*Eleocharis parvinox*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。根茎は長く這う。花茎は高さ 30～60cm。断面は円くて平滑、内部は綿状。基部鞘は赤褐色。花期は 6～10 月、茎頂に披針形で長さ 1～1.5cm、濃褐色の小穂をつける。そう果は倒卵形、凸レンズ状、先端に三角錘状の柱基がつく。柱頭 2 岐。刺針状花被片は 4 本、そう果の約 2 倍長ある。河川敷や湖畔にまばらに群生する。

【分布の概要】

本州（東北、関東）

【都における生育環境】

南多摩の多摩川水系の河川の湿地に生育する。北多摩では現状不明である。区部（板橋）においては、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や河川流量の安定化、河川改修などによる湿地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。河川域における自然再生などにより、本種の生育に適したかく乱頻度の高い河川湿地の創出が期待される。

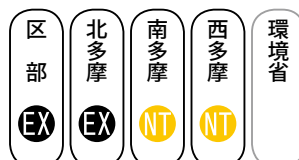
【関連文献】

檜山庫三, 1965; 北区環境保全課, 1987.

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



シカクイ

*Eleocharis wichurae*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 30～40cm、断面は四角。基部鞘は淡緑色～赤褐色。花期は 7～10 月、茎頂に披針形で長さ 1～2.5cm の小穂をつける。鱗片は卵形で長さ 4～6mm。そう果は倒卵形、長さ 2mm、三稜形。柱基はそう果と同長。刺針状花被片は 6 本、縁に細突起が密生し羽毛状。柱頭 3 岐。山野の日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の台地脚部、丘陵地の谷戸、山地下部などの日当たりの良い湿地、休耕田、河川沿いの湿地などに生育する。南多摩の多摩丘陵にはまだかなり残存している。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸田や周辺の湿地の管理放棄、除草剤の多用が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。除草剤使用を控えた草刈りなどの定期的な谷戸田の管理を含め、湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

青梅市郷土博物館（編），1982; 多摩市文化振興財団（編），2004.

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



サギスゲ

*Eriophorum gracile*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

多年草。長い匍匐根茎があり大株にならない。花茎は高さ 20～50cm。葉は花茎より短く、幅は 2～3mm。基部鞘は黒褐色。茎頂に小穂が数個集まる。花期は 6～10 月。小穂は花時、長楕円形で長さ約 6～10mm。花被片は灰白色、毛状で多数、果時には 20mm ほどに伸び、白色の綿毛状となる。高層湿原の泥湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）

【都における生育環境】

各地の谷戸の湿地や池沼などに稀に生育していたが、近年生育情報はなく、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと高標高地の泥湿地に生育する植物であり、低地の湿地や池沼に遺存的に分布、生育していた。植生遷移の進行や宅地開発などによる環境悪化により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団（編），2004.

（執筆者：畔上能力・内野秀重）



ノテンツキ, ヒラテンツキ

*Fimbristylis complanata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	DD	—	—	

【形態・生態】

多年草。根茎は短い、またはない。花茎は高さ 20～50cm、扁平で平滑。葉は花茎の基部に集まり短い。基部鞘は淡褐色。花期は 6～10 月、茎頂に複散房花序をつけ、苞葉は 1～2 枚、ごく短い。小穂は披針形で長さ 5～8mm、鱗片は長さ約 3mm、先端に短い芒がある。ヒメヒラテンツキに似るが鱗片、小穂ともに長い。そう果は三稜形、花柱は長く、柱頭 3 岐。日当たりの良い湿地、原野などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の低地（多摩川、荒川下流域）や北多摩の河川敷などに記録はあるが、近年における生育情報はなく、現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

広範囲な河川敷の整備や開発が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 北区環境保全課, 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クロテンツキ

*Fimbristylis diphylloides*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EN	VU	NT	

【形態・生態】

一年草。株立ち。花茎は高さ 15～40cm。葉は幅 2～3mm、基部に無葉身の鞘があり、暗褐色。花期は 8～10 月、茎頂に散房花序をつけ、基部に花序より短い苞葉を 4～8 個つける。小穂は球形で径 3～5mm。ヒデリコに似るが、やや大型で褐色を帯びる。テンツキとは毛がない点で区別できる。柱頭 2 岐。池の周辺、休耕田などの日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州（新潟、関東以西）、四国、九州、南西諸島（奄美大島）

【都における生育環境】

沖積地の水田、河川敷の草地、丘陵地の池や谷戸田周辺の草地など、湿潤な草地に生育する。区部では極めて稀となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿性草地の消失、草地の管理放棄などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。本種は草丈が低いため、自生地では頻度の高い草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課, 1987; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ナガボテンツキ

*Fimbristylis longispica*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	■	■	■	

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 40～80cm と大きく、叢生する。花期は 8～9 月。茎頂に散房花序をつけ、2～3 回分枝して黄褐色、披針形で長さ 15～20mm の小穂を多数つける。苞葉は花序より長い。そう果は倒卵形で長さ 1mm、表面に格子状の紋がある。入り江や河口の汽水域（半塩性湿地）に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部の沿岸部や河口の埋立地、汽水域（半塩性湿地）に生育記録はあるが、現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

沿岸部や湿地の改変、消失が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地である河口の半塩性湿地では、工事に際して自生地を保全することや、生育、生息する生物に配慮して適切な保全管理を行うことが望ましい。

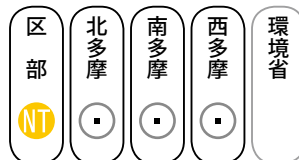
【関連文献】

大田区公害環境部（編）, 1982; 沼田真・風呂田利夫, 1997.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イソヤマテンツキ

*Fimbristylis sieboldii*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

一年草。叢生する。無毛。花茎は高さ15～40cm、平滑。葉は幅1～1.5mm、花茎より短い。基部鞘は暗褐色。花期は8～10月、茎頂に散房状に3～10個の小穂をつける。小穂は披針形で長さ6～10mm。鱗片は倒卵形、長さ3～4mm、鋭頭、上部に微細な毛がある。そう果は倒卵形、長さ1.2mm、花柱は有毛、柱頭2岐。海岸の塩性湿地に生育する。

【分布の概要】

本州(千葉、石川以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部の沿岸地の日当たりの良い海岸湿性砂地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

砂浜の広範囲な開発が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。沿岸域の砂地の植生を保全することが望ましい。

【関連文献】

江東区総務部広報秘書室(編), 1986; 沼田真・風呂田利夫, 1997.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アゼテンツキ

*Fimbristylis squarrosa*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

一年草。花茎は細く、高さ10～20cm。葉は花序より短く糸状。基部鞘は有毛。花期は7～10月、花序は複散房状で長さ3～7cm、小穂は披針形で長さ4～6mm、茶褐色を帯びる。鱗片には長い芒がある。そう果の上端に下向きの長毛がある。柱頭2岐。田の畔、池畔などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

各地の台地脚部から沖積地にかけての水田畦、池沼周囲などの湿地に生育するが発生は散発的で不安定である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が水田、池沼周辺の湿地などであり、工事に際して自生地における低茎草地を保全することや、水田、休耕田などの湿地を維持するなどの配慮することが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ(編), 1995; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



メアゼテンツキ

*Fimbristylis velata*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

【形態・生態】

一年草。花茎は高さ10～20cm。葉は根生し、糸状で幅約0.5mm、花茎より短い。基部鞘は有毛。花期は7～10月、茎頂に複散形花序をつける。分花序は10個前後、小穂は披針形で長さ4～6mm、茶褐色を帯びる。鱗片に短い芒がある。そう果は倒卵形で長さ0.7mm、断面はレンズ形、平滑。花柱は有毛、基部は膨れ、下向き長毛が生える。柱頭2岐。田の畔、休耕田などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の河川敷、池沼周辺、水田など湿地に散発的に発生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発による広範囲な土壌基盤の消失、水田の減少などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。低茎の湿性草地、湿性裸地などの環境を保全することが望ましい。なお、本種はヒメヒラテンツキなどとも見間違えやすく見逃されている可能性も高いので、詳細な調査が望まれる。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 北区環境保全課, 1987.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アオテンツキ

Fimbristylis verrucifera

単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	DD	●	●	

【形態・生態】

一年草。叢生し、花茎、葉ともロゼット状に地面に張りつく。葉は細く幅0.1～0.4mm。基部鞘は淡褐色。苞葉は花序より長い。花期は8～10月、花序は単一で6～10個の小穂をつける。小穂は広楕円形、長さ3～5mm、淡緑色。鱗片には芒がある。そう果は長楕円形、長さ0.5mm、面に棍棒状の突起が散生する。柱頭2岐。河畔や池沼の岸边、また干上がった池底など、日当たりの良い砂質の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩から報告はあるが、詳しい生育状況は不明である。一般的には、水位の下がった池沼の底部、湿性裸地に群生する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水質悪化や自然性の高い池沼などの護岸、外来種の侵入などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の水質の保全や外来種除去などの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コイヌノハナヒゲ

Rhynchospora fujiiana

単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	CR	CR	●	

【形態・生態】

多年草。まばらに叢生し、匍匐根茎はない。花茎は細く、高さ30～80cm。葉は細く幅1～1.5mm、花茎基部より出る。花期は7～10月。分花序はまばらにつく。小穂は披針形、長さ約5mm、濃褐色、1花をつける。鱗片は卵形で長さ約5mm、鋭尖頭。そう果は狭倒卵形で長さ2mm、柱基は円錐形、柱頭は2岐、刺針状花被片は6個、そう果よりやや長く、細く、直立する。湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩および南多摩の湧水性の崖地露頭、池沼周囲の貧栄養な湿地などに生育するが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については不明点が多いため再確認が望まれる。本種の属するミカヅキグサ属は近縁種が多く、互いに酷似するので同定には注意が必要である。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハタベカンガレイ

Schoenoplectus gemmifer

単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	●	●	●	VU

【形態・生態】

多年草。別名ハコネカンガレイ、ナスノカンガレイ。叢生する。花茎は高さ50～120cm、断面は鋭三稜形、平滑でやや軟質。苞葉は花茎に続き長さ3～10cm、斜上する。花期は7～10月。花序は仮側生し、無柄小穂が5～20個頭状をなす。小穂は卵形、長さ約1cm。鱗片は長さ3～3.5mm、鋭頭。そう果は広楕円形で長さ2mmほど。刺針状花被片は6本、下向きの刺がある。柱頭2岐ときに3岐。山地の湿原にある水路中に生育する。

【分布の概要】

本州、九州

【都における生育環境】

山地から平地にかけての水路など、流水中に生育する。区部の低地に記録はあるが絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

水路の改修などにより絶滅したものと考えられる。記録がある場所周辺で再調査を行い、再発見の場合は、関係者で情報共有し、適切な水路管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

神奈川県植物誌調査会 (編), 2001; 星野卓二・正木智美, 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメホタルイ

*Schoenoplectus lineolatus*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
—	DD	—	DD	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、節から茎を立てる。花茎は高さ 10 ～ 20cm。断面は円形、軟質。苞は花茎に続き、長さ 1 ～ 5cm。基部鞘は薄膜質。小穂は 1 個、仮側生し、無柄、長さ 7 ～ 10mm。刺針状花被片は 5 本、長さはそう果の約 2 倍または痕跡状となり、下向きの刺がある。柱頭 2 岐。砂底で透明度の高い水深の浅い池などに生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

透明度の高い浅い池に生育する。北多摩および西多摩から記録はあるが、現状不明となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池の消失や水質の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境である池周辺の湿地を保全することが望ましい。ホタルイやイヌホタルイの小型個体と誤認しやすいので同定には注意が必要である。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 星野卓二・正木智美, 2011.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

タタラカンガレイ

Schoenoplectus mucronatus var. *tataranus*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
VU	VU	—	—	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 30 ～ 50cm、平滑、やや軟質、断面は鋭三角形で、各稜の先端に逆三角形の翼がつく特徴がある。茎頂に仮側生状に無柄小穂が 5 ～ 10 個頭状花序につき、花茎に接続して長さ 3 ～ 10cm の苞葉が立つ。そう果は広倒卵形で長さ約 2mm、扁三稜形。刺針状花被片は 6 個、逆刺がある。柱頭 3 岐。低地の湿地や池畔などに生育する。

【分布の概要】

本州 (宮城、関東)

【都における生育環境】

区部や北多摩の河川敷の湿地、池畔などに生育しているが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されており、湿地の改変・消失などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。水分条件の良い湿地状態を適切に保全することが望ましい。

【関連文献】

北区環境保全課, 1987; 星野卓二・正木智美, 2011.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

シズイ、テガヌマイ

*Schoenoplectus nipponicus*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区部	北多摩	南多摩	西多摩	環境省
EX	EX	EX	EX	

【形態・生態】

多年草。叢生し、細い匍匐茎があり、その先端に小塊茎がつく。花茎は高さ 40 ～ 80cm。茎の断面は三稜形。葉は数枚根生し、線形で長い。花序は花茎の先端に仮側生し、無柄小穂 5 ～ 8 個の小穂をつけ、短い花序枝がある。苞葉は花茎に続き、1 ～ 2 枚、長さ 10 ～ 20cm。小穂は長さ 1 ～ 1.5cm。そう果は長倒卵形で長さ 2mm、刺針状花被片は 4 本、そう果の約 2 倍ある。柱頭 2 岐。池沼などの浅い水中に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部および多摩地域各地の池沼の浅水域に生育が見られたが、近年の生育報告はなく、絶滅したものと考えられる

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

池沼の埋立てや改変、水質の変化などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合は、関係者で情報共有し、水質管理を主とした保全対策を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

コマツカサススキ

*Scirpus fuirenoides*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 80 ～ 130cm、断面は鈍三角形、4 ～ 5 節ある。葉は硬く線形で長く、幅 3 ～ 4mm。花期は 8 ～ 10 月。苞葉は花序より長い。茎頂の花序は 1 回分枝、分花序は 3 ～ 6 個。側生分花序は 1 ～ 2 個、小穂が 10 ～ 30 個集まり球状となる。小穂は長さ 5 ～ 7mm。鱗片は狭卵形で長さ 3 ～ 4mm、類似のマツカサススキより広い。刺針状花被片は 5 ～ 6 個、糸状でそう果の 2 倍以上、上部に斜上刺がある。柱頭 3 岐。日当たりの良い湿地、池畔などに生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の丘陵地谷戸や水田周辺、水路、池畔などの日当たり良い湿地に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や日当たりの良い湿地の消失が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。貧栄養の湿性裸地を好むので、自生地ではかく乱を含む定期的な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団 (編), 2004; 内野秀重, 2008a.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



マツカサススキ

*Scirpus mitsukurianus*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	—	

【形態・生態】

多年草。叢生する。花茎は高さ 100 ～ 150cm、直立し硬く、断面はやや円く、5 ～ 7 節ある。葉はかたく線形で扁平、幅 4 ～ 8mm。花期は 8 ～ 10 月。茎頂の花序は 2 回以上分枝し、分花序は 5 ～ 6 個、小穂は 10 ～ 25 個からなり球状。小穂は長さ 4 ～ 5mm、濃い褐色となる。鱗片は披針形で長さ約 3mm。そう果は倒卵形で長さ 1mm、刺針状花被片は 8 ～ 10 本、糸状でそう果より 3 倍ほど長い。柱頭 3 岐。低地部の日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

区部および北多摩、南多摩の沖積地に分布し、河川中流域から下流域にかけての河川敷の湿地や池沼のほとり、水路などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

河川敷の湿地の改変や護岸改修、池沼の埋め立てなどが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。増水などにより、自然なかく乱が引き起こされる河川沿いの湿地を保全することが望ましい。

【関連文献】

みずもと自然観察クラブ (編), 1995; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コシンジュガヤ

*Scleria parvula*単子葉植物綱
カヤツリグサ科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	DD	EX	DD	

【形態・生態】

一年草。叢生する。花茎は高さ 30 ～ 50cm。葉は線形で幅 3 ～ 5mm。葉鞘には常に広い翼があり、ゆるく花茎を囲む。花期は 7 ～ 10 月。花序下に苞葉がある。花序は 3 ～ 6 個の分花序からなり、長さ 2 ～ 3cm、まばらに小穂をつける。小穂は雄花と雌花に分かれ、長さ 4 ～ 5mm。鱗片は卵形、鋭頭、短い芒がある。そう果は球形で径 2mm、白色で光沢があり、細かい格子紋がある。柱頭 3 岐。そう果の基盤は 3 裂し卵状楕円形鋭頭。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

丘陵地の谷戸の湿地ほか、池畔、泥湿地などから生育の記録はあるが、南多摩では絶滅したと考えられ、北多摩と西多摩では現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸の湿性草地の消失や管理放棄、池沼の改変などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。丘陵地の谷戸の裾刈りなど定期的な草刈りなどの管理を行うことや、かく乱頻度の高い池沼周辺の湿地を保全することが望ましい。

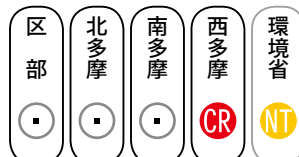
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



マメツタラン

*Bulbophyllum drymoglossum*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根茎は細く這い、シダのマメツタに似た革質、卵円形で長さ7～13mmの葉をまばらにつける。花期は5～6月、花茎は葉の基部から出て細く、長さ7～10mm、淡黄色の1花をつける。山地の樹幹、岩上に着生する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

西多摩に山地深部の石灰岩地の樹幹や岩上に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然崩落などによる自生地の荒廃や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。着生木の保護、園芸採取圧からの保護、自生地を含む生育環境全体の保全を行うなどの配慮をすることが望ましい。

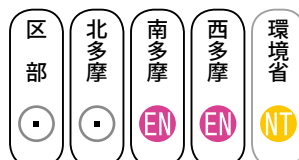
【関連文献】

鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ムギラン

*Bulbophyllum inconspicuum*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、まばらに卵形の偽球茎をつけ、先端に1葉をつける。葉は楕円状で鈍頭、肉質、長さ1～3cm、幅6～8mm。花期は6～7月。偽球茎の基部から花茎を出し黄白色の1花をつける。側花弁は萼弁とほぼ同長で縁に毛がある。常緑樹林内の樹上や岩上に着生する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の高標高地において、モミ、ツガなどの常緑樹や岩上に着生して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の荒廃や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境はモミ、ツガなどの常緑樹や岩上などの特殊な立地にあり、着生木の保護、園芸採取圧からの保護など、自生地を含む生育環境全体の保全を行うなどの配慮をすることが望ましい。

【関連文献】

青梅市郷土博物館（編），1982；東京都高尾自然科学博物館，1989.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

エビネ

*Calanthe discolor*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。地下に連なった偽球茎があり、形が海老に似ている。葉は冬季も残り、長さ15～25cmの長楕円形、数本の縦ひだがある。花茎は高さ20～40cm、花期は4～5月。茎の上半部に10～15花をつける。花被片が紫褐色で唇弁が淡紅色のもの、花被片が淡緑色で唇弁が白色のものなど変化に富む。林床に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

台地から丘陵地、山地までの落葉から常緑樹林内、竹林内などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

かつては珍しい植物ではなかったが、開発による生育環境の変化、園芸目的の採取圧の強まりが本種の生存を脅かす要因となり、身近な植物とはいえなくなりました。冬季における林床管理を継続し、本種が好む明るい疎林状態に維持すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

杉並区環境清掃部環境課（編），2006；内野秀重，2008a.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

キンセイラン

*Calanthe nipponica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	VU

【形態・生態】

多年草。地下に連なった偽球茎がある。葉は3～5枚つき、広披針形で長さ15～30cm、幅2～3.5cm、鋭尖頭。花茎は高さ30～50cm。花期は6～7月。まばらに淡黄緑色の花を5～12個つける。唇弁は3裂し、側花弁は線状披針形、距は5mmほどと短い。山地深部の林縁に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部のブナやミズナラの生える冷温帯落葉樹林内、林縁などに極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取により山地深部にのみ残存している状態であり、本種の採取圧は極めて高く、園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地を含む生育環境全体の保全を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホテイラン

Calypso bulbosa var. *speciosa*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	EN

【形態・生態】

多年草。偽球茎は2～3節ある狭卵形で白色。葉は1.5～3cmの葉柄があり、葉身は卵状楕円形、長さ2.5～5cm、縦じわが目立ち、縁は波状に縮れ、裏面は紫色。花茎は偽球茎より出て高さ6～15cm。先端に淡紅色の1花をつける。唇弁は袋状で下垂し、長さ約3cm、白色で内面に淡褐色斑点がある。亜高山帯の針葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州(中部)

【都における生育環境】

西多摩の亜高山帯の針葉樹林内のやや暗部に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が亜高山帯の針葉樹林の林床に限定されており、本種の採取圧は極めて高いため、本種を含む亜高山帯の稀少植物群に対し、森林保全とマナー啓発に関する総合的な保全を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 埼玉県環境部自然環境課(編), 2011.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ギンラン

Cephalanthera erecta var. *erecta*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。花茎は直立し、高さ10～30cm、葉は3～6個互生し、長楕円形、長さ3～8cm、基部は茎を抱く。花期は5～6月。白色の花を数個つける。唇弁は基部に短い距がつく。山野の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

各地の落葉または常緑樹林内から林縁にかけて生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の開発や管理放棄による林床の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が落葉または常緑樹林の林床から林縁であり、工事に際して自生地を保全することや、定期的な下草刈りなどの林床管理によって、ササ類などによる被圧の進行を阻止することが望ましい。

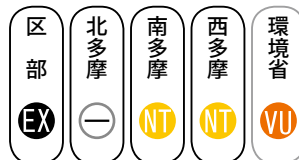
【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; みずもと自然観察クラブ(編), 1995.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ユウシュンラン

Cephalanthera erecta var. *subaphylla*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 6 ～ 15cm。葉は上部 1 ～ 2 個を除き鞘状に退化する。花期は 4 ～ 6 月。茎頂に白色の花を数個つける。唇弁基部には距があり、ギンランに似ている。落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の山地のモミ林内などに稀に生育するほか、丘陵地にもごく稀に発生する。区部においては絶滅したものと考えられる。全国的にも分布の少ない植物である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の開発や管理放棄による林床の荒廃などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、腐植質の多い林床を保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



キンラン

*Cephalanthera falcata*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。花茎は直立し、高さ 40 ～ 70cm。葉は 6 ～ 8 個互生し、長楕円状披針形、長さ 8 ～ 15cm、幅 2 ～ 4.5cm、平滑。花期は 4 ～ 6 月。花は黄色で 3 ～ 12 個、唇弁基部は筒状で短い距となる。山野の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州 (秋田以南)、四国、九州

【都における生育環境】

各地の台地から丘陵地、山地の落葉または常緑樹林内に生育するが少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や雑木林をはじめとした山林の改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、まだ広範囲に見ることができる。生育環境が落葉または常緑樹林内であり、樹林管理の再開などにより復活する場合が多い。下草刈りなどの林床管理を行うことや、高い園芸採取圧からの保護が課題である。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989; 杉並区環境清掃部環境課 (編), 2006.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ササバギンラン

*Cephalanthera longibracteata*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。茎は直立し高さ 30 ～ 50cm。葉は狭長楕円形で長さ 7 ～ 15cm、裏面、縁、花序などに微突起がある。苞葉は線形で下部の 1 ～ 2 枚は花序より長くなる特徴がある。花期は 5 ～ 6 月。花は白色で平開しない。唇弁基部に距がある。山野の林床に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

キンラン同様、各地の台地から丘陵地、山地の落葉または常緑樹林内に生育するが少ない。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や雑木林をはじめとした山林の改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられるが、まだ広範囲に見ることができる。生育環境が落葉または常緑樹林内であり、樹林管理の再開などにより復活する場合が多い。下草刈りなどの林床管理を行うことや、園芸採取圧からの保護が課題である。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アオチドリ

Coeloglossum viride var. *bracteatum*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	□	● VU	□

【形態・生態】

多年草。別名ネムロチドリ。茎は多肉根から直立し高さ 20～50cm。葉は長楕円形で長さ 4～10cm、基部は鞘状。花期は 5～7 月。茎頂に総状花序をつけ、径 1～2cm の淡緑色の花を多数つける。唇弁は帯紅紫色、長さ約 1cm、先端は 3 浅裂する。距はやや太く、長さ 3mm。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、四国

【都における生育環境】

西多摩の高標高地のブナ林や亜高山帯の湿地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

異常気象による生育環境の変化やシカの食害、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じるなどの配慮をすることや、シカの防護柵設置を検討することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コアツモリソウ

*Cypripedium debile*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	● CR	● EN	● NT

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 10～16cm。茎頂に円心形、3～5 脈の光沢のある長さ 3～5cm の 2 枚の葉を対生状につける。花期は 5～6 月。花は径約 2cm、細い花茎の先について垂れ下がり、葉陰に隠れる。花は長さ 1cm ほどで、唇弁が袋状で目立ち、淡黄緑色に暗紅紫色の条斑がある。果期に花茎は直立する。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州（熊本）

【都における生育環境】

西多摩の山地の樹林内に稀に生育する。南多摩にも記録はあるが、近年未確認で絶滅が危惧されている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が山地の樹林の林床であるため、自生地を含む森林全体の保全対策を講じるなどの配慮をすることや、高い園芸採取圧からの保護を行うことが望ましい。

【関連文献】

青梅市郷土博物館（編）, 1982; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クマガイソウ

*Cypripedium japonicum*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
● EX	● CR	● CR	● CR	● VU

【形態・生態】

多年草。茎は有毛で高さ 20～40cm。葉は茎頂に 2 枚対生状につき、扇円形で径 10～20cm、放射状に多数の脈が走り、折りしわが顕著。花期は 4～5 月。茎頂に 1 個、径 10cm 前後と大型の花を横向きに開く。とくに紅紫色の脈がある大きな袋状の唇弁が特徴である。山野の樹林内に群生する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の台地脚部から丘陵地、山地下部などの樹林内に生育する。植林地や竹林などの里山の林床を主な自生地とする植物である。区部においては絶滅した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や雑木林をはじめとした山林の改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育環境が植林地や竹林などの樹林内であり、里山林の荒廃によって日照が不足すると急激に衰退するため、里山の維持管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）, 1967; 畔上能力ら, 1974.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アツモリソウ

Cypripedium macranthum var. *speciosum*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根茎は横に這う。茎は葉とともに有毛、高さ20～40cm。葉は3～5枚互生し、基部は短い鞘となる。花期は5～7月。茎頂に径5cmほどの淡紅紫色～紅紫色の花を横向きにつける。特に唇弁は袋状で目立つ。源平合戦で熊谷直実と対峙した平家の若武者、平敦盛の背にした母衣(ほろ)に見立てたもの。山地の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州(中部以北)

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の草原、稜線部の防火帯草地に生育するが極めて稀である。北多摩においては絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行やシカの食害、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。生育実態の再調査と総合的な保護を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イチヨウラン

*Dactylostax ringens*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。葉は1個根生し、卵円形で長さ3～6cm、やや肉質、葉柄は長さ1～2cm。花期は5～7月。花茎は高さ10～20cm、茎頂に1花をつける。萼片および側花弁は淡緑色で紫斑があり、披針形で長さ2～2.5cm、唇弁は白色で3裂する。山地深部の林床に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の亜高山帯針葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じるなどの配慮をすることが望ましい。高い採取圧からの保護が課題である。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



セッコク

*Dendrobium moniliforme*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根茎は短く、多数の根が束生する。花茎は高さ5～25cm、節間は円柱形、葉は革質で披針形、互生し、長さ4～7cm、鈍頭、光沢がある。花期は5～6月。花は、前々年生の葉が落ちた茎の上部の節に、1～2個つく。側萼片は基部が距状に膨らみ、唇弁は基部が蕊柱をかかえる。花色は白色～淡紅色、香気がある。山地の樹上、岩上に着生する。

【分布の概要】

本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の樹上や岩上に着生して生育する。樹上ではスギに着生していることが多い。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、マナー啓発などを行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館, 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハコネラン

*Ehippianthus sawadanus*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	VU

【形態・生態】

多年草。フォッサマグナ要素の植物である。根茎は細く横に這う。葉は花茎基部に1個つき、卵形から長楕円形で基部は細く、柄がある。茎は高さ10～20cm。花期は6～7月。花は茎上部に3～6個まばらにつき、黄緑色、唇弁は中央から基部にかけて縁に鋸歯がある。山地深部のブナ帯の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（秩父、丹沢、箱根、富士山、奈良）

【都における生育環境】

西多摩の山地深部のブナ林内に生育するが極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因で、もともと分布が局限されており容易に衰退・消失する状況にあるため、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

コイチヨウラン

*Ehippianthus schmidtii*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	CR	

【形態・生態】

多年草。根茎は細く横に這う。葉は花茎基部に1個つき、広卵形、長さ1.5～3cm、基部は心形、表面に網状の脈がある。花茎は高さ10～20cm。花期は7～8月。淡黄白色～淡黄緑色の小花をまばらに2～7個つける。唇弁は長楕円形で全縁。蕊柱は棒状で長さ3～4mm。山地深部のブナ帯の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以西）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地深部のブナ林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、園芸採取圧からの保護対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

エゾスズラン, アオスズラン

*Epipactis papillosa*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。根茎は短い。茎は高さ30～60cm。全株に褐色の短縮毛がある。葉は5～7個つき、卵状楕円形、鋭尖頭で長さ7～12cm、葉面、葉脈上には白色の毛状突起がある。花期は7～8月、カキランに似て緑色の20～30花からなる総状花序をつける。山地深部の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の樹林内に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館(編), 1989.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

カキラン、スズラン

*Epipactis thunbergii*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	VU	EN	DD	

【形態・生態】

多年草。根茎は這い節から根を出す。花茎は高さ 30 ～ 70cm、葉は 5 ～ 10 個互生し、狭卵形で長さ 7 ～ 12cm、著しい縦じわがあり、基部は茎を抱く。花期は 6 ～ 8 月。キンランに似た黄褐色の花を 10 個ほどつける。唇弁の内面に紅紫色斑があり、関節により上下 2 唇に分かれている。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地の谷戸斜面の湿性草地などに、ごく稀に生育する。西多摩および区部では現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

里山の管理放棄や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。谷戸の裾刈りなど、適切な草地管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

本田正次ら, 1965; 山岡文彦, 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ツチアケビ

*Galeola septentrionalis*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	VU	VU	

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。根茎は太く横に這う。全体に葉緑素を欠き、褐色で、地上茎は高さ 50 ～ 100cm、まばらに分枝し、複総状花序を立てる。花期は 6 ～ 7 月。多数の黄褐色の花をつける。果実は肉質赤褐色のバナナ状となって下垂する。長さは 6 ～ 10cm、径約 3cm。樹林内に生育する。本種はナラタケ菌の菌糸から栄養を吸収して生活する。

【分布の概要】

北海道(札幌以南)、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の台地、丘陵地、山地の落葉樹林内、林縁、ササ群落内などに生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や薬用目的の果実の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。下草刈りなどの林床管理を行うことや、薬用目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館, 1989. (執筆: 畔上能力・内野秀重)



オニノヤガラ

*Gastrodia elata*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	NT	

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。高さ 40 ～ 100cm、帯褐色や帯黄褐色、緑色で 1 ～ 2cm の鱗片葉がまばらにつく。果期は 6 ～ 7 月。20 ～ 50 花を総状花序につける。花は黄褐色～緑色、長さ約 1cm でカシューナッツのような形をしている。ときに白色のものもあるが、全体に小型のことが多い。樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

台地から丘陵地の谷戸、山地などの雑木林周辺に広く分布する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。工事に際して自生地を保全することや、下草刈りなどの林床管理を行い、健全な雑木林の樹林環境を維持することが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部, 1967; 東京都高尾自然科学博物館, 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アキザキヤツシロラン

*Gastrodia verrucosa*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	○	

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。別名ヤツシロラン。地下に紡錘状の塊茎がある。花茎は高さ 3.5 ～ 10cm、鱗片葉は数個、下部では鞘状。花期は 9 ～ 10 月。茎頂に 2 ～ 7 個の花をつける。花は黄緑色、鐘状筒形で長さ 12mm、幅 8mm ほど。花後、果期に茎が伸びて長さ 30cm ほどになる。常緑樹林や竹林の林内に生育する。

【分布の概要】

本州（千葉以西）、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の竹林に生育しているが、極めて稀である。

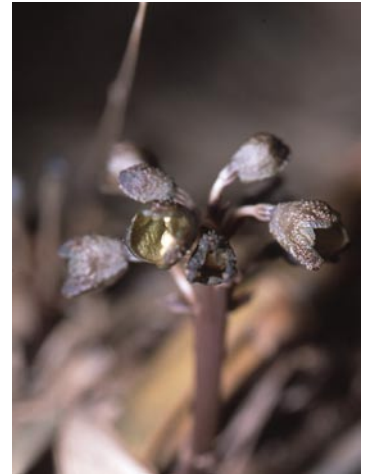
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限されており、自生地である竹林の改変、消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の竹林を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

多摩丘陵の自然を守る会, 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アケボノシュスラン

Goodyera foliosa var. *maximowicziana*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	●	

【形態・生態】

多年草。花茎は基部が地表を這い、節から太い根を出す。上部は斜上し、高さ 5 ～ 10cm。葉は卵形で数個互生し、長さ 2 ～ 4cm、基部は葉柄に続く。花期は 9 ～ 10 月。花序は直立し淡紅色の 3 ～ 7 花をやや偏ってつける。花は鐘形で長さ 8 ～ 10mm。落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地から低山の空中湿度の高い谷筋の樹林内に生育する。近年産地が増加傾向にあるが、温暖化との関連が考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行、花が美しく園芸的な採取圧の高さが懸念されることに加え、自生地の斜面崩壊や土砂堆積、宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。森林環境を総合的に保全すること、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）, 2009. (執筆: 畔上能力・内野秀重)



ベニシュスラン

*Goodyera macrantha*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	○	

【形態・生態】

多年草。茎は基部が横に這い、上部は斜上、高さ 4 ～ 10cm。葉は 3 ～ 4 個、互生し、長さ 2 ～ 4cm、表面は暗緑色で白色網目模様がある。花期は 7 ～ 8 月、茎頂に 1 ～ 3 個の淡紅色、筒形、長さ 3cm ほどの花を横向きにつける。常緑樹林内、または落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地から山地にかけての湿潤な雑木林内に、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。下草刈りなどの林床管理を行うなど自生地の適切な保全を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ツリシュスラン

Goodyera pendula var. *pendula*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。茎は基部が横に這い、先は下垂し、長さ 10 ～ 20cm。数枚の葉が互生する。葉は線状披針形で長さ 2 ～ 3.5cm、幅 0.5 ～ 1cm。花期は 7 ～ 9 月。花序は湾曲斜上し、長さ 5mm ほどの白色の小花を一方に向けて多数つける。樹上、岩上に着生する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の石灰岩地の岩上に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

石灰岩の採掘や、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の総合的な保全対策を講じることが望ましい。

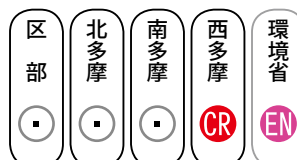
【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒロハツリシュスラン

Goodyera pendula var. *brachyphylla*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。ツリシュスランの北方分布型である。ツリシュスランに似て、葉は卵形または狭卵形で、短く、幅広い。樹上、岩上に着生する。

【分布の概要】

北海道、本州(中部以北)

【都における生育環境】

西多摩の山地の石灰岩地の岩上に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ツリシュスラン同様、石灰岩の採掘などや、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の総合的な保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 植物研究グループ飯泉ゼミ(編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメミヤマウスラ

*Goodyera repens*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 10 ～ 20cm。葉は数個、茎の下部に集まり、卵形、長さ 1 ～ 3cm、幅 7 ～ 15mm、葉面に白色の網目状斑紋がある。花期は 7 ～ 8 月。淡紅白色の 5 ～ 12 花を偏ってつける。花は長さ 4 ～ 7mm。唇弁内面は無毛。針葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州(近畿以北)

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の針葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を含む森林全体の保全対策を講じることや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



シュスラン、ビロードラン

*Goodyera velutina*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	●	○	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 10～20cm、下部は長く横に這う。葉は数個下部に集まり、長卵形、長さ 2～4cm、暗紫緑色でビロード状光沢があり、中央に白色の条斑がある。裏面は紫色を帯びる。花期は 8～9 月。偏側の花序にまばらに 4～10 個、淡紅褐色、長さ 7～8mm の花をつける。花序や子房などに白毛がある。唇弁の内面は有毛。主に常緑樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地や山地の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の荒廃や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を含む森林環境の保全対策を講じることが望ましい。また、園芸採取圧からの保護対策が必要である。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1991.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



テガタチドリ、チドリソウ

*Gymnadenia conopsea*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。根の一部が掌状に肥厚する。高さ 30～60cm。葉は茎の中部以下に 4～6 個互生し、広線形、長さ 10～20cm、幅 1～2.5cm、基部は茎を抱く。花期は 7～8 月。花序は淡紅紫色の花を多数つける。唇弁は卵状くさび形で長さ 6～8mm、3 中裂する。距は線形で長さ 15～20mm、子房より長く、後方に反り返り気味に突出する。亜高山から高山帯の草原に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）

【都における生育環境】

西多摩の山地の稜線部の亜高山帯草原に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や登山者による踏みつけ、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を保全することや、登山に対するマナー啓発を行うこと、園芸目的の採取に対する取組みを行うことに加え、山火事防止などの対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミヤマモジズリ

*Gymnadenia cucullata*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	●	

【形態・生態】

多年草。茎は球状に肥厚する根から出て、高さ 10～20cm ある。葉は基部に 2 個相接して出て、長さ 3～6cm、幅 1～2.5cm。花期は 7～9 月。淡紅色の小花が多数穂状につく。唇弁は長さ 7～8mm で先は 3 裂する。距は前方に湾曲し、長さ 5～6mm。針葉樹林内の岩上、地上に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の針葉樹林帯に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や生育環境の荒廃、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地である森林全体の保全対策を講じることや、登山者などに園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 鈴木和雄 (編), 1986.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



サギソウ

*Habenaria radiata*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。茎は地下の球茎から立つ。また、花後短い走出枝を出し、先に球茎をつける。花茎は高さ 15～40cm、下部に数枚の、広線形で長さ 5～10cm の葉をつける。花期は 7～8 月。茎頂に径約 3cm、白色でシラサギを思わせる花をつける。唇弁は 3 深裂し、距は長さ約 4cm。観賞用に古くから栽培される。低地の湿地に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

かつては区部や多摩地域各所の湿地に自生していた記録はあるが、最近の報告は無く、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などによる湿地の改変、埋立てや園芸目的の採取などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

檜山庫三, 1965.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミズトンボ

*Habenaria sagittifera*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。地下に新旧 2 個の球茎がある。花茎は三稜形で高さ 40～80cm。葉は線形で長さ 5～20cm、幅 3～6mm。花期は 7～9 月。穂状花序に淡黄緑色の小花を多数つける。唇弁は長さ約 2cm で十字形、裂片は線形となり、距は細く長さ約 15mm。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道(西南部)、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域各所の丘陵地の谷戸などの湿地に稀に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

宅地開発などによる湿地の改変、埋立てや園芸目的の採取などにより絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ムカゴソウ

Herminium lanceum var. *longicrurum*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。楕円状の球根がある。花茎は高さ 20～45cm。中部に 3～5 葉を互生する。葉は線形から広線形、長さ 8～20cm、基部は茎を抱く。花期は 6～8 月。淡緑色の小花を多数穂状花序につける。唇弁は長さ 6～8mm、中部で 3 裂し、側裂片は長く、中裂片は極めて短い。距はない。湿性草地に生育する。

【分布の概要】

北海道(西南部)、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩と西多摩の湿性草地に生育していたが、北多摩は絶滅したものと考えられる。西多摩については現状不明となっている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行と宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。生育環境が湿地であるため開発されやすく、工事に際して自生地を保全するなどの配慮や、草刈り、外来種を除去するなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カゲロウラン

*Hetaeria agyokuana*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EX	○	NT

【形態・生態】

多年草。根茎は地表を這い、節から根を出す。花茎は高さ 10～25cm、葉は茎の基部に数枚互生し、卵状楕円形で長さ 2～4cm。花期は 9～10 月。花は径約 8mm、淡紅褐色、背萼片は卵形鋭頭、その内側に側花弁 2 枚が重なり、唇弁や蕊柱を覆う。側萼片は披針形で平開する。常緑広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（千葉以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の低山地に記録はあるが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

絶滅の要因は不明である。なお、本種は伊豆諸島には広く分布しており、北方に分布を広げる傾向にあるとも考えられる。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2012.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメノヤガラ

*Hetaeria sikokiana*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	VU

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。根茎は地下に広がり、鱗片がある。花期は 7～8 月。花茎はやや肉質で淡黄褐色、高さ 10～20cm。茎上部に 5～10 個の淡黄褐色、筒状の花を外向きにつける。子房は直立する、この花は上下が一般のラン類とは逆で、唇片が一番上になり長さ約 6mm で下部は膨れる。常緑林内に散発的に生育する。

【分布の概要】

本州（岩手以南）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の山地に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布域や個体数など現況には不明な点が多く、しばしば散発的に発生する。自生地を継続的に調査することが望ましい。

【関連文献】

神奈川県植物調査会（編）, 2001; 七島花の会 神津島, 2012.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ムヨウラン

*Lecanorchis japonica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	VU	○	

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。地下茎は硬く、横に這う。花茎は直立し高さ 20～40cm、鞘状葉が数個ある。花期は 6～7 月。花は淡黄褐色で長さ約 2cm、筒状半開、数個まばらにつく。唇弁内面に密に淡黄色の毛がある。稀に淡紫色の花もある。常緑広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地、山地の常緑または落葉広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

従来から発生や個体数は散発的で、現況は不明である。自生地の樹林を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 東京都高尾自然科学博物館（編）, 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クロムヨウラン

*Lecanorchis nigricans*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。全体が暗紫褐色を帯びる。花茎は高さ 15～30cm。花期は 7～8 月、開花は早朝で、午前中に閉じる。茎頂に数個の花を横向きにつける。萼片、側花弁は倒披針形で淡黄褐色、先端は淡紫色、唇弁は全縁で舟形、白色、先端と内面は淡紫色で密に毛がある。常緑広葉樹林や落葉広葉樹林の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（茨城以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の丘陵地から山地にかけて、常緑樹と落葉樹が混じる樹林などの林床に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本来、自生地や個体数が多いが、地域によっては増加傾向のところもある。林床を安定的に保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力, 1980; 土器屋由紀子, 2001.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ジガバチソウ

*Liparis krameri*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
EX	VU	VU	NT	

【形態・生態】

多年草。偽球茎は卵球形。葉は基部に 2 枚互生し、卵形から広卵形、縁に細かい波がある。脈間の網目模様は明らか。花茎は高さ 8～20cm。花期は 5～7 月。花茎上部に 10～20 個の花を穂状につける。花は淡緑色または紫褐色、萼片、側花弁は線形、唇弁は狭倒卵形で、紫褐色の縦筋が入り、中ほどで下方に折れる。山地の樹林内や岩上に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地から山地の落葉広葉樹林内に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1995.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



スズムシソウ

*Liparis makinoana*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。偽球茎は卵球形。花茎は高さ 10～30cm。葉は茎基部に 2 枚互生し、楕円形で表面の脈は平滑。花期は 5～7 月。花序は穂状で 2～20 個の暗紫褐色の花をつける。唇弁は倒卵形で先端は微突頭、長さ 12～18mm、幅 10～15mm。わずかに外曲する。落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の山地の樹林内に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や園芸目的の採取、宅地開発などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コ克蘭

*Liparis nervosa*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
VU	VU	NT	VU	

【形態・生態】

多年草。偽球茎は多肉質。前年の偽球茎と並立する。葉はゆがんだ広楕円形で鋭頭、長さ5～12cm、花茎基部に少数互生する。茎は高さ15～30cm。花期は6～7月。暗紫色の花を5～10個まばらな総状花序につける。唇弁は反曲し、長さ約5mm。常緑林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東南部以西）、四国、九州

【都における生育環境】

各地の空中湿度の高い常緑樹と落葉樹の混じる樹林、雑木林、竹林の林床に生育する。近年、各地で増加傾向にある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山林の改変や宅地開発などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

町田の自然編集委員会, 1978.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒメフタバラン, ムラサキフタバラン

*Listera japonica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	CR	■	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ5～30cm。葉は卵状三角形、長さ幅ともに1～2cm。基部は切形または浅心形。花期は3～5月。数花がまばらにつく。花被片は反曲し、長さ2～3mm、紫色を帯びる。唇弁は長さ6～8mm、くさび形で2深裂し、裂片は前方に突き出る。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（宮城、山形以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の常緑樹林内に稀に生育する。緑花品をミドリヒメフタバランという。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限され、個体数も少なく、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。本種の保護を目的とした保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アオフタバラン

*Listera makinoana*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
■	■	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ10～20cm。葉は茎の下部にあって開出し、三角状卵形、鈍頭、基部は切形または浅心形、長さ幅とも1～3cm。花期は7～8月。まばらに5～20花をつける。唇弁は長さ5～6mm、先端は2裂し、裂片は卵形円頭。落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

植生遷移の進行や山林の改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発などを行うことが望ましい。

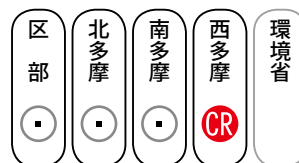
【関連文献】

奥山春季, 1974; 青梅市郷土博物館(編), 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



タカネフタバラン

*Listera yatabei*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 15 ～ 20cm。葉は腎円形で基部は心形、長さ 15 ～ 30mm、幅 20 ～ 30mm。花期は 8 ～ 9 月。花は淡緑褐色、まばらに 5 ～ 10 個つく。萼片、側花弁は細く長さ約 2mm、唇弁は長さ 6 ～ 8mm、縁に微毛があり、先端 2 裂、裂片は楕円形で鈍頭。亜高山帯針葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東北部、中部）

【都における生育環境】

西多摩の亜高山帯の針葉樹林内にのみ生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布が局限されており、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発などを行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ホザキイチヨウラン

*Malaxis monophyllos*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。偽球茎は卵形。葉は基部に 1 個つき、広卵形、長さ 4 ～ 8cm。花茎は高さ 15 ～ 30cm。花期は 7 ～ 8 月。淡緑色の小花を多数穂状につける。針葉樹林帯からブナ帯上部の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）、四国

【都における生育環境】

西多摩の冷温帯上部の針葉樹林内に、ごく稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発などを行うことが望ましい。

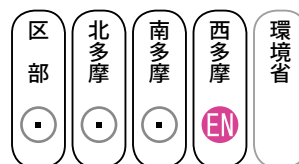
【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



アリドオシラン

*Myrmechis japonica*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。茎の下部は這い、高さ 5 ～ 10cm。葉は広卵形で長さ 5 ～ 10mm、幅 4 ～ 8mm、表面に粒状微突起があり、数個がまばらにつく。花期は 7 ～ 8 月。花は上部に 1 ～ 3 個、白色ときに薄い桃色のつぼ状で、唇弁の先端は広がり 2 裂する。ブナ帯の落葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（近畿以北）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地の冷温帯の樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の森林を現況のまま保全することや、園芸目的の採取に対するマナー啓発などを行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



フウラン

*Neofinetia falcata*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	○	VU

【形態・生態】

多年草。根は白く四方に広がる。茎はやや束生し、葉は広線形、多肉質で硬く湾曲し、長さ5～10cm、断面はV字形。花期は6～7月。花茎は下部葉腋から出て、2～5花を総状につける。花は白色で、距は線形で湾曲し、長さ約5cm。常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州（関東南部以西）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩の山地の常緑樹林に稀に生育する。スダジイの樹上に着生していることが多いが、ウメに着生することもある。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取圧が極めて高い植物であり、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地では個別の保護対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 畔上能力ら, 1974.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

サカネラン

Neottia nidus-avis var. *mandshurica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	CR	CR	VU

【形態・生態】

多年草。無葉緑腐生植物。先端が上向する肉質の根を、多数束生する。茎は多肉で直立し、高さ20～40cm。下部に膜質鞘状の葉が互生する。花期は5～6月。花序は淡褐白色の花を多数総状に密生する。茎上部、子房、花には縮れた褐色の腺毛が密生する。落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北、紀伊半島）、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の冷温帯の落葉広葉樹林内に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布は局限される。自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ムカゴサイシン

*Nervilia nipponica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
CR	EX	○	○	EN

【形態・生態】

多年草。地下に球茎がある。葉は花後1枚を根生し、角ばった円形または心形で、多数の掌状脈と長柄がある。花茎は帯紫色、高さ約10cm、花期は5～6月。筒状、紅紫色の1花を頂生する。常緑樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州（関東以西）、九州、南西諸島

【都における生育環境】

区部と北多摩各所の常緑樹林内に発生記録はあるが、北多摩では絶滅したものと考えられる。ときに墓地などにも生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布域は広いが自生地は散発的で、保全対策の難しい植物である。

【関連文献】

飯泉優, 1961; 檜山庫三, 1965.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ヨウラクラン

*Oberonia japonica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
DD	VU	VU	●	

【形態・生態】

多年草。茎は長さ1～4cm、束生、下垂する。葉は袴状で扁平、2列互生し、長さ1～3cm、幅2～5mm、鋭尖頭。花期は4～6月。茎頂に長さ2～8cmの花序をつけ、淡黄褐色の小花を多数密に輪生する。樹幹または岩上に着生する。

【分布の概要】

本州（宮城以南）、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

北多摩、南多摩の丘陵地や山地の空中湿度の高い樹林や、ウメ、岩上などに着生して生育する。区部では現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林や梅林などの開発や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。自生地を現況のまま保全することや、園芸採取圧からの保護が必要である。

【関連文献】

檜山庫三, 1965.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

カモメラン

*Orchis cyclochila*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	CR	NT

【形態・生態】

多年草。茎に翼があり、高さ7～17cm。葉は1個根生し、広楕円形で長さ4～7cm、有柄。花期は5～9月。花は2個ずつ開き、淡紅色。唇弁は広卵形で長さ約1cm、紅紫斑がある。距は長さ7～10mm、後ろに反る。山地深部の木陰に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州（中部以北、紀伊半島）、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の石灰岩性の明るい稜線の樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

石灰岩の採掘や園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。高い園芸採取圧により絶滅の危機にあるため、本種を対象として個別に保全対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

ウチョウラン

*Orchis graminifolia*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
●	●	●	CR	VU

【形態・生態】

多年草。茎は球状の塊根より斜上し高さ7～20cm。葉は2～3個、広線形、長さ7～12cm、上部はやや湾曲、基部は茎を抱く。花期は6～8月。紅紫色の花を数個、傾けて咲かせる。唇弁は先が3裂、距は湾曲し長さ1～1.5cm。山地の湿潤な岸壁、ときに人家の屋根などにも生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の湿潤な岩壁などに稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。園芸目的の採取圧が高く、乱獲された結果、現在では人の近づけない場所にしか残存していない。園芸採取圧からの保護が必要である。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

コケイラン

*Oreorchis patens*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	EX	CR	

【形態・生態】

多年草。偽球茎が連珠状に連なる。葉は2個根生し、披針形、長さ20～30cm。花茎は高さ30～40cm。花期は5～7月。多数の黄褐色の花を総状につける。唇弁は約1cm、白色で斑点があり距はない。やや湿り気のある山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の湿った落葉広葉樹林内に極めて稀に生育する。南多摩の山地では絶滅したとの考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ジンバイソウ

*Platanthera florentii*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	EN	

【形態・生態】

多年草。根はひも状で長く伸びる。茎は高さ20～40cm。葉は2個、根生状。葉身は長楕円形、表面に光沢があり、長さ5～12cm。縁は波状に縮れる。花期は8～9月。まばらに淡緑色の小花を5～10個穂状につける。唇弁は広線形で長さ7～10mm。距は前方に湾曲、長さ15～20mm。ブナ帯の落葉広葉樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の冷温帯落葉広葉樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ミズチドリ

*Platanthera hologlottis*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	EX	EX	EN	

【形態・生態】

多年草。根は肥厚し横に伸びる。花茎は高さ50～90cm。5～12個の葉を互生する。下方の葉は大きく線状披針形で、長さ10～20cm、幅1～2cm。花期は6～7月。茎頂に穂状花序をつけ、白色の花を多数つける。芳香があるのでジャコウチドリの名がある。距は細く下垂し、長さ1～1.5cm。山地の湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地の草原、丘陵地の谷戸の湿地に群生して生育する。西多摩以外の丘陵地の湿地の群生地はすべて消失した。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿地の改変や草原環境の変化、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす要因であり、絶滅に近い状態にある。現況での生育状況の把握が必要である。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部(編), 1967; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ツレサギソウ

*Platanthera japonica*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根はやや肥厚し横に伸びる。花茎は高さ 40～60cm。葉は 2～5 個互生し、長楕円形、長さ 10～20cm。花期は 5～6 月。白色の花を多数つける。唇弁は長さ約 15mm、基部両側に突起がある。距は長さ 3～4cm で下垂する。山地の日当たりの良い草地や湿った樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道（西南部）、本州、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩から西多摩にかけての丘陵地、山地のやや湿った草地、林縁などに稀に生育する。北多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

山地の草原の樹林化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす要因であり、衰退が著しい。自生地の草地を維持することや、園芸採取圧からの保護が必要である。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部（編）、1967；東京都高尾自然科学博物館（編）、1989。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



ヤマサギソウ

Platanthera mandarinorum var. *brachycentron*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根は肥厚し紡錘状。花茎は高さ 20～40cm、やや稜がある。葉は下部の 1 個が大きく、長楕円形で長さ 5～11cm、基部はわずかに茎を抱く。花期は 5～7 月。黄緑色の小花を 10 個ほど穂状につける。距は後部に曲がり、長さ 12～20mm。日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の草原や丘陵地の谷戸などの日当たりの良い草地に、稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、山地の自生地では草地を維持すること、丘陵地の谷戸では裾刈りにより低茎草地を維持することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄、1984；多摩市文化振興財団（編）、2004。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



キソチドリ

Platanthera ophrydioides var. *monophylla*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 15～30cm、稜線があり繊細。葉は 1 個、茎の下部につき楕円形、長さ 3～6cm、基部は少し茎を抱く。花期は 7～8 月。淡黄緑色の小花を穂状に 5～15 個まばらにつける。唇弁は広線形で長さ 6～8mm。距は長さ 6～10mm、前方に湾曲する。亜高山の針葉樹林帯から高山に生育する。

【分布の概要】

本州（関東から東海の太平洋側）

【都における生育環境】

西多摩の亜高山帯針葉樹林内に、稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林床の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄、1984。

（執筆：畔上能力・内野秀重）



オオヤマサギソウ

Platanthera sachalinensis var. *sachalinensis*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	● VU	

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 40～60cm。わずかに稜はあるが翼にはならない。葉は普通 2 個が大きく、倒卵状、狭長楕円形で長さ 10～20cm、表面に光沢がある。花期は 7～8 月。淡緑色の小花を多数穂状につける。苞の縁に乳頭状突起はない。距は細く長さ 15～20mm。山地樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地上部の樹林内に極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



オオバナオオヤマサギソウ

Platanthera sachalinensis var. *hondoensis*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	○	● VU	● CR

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 40～60cm。わずかに稜はあるが翼にはならない。花期は 7～8 月。花の各部がオオヤマサギソウに比べて大きい(側萼片の長さ 8mm、距の長さ 30～40mm)。ノヤマトンボとオオヤマサギソウの雑種と推定されている。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の山地深部の樹林内に、極めて稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地を現況のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



コバノトンボソウ

Platanthera tipuloides var. *nipponica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
○	○	● EX	○	

【形態・生態】

多年草。茎は肥厚する根から直立し、高さ 20～40cm、繊細。葉は茎下部に 1 個、広線形、長さ 3～7cm、基部は茎を抱く。花期は 6～8 月。淡黄緑色の小花を数個、片側に偏ってつける。距は 12～18mm と長く、後方にはね上がる。湿潤な日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の丘陵地の日当たりの良い湿った草地などに生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

湿性草地の消失や管理放棄により自生地の生育環境が変化し、衰退、絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

多摩市文化振興財団(編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



トキソウ

*Pogonia japonica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	EX	EX	NT

【形態・生態】

多年草。花茎は高さ 10～30cm。葉は 1 個、茎中央につき、披針形または線状長楕円形で、長さ 4～10cm。基部は細く翼状に茎に流れる。花期は 5～7 月。茎頂に紅紫色の花 1 個を横向きにつける。距はない。日当たりの良い湿地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の丘陵地の谷戸の日当たりの良い湿地に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発による谷戸の湿地の改変、消失や園芸目的の採取により絶滅したものと考えられる。再発見の場合には、自生地を保全することや、草刈りなどの管理を行うこと、園芸目的の採取に対するマナー啓発を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 多摩市文化振興財団 (編), 2004.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヤマトトキソウ

*Pogonia minor*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	DD	□	EN	

【形態・生態】

多年草。根茎は横に這う。茎は高さ 10～20cm。茎の中部に 1 個の葉をつける。葉は長楕円形、やや肉質、長さ 3～7cm、基部は茎に沿って流れる。花期は 6～8 月。茎頂に上向きの花を 1 個つける。花は淡紅色で、ほとんど開かない。山地、丘陵地の日当たりの良い草地に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

西多摩の高標高地の日当たりの良い湿性草地に稀に生育する。北多摩では現状不明である。

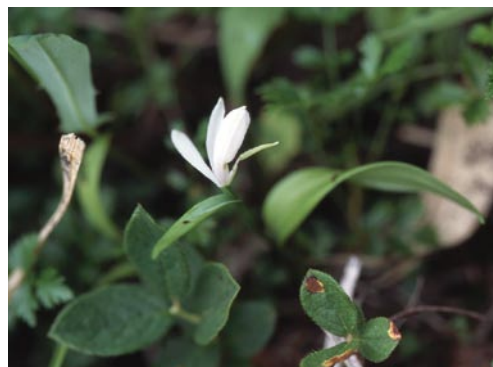
【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草地の消失や植生遷移の進行、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地の定期的な草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

東京薬科大学植物研究部 (編), 1967; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



マツラン、ベニカヤラン

*Saccolabium matsuran*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	VU

【形態・生態】

多年草。やや太い糸状の根が多数ある。茎は細く長さ 10～30mm。葉は 2 列互生し、長楕円形でやや湾曲し、長さ 7～20mm、暗紫色斑紋がある。花期は 5～6 月。葉腋より出て 2 個の鱗片葉と 1～4 個の花をつける。花は黄緑色に暗紫色の斑点がある。樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州 (宮城以南の太平洋側)、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩や西多摩の山地の常緑樹林や沢沿いの樹幹に着生するが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと稀な種であり、山林の改変などによる着生木の伐採や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。着生木の保護を含む常緑針葉樹林の保全を行うことや、園芸目的の採取に対する取組みを行うことが望ましい。

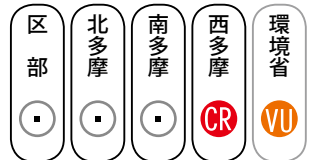
【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



モミラン

*Saccolabium toramanum*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。葉は2列互生。葉は小型、革質、卵状楕円形で長さ5～11mm、幅2.5～5mm、鋭頭で普通暗紫色の斑点がある。花茎は葉腋から出て短い。花期は3～4月。2～6個の花をつける。花は黄緑色、内面基部に紅紫色の斑紋がある。唇弁には花被より長い距がある。針葉樹、落葉広葉樹の混交林の樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州、四国

【都における生育環境】

西多摩の山地の渓谷林のカヤなどの樹幹上に着生して生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。着生木の保護を含む森林環境を保全することや、園芸目的の採取に対する取組みを行うことが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



カヤラン

*Sarcophilus japonicus*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。気根は茎の中部以下から出る。茎は長さ3～7cm、分枝することなく古い葉鞘に包まれる。葉は10～20個、左右2列に互生し、披針形で長さ2～4cm。花期は3～5月。葉腋から細い花茎を出し、2～5個の淡黄色の花をつける。常緑樹林内の樹幹に着生する。

【分布の概要】

本州(岩手以南)、四国、九州

【都における生育環境】

多摩地域の丘陵地から山地にかけて生育し、モミ、カヤなどの針葉樹、川沿いに生育するウメなどに着生している。区部では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

モミ、カヤなどの常緑針葉樹の伐採が本種の生存を脅かす主要因であり、大気汚染や森林環境の乾燥化の影響も懸念される。着生木の保護を含む森林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 東京薬科大学植物研究部(編), 1967.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



クモラン

*Taeniophyllum glandulosum*単子葉植物綱
ラン科

【形態・生態】

多年草。根は長さ2～3cm、放射状に束生する。花期は6～7月。1cmほどの茎を1～5本出し、1～3花を総状につける。花は淡緑色で2～3mm、基部に球状楕円形の距がつく。日当たりの良い所の低木などに着生する。

【分布の概要】

本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の丘陵地から山地にかけての、川沿いに生育するウメなどの樹木に着生する。区部および北多摩では絶滅したものと考えられる。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限され、個体数も少なく、極めて小型でしかも樹幹に着生しているため、気がつかないことが多い。着生木の伐採が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。着生木の保護を含む樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

林弥栄ら, 1966; 青梅市郷土博物館(編), 1982.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ヒトツボクロ

*Tipularia japonica*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。地下に連珠状に肥厚する偽球茎がある。花茎は高さ 20～30cm、葉は 1 個、長柄があり、卵状楕円形、鋭尖頭、表面は光沢のある深緑色で中肋に白条があり、裏面は紫色、長さ 4～7cm。花期は 5～6 月。黄緑色の小花を数個まばらにつける。さく果は紡錘形で下垂する。山地の明るいアカマツ林、モミ林、スギ林などの樹林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩、西多摩の山地の樹林内に稀に生育する。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境の荒廃や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。園芸目的の採取に対する取組みを行うことや、自生地の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄, 1984; 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



イヌマムカゴ

*Tulotis iinumae*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	□	EN

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 30cm 前後。中程に 2 枚の葉を互生する。葉は長楕円形、長さ 8～15cm、幅 2～4cm、基部は鞘となる。花期は 7～8 月。黄緑色の小花を多数穂状につける。唇弁は白色で舌状、長さ 3mm。距は楕円形で長さ 1～1.5mm。山地の樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道 (南部)、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩の山地樹林内に生育するが、極めて稀である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布や個体数、減少の要因などは不明である。現状の再確認および生活史や生態の調査が望まれる。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011.



(執筆: 畔上能力・内野秀重)

トンボソウ

*Tulotis ussuriensis*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	DD	VU	VU	

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 15～35cm。葉は茎の下部に互生する。葉は倒披針形で長さ 8～13cm。花期は 7～8 月。穂状花序に淡緑色の小花を多数つける。唇弁は白色、長さ 3～3.5mm、基部から 3 裂する。距は白色、前方に下垂し、長さ 5～6mm。山地のやや湿り気の高い樹林内に生育する。

【分布の概要】

北海道、本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の山地脚部、丘陵地の谷戸の湿地などに生育する。北多摩では現状不明である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

谷戸の埋立てや管理放棄による生育環境の変化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。自生地の適切な管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

畔上能力ら, 1974; 鈴木和雄, 1984.

(執筆: 畔上能力・内野秀重)



ハクウンラン

*Vexillabium nakaianum*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	CR	CR	

【形態・生態】

多年草。茎の下部は這い、上部は立ち、高さ 5～10cm。下部に数個の葉をまばらに互生する。葉は卵円形で長さ 3～7mm、基部は茎を抱く。花期は 7～8 月。茎頂に白色の小花を数個つける。側萼片は基部だけ合着し、長さ約 5mm。唇弁腋部の裂片は四角形、基部は 2 つの半球状の膨らみがある距となる。山野の常緑および落葉広葉樹の混交林内に生育する。

【分布の概要】

本州、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩から西多摩の山地の冷温帯、常緑樹と落葉樹の混じる樹林、竹林の林床などに、極めて稀に生育する。小型の多年草で見出すのが困難である。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

もともと分布が局限され、個体数も少なく、森林環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地の森林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

埼玉県環境部自然環境課（編），2011.

（執筆：畔上能力・内野秀重）



キバナノショウキラン

*Yuania amagiensis*単子葉植物綱
ラン科

区 部	北 多 摩	南 多 摩	西 多 摩	環 境 省
□	□	VU	VU	EN

【形態・生態】

腐生植物。葉緑素を欠く。根茎は肥厚し、よく分枝する。茎は高さ 20～50cm、全体が黄褐色を帯びる。花期は 6～7 月。花序は 6～15 個の黄褐色の花をつける。唇弁前部の凹部には黄色の毛が密生する。ブナ帯の落葉広葉樹林内、ササ原などに生育する。

【分布の概要】

本州（関東から紀伊半島）、四国、九州

【都における生育環境】

南多摩および西多摩の山地で、空中湿度の高い場所に生育する。ナラタケ菌との共生が知られている。

【都における生存に対する脅威や保全上の留意点】

森林環境の変化が本種の生存を脅かす主要要因であると考えられる。自生地の現況把握と森林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

鈴木和雄，1984；東京都高尾自然科学博物館（編），1989.



（執筆：畔上能力・内野秀重）

【種名・学名などの準拠文献】

種子植物の分類体系は日本で普及している Engler の分類体系を採用し、被子植物は主に Melchior (1964)、裸子植物は Pilger & Werdermann (1954) に従った。シダ植物は岩槻 (1992) によった。なお、科内の種名の配列は学名のアルファベット順とした。

H. Melchior, 1964. A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.2, Angiospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

R. Pilger & E. Werdermann, 1954. Gymnospermae. In: H. Melchior & E. Werdermann, A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.1, Allgemeiner Teil Bakterien bis Gymnospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

岩槻邦男編, 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社.

【備 考】

和名	備考
ヒメタデ (ホソバイヌタデを含む)	環境省ランクは、ヒメタデが VU、ホソバイヌタデが NT。
フクジュソウ	栽培、あるいは栽培からの逸出の可能性に注意する。
オニバス	区部で、現在生育しているものが自生であると認められる。
タマノホシザクラ、ホシザクラ	ホシザクラの名は江戸時代から栽培されていたヤマザクラの栽培品種の名称に用いられてきた経緯がある。ここで取り上げるホシザクラはこの栽培品種とは別であり、名称の混乱を避けるために、川崎哲也画大場秀章編『サクラ図譜』(2010年、アボック社刊)で提唱された、タマノホシザクラを本リストでも採用することにした。

【関連文献】

- 秋川市史編纂委員会 (編), 1983. 秋川市史 本編. 秋川市. 1638 pp.
- 新井二郎・鈴木由告, 1972. 東京およびその周辺のハンノキ林. 東京都高尾自然科学博物館研究報告 (4): 1-26.
- 畔上能力・菱山忠三郎・吉山寛, 1974. 東京都南多摩地区植物目録. 文化財の保護, (7): 34-72.
- 畔上能力, 1980. 多摩草木誌③クロムヨウラン (ラン科). 多摩の自然, (64): 17.
- 畔上能力・谷本丈夫・豊田武司, 1991. 武蔵陵墓地 (多摩御陵) の植物. 東京都高尾自然科学博物館研究報告, (14): 1-20.
- 畔上能力, 2010a. 稲城市の特徴的な植物について. 稲城市文化財紀要, (9): 4-14.
- 畔上能力, 2010b. 道草フィールドノート No.31 偶然みつけた高尾新産のシダ. 植物の友, (678): 2.
- 畔上能力, 2010c. 道草フィールドノート No.36 東京のオオキツネノカミソリ. 植物の友, (688): 6.
- 畔上直樹, 1993. ムカゴツツリ御岳山に産す. 東京都の自然, (19): 44-45.
- 千葉県史料研究財団 (編), 2003. 千葉県植物誌. 千葉県の自然誌 別編 4.(県史シリーズ 51). 1181 pp.
- 千葉県レッドデータブック改訂委員会 (編), 2009. 千葉県の保護上重要な野生植物 千葉県レッドデータブック植物・菌類 編. 千葉県. 486 pp.
- 近田文弘・秋山忍・門田裕一, 2000. 皇居吹上御苑の維管束植物. 国立科学博物館専報, (34): 7-43.
- 土器屋由紀子・安富六郎・小倉紀雄・内川武, 2001. 多摩丘陵の自然と研究—フィールドサイエンスへの招待. けやき出版. 134 pp.
- 羽村市内動植物所在確認調査会 (編), 2008. 新版 はむらの植物ガイド. 羽村市教育委員会. 88 pp.
- 長谷川義人, 1983. 植物雑記—ヤナギ属を中心として—. 牧野植物同好会記念誌編集委員会 (編). MAKINO80 東京植物同好会・牧野植物同好会八十周年記念誌, pp. 271-313. 牧野植物同好会.
- 林弥栄・小山芳太郎・小林義雄・大河原利江・峯尾林太郎・飯田重良, 1966. 高尾山天然林の生態ならびにフロラの研究. 林業試験場研究報告, (196): 1-167.
- 日野の自然を守る会 (編), 1985. 新・日野の植物ガイドブック. 日野市. 235 pp.
- 日野市環境情報センター (編), 2008. 日野市高等植物目録 2007. 日野市環境情報センター一年報 2006, 2: 116-136.
- 菱山忠三郎, 1977. 陣場山の植物. 東京都の自然, (5): 1-41.
- 菱山忠三郎, 1981. 多摩の草木記. 武蔵野郷土史刊行会. 341 pp.
- 菱山忠三郎, 1990. 高尾山花と木の図鑑. 主婦の友社. 231 pp.
- 檜山庫三, 1953. 武蔵野植物記. 内田老鶴圃. 192 pp.
- 檜山庫三, 1965. 武蔵野の植物. 井上書店. 290 pp.
- 本田正次・九里聡雄・鈴木重隆, 1962. 浅川流域の植物. 東京都教育委員会 (編) 南多摩文化財総合調査報告第3分冊, pp. 497-529. 東京都教育委員会.
- 本田正次・九里聡雄・鈴木重隆・飯泉優, 1965. 北多摩南部の植物. 東京都教育委員会 (編) 北多摩文化財総合調査報告第1分冊, pp. 23-43. 東京都教育委員会.
- 本田正次・矢野佐・飯泉優, 1972. 豊島・板橋・練馬3区の植物. 東京都教育委員会 (編) 東京都文化財調査報告書 25 北西区部文化財総合調査報告, pp. 1-26. 東京都教育委員会.
- 星野卓二・正木智美, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社. 778 pp.
- 飯泉優, 1961. 北多摩植物誌. 自刊. 260 pp.
- 飯泉優, 1970. 府中市の植物. 府中市自然調査報告—夏秋編—. pp. 5-30. 東京都府中市教育委員会.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社. 311 pp.
- 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版. 179 pp.
- 神奈川県植物誌調査会 (編), 2001. 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 1584 pp.
- 加藤雅啓・海老原淳 (編), 2011. 日本の固有植物 国立科学博物館叢書 11. 東海大学出版会. 503 pp.
- 勝木俊雄・大中みちる・別所康次・岩本宏二郎・石井幸夫・島田和則, 2010. 森林総合研究所多摩森林科学園の野生植物. 森林総合研究所研究報告, 9(4): 207-225.
- 勝山輝男・高橋秀男・木場英久・田中徳久, 1997. フォッサマグナ要素の植物 富士・箱根・伊豆に特有な植物たち ミュージウムブックレット 5. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 69 pp.
- 勝山輝男, 2005. 日本のスゲ. 文一総合出版. 375 pp.
- 勝山輝男・志倉千賀子・小久保恭子, 2011. 伊豆諸島青ヶ島の維管束植物. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (40): 7-34.
- 北区環境保全課 (編), 1987. 北区植物調査報告書. 東京都北区. 108 pp.
- 清瀬の自然を守る会 (編), 2010. 清瀬の植物 - 清瀬の植物調査報告 (付) 植物リスト. 清瀬市. 102 pp.
- 小林一男, 1987. 奥多摩植物記 2. 東京都の自然, (13): 7-9.
- 高知県・高知県牧野記念財団 (編), 2009. 高知県植物誌. 高知県立牧野植物園植物研究課. 844 pp.
- 江東区総務部広報秘書室 (編), 1984. 江東区の野草. 東京都江東区. 159 pp.
- 江東区総務部広報秘書室 (編), 1986. 江東区の野草 (続). 東京都江東区. 207 pp.
- 江東区総務部広報課 (編), 1991. 江東区の野草 (続続). 東京都江東区. 175 pp.
- 倉田悟・中池敏之, 1979. 日本のシダ植物図鑑 1. 東京大学出版会. 628 pp.
- 倉田悟・中池敏之, 1997a. 日本のシダ植物図鑑 3. 東京大学出版会. 728 pp.
- 倉田悟・中池敏之, 1997b. 日本のシダ植物図鑑 6. 東京大学出版会. 881 pp.
- 町田の自然編集委員会, 1978. 町田の自然 この子らのために. 町田市. 369 pp.
- 目黒区土木部公園緑地課 (編), 1985. 「街の自然 12 か月」資料編 目黒区産動植物目録. 東京都目黒区. 79 pp.
- 峰尾均・山本福壽, 2002. 水辺林の生態学. 東京大学出版会. 165 pp.
- みずもと自然観察クラブ・建築環境部環境課 (編), 1991. 葛飾の野草. 東京都葛飾区. 148 pp.
- みずもと自然観察クラブ (編), 1995. 水元野草目録. みずもと自然観察クラブ. 17 pp.
- 長野県植物誌編集委員会 (編), 1997. 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社. 1735 pp.
- 鳴橋直弘, 1973. クロユリの仲間. 新花卉, 1(78): 27-31.

- Naruhashi, N., 1979. Three new species of *Fritillaria* (Liliaceae) from Japan. *The Journal of Geobotany*, 26(4): 88-93.
- 野村圭祐, 2002. 江戸の自然史. どうぶつ社. 385 pp.
- 沼田真・風呂田利夫, 1997. 東京湾の生物誌 (東京湾シリーズ). 築地書館. 411 pp.
- 大場秀章・川崎哲也・田中秀明・木原浩, 2007. 新日本の桜. 山と溪谷社. 263 pp.
- 大原隆明・芹沢俊介・若林三千男, 2004. 多摩丘陵で見出されたサクラ属の1新種. 植物研究雑誌, 79: 343-349.
- 大井次三郎・北川政夫, 1983. 新日本植物誌顕花篇 改訂版. 至文堂. 1716 pp.
- 奥山春季, 1974. 採集・検索 日本植物ハンドブック. 八坂書房. 783 pp.
- 奥山春季, 1982. 原色日本野外植物図譜 1. 誠文堂新光社. 518 pp.
- 小野幹雄, 1991. 多摩川水系東京都地域内の絶滅危惧植物の現況に関する調査研究. (財)とうきゅう環境浄化財団 (学術) 研究助成, (137): 1-21.
- 長田武正, 1989. 日本イネ科植物図譜. 平凡社. 759 pp.
- 大滝末男, 1974. 水草の観察と研究. グリーンブックス 10. ニューサイエンス社. 139 pp.
- 大滝末男・石戸忠, 1980. 日本水生植物図鑑. 北隆館. 318 pp.
- 大田区公害環境部 (編), 1982. 大田区自然環境保全基礎調査報告書—大田区の植生—. 東京都大田区. 178 pp.
- 青梅市郷土博物館 (編), 1982. 青梅市の自然 II. 青梅市教育委員会. 534 pp.
- 埼玉県環境部自然環境課 (編), 2011. 埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編. 埼玉県. 432 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1981. 日本の野生植物 III 草本 合弁花類. 平凡社. 259 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1982a. 日本の野生植物 I 草本 単子葉類. 平凡社. 305 pp.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1982b. 日本の野生植物 II 草本 離弁花類. 平凡社. 318 pp.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫, 1989. 日本の野生植物 木本 II. 平凡社. 305 pp.
- 仙仁径, 2012. 多摩丘陵の谷戸と植物. 多摩のあゆみ, (147): 38-49.
- 芹沢俊介, 1974. 東京都のシダ植物. 文化財の保護, (7): 13-33.
- 七島花の会 神津島, 2012. 伊豆七島フィールドノート 神津島花図鑑. 日本出版ネットワーク. 407 pp.
- 杉並区環境清掃部環境課 (編), 2006. すぎなみの注目動植物—レッドデータブックの実現にむけて—. 杉並区環境清掃部 環境課. 56 pp.
- 鈴木和雄, 1974. 奥多摩のスミレ. 東京都の自然, (2): 9-14.
- 鈴木和雄 (編), 1978. 鷹巣山の植物を調べる会. 東京都の自然, (6): 17-20.
- 鈴木和雄, 1983. 東京都のキイチゴ類. 東京都の自然, (9): 1-5.
- 鈴木和雄, 1984. 奥多摩植物目録. 東京都高尾自然科学博物館研究報告, (12): 1-48.
- 鈴木和雄 (編), 1986. 奥多摩の植物. 奥多摩植物研究会. 28 pp.
- 植物研究グループ飯泉ゼミ (編), 1989. 松原の植物 草木たちの自然史. 織水社. 246 pp.
- 多摩丘陵植物調査会 (編), 1994. 多摩丘陵のシダ植物—横浜市緑区・旭区を中心に—. 多摩丘陵植物調査会. 132 pp.
- 多摩丘陵植物調査会 (編), 1999. 都立長沼公園とその隣接地の植物目録. 多摩丘陵植物調査会. 164 pp.
- 多摩丘陵の自然を守る会, 2004. 八王子市由木地区・稀少動植物調査報告. 多摩丘陵の自然を守る会. 56 pp.
- 多摩市文化振興財団 (編), 2004. 多摩市の植物目録. パルテノン多摩資料叢書 第1集. 84 pp.
- 田村道夫, 1953. フジセンニンソウ. 植物分類・地理, 15(2): 60.
- 谷晋・伴野英雄・山上明, 2010. 神奈川県丹沢山における県絶滅危惧種シウリザクラの衰退について. 東海大学総合教育センター紀要, 30: 129.
- 丹沢大山総合調査団 (編), 2007. 丹沢大山総合調査学術報告書. 丹沢大山動植物目録. (財)平岡環境科学研究所. 472 pp.
- 館林市史編さん委員会 (編), 2008. 館林市史特別編第3巻 館林の自然と生きもの. 館林市. 541 pp.
- 渡嘉敷裕, 1993. 八王子城山及びその付近 (旧恩方村) の主な植物 (2). 東京都の自然, (19): 26-33.
- 渡嘉敷裕, 1996. 八王子城山及びその付近 (旧恩方村) の主な植物 (5). 東京都の自然, (22): 20-23.
- 東京府土木部 (編), 1937. 武蔵野の植物. 東京緑地計画調査彙報, (9). 126 pp.
- 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1976. 川苔山植物目録. 東京都高尾自然科学博物館. 24 pp.
- 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1989. 高尾山植物目録. 東京都高尾自然科学博物館. 30 pp.
- 東京都高尾自然科学博物館 (編), 1995. 小下沢流域の植物. 東京都高尾自然科学博物館. 18 pp.
- 東京都環境科学研究所, 1995. 都内に生育する貴重な水草. 東京都環境科学研究所ニュース, (4): 1-5.
- 東京都市町村自治調査会 (編), 2000. 多摩鎮守の森をたずねて. 184 pp.
- 東京薬科大学植物研究部 (編), 1967. 狭山丘陵の植物. 東京薬科大学. 71 pp.
- 土屋守, 1974. 奥多摩の石灰岩地植物. 東京都の自然, (10): 16-23.
- 津久井公昭・山崎正夫, 1995. 東京都内における水生植物の生育概況 (第3報). 東京都環境科学研究所年報 1995 年版: 143-148.
- 津久井公昭, 1999. 神田川に生育する水生植物の保全について. 東京都環境科学研究所年報 1999 年版: 93-99.
- 恒川篤史・井手久登, 1989. 植物. 東京都港区 (編). 港区生物現況調査報告書, pp. 8-82. 東京都港区都市環境部環境対策課.
- 内野秀重, 2008a. 長池公園の植物. NPO フュージョン長池. 32 pp.
- 内野秀重, 2008b. 南多摩自然観察記 3 ナガバノイタチシダ. 多摩の自然, (94): 10-11.
- 内野秀重, 2012. 八王子市域の水草とその現状について. 八王子市史研究, (2): 101-115.
- 鷺谷いづみ, 1998. サクラソウの目. 地人書館. 229 pp.
- 山岡文彦, 1982. 多摩丘陵と相模原台地の自然. 青磁社. 117 pp.
- 吉山寛・鈴木和雄, 1979. 東京都のカバノキ類. 東京都の自然, (7): 12-19.
- 吉山寛, 1985. 東京都のヤナギ類. 東京都の自然, (11): 1-11.